カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092—522—5139
FAX　092—523—2152
振替口座　福岡6—20729
定価一部60円

今月のみことば

へりくだって神と共に歩む
（ミカ6・8）

サン・スルピス大神学院
高見三明神父

教区年間テーマ

キリストを学び、キリストに生きる

キリスト者の家庭が真に学び、生きるべきこと

福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教は新年にあたり、全教区民に対し、多様な変化と時代の移り変わりの中で、キリスト者として証しすべき信仰をいかに「学び」、「生きるべきか」を諭した。



新年のごあいさつ

一九九四年新春のおめでとうを申し上げます。併せて、この一年、私たち一人一人の上に、そして私たちの教区の上に、神の祝福をお祈りいたしましょう。また、過ぎ去った一年について神に感謝を捧げるとともに、向こう一年間キリストとともに、力強く歩み続けるとの心を、新たにしたいと思います。

一、み教えを学ぶ

信者として、み教えを学ぶということは、基本的なことです。特に現代を生きる信者にとってそうです。私たちの信仰は、キリストが教えられたことを受け止めることであり、変化し進行していく時代の流れのなかで証しされて行かねばならないものだからです。

自分自身もみ教えの知識が足りないことを身に染みて感じるものですが、堅信の折りなど子供たちにカトリック要理のテストをしてみますと、その知識の足りなさ・不正確さに驚かされます。そして、この子供たちの親の信仰理解はどの程度だろうかと考えさせられたりします。今の時代、信者は自分でそれなりに正しく納得し、自分で判断して、信者としての生活を切り開いて行かねばならないのに、寂しい現状です。

社会も進歩し、学問技術も日々進展する時代です。私たちも私たちの人生を導く信仰の教えを十分学習し、その理解を深めて行かねばならないと思います。

二、祈りの習慣を身につける

典礼参加とか祈りなど信仰を直接表現する行い、いわゆる宗教的行為、通常「信心」とも呼ばれる習慣を身につけることも大切です。信仰は信心によって守られ深められて行きます。祈りに親しむなら、神の心に近く生きることができます。神の心で世の中のことを判断し、信者として如何に生きるべきかの方向を認めることができるようになります。

自分の日常生活のなかで、特に危険とか困難など特別なときに、祈りの心を忘れないようにいたしましょう。また、家庭の交わりのなかで、自分に近い者との関わりのなかで、祈りを通して心の支えあい、助けあいができるようになりたいものです。

教会の歴史のなかで、およそ聖人と言われた人たちの生活が信心の雰囲気に包まれていたことを記憶すべきです。どんな素晴らしい活動も、祈りから出発し、祈りに支えられたものでなければ、本当の意味での信仰の証しではない、本当の意味で神のみ栄えを表すことにはならないことを思い、私たちも聖なる信心の雰囲気を保つよう努めましょう。

三、キリスト者的家庭を

一九九四年は「国際家族年」とされています。また、昨年の第二回福音宣教推進全国会議のテーマも家庭でした。こうした「時のしるし」のなかで、私たちキリスト者も家庭のこと、家族のことを、キリストの心に合わせて考えなければならないと思います。

私たちの家庭は、まず、人間的な意味で温かい集いでなければなりません。キリスト信者の家庭は明るい、温かい、互いに心の通じ合う仲間だと言われてこそ、真のキリスト的家庭であり、福音の証し、キリストの教えが人間に幸せをもたらしたことの証しになるのです。

キリスト者の家庭は神のお恵みを受け止め、それをお互いの間で豊かに成長させるだけではなく、周りに伝え喜びの輪を広げて行く役割を果たさなければなりません。隣に住んでいる人にとってキリスト者の家庭は、一つのお恵みとならなければならないことをいつも心に留めておきたいものです。

この一年、神の祝福のもと、世界が平和でありますように、また信者の皆様にお恵み豊かな日々が与えられますように、心を込めてお祈りいたします。

時の話題

福音宣教を目指して

山元　眞

今回の全国会議の課題は「家庭の現実から福音宣教のあり方を探る」でした。福岡教区では、司教団から出されたこの課題を基に、全国会議を準備して参りました。地区ごとの「公聴会」、各小教区での「福音宣教を考える日」、さまざまなグループでの研修会や「分かち合い」などを通して、家庭の現実に目を向けてきました。

「福音」は「よいたより」とか「救いのメッセージ」といわれていますが、私たちがすでに「福音」をいただいているとすれば、それは日常の生活（現実）の中で具体的に示されているはずです。この「福音」に気づくことが、福音宣教の足掛かりになると思います。実際、分かち合いによる取り組みの過程で見えてきたことは、まさに一人一人の現実の生活の中に、神がともにいてくださるということでした。このことは、今後の教会の歩みに大きな希望を与えてくれました。

どうしたら福音宣教ができるか、ということを考えていくと、「福音とは何か」という素朴な疑問が浮かんできます。この問いかけに対する答えを掴んでいなければ、いくら福音宣教の方法を考えても、それは押し付けになるおそれがあります。福音宣教は本来は聖パウロが言っているように「せざるを得ない」ことでしょう。福音宣教は「福音」から促されてできることだと思います。

全国会議のまとめとして、司教団への答申が「展望―福音宣教する日本の教会の刷新のために」という文書で提出されました。そこで強調されていることは、「現代社会のただ中で生きる家庭を受け入れ、支えることができるようになるためには教会共同体の刷新が不可欠である」ということです。

これからは他人や組織を変えることを直接に目指すのではなく、各自の現実に目を向けながら、そこに働いている福音の力（救いの恵み）を探し、それに気づく努力を重ねていくことが必要だと思われます。

（第二回全国会議教区担当）

降誕祭夜半ミサに三千人

地には善意の人に平和

カテドラル

二十四日（金）の夕方、クリスマスケーキを手にした人たちが、いく人も帰宅を急いでいる。そのバス停へ急ぐ人波の中を離れて喜びと、温かさに満ちたビルの谷間の教会の階段を登って行く人も後をたたなかった。のべ三千人を越える人々が「幼子の降誕」を祝うために集まって来た。

カテドラル大名町教会の降誕祭夜半の三つのミサは今年も多くの人で埋まった。

この日、教会を訪れる人の大半が未信者であり、また、初めての人も少なくない。そんな方のためにと夕方早くから聖堂の受付・案内、寒い駐車場での奉仕をする信徒がテキパキと働いていた。

クリスマスにふさわしく今日、初めて教会を訪れる人のほとんどは一人ではなく大切な仲間や愛する人と共に来ることが多い。目を赤くした二人連れに「本当のクリスマスって、何と素晴らしいのでしょう。ありがとうございました。」と言って握手を求められた。



ミサ中、松永久次郎司教は「平和の中に育たなかった子供は、平和を築くことを知りません。生まれてくる子供が歓迎されない社会が広がって来ています。」と平和への努力を熱っぽく語った。

みちくさ

世の中は、健康ブーム。体操で健康作りを考えさせる番組や、カロリーを計算し、ビタミンの配合を考えた料理番組も多い。ところで、健康を保つためには『今健康であることに満足をせず、これからの健康を害しないように努めること。特に食事、睡眠を適切にし、ストレスをためないことだ』と言われる。一人一人の健康、これはかけがえのないものである。神からいただいた体は大切にしなければならない。「隣人を自分のように愛しなさい」（ルカ10・27）の『自分のように』は、まず自分の存在を認め、心身共なる健康を維持することも言っておられる気がする▼「心・技・体」というのがある。心、技、体を磨けということ。この三種を向上させることは人間を成長させることである。ところが、上手に生きる技、健康な体を維持しても、心を磨くことが年とともに後退していくような気がする。心を与えられた神の指導を仰ぐことが少なくなっているのか。「なまぬるいので、わたしはあなたを吐き出そうとしている」（黙示録4・16）と言われた神に叱られそうになる。人は心こそ育てなければならず、「肉的」なことに始終したら本来の人ではなくなる。今年も心の健康を第一に挙げよう。

【S】

小神学校生徒募集

小神学校入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡小神学校（〒810 福岡市中央区浄水通38　Tel 092-531-6821）までご連絡ください。

［入学条件］

①司祭を希望するカトリック信者の男子（来年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推せんが必要
※途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

福岡小神学校
校長　青木　保
森山　信三

サン・スルピス大神学院

入学案内

資格　カトリック男子
高校卒業以上の学歴
（受洗後3年経過）

試験
日時　1994年2月上旬
科目　国語、英語、カトリック要理、ラテン語面接

手続き　司教の推薦状、主任司祭又は小神学校長の推薦、その他必要書類

福岡市城南区松山1-1-1
☎　092-871-4943
FAX 092-863-6329

神の母聖マリア

「天主の御母聖マリア」。私たちは日に何度もマリア様をこのようにお呼びして祈っています。天主の御母、つまり神様の母ということです。

マリアは神の母であると聖書にそのまま書かれているわけではありませんが、教会は、古来からマリアを「テオトコス」、すなわち神をもたらすもの＝神の母と呼んできました。聖書に基づき、同時に聖伝を通して、マリアがキリストの母であるばかりでなく、神の母であることを宣言してきました。このテオトコスという言葉は、もちろん、キリストと深い関連があります。つまり、神が人となられたこと、神がマリアの胎内で肉体をとられたからこそ、マリアは神の母と呼ぶに相応しいとされるのです。カトリックの信仰がマリアについて信じることは、キリストについて信じることに基づいています。ですから、あくまでもマリアさまについて考える時、キリストの神秘、つまり降誕、死、復活を土台におく必要があります。「このキリストの神秘のうちにこそ、神の母（テオトコス）マリアの神秘が明確になるからです」（現教皇回勅）。

「私は主のはしためです。お言葉通りこの身に成りますように」と、マリアは生涯を通じてこの精神を貫かれました。マリアはキリストを宿して神の母となりましたが、それ以前に心の中に神の言葉＝キリストを宿しておられました。彼女が受け入れた神の言葉は、旧約の預言者たちと同様によろこびだけではなく、それ以上に苦しみや悲しみ、孤独感を与えるものでした。キリストが、十字架の上で最期まで苦しまれたように、マリアもわが子とともに苦しむことによって完全に「お言葉通り・・・」というあの承諾をより完全なものとされたと言えましょう。だからこそマリアは、〝旅路から嘆きながらも泣きながらも涙の谷において叫ぶエワの子〟私たちの声を聞いてくださることがおできになります。さらにマリアはキリストのみ言葉の完成後、弟子たちとともに「慰め主」を待っておられました。そして聖霊降臨の朝、あの教会創設の日、キリストを信じる者の集いの中心におられました。つまり、教会の母として、教会を支えておられたわけです。キリストが生涯をかけてなさったこと、それはマリアを通して今教会によって継続されています。一年のはじめに、私たちは神の母マリアの祝日を祝い、全教会とともにマリアに取り次ぎを願うのです。

小神学校・森山信三神父

主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

一九九四年　元旦

福岡教区長　松永久次郎司教
〈福岡地区〉
司教館　山元　眞
深堀　勝人
山下　正
松井　忠之
渡辺　隆義
伊東　誠二
黒川　博
平田　三郎司教
中浜　一男
鵜野　泰年
大牟田　西田　邦洋
小郡　下町　豊重
久留米　山田　成章
三村　邦明
古賀　F・ハーン
乾　盛夫
笹丘　赤倉　稔
T・ドワイヤー
浄水通　青木　保
大名町　山川　辰幸
中村　信哉
高宮　春山　勝美
片岡　仁志
茶山　堤　要吉
西新　平田　敬
箱崎　T・リシャール
光丘　青木　悟
二日市　堤　敏雄
本郷　川上　惣一
吉塚　B・シュルツ
老司　平田　正喜
大神学院　高見　三明
高木　善行
J・P・ラベル
J・ツルデル
Z・イエール
大山　悟
櫻井　尚明
牧山　強美
小神学校　森山　信三
聖パウロ会　杉原　寛信
永富　久雄
御受難会　鈴木　忠一
畠　基幸
M・ヴェッター
G・ブレシュト
イエズス会　S・オチョア
K・ウーリック
P・ブランガン
A・セトアイン
塩谷　恵策
外川　直見
カルメル会　徳山　登
皿山　F・C　S・M・ライル
〈北九州地区〉
飯塚　A・ベルトラン
黒崎　J・バイヨ
小倉　H・キニュ
岩永　義人
新田原　中村　彰
天神町　竹森　勇
戸畑　M・ラバルタ
浦口　均
直方・田川　C・バスチ
八王寺　平田　三好
L・デシャンブ
E・モーゼ
L・グロージャン
水巻　L・ベリオン
門司　J・ガイヤール
湯川　平田　寛
棚町健之助
行橋　浦　俊雄
若松　M・コース
〈佐賀地区〉
伊万里　M・ガッザルディ
唐津　G・カツァニーガ
佐賀　A・ディベルロ
多久　A・テンペリーニ
武雄・鹿島　A・スカットロン
鳥栖　M・マグリン
M・タルディフ
馬渡島　畠山　七郎
呼子　田川　清美
ロザリオの園　A・アレグリーニ
トラピスト　C・ミケレーナ
〈熊本地区〉
荒尾　K・オマホニ
大江　牧山　重光
帯山　大水　幸一
菊池　R・オウエンス
健軍　牧山　勝美
P・ダイヤモンド
崎津　M・コーフィールド
島崎　W・グリーン
玉名　J・ブロデリック
手取　M・マッコネル
T・フィッシャー
人吉　F・マッケイ
本渡　J・モラハン
水俣　H・オカロール
武蔵ヶ丘　J・ノーリス
八代　山頭原太郎
熊本信愛　F・ソットコルノラ
交流センター　C・コデノッティ

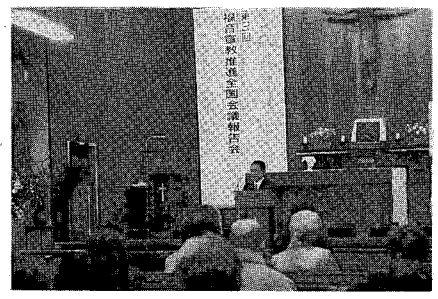
全国会議は出発点

北九州地区報告会

「第二回福音宣教推進全国会議・北九州地区報告会」が十一月二十三日、小倉教会で行われた。参加者は約百二十人。

報告会は山元眞神父が、全国会議の概要として「まず司教団から『家庭の現実から福音宣教のあり方を考えよう』との呼びかけがあったこと」を確認事項としてあげ、さらに「教区での研修会で当初この点の意識徹底が不十分だった」ことを反省するとともに「全国会議は出発点」であることを強調した。次に全国会議のまとめとして福岡教区信徒使徒職協議会会長の深堀純氏が「方言の違い、教区段階での認識の差、個人的な考え方の差などを乗り越えて、共感、共有の場を得られた」と報告。会議全体にわたっての感想を述べた。この後、シスターと諭した。ミサ後、約七十人（小神学生も含む）全員参加のバスケットの試合が行われた。昼食をはさんでバレーボールの試合も行われた。勝ち負けより楽しみながらの一時であった。閉会式では、担当司祭の大水幸一師が、「大会で作った絆を大切にして青年会を盛り上げて欲しい」と述べ、紹介された小神学生にも心をとめて欲しいと語った。

教区青年委員長　浦本和生



教区青年スポーツ大会

燃える　神の若者たち

十一月二十三日、教区青年のスポーツ大会が、泰星高校の体育館を借りて行われた。初めに松永久次郎司教司式のミサが六人の司祭と共に捧げられた。司教は「青年は教会の中で大切な部分であり、相互の信頼や結び付きをもって教会を築いて欲しい。聖職者の召命も考えてもらいたい」

福音宣教コースⅠ

福音に生かされた　家庭

日本カトリック研修センター主催による福音宣教研修会が十一月二十日から二十三日まで、宗像市の福岡黙想の家で行われ、一年ぶりの九州での開催ということで福岡、熊本、鹿児島、広島から司祭、修道者、信徒十八人が参加した。

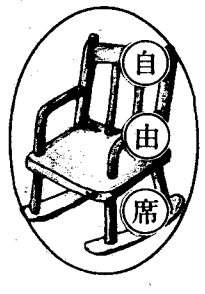
研修センタースタッフのほか大分の平山高明司教、黙想の家の畠基幸神父の指導により、「福音に生かされた家庭」を中心テーマとして「体験と祈りの分かちあい」が楽しい雰囲気のうちに行われた。

平山司教は、冒頭に「マンナは食べる人によって色々味がある。神のことばも一人ひとり違うが、それぞれ糧として与えてくださる」と話された。

この研修での「分かちあい」を通して特に「福音」のもつイメージに感心させられ、「福音」がこんなに大きく、幅広いものかと改めて見直した。

二泊三日の短時間だったが、聖書を深く読み、ひとつのことばを黙想するほどに、神様が一人ひとりに話しかけてくださることを実感し、これからもキリストに結ばれた家庭、共同体をより育てていかなければならないと決心した。

最後のミサの平和のあいさつで、裏山で摘んだ小さな野の花をお互いに交換して、喜びを分かちあったことが、この研修を一層意義あるものにした。



エフェソにて

聖堂横のテントを張った壇上で、同行者の小平卓保師がミサを捧げられた。日本から遥か遠くエフェソに来て、聖マリアのお住まいのあったところで、アーメン・ハレルヤを歌ったときには、まわりに多くの外国人がもの珍しそうに見ていたこともあってか、ふるえる感動で声がつまってしまった。そこにカプチン会の長いひげをはやした長躰のこの世の人ならぬ崇高な神父さまがおられて、私共がフランシスコの在世会員であるということから、天を仰いで祝福してくださった。エフェソは世界で一番最初に聖マリアに捧げられた教会である。当時は、その人が住み、または亡くなったところにしか教会は建てられなかった。このところで、四三一年公会議が開かれたのも故なしとは思われない。この公会議でコンスタンチノープルの大司教ネストリウスの説が異端とされ、聖マリアを神の母（テオコトス）と称することが宣言された。七〇年前まではキリスト教徒（東方教会）は毎年八月十五日には、ここに巡礼にきていたということからも、その伝統の深さがわかる。歴代の教皇はここをマリアの住居跡と確認され、一九六七年六月二十六日には教皇パウロ六世は、トルコ政府がこの山までつくった道路を通って巡礼され、一九七九年六月二十六日教皇ヨハネ・パウロ二世はここに巡礼され、それは新聞やテレビで報道されて一躍有名になった。その昔、アルテミス神に帰依したエフェソには、いまキリスト信者が聖マリアをたたえるために巡礼にくる。

箱崎教会・森山敬三

主のご降誕と新年のお慶びを申上げます
【後援会会員のための黙想会　ご案内】　後援会主催
〈日時〉　2月3日(木)17：00受付～6日(日)昼食まで
〈指導〉　マテオ神父
〈料金〉　会員・新規会員の方は、無料
御受難修道会・福岡黙想の家
☎ 0940-32-3222　〒811-41　宗像市名残1056
※ＪＲ赤間南出口よりバス　自由ヶ丘南2丁目下車

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

聖書を信仰の糧に

聖書講座を終えて

今年も、神父様方や信徒の皆様方のご協力により、無事20回の聖書講座を終えることができました。

今年も典礼に従って、「マタイ福音書を読む」というテーマで行いました。

聖書講座は、あくまでもみんなが聖書を読み、生きるためのきっかけづくりに過ぎないと思います。聖書に親しみ聖書を信仰の糧にできるための好機になればと思います。

聖書講座を担当された講師の神父様方の中にも、講座をきっかけに改めて発見したことがあると語られ、共に学ぶ講座となれたことは嬉しいことです。

来年もまた計画したいと思いますので、参加された方はもちろん、他の方も共に聖書を味わってみましょう。

「いろいろの神父様の話があって良かった」、「主日の典礼に沿っていたのが良かった」、「旧約聖書全体についても、生活との関わりの中でもっと知りたい」との声が聞かれました。

聖書委員会・青木悟神父

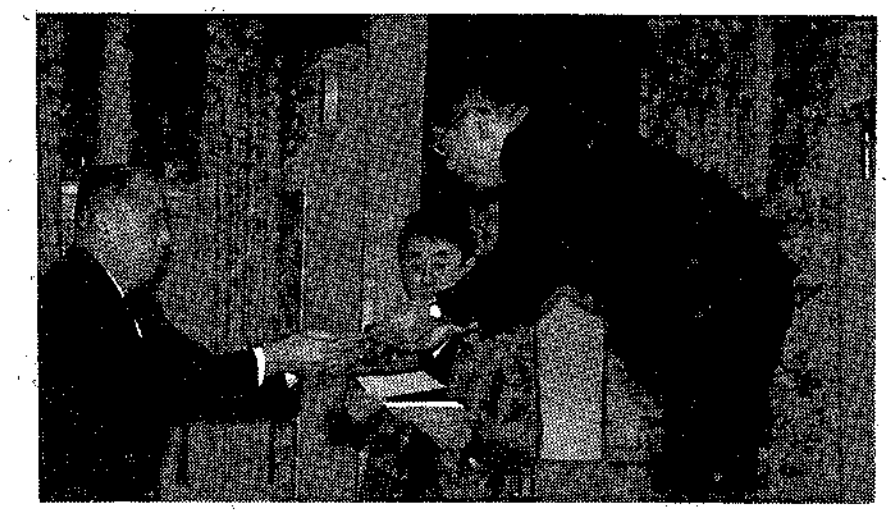
聖書特別講座
聖書が述べる家庭の役割

今年も聖書週間にあたり、大名町教会、小倉教会において、聖書特別講演会が行われた。

ナイスのテーマにちなんで「聖書が述べる家庭の役割」というテーマで、講師は雨宮慧神父だった。

ユダヤ教の家庭では、綿々と聖書が家庭において伝承されている現実があるが、私たちの場合はどうでしょうか、という話から、詩編44の理解を通して、信仰者が神への信仰を、集会の場で、また家庭の場でどのように具体的に伝承していったかが話された。

「家庭の中に、生活を聖書に照らし合わせて分かち合う場がなければ、信仰にも背骨がないようなものではないか」という言葉は印象的だった。



修了書を司教から受ける

参加者の感想として、「日ごろ、旧約聖書に触れることがなく、詩編の素晴らしさを感じた」、「分かりやすく、聖書に親しめた」などが聞かれた。

ヤングママ黙想会
信仰教育における家庭の役割

11月25日森山神父様のご指導で17人が参加しました。テーマは「聖書の中の女性たち」です。日頃、幼い子をかかえ、忙しい毎日をおくっている私たちは、半日とはいえ、静かな時間を皆と共に過ごすことができました。神父様からは、昼食をはさんで二回講話をいただきました。また、神父様ご自身の子供の頃の家庭の様子、特に家庭での夕の祈りの思い出などお聞きし、信仰教育における家庭の役割の大切さを改めて感じました。終わりに、小神学校の聖堂でミサと赦しの秘跡をいただきました。「徴税人ザアカイ」の箇所が朗読され、説教では、「常に信頼して、求めなさい。そうすれば、必ず神様の方から来てくださる。」とのお話がありました。

最後になりましたが、私共のために貴重な時間を献げてくださいました神父様、ベビーシッターの方々に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

浄水通教会・城島志寿子

ドームでクリスマス

十二月十日、福岡市中央区地行の福岡ドームで、チャリティーの集い「クリスマス・イン・ドーム」が開かれた。この集いは、福岡市在住の森本司郎氏（森本能舞台・観世流準職分）の呼びかけで計画されたもので、森本能舞台・西日本新聞社・カトリック福岡司教区の共同主催。

集いの内容は、午前十一時からの生け花、能面の展示、茶会に始まり、午後五時からは、能楽、オペラ歌曲の披露、ファッションショー、福岡カテドラル聖歌隊のクリスマスキャロル（＝**写真**）、ご降誕の聖書朗読と山元眞神父のメッセージなど多彩なものであった。この集いの主旨は、マザーテレサの活動支援ということであったが、マザーテレサ自身からの手紙で、自分の名前を使ってチャリティーをするのは好ましくないことだが、神のみ旨に従って、貧しい人々のためであれば、可能であることが示された。この意向を重視しながらの準備であったため、強調点が今一つはっきりしないところがあった。それでも、多くの修道院や小教区から、遠くは長崎の浦上教会からも参加した。



カトリック教会側からの協力は、チャリティー券の販売、当日受付、チケット販売、準備、それに、プログラムの最後の部分のフィナーレの担当。

カトリック側の責任者、山元神父は「福岡地区婦人会をはじめ、多くの方々の協力のおかげで開催できました。この集いに参加した人が、一人でも神と出会えば意味があったと思います」と語っている。

聖母大会　老司

老司教会では、十月二十四日のミサ後に聖母大会が行われた。十字架を先頭に侍者、花まきの少女、信徒の順で聖歌を歌いながら聖堂をでて、横の広場に安置された聖母像の前で献香、花まきがあり、続いて手作りの大きなロザリオの珠を信徒一同が一つ一つ握りしめ、晴れた秋空に大きな声で祈りが捧げられた＝**写真**。司式した深堀勝人神父様からロザリオの尊さについての話があり、厳粛なムードのうちに聖母大会を終了した。



老司教会・広報部

幼稚園のできごと

カトリックさゆり園
Rちゃんと一輪車

Rちゃんは年長児の女の子です。よく一輪車を乗り回しています。スイスイ走って回るRちゃんを見ると、とてもほほえましい気持ちになります。

年中児のとき、Rちゃんは一輪車を乗り回す年長児を見て、「先生、私も大きくなったら乗れるようになるでしょう」と言っていました。そして年長児の動きをよく見つめていました。

先生は、「そうよ、乗れるようになるよ」と言って、Rちゃんを励ましました。

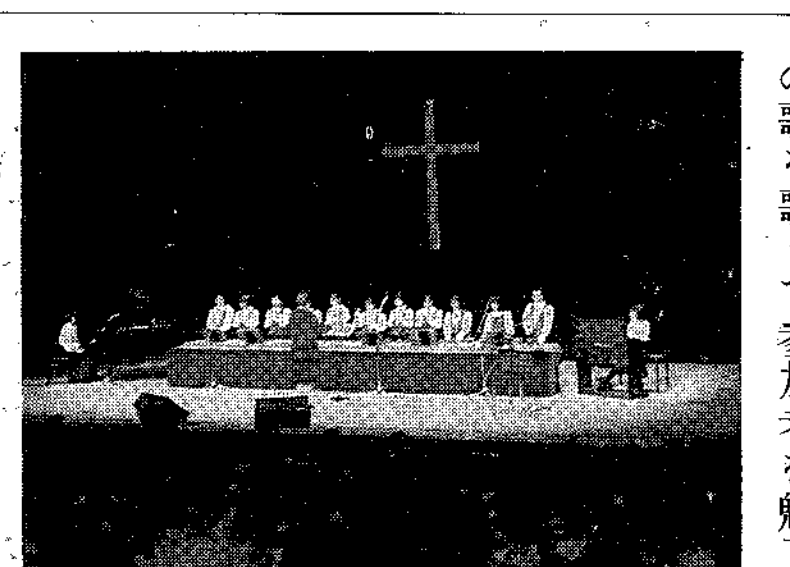
年長児になったRちゃんは休み時間になると必ずと言っていいほど一輪車と相対していました。最初は鉄棒につかまってバランスをとっていました。それができるようになると、自分でこいで走ろうとしました。二、三、四メートル走ったと思ったら、倒れてしまいました。それでもやめようとはしません。手足に傷をつけてもあきらめませんでした。二ヵ月位たったらRちゃんは一輪車に乗れるようになりました。しかも、だんだん上手になりました。回りに園児や先生がいても、その間をぬって走り回ります。さっそうとしたRちゃんを見て、感心し感動もしました。Rちゃんのねばりを見て、子供のなかには「強くなりたい」「大きくなりたい」「よい子になりたい」という願望が息づいていることを改めて意識しました。また、教育するとは、成長しようとしている子どもを助けてやること、そのために必要な環境を整えてやることなんだなァと自分に言い聞かせました。



園長・牧山勝美神父

喜びを多くの人に
福岡市民クリスマス

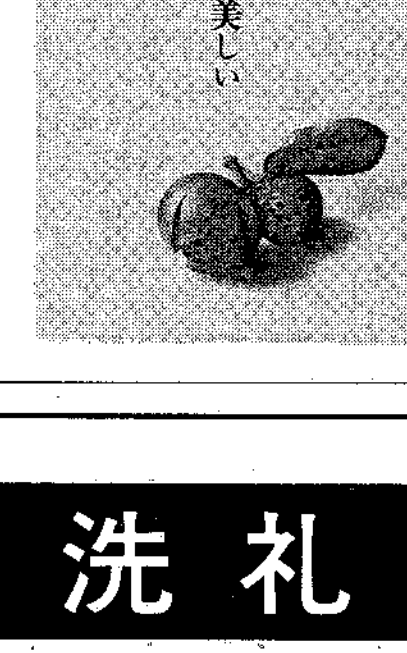
十二月十三日、福岡市民会館大ホールに多くの人を招いて、「福岡市民クリスマス」が行われた。主催は福岡市民クリスマス実行委員会。委員長の入江清弘牧師の開会の挨拶に始まり、ヨハネ福音書が招詞として朗読された。後、賛美歌を共に歌い、西南学院のハンドベルクワイヤーのハンドベルを聞き（写真）、クリスマスメッセージを山元眞神父から受けた。山元師は、「今日、皆のために救い主が生まれた。天使が羊飼いに伝えたように、私たちも悩み苦しむ人々のもとに、福音（よき知らせ）を伝えましょう。多くの人が救い主の訪れに気づくことができるようにしましょう」と力強く語った。また、福音歌手（元プロ歌手）である胡美芳（こびほう）さんがクリスマスに因んだ数々の歌を歌って参加者を魅了した。



最後に「主は来ませり」を合唱し、主を賛美して幕を閉じた。参加者は、「宗派を超えて主を賛美することに一致を感じ、主がおられることを実感した」と話していた。

BOOK 読みま専科

★流れるものはみな美しい
月川優美詩集

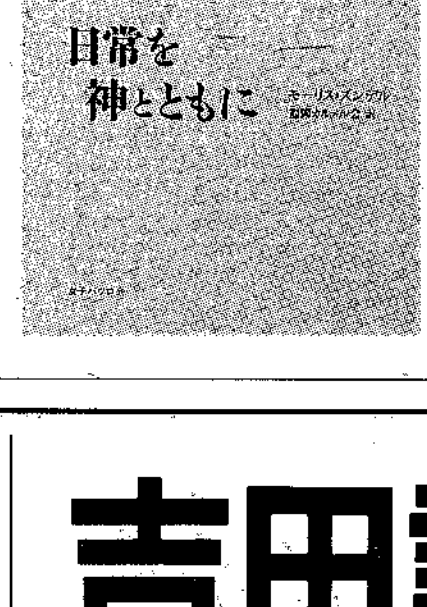


福岡の早良区に女流のカトリック詩人がいらっしゃることは仄聞（そくぶん）していた。ある日聖パウロ書院で、たまたま手に取ったこの本の詩の一節を読み、並の詩でないと直観した。極めて読みやすく、深い洞察があった。八木重吉とは一味違った女性の霊的繊細さがあった。聞けば、大名町所属の信者で、一男一女の主婦である。しかも自費出版をなさったとか。購入したい本の一冊である。

石風社　一、七〇〇円

◇　◇

★日常を神とともに
モーリス・ズンデル著　福岡カルメル会訳



「人が罪を犯すのは、被造物を愛するからではなくて、十分に愛さないからです。…無限に愛さなければ、心というものは満たされることはできないのです。」

内的な黙想からほとばしり出る彼の言葉は、燃え上がる火のように熱烈、明確、神秘的で、私たちが境界のない愛を具体的に生きることができるように、私たちの心を豊かにひろげてくれる黙想書である。

女子パウロ会　一、四〇〇円

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

1・2月の行事

※ゴチックは司教日程

1月

1日 カテドラル新年ミサ
9日 筑後ブロック合同成人式
11日 司祭新年の集い
15日 松永司教着座記念日
教区修女連研修会
16日 福岡・北九州・熊本ブロック合同成人式
18日 二日市教会ナイス報告会
23日 キリスト教一致祈祷週間（～25日）
27日 修女連役員会
30日 カトリック児童福祉の日
佐賀地区ナイス報告会
福岡地区信徒協役員会

2月

5日 日本26聖人
8日 司祭評議会
13日 古賀教会ナイス報告会
16日 灰の水曜日（大斎・小斎）
20日 愛と性を考える研修会
26日 今村信徒発見記念日

福岡黙想の家

年末～5日　幼きイエズス会黙想
6～13日　―休館―
14～15日　聖母カテキスタ会会議
14～16日　九州地区奉仕会
30～31日　パリ外国宣教会
◆祈りの日は18日より始まります。

成人式のミサ

《筑後》
1月9日(日) 11:00 今村教会
問合せ：本郷教会 川上惣一神父
☎ (0942)77-0011

《北九州》
1月16日(日) 14:00 小倉教会
問合せ：小倉教会 中村彰神父
☎ (093)921-0093

《福岡》
1月16日(日) 14:00 大名町教会
問合せ：大名町教会 中村信哉神父
☎ (092)741-3687

《熊本》
1月16日(日) 13:00 手取教会
問合せ：帯山教会 大水幸一神父
☎ (096)382-9413

熊本クリスチャンボランティア・センター設立へ向けて

キリストの愛を実践するボランティア活動の拠点としてのセンター設立を目指し計画いたしました。

ボランティア活動、維持会員へのご協力、よろしくお願い致します。

詳細については左記へ
熊本市上林町三―十八
熊本信愛修道院内
世話人代表　黒木紗耶子
☎096-324-6212

1994年度結婚準備セミナー

【福岡会場】福岡カテドラルセンター1階講堂
日　程　1月27日・29日
2月3日・5日・17日・19日・24日・26日
申込み　カトリックファミリーセンター
問合先　TEL 092-541-6207
FAX 092-552-5022

【熊本会場】カトリック手取教会信徒会館2階ホール
日　程　1月24日・26日・31日
2月2日・7日・14日・16日・21日
申込み　カトリック手取教会
問合先　TEL 096-352-3030
＊いずれも毎回　19：00～21：20

第3回　カトリック愛と性を考える研修会

テーマ：いのちと性は神のたまもの
講　師：ヨセフ松永久次郎司教
日　時：1994年2月20日(日)13：00～16：15
会　場：熊本・手取教会信徒会館
会　費：1,000円（学生500円）
共　催：福岡教区信仰教育委員会・家庭委員会
問合先：カトリックファミリーセンター
☎ 092-541-6207

子どもの信仰教育を考える集い

日時　三月十二日十五時～十三日十五時
場所　カトリック手取教会
講師　日本カトリック研修センター・スタッフ
参加費　二、〇〇〇円（宿泊の場合は別途一、〇〇〇円）
主催　福岡教区信仰教育委員会
福岡教区教会学校委員会
熊本地区信徒協司牧部
申込・問合先
カトリック帯山教会
大水幸一神父
熊本市新大江三―一九―一〇
☎・FAX 096-382-9413
申込締切　二月末日

～映画上映予定～
市川準監督作品
病院で死ぬということ
とき…二月二十七日（日）十四時～十六時
ところ…カトリック大名町教会1階講堂

1月命日の司祭

＊ジョゼフ・フレスノン師（パリ外国宣教会）
一九二九年一月
元久留米教会主任
＊ルドビコ・ガルニエ師（パリ外国宣教会）
一九四一年一月十九日
元大江教会主任
＊アウグスチン・ハルブ師（パリ外国宣教会）
一九四五年一月十四日
元崎津教会主任
＊グスタブ・ロー師（パリ外国宣教会）
一九五〇年一月一日
元人吉教会主任
＊ジャンマリ・マルタン師（パリ外国宣教会）
一九七五年一月十八日
元大牟田教会主任
＊ジェームス・ドノフ師（聖コロンバン会）
一九八五年一月二日
元菊池教会主任
＊ヨセフ牧山藤房師
一九九三年一月二日
福岡司教館

小神学校基金へのご寄付

故テレジア松井　愛様の香典返しとして、松井　忠様より金一封をいただきました。心より感謝いたします。

故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡小神学校　森山信三

編集室から

雲の切れ間から光が差し込んでいる。御絵を思い出す。イエス様の出現か。マリア様のそれか。なんとも美しい。うやうやしい気持ちになる。雲の上に聖なる方が本当にいらっしゃるのでは▼文字の中から神々しさが・・と言えるような教区報であったら。

今年もスタッフ一同、神の恵みを願いながら頑張りますので宜しくお願いします。



神様にだまされて

昭和十六年の春、尋常小学校を卒業した私は父と早朝から重労働をしていた。山の天辺（てっぺん）から重い薪を背負って急な獣道を歩いて海岸まで運ぶ仕事である。昼近くなった頃、妹が走って来た。『よそん神父様が来たせん、早うもどって来いって』。急いで帰って見ると、見上げるような大きい神父様が今や遅しと待っていた。福岡小神学校から生徒募集に来られた平田勇神父様とのこと。

にこにこしながら私をだましにかかった。名前は？山から重い薪を運ぶのはきつかろう！可哀想に。神学校ではそんなきつい仕事は全然なく、奇麗な服を着て、毎日ご馳走を食べ、友達と楽しくスポーツや勉強をし、将来は神父になって、みんなから尊敬され、イエス様のお手伝いができるんだ。辰幸君は勉強が良くできるそうだが、こんな田舎にいたら、どうせ農業か漁の仕事しかないし、いつまでたっても苦しい貧乏生活することになるぞ。どうだ、神学校に来ないか？行きたいだろう！食事代も教科書もただだよ。君が行けば一番の親孝行にもなるんだ。

いつの間にか洗脳されていた私は、『行きます』と答えたのが運の尽き。神父様の心理作戦と弁舌にだまされて願書用紙に署名捺印してしまった。今度は両親の攻め落としである。『本人は承諾して願書に判を押した。本人の希望は神様が呼んでいる確かな印なんだ。それを親が反対すれば大罪だぞ。あんたは教会の教え方をしているそうだからそれくらいのことは分かるだろう。神学校にやりなさい』まさに脅しであり、命令である。しばらく沈黙が続いて、『やって見ましょう』ということになった。

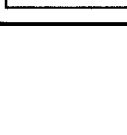
こうして、神学校に行った一少年が体験したのは、十二月から始まった大東亜戦争と空腹、一枚きりの洋服と裸足、勉強のかわりに学徒動員による軍需工場通いの生活であり、完全にだまされた生活の明け暮れであった。よし最後までだまされようと決心し、ついに祭壇まで登ってしまった。

わずか十五戸くらいの小さな集落から初司祭誕生。それから、だまされる少年が続出し、六人の司祭が誕生した。七人目が出ることを待ち望んでいる。

『神が家庭に送る最高のプレゼントはその家庭から司祭を召し出すことである』

（聖ヨハネ・ボスコ）

大名町教会・山川辰幸神父



主の道を求めて

福音の光修道院

会の歴史を語るとき、福岡教区との関わりは特に深い。修道会誕生の産みの苦しみにあたって、苦難を共にして下さった多くの恩人方、特に福岡教区長故深堀仙右衛門司教様は会の創立者として深く関わって下さった。

一九五四年四月、「福音の光」という修道会の名を頂いた。イエスのみ心からあふれる光が人々に及び、人々と共なる神を賛美し、「すべての人のすべて」（一コリ9・22）となって福音の喜びを伝えようとすることが会の心。

昨年二月、三階の住居から同じ町内の一般住宅地に移った。四十年も同じ町内に住みながら隔離されていた修道院から地域の方々と塀一つで隣接する地に住み始めて一年、私たちは大きな変化に気づいた。落成式とイエスのみ心の祭日に町内の方々を招待したことから、弱視の方々へのボランティア活動を呼びかけて「光丘町花びらの会」が誕生した。最近、回りの方々が修道院にごく気楽に出入りされ普段着の交わりが出来るようになった。日本人の伝統文化の中にある福音の種子を見い出し、キリストとの出会いが出来るよう、人々とのきずなを深めていき、保育園と幼稚園が地域の中に根付いて四十年を経た現在、幼児を通して福音の喜びが回りの人に伝わるように祈りつつ努めていきたいと思う。

あけましておめでとうございます
糸永洋服店移転ご案内
浄水通店は平成5年12月末日を以って閉店いたしました。本年より下記において営業致します。今後とも宜しくお願い致します。
〒810 福岡市中央区小笹5丁目22番32-301号
☎ 092―521―0820
店主　糸永　秀雄

聖パウロ小神学校
小神学生募集
小学6年生以上の男子信徒
下記へご連絡下さい
〒810 福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ小神学校
☎ 092-531-0924

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL 093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

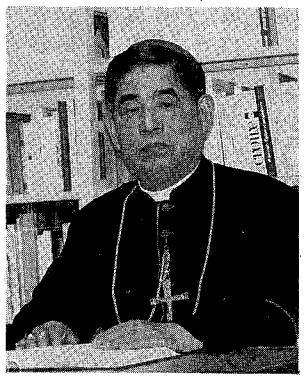
未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092—522—5139
FAX　092—523—2152
振替口座 福岡6—20729
定価一部60円

成人の日に
教区の「父」よりメッセージ

教区の「父」であるヨセフ松永久次郎司教は、成人式を迎える教区の神の子らに向けて、式に先立ち祝福を祈り、メッセージを贈った。司教の願いは、若者が感謝の心を持ち、忍耐のうちに奉仕し、キリストのみ言葉を生きることである。



今年度、成人の日を迎える若い信者の皆さんに、心よりおめでとうを申し上げます。皆さんは今、青春の真っ只中、命のエネルギーに満ち溢れています。人生はいま始まったばかり、未来は皆さんの手の中にあります。皆さんは、志を立てて新しく歩み始めることができ、まだまだやり直しのきく時間をもっています。この一回きりの命の充満のときを、若いキリスト者として、正しく活用して欲しいと思います。

成人とは、「人と成る」と書きます。人とは何かを正しく掴むことを意味するとも言えます。人とは何者なのか。人は神の子です。人は親の子です。人となる、大人になるということは、自分が子供であること、すなわち神の子、父母の子であることを正しく認め、子供としての務めを正しく果たすことを意味するのです。多くの方々のお陰で今の自分があることを認め、感謝の心をもって生きることが、成人者の真の務めなのです。「親孝行をする子供」「親孝行のできる子供」が、真の意味で、大人なのです。

成人といっても、まだ二十歳、若い年齢です。まだ未完成です。築き上げていかねばならないことがたくさんあります。無限とも言える未来をもっていますが、確かなものはまだ多くなく、すべては不安定とも言えます。ある意味で未来は不安に満ちているのです。「若い」という字は「苦しい」という字によく似ている、と言われますが、若い人が自分の道を切り拓いて行くためには苦難の道を歩む勇気と忍耐が必要です。「忍耐によって、あなたがたは命をかち取りなさい」と、聖書(ルカ21・19)にありますが、この言葉は若者の皆さんに、大切なことを教えていると思います。

もう一つ、使徒言行録の20章35節に、「受けるよりは与える方が幸いである」という、キリストのみ言葉が記されています。わたしは成人式などに招待されて、「何か挨拶を」と言われると、いつもこの言葉を引用して、「20歳から35歳までの15年間は力に満ち溢れた期間なのだから、自己中心になるのではなく、若いエネルギーを周りの人のために、尊い奉仕のために使いなさい」と、勧めることにしています。この意味を込めて皆さんにも、この「受けるよりは与えるほうが幸いである」との、キリストのみ言葉を餞(はなむけ)として贈り、キリスト者として、このみ言葉の実践を期待したいと思います。

尚、教区内の青年が主催する各ブロックの「成人式」の模様については**2面**に掲載。

教区内の成人式は定着した感がある。式には、共同体における青年としての役割を、新成人及び青年自身が再確認しながら魅力ある教会作りをしていこうという願いが込められている。

今月のみことば

主よ、助けてください
(マタイ14・30)

聖パウロ会　戸村　修神父

時の話題

小笠原　勝己

小さきは小さきままに
折れたるは折れたるままに
コスモスの花咲く

毎年十二月九日は障害者の日である。福岡市民会館では「障害者の主張」があり、テレビでは障害者を持った人たちの生活が放映されていた。

冒頭の詩は昇地三郎氏のものであるが、私がこの詩に感動して、障害を持った子供たちの教育に携わって二十年が過ぎた。

子供たちは種々の障害を持っているが、与えられた命を精一杯生きている。どんなに障害の重い子にも、青春があり、人生がある。三年前の七月、小学部一年の女の子が亡くなった。毎朝、母親に抱かれて学校に来ると、「お、は、よ、」と言って、ニッコリする笑顔が忘れられない。

障害を持った子供たちとともに

私はこの子供たちから毎日いろいろなことを学ぶ。何の欲もなく、ただ声をかけると微笑するだけであるが、その顔が私に話しかけている。

「あなたは、与えられた命を精一杯生きていますか」

また、ある母親の言葉で、「私は宗教を信じているわけではないのですが、もし神様がいるとしたら、私の家庭なら障害を持った子を預けても大丈夫だと思われて、この子を恵まれたのではないかと思います」と。

ある母親は、

「この子が育つには、私の家庭しかないと思われるような家庭にしたいと毎日頑張っています」と。

給食の時間に、大きな塊では飲み込みができないので、一ミリ大のきざみ食にしている子が学級の半数はいる。きざみ食でも無理な子のためにすり鉢ですりつぶし、布でこして、それにトロミをつける薬を入れ、のどの奥に落し、ぐっと飲み込むように助ける。それでも誤嚥(ごえん＝誤って飲み込むこと)のおそれのある子は経管栄養である。

普通の食物が普通に食べられることがいかに難しいか、この子供たちが教えてくれる。「あなたは恵まれている。何か隣人にすることはないのか」と、問われている。

信仰が生活に生かされ、生活そのものが信仰となるためには、まだまだ遠か彼方である。

(水巻教会)

キリストを学び　キリストに生きよう
～司祭新年の集い～

新しい年を迎えた司祭たちは、感謝と希望をもって教区長ヨセフ松永久次郎司教のもとに参集した。

一月十一日、司祭新年の集いが教区本部であった。

まず、浄水通教会で松永久次郎司教司式の共同ミサが挙行された。司教は説教で、「牧者としてすべきことは『よく学ぶこと』であり、教会の教えに従い、聖霊のはたらきを見極めること。また、自分のため、信者のために本当の世の光、地の塩を把えていること。そして、信者の仲間として『共感・共有』がもてるようにすること。『キリストからだけくる救い』を与えてあげること。



また、自らも秘跡に頻繁にあずかり、信心業を大切にしながら、信者の善き模範となるべきこと。聖人の心を心とすること」を諭した。神を賛美し、同じイエスの体と血をいただいた司祭団(＝**写真上**)は、一層の兄弟感とキリストからの使命感を得ることができたことを感謝した。



ミサ後、司教館にて祝賀会が催された。平田三郎司教をはじめ約七十人の司祭団で会場は所せましとなった。まず松永司教の新年の挨拶があり、続いて「今年を大飛躍の年にしましょう」と司教総代理の青木保師が力強い挨拶をした。平田司教の乾杯の音頭で盛り上がった祝賀会は終始笑いの声に包まれ、和やかな一時となった。(＝**写真下**)。

尚、一月に去福する司祭と新しく来福した司祭が紹介された。

去福司祭は聖パウロ修道会の永富久雄師。来福司祭は、同聖パウロ修道会の戸村修師、サン・スルピス大神学院の牧山強美師である。

みちくさ

ある茶店に入った。壁には大中小の亀が飾ってあった。もしかしたら親亀、子亀、孫亀かなと思った。一匹、一匹の生き方も違うのだろうなと思った。人も、親がいて子がいて孫がいる。それぞれが世の流れの中で生きていく。当然生き方の方式も変わってくる。ときどき、足跡を振り返る。少しずつ大きくなっているのがわかる。また背負ったもののために地中にくい込んでいる▼溢れる神の恵みの中で明るく生きようとするこの「我」は決して「他」に替わりうるものではない。また、「我」は、たとえば『家』の柱であったり、窓だったりする。しかし柱であっても壁でなく、窓であっても床ではない。とはいえ、家の構成にはいずれの部分も大切である。そこに「相互」が存在する▼この「我」は『教会』の何になっているだろうか。そこでの「廃材」であってはならない。また「他」を廃材にしてもいけない。教会は生身の人間が相互で築く『神の愛の家』だからである。いつも新築を目指す教会であったらいい。新築の教会は美しいし芳しい。一人ひとりがキリストから与えられるもので新しくされながら生きづくようにと願う。そうだ、あの茶店の親亀が落ちないように。親亀が落ちたら・・・。

【S】

小神学校生徒募集

小神学校入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡小神学校（〒810 福岡市中央区浄水通38　Tel 092-531-6821）までご連絡ください。

［入学条件］
①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推せんが必要
※途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

福岡小神学校
校長　青木　保
森山　信三

サン・スルピス大神学院
入学案内

資格　カトリック男子
高校卒業以上の学歴
（受洗後3年経過）

試験
日時　1994年2月上旬
科目　国語、英語、カトリック要理、ラテン語
面接

手続き　司教の推薦状、主任司祭又は小神学校長の推薦、その他必要書類

福岡市城南区松山1-1-1
☎　092-871-4943
FAX 092-863-6329

召し出しを求めて

先日「顔のない天使」という映画をみた。こんな場面があった。少年に対して疑いをかけられた顔半分に火傷の傷跡を持つ主人公が、自分を尋問する人たちに対してこう言う。

「あたなたちは、私の（焼けただれた傷跡をもつ）顔は見ているが、私の心を見ようとはしない」

主人公と師弟関係になる少年もその顔を見、初めは怖がっていた。しかし信頼関係が深まるにつれて、焼けただれた顔の傷を何とも思わなくなってゆく。彼の心の中に何かを見つけたのだろう。

＊

友達が一人もいないので登校を拒否していた女の児が、ある日数匹の捨て猫を引き取って、自分の部屋で飼い始めた。猫で荒された部屋の惨状に目をつむった母親は「この児の友達が出来たと思えば」と忍の一字で耐え、見守ったのであるが、しばらくするとわが児が、学校でいじめられている時とソックリの言葉を猫たちに向けているのに気付いた。ところが、一ヵ月ほどたった頃、今度は「わたしにもいじめられるわけがあったかもね、こんなにひどいことしてゴメンネ」とさんざんいじめ抜いた後、この児なりに悟ることがあったのか、猫に同情し始めた。と同時に、登校が再開された。しかし、その代わりというべきか、本当に不思議なことに、この児の登校が日を追って多くなり始めると、一番可愛がっていた猫から一匹ずつ死んでいったそうである。

＊

何かが見えると、見つかると、新しい景色が開かれる。そして真に大切な何ものかが見つかる時、大きな犠牲がある。

イエス様は言われる。

「すべてを捨てて私に従いなさい」と。

すべてを捨てたら、どのような景色が見えるのだろう。

松永司教様は、司祭の集い、信徒の集まる機会に、必ず召し出しの話をされる。

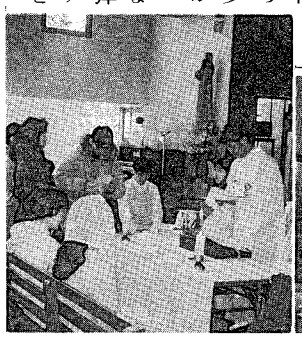
「神と人のために特別に自分をささげ、働く人が多く召されるように」と。これは本当に大切な願いである。

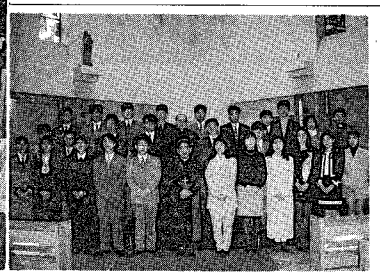
召命の道を歩む時、大きな不安もあるにちがいない。しかし最愛の独り子を送って下さった神様の深い、大切な思いを見つめる時、信頼のすばらしい景色が開けてくるのではないだろうか。決して見飽きることのない景色が。

聖パウロ会

杉原寛信神父

各ブロックの成人式





福岡ブロック　素晴らしく晴れ渡った空の下、大名町教会において、新成人二十五人が松永久次郎司教様の司式による成人式のミサに与かった。

盛装に身を固めた新成人の表情は初々しくもあり、どこか凛（りん）と張り詰めた雰囲気を漂わせ、鮮烈な静けさを醸し出す心温かいミサになった。

ミサ後に行った記念撮影を目にした時には、昨年、一昨年と数少ない新成人、参加者だったことと、前日が成人の日にもかかわらず、参加してくれたことを有り難く思う反面、一人でも多くの青年が今後の活動の中で見られたならという期待も少なからず湧いてやまなかった。（＝**写真右上**）。

このあと、ささやかな茶話会を催し、会話の弾む中でインタビューやゲームを行い盛り上がりを見せた。

それぞれがどのような道を歩むとしても、信者として、社会の一員として立ち止まらずに常に積極的な一歩一歩を踏み締めていって欲しいと願う。

ブロック青年会

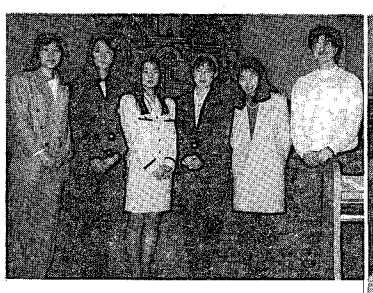
会長　末住直也

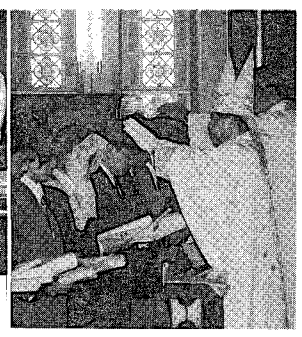
北九州ブロック　一月十六日小倉教会で、北九州ブロック新成人祝福ミサと祝賀会を開きました（＝**同左上**）。

参加者は新成人が三人、青年と信者が十七人、司祭が二人と少数ながら、なごやかな時を過ごしました。

ミサの中で、中村彰師は、「キリスト者として大人になるとは、福音の価値観を身につけることであり、そのためには絶えざる求道心が大切である」と話されました。

祝賀会では、ユニークな自己紹介があり、しばし団らんのうちに会食しビンゴゲームをして盛り上がりました。終わりに新成人者には記念品と午前中に小倉教会で新成人のお祝いとしてついた餅が渡されました。新成人者のこれからの歩みの上に神の祝福がありますようお願いして今回の集いを終わりました。





筑後ブロック　一月九日、鳥栖教会を含めての筑後ブロック合同成人式が今村教会で行われた。今年は、松永久次郎司教様と司祭七人による共同司式の新成人祝福ミサが行われた。新成人二十四人、ブロック青年約三十人、両親、一般信徒合わせて約六百人の参加で盛大なものとなった。

司教様は、ミサの中で「若い人が自分の道を切り開いていくためには、苦難の道を歩む勇気と忍耐が必要です」「幾つかの種は無駄になるかも知れないが、最終的には百倍の実りがある。だから勇気を持って積極的に福音の種を蒔きなさい」と話された（＝**同右下**）。

ミサ後、司教様を囲んで祝賀会が行われた。新成人たちはブロック青年会による手作りの料理を味わいながらお互いに語り合い、和やかな雰囲気の中で自己紹介と今後の抱負を述べた。ブロック青年を代表して中島浩二氏は「今の教会を作っていこう」と挨拶した。恒例のビンゴゲームでは益々盛り上がりを見せた。

熊本ブロック　一月十六日に成人式を行いました。今年の新成人の参加者は六人で、私も成人を祝ってもらう側の一人でした。子供の頃、成人式を迎える人というと随分大人に感じられたものでしたがいざ自分がなってみると、その頃感じていたイメージからは程遠いようです。

新成人のミサでは、洗礼の約束を更新し、聖水による祝福を受けました。そして、主の慈しみと両親の愛に感謝し主のお望みになる人格形成、社会への奉仕に励み、主の光りに照らされて歩むことができるようにと祈りました。

ミサ後の茶話会では、たくさんのお菓子と飲み物が用意されており、それをいただきながら新成人から自己紹介と成人となっての抱負を語りました。成人式を迎え、社会や家庭の中で改めて、信仰をもつ者としての責任と自覚、役割などを考えていきたいと思います。（＝**同左下**）

新成人　健軍教会・清田文子

キリスト教一致祈祷週間

みんなを一つにしてください

教会が一つであって欲しいということについて、「どうか、みんなを一つにしてください」（ヨハネ17・21）というイエス・キリストの切なる祈りはその気持ちをよく表している。しかし、キリストの教会は早くから分裂と対立を経験してきた。カトリック教会だけを見ても数年前ルフェーブル派の離教という悲しい出来事があった。第二バチカン公会議後、カトリック教会はキリストの一致を目指してエキュメニズム運動（教会一致運動）に力を入れてきたが「このまま違いを認め合ったらいい」「心の中で一致していればそれでいい」という人も出てきている。

しかし、キリスト者として、「教会は・・神と親密な交わりと全人類の一致のしるしであり道具である」（教会憲章一番）、「唯一の仲介者キリストは・・この教会によって、すべての人に真理と恩恵を分け与える」（同憲章八番）の公会議のことばを思い出したい。キリストの教会が目に見える形でも一致を実現したとき、この教会共同体は最高にこの世界の中で救いのしるしであり道具であることができるだろう。だから、一つのキリストの教会を実現することはキリストの教会の存在意義に関わることなのである。

エキュメニズム委員会

クリスチャン・ボランティア・センター設立に向けて

このボランティア・センターは、開かれた教会として社会に積極的に関わるために、全ての人に開かれた社会福祉活動の拠点となるものです。ここでは、いつでも誰でもボランティア活動に関する情報を受けることが出来ます。

目下、三月の設立を目指して、先ずは、熊本県下の各小教区をまわって、センターの趣意を説明し、理解と協力を求めています。

早速嬉しい反応もありました。「このような企画を待望しておりました・・教会に行けば、何か私に出来るボランティアが見つかるかも知れないと、教会に足を踏み入れました。結局それが受洗につながりましたが、今回はそれが現実となりそうで、大きな喜びと期待をもって参加させていただきます」と添え書きして申込み書が届きました。

このセンターは、信者の方が利用できるものであると同時に、信者でない方にも開かれたものです。たくさんの方の祈り・活動・財政的援助による協力に期待しています。

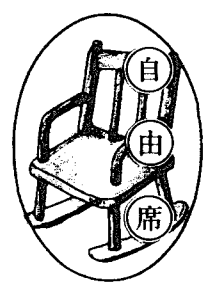
なお、活動内容など詳細についてお知りになりたい方は左記にお問い合わせ下さい。

熊本市上林町3－18

熊本信愛修道院内

☎096－324－6212

世話役人代表　Sr.黒木紗耶子



小さな人々と共に

昨年の十一月二三日、生熊来吉氏が天国へ旅立った。故人の一生は常に弱い人々の中にいて、共に歩み、共に怒り、共に泣く人でした。彼は人生の大半を共にした鉱毒公害のことを一冊の「記録・土呂久」にまとめ、これが毎日出版文化賞を受賞した。

第二バチカン公会議の精神が、日本のカトリック界に広がり始めた頃、宮崎県は高千穂土呂久の山里での亜砒酸による鉱毒公害の実態が報告されました。鉱毒よる健康被害の患者さん及びその家族の方人の、たとえようのない苦しみを知り、キリスト者として逸早く目を向けたのが生熊来吉氏でした。カトリック教会は、生熊氏の真剣な呼びかけに応え、この土呂久鉱毒問題に関わり、愛の実行運動が大きく進展し、司教、司祭、多くのシスターや信徒を動かし、幅広い支援の輪が作られました。生熊氏自ら大きな病を負いながらの献身的な働きは多くの人々を「隣人とは誰か」に目覚めさせたのです。鉱毒患者さんの危急を聞くと、宮崎へ、高千穂へ、筑豊へと何をおいても駆付け、苦しむ病人の手足をさすりながら、慰めと励ましを与え、そして祈りを捧げた生熊氏の姿は、まさに小さな人々への深い愛を周囲の人々に感じさせたことでしょう。神話のふるさと高千穂の地にキリストの灯がともされたのです。

「御主人様から預けられた5タラントンと、ほかに5タラントンもうけました」生熊来吉氏の名は、社会に開かれた教会、社会と共に歩く、教会、社会へ正義を叫ぶ教会を考えるとき、永く記録されることでしょう。

（深堀　尚）

四旬節黙想会

深い孤独と沈黙の中
主キリストを仰いで…

①２月18日(金)～20日(日)畠神父指導
②２月25日(金)～27日(日)ガブリエル神父指導
③３月４日(金)～６日(日)鈴木神父指導
④３月11日(金)～13日(日)マテオ神父指導
【時間】金曜午後8:00～日曜午後5:00（金曜は夕食をすませて集合して下さい）
【会費】１万円

福岡黙想の家
〒811-41　宗像市名残1056
TEL　0940（32）3222

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松３－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

生きがいをさがそう

第6回短期キリスト教講座を終えて

熊本

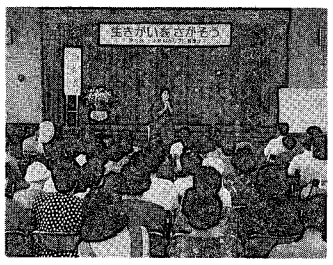
昨年九月から十一月にかけて、熊本信徒協主催による第六回短期キリスト教講座が行われた。

開催の目的は、社会の人々へ、現代の身近な問題を通して福音宣教を行い、一人でも多くの人をキリストのみもとに呼び寄せるということです。今回の参加者、信徒、未洗者を含め三七〇人と、前回に比べて約七〇%でしたが、参加者の感想から、一人ひとりに確実に福音の光が与えられたと感じさせられました。

主は今回も各テーマごとにすばらしい講師をバラエティー豊かに招いてくださいました。司祭やシスターに限らず、常々交わりのある牧師や医療の先生、戦後ハンセン病に苦しんだ韓国人信徒等々、いずれも現場での生きた体験を通しての講話で大きな意義がありました。

最終日はパーティーと映画鑑賞。「何か私にできること」。六十歳をすぎて戦後のフィリピンで活動を始めたシスター海野の叫びは、参加者に単なる感動ではなく「私も生きがいとして何かできること」を現実に見つけよう！　という力を与えてくれました。

実行委員・日向常子



歌手・新谷のり子さん講演

みんなが神さまに出会って欲しい

聖パウロ書院（大名町）

昨年カテドラルでささげられたクリスマス・イブの三つのミサには、延べ三千人を超える人々が集い、その大半は未洗者であったことが報道された。

最近、カテドラル一階の聖パウロ書院を訪れる人々も、聖書やキリスト、そして教会に関心を持っている人々が増えている。特に昼休みには、近くのオフィスに勤める方々が寸分を利用して訪れ、本を求めたり、いろいろな質問をされる。出来る限りその方々の質問に答え、近くの教会を紹介したりする。なかには、キリスト教（の名前を借りた偽りの教え）系といわれながら、キリスト教ではない新宗教によって家庭がメチャメチャになり、困っている方たちが相談に来られる。

昨年は、若い人たちの中で十字架のアクセサリーが大流行し、書院を訪れる若い男女も目立った。

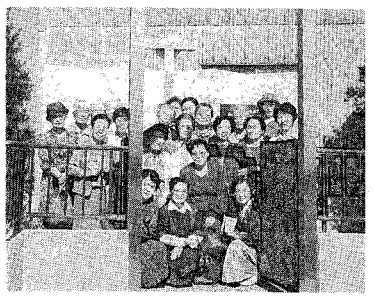
さまざまな人と出会う機会に恵まれ、神さまがどんなに一人ひとりを大切にされ、ユニークな方法で招いていらっしゃるかに気づく時、このチャンスを逃さず、みんなが神さまに出会って欲しいと、書院で働く私たちは朝夕心を合わせて祈り、教会の窓口として奉仕できることをよろこび感謝している。女子パウロ会

神学生のための祈ります「子羊会」

二十年程前に、お年寄りと共に祈り分かち合う小さなグループがありました。その内に、ただ集まるのではなく、「小神学生のために祈る」という意向を持ち、グループの名を「子羊会」といたしました。その頃、礼拝会が福岡の地行の地に聖家族の家をお建てになり、聖堂が出来、月一度今は亡き川口康頼神父様のごミサに与かりました。それから代々の小神学校長の神父様に来て頂いて、召命のために祈っています。ごミサの後はお茶を頂きながら、共に憩い、分かち合う家族的な集いとなっています。私たちの小さな集いが神学生のためになりますように。子羊会が、今まで続いて来れたのも、礼拝会のシスター方、横浜でご健在の九十三歳におなりの岡本様、昨年亡くなられた柴田様のお力と、感謝しています。

子羊会では、毎月第三木曜の午後一時からロザリオ、一時三十分からごミサを捧げます。ご参加をお待ちしております。

子羊会一同



聖体礼拝グループ〝師イエズスの友〟

このグループは、師イエズス修道女会の使命に基づき、現代の人々にキリストのメッセージを伝え、聖櫃（せいひつ）のみもとに世界中の人々の祈りを携えて祈るという役目をもっています。永久礼拝を信徒の方々と行いながら、祈りの輪を拡げ、「全世界をキリストにおいて一つに」という祈りが実現されることを願って作られた祈りのグループです。福岡では、司教様の承認で月の第一金曜日、午後一時から浄水通の師イエズス修道女会の聖堂に集まり、共同礼拝を捧げています。また春と秋の二度、一日静修を講師を招いて行い、聖体の前でイエスとの出会いと祈りを深める時を過ごしています。聖体を中心として共に祈りたい方は、どなたでも参加することが出来ます。また、祈りの手助けになるよう小冊子『いのり』を発行しました。今後も祈りの生活の充実に努めたいと思います。

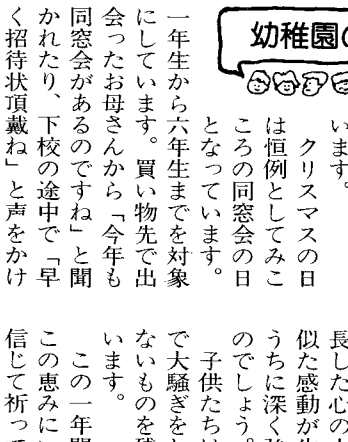
詳しくお知りになりたい方は師イエズス修道女会まで。

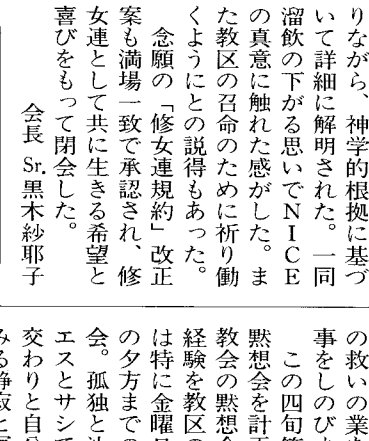


NICEの心を受けて

修女連研修会

一月十五日、福岡教区修女連は、司教館別館ホールで恒例の研修会を行った。会場は百十余人の修道女で溢れた。全国会議後の年明けに相応しく「NICEの心を受けて」のテーマによる松永久次郎司教様の講話がその中心であった。NICEの方向を正しく理解することの必要を強調された。会議以降既に常套（じょうとう）語になっている言葉や表現を短絡的にコンテクストから切り離して使う時、そこには片寄り、行き過ぎたても、当日の出席は百パーセントにはなりませんが、プレゼント交換の品を持ってニコニコ顔で集まって来てくれます。園児とは違い、大きな体と声の小学生ですからその迫力は大したものです。同窓会のプログラムに従って、先ず教会に入ります。クリスマスツリーや馬小屋の飾られた聖堂で祈り、聖書のみ言葉を聞き、賛美歌を歌うのです。誰一人照れることもなく、自然に動きます。「あの頃、ここで、こうして祈った」と言うのが蘇ってくるのでしょう。そして、去年よりもさらに成長した心の中に新しい生命に似た感動が生まれ、知らないうちに深く強く浸透していくのでしょう。





幼稚園のできごと

本渡カトリック聖心幼稚園

天草五橋を渡って、瀬戸のループ橋をぐるりと廻って下りた所が本渡市です。教会は市街中心部にあり、幼稚園も同じ敷地内に共存しています。園児たちは、聖堂で週一度朝の集会を行っています。教会は自分たちの生活圏内と思うくらい親しい場所となっているようです。

幼稚園と教会。子供たちにとっては、よきものとして心に映され、育っていくのだと思います。

クリスマスの日は恒例としてみこころの同窓会の日となっています。

一年生から六年生までを対象にしています。買い物先で出会ったお母さんから「今年も同窓会があるのですね」と聞かれたり、下校の途中で「早く招待状頂戴ね」と声をかけていく子供があったりして。楽しみに待っている気持ちが伝わって参ります。とは言っ

子供たちは、楽しいゲームで大騒ぎをしても、何か消えないものを残して行ったと思います。

この一年間、一人ひとりが、この恵みにいかされることを信じて祈っています。

園長　Sr. 斉藤サカエ

黙想会計画中

御受難会

四旬節が近づきました。今年は二月十六日が灰の水曜日。この日から四十日の祈りと犠牲・節制の日を積み重ね

解釈、誤解などが生じ易い。「信仰を生活から・・」「開かれた」「教義と掟の関係」「共感・共有」などを例にとりながら、神学的根拠に基づいて詳細に解明された。一同溜飲の下がる思いでNICEの真意に触れた感がした。また教区の召命のために祈り働くようにとの説得もあった。

念願の「修女連規約」改正案も満場一致で承認され、修女連として共に生きる希望と喜びをもって閉会した。

会長 Sr. 黒木紗耶子

て、復活を迎える心を整えます。イエス様が四十日間、断食し、誘惑と闘いながら、福音宣教を決意し、受難と復活の救いの業をお始めになった事をしのびます。

この四旬節に、黙想の家も黙想会を計画します。ただ、教会の黙想会とは一味違った経験を教区の皆様にと、今年は特に金曜日の夜から日曜日の夕方までの二泊三日の黙想会。孤独と沈黙のうちに主イエスとサシで、親しい祈りの交わりと自分自身を真剣に省みる静寂と瞑想のひとときをとの計画です。昨年の黙想会に参加したある女性は、「以前は、私にとって神様は遠い薄い方だと感じていました。けれどこの黙想会に参加してからは、だんだん現実的な方に思えてきました」と話してくれました。

福岡黙想の家・鈴木忠一神父

★続・みことばの花籠

松永久次郎著



BOOK 読みは専科

司教様の多数の著書の中で「みことばの花籠」はカトリックを越え、プロテスタントの方々、聖書に関心を持っている方たちに好評です。うれしいことに、新年早々「続・みことばの花籠」が出版されました。この本には、「みことばとの親しみを多くの人が深めて欲しい」との司教様の熱い思いがこめられています。このお望みが、心ある人人に届いたのでしょうか。

聖母の騎士社　五〇〇円

……

「聖書もっと知りたい春のフェアー」

全国キリスト教専門書店で一月二十五日から四月十日まで、「聖書もっと知りたい春のフェアー」が開催中です。

「聖書新共同訳とその仲間たちのキャンペーン委員会」と「日本キリスト教販売㈱」の企画で、今回は第二回目を迎えました。大名町の「聖パウロ書院」がこの企画に参加しています。

永遠のベストセラーと言われている聖書。この聖書をさらに分かりやすく導いてくれるガイド役の書物や、聖書のすばらしい世界を紹介する多数の本、CD、ビデオなどを揃え、皆様のお越しをお待ちしています。

新しい年の始めにあたり、一人でも多くの方が、みことばと出合い、深められ、照らされて、新しい歩みを始められますように、お祈り申し上げます。

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

会合と催し

2・3月の行事

※ゴチックは司教日程

2月

2日 聖クララ修道院落成式
5日 日本26聖人
6日 教区信徒協役員会
堅信式（大名町）
8日 司祭評議会・顧問会
13日 古賀教会ナイス報告会
16日 灰の水曜日・四旬節（大斎・小斎）
20日 愛と性を考える研修会
26日 今村信徒発見記念日
27日 糸島教会ナイス報告会
28日 福岡地区教会学校リーダー研修会

3月

6日 佐賀納骨堂祝別式
12日 教区教会学校リーダー研修（～13日・手取）
14日 宣教奉仕者・教会奉仕者選任式
19日 聖ヨセフ・教区長霊名祝日
22日 朝祷会九州大会（手取）
31日 聖香油ミサ（大名町）

福岡黙想の家
3～6日 黙想の家後援会会員のための黙想会
10～13日 御受難会きょうだい会
18～20日 御受難会主催 四旬節黙想会①
25～27日 御受難会主催 四旬節黙想会②

部落問題についての講話のご案内

カトリック部落問題委員会の春季合同合宿が福岡黙想の家で開かれます。

今回の合宿研修は、福岡県・豊州炭鉱跡を中心に、どのような状況下で「繁栄を支えた人々」の生活があったのか、現地で声を聞くために企画されたものです。講演は一般の方にも公開されますので、ご参加ください。

日時 3月19日
場所 福岡黙想の家
講師 犬飼光博牧師（筑豊・日本キリスト教団福吉伝道所）

①「筑豊の部落差別問題」
16時45分～17時45分
②「キリスト教と部落差別」
19時～20時30分
参加費 一、〇〇〇円（夕食込）
申込先 カトリック部落問題委員会（京都）締切3/1
☎・FAX 075-223-2291

第3回 カトリック愛と性を考える研修会

テーマ：いのちと性は神のたまもの
講　師：ヨセフ松永久次郎司教
日　時：1994年2月20日(日)13：00～16：15
会　場：熊本・手取教会信徒会館
会　費：1,000円（学生500円）
共　催：福岡教区信仰教育委員会・家庭委員会
問合先：カトリックファミリーセンター
☎ 092-541-6207

〔2月結婚準備セミナー〕

【福岡会場】カテドラルセンター一階講堂
日程 3・5・17・19・24・26日
申込み カトリックファミリーセンター
問合先 ☎ 092-541-6207
FAX 092-552-5022

【熊本会場】カトリック手取教会・信徒会館二階ホール
日程 2・7・14・16・21日
申込み カトリック手取教会
問合先 ☎ 096-352-3030
※ いずれも毎回19時～21時20分

【徹夜祈祷会のお知らせ】

日　時：3月19日(土)19：00～20日(日)朝食まで
場　所：サン・スルピス大神学院
テーマ：『ヨセフとともに召命を祈る』
参加費：1,000 円
主　催：召命を共に祈る会
※お申し込みは、小神学校・森山信三神父まで
☎092-531-6821

教会学校 リーダー研修会（福岡地区）

講　師：ヨセフ松永久次郎司教
テーマ：堅　信
日　時：2月28日(月)9：30受付
場　所：カテドラル大名町教会
参加費：1,000円・弁当代 500円
申込み：2月25日まで
司教館 ☎092・522・5139 松井忠之神父・深堀邦枝

ロッキー山脈の上に落ちた二つの雨粒

「カナダのロッキー山脈の頂にくっつくようにして落ちた二粒の雨粒の一方は、山を下って太平洋に流れ、もう一方は山を下って大西洋に流れ込む。自分では立派な意向をもっているつもりでも、それが神様の意向とわずかでも違ってくるものだ。司教館の庭の草をとりながら、このことについて黙想してみなさい」

これは大学の最終学年の夏に、司祭になりたいとの熱情をひっさげて司教館に行き、故深堀仙右衛門司教様にその旨を述べた時に、司教様が言われた言葉である。それは、今も私の心の奥底に残っていて、何かの折りには、いつも私を戒めている。

当時は、若さと生まれて初めてイエス様の御教えに出合った感激とで一杯で、この喜びを誰にでも知らせたいと願っていたのは事実である。

しかし、司祭職への召し出しは神様から来る特別な恵みであり、自分の意のままになるものではない。今考えると、冷や汗の出る思いであるが、そのことは頭のどこかで微かに分かっていても、〈自分は〉神様のために何かするのだという「自分の計画」が神様のおぼしめしより優先していた。深堀司教様は、そんな不遜な私の心を見抜かれて言われたのである。

でも、素直に八月の暑い午後、司教館の裏庭の草取りをしている間に、おぼしめしならば司祭にならなくてもよい、神様のお望みのところで働こうという気持ちになってきた。それで、司教様にそう申し上げた後、司教様の勧めで、その指導のもとになお二日間黙想をして家に帰った。でも、その間に神様は司祭職への召し出しへの準備をして下さっていたのである。翌年二月大学卒業の前、神様は司教様を通して神学校入学の許可を下さったのである。

「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう」（ロマ11・33）

久留米教会・三村邦明神父

子どもの信仰教育を考える集い

日時 三月十二日十五時～十三日十五時
場所 カトリック手取教会
講師 日本カトリック研修センター・スタッフ
参加費 二、〇〇〇円（宿泊の場合は別途一、〇〇〇円）
主催 福岡教区信仰教育委員会
福岡教区教会学校委員会
熊本地区信徒協司牧部
申込・問合先 カトリック帯山教会
大水幸一神父
熊本市新大江三一九一一〇
☎・FAX 096-382-9413
申込締切 二月末日

主の道を求めて

マリアの宣教者フランシスコ修道会

本会は一八七七年フランスに、マリー・ド・ラ・パシオンによってマリアの宣教会として創立され、御聖体の礼拝者、宣教者、いけにえとして、ユーカリスチアを生活の中心とする中で、マリアのエッチェとフィアットに生き、宣教者として教会のあまりない所、社会から疎外されている人々、なかでも最も貧しい人人のところへ優先的に派遣されていく使命をおびています。一八八二年十二月八日、聖フランシスコ会の家族に受け入れられ、以後マリアの宣教者フランシスコ修道会として歩み始め、国際的共同体によって全世界の地域、教会に奉仕しています。現在の会員数八六二一人、派遣されている国は七八カ国です。日本には熊本に一八九八年、コール師の招聘によりハンセン氏病患者の看護に当るため、多勢の希望者の中から五人の若い外国人宣教女が派遣され、患者の看護に携わるかたわら、近辺の人々に物質的援助のみでなく神のみことばをのべ伝え改宗者も増えました。一九〇〇年待労病院が完成し、その後、日本の各地で社会福祉事業、教育事業を通して福音宣教に携わっています。現在日本に二八修院があり、福岡教区では、福岡に海星学院、熊本に待労病院・老人ホーム・幼稚園、人吉に幼稚園があり、五年後に日本創立一〇〇年を迎えようとしています。

聖地巡礼の旅

福岡発着22日間　45名様募集中！

聖地イスラエル　教皇様の地ローマ　聖フランシスコの地アッシジ　聖ベルナデッタヌベール　聖パウロ伝道の地トルコ・エフェソ　聖母出現の地ルルド

1994年5月12日(木)～6月2日(木)　旅行代金638,000円
引　率：松永久次郎司教
企　画：カトリック福岡司教区
問合先：近畿日本ツーリスト　☎092－751－0131

2月命日の司祭

＊フランソワ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）

～映画上映～
市川準監督作品
病院で死ぬということ
とき…2月27日（日）13時・15時（2回上映）
ところ…大名町教会一階講堂

小神学校基金へのご寄付

故マリア平田キヤノ様の香典返しとして、平田善吉様より金一封をいただきました。故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡小神学校　青木　保

編集室から

梅の花の便りが届く。寒くて暗いイメージの冬から暖かくて明るい春へ。巡る季節の中で神の望まれる方へ。

第1回日本カトリック高校生大会 参加者募集

＝応募作文選考による＝

テーマ：東アジア社会とわたしたちの信仰
日　時：1994年8月1日(月)～5日(金)
場　所：北海道　支笏湖ユース・ホステル
応募資格：1994年4月現在高校在学、またはそれに相当する年齢の男女
問合先：熊本市新大工3－19－10
カトリック帯山教会　大水幸一神父
TEL/FAX 096-382-9413

一九四〇年二月二十二日
元門司港教会主任
＊ジョゼフ・ボア師（パリ外国宣教会）
一九五七年二月十七日
元黒崎教会主任
＊ジョン・オマラ師（聖コロンバン会）
一九七四年二月十四日
元荒尾教会主任
＊フランソワ・ドルエ師（パリ外国宣教会）
一九八三年二月二十六日
元八王寺教会主任
＊ガストン・オーブリ師（聖スルピス会）
一九八五年二月二十六日
元大神学院院長
＊パウロ糸永武男師
一九九二年二月二十三日
元今村教会助任

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL 093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI **藤木工務店**
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 小田正人

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092—522—5139
FAX　092—523—2152
振替口座 福岡6—20729
定価一部60円

今月のみことば

なぜ泣いているのか。
だれを探しているのか。
（ヨハネ20・15）

サン・スルピス　牧山強美神父

四旬節教書

ミサ聖祭について

信仰者の活動の頂点

福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教は、四旬節を迎える教区民に対し、四旬節教書「ミサ聖祭について」を贈り、ミサについての意識を促した。



灰の水曜日（二月十六日）から始まった四旬節にあたり、教区長松永司教は、四旬節教書「ミサ聖祭について」を出された。これは、教皇ヨハネ・パウロ二世が全世界の司教にあてられた書簡を通して、同司教がミサについて特別な思いで考察、黙想され、信徒一人ひとりに伝える具体的指針である。

その内容は、「ミサは信仰生活の中心」「ミサの要素」「日曜日のミサ」「幾つかの具体的勧め」であり、信徒一人ひとりが、各人の信仰生活の中でミサの意義を見い出し、如何に与るかを具体的勧めを通して述べているものである。

信徒一人ひとりにこの教書を通してミサのすばらしさを再確認していただきたい。

（教書全文は3面掲載）

第三回カトリック 愛と性を考える 研修会に参加して

二月二十日・手取教会

研修会のビデオは、性と生命の尊さを訴える感動的なものでした。これを受けて松永久次郎司教様は、神にかたどって造られた人間の性は、神の贈り物であり、夫婦相互の命の完成を支え、子育ての力となっていくものであること。それが現代では、性と生命が切り離され、結婚と出産も切り離されがちで、この過ちを犯しているのが人工的避妊、中絶、代理母などであると話されました。更に教皇パウロ六世の回勅フマーネヴィテは まさに予言的であり、この教えは真実であること。キリスト者の生命の伝達も十字架なしには復活の勝利もないことを力強く諭されました。

証しをされたY子さんは、

「妊娠した友人が、中絶をやめて生むことができるように泣きながら必死に祈りました」と話されました。Y子さん自身は、ビリングス・メソッドの観察によって得た恵みを頂いておられます。

山崎さんご夫妻は、「自然な家族計画に対する夫の理解不足による妻の苦しみ不安を手紙によって夫に訴え、夫は妻にビリングス・メソッドのリズムをつかめるよう協力した。これによって真の夫婦愛が育ち、家庭の中に、平和・安らぎ・信頼・信仰が深まった」と話されました（＝写真。）

全ての夫婦がこの様な恵みに浴して欲しいと願わずにおれません。



分かち合いの後、聖体賛美式をもって終了しました。

手取教会・安倍由子

聖クララ修道院落成



永い間待ち望み、恵みを願っておりました祈りの家、修道院が、二月二日主の奉献の祝日に、福岡・小郡聖クララ修道院として、私たちの思いをはるかに越えた摂理によって落成、発足しました。松永久次郎司教様に祝別していただき、そのお恵みに私たちは喜び満たされています。

すべてをご配慮して頂き、ご尽力くださった松永司教様、本当にありがとうございました。また、司教様と思いを同じくし、惜しまず祈りとご援助、ご協力を賜った平田三郎司教様をはじめ、教区、修道会の神父様方、恩人に厚く御礼と感謝を申し上げます。アシジの貧者聖フランシスコを師と仰ぎ、みずからをその小さな草花とよんだ創立者聖クララに倣い、私たちも福音を小さく単純な者として生きてゆくその歩みをつづけて行きたいのです。

今年は時あたかも、聖クララの生誕八百年の記念の年、在天の母の恵みのとりなしを教区、教会の上にゆたかにと祈ります。そして、これからのこの修道院の祈りと労働の奉献生活が、観想修道院として司教様もお望みのように少しでも人々のため、教区のためにお役に立つようにと願うものです。

福岡・小郡聖クララ会修道院

時の話題

上村　義行

先日、長期療養中のあるお婆ちゃんのところへ、夫婦でお見舞いに行った。私たちがベッドの傍らに寄るなり、身を起こしてしっかりと手を握り締め、「よくお出でくださいましたネー」と、その喜びを不自由な体一杯に表して迎えてくださった。暫く振りに逢ったものですから、溢れるようにお喋りする中に、次のような言葉を聞かせていただいた。「私がこうして寝ていることは神様の思し召しですから何か意味があることなのですネ。こうして恵まれたところに居ながらも、皆様にお世話になることも、病気であることも全てが感謝です。半身が動かず痛みを伴いますが、私に求められているこれらのことはむしろ喜びです。神様に感謝しています」と。

見舞って励まされて

私はフッと自分の立場を考えてみた。私たちは、日々現実の社会の中でボロボロになるまで働いて、鬱積するストレスによる自我との戦いの中で悔いながらも、この現実を受容して生きることはやむを得ぬことであるかも知れないが、そこには何かを失いつつあることも事実である。今、ここに見舞っていることのどこかに、「見舞ってあげたとの思い上がりがありはしないか」、彼女の置かれた立場で、「生かされている」ことや、「必要とされている」自分の存在に気づき、感謝のうちに生きる自然体の生き方を私たちは見失っているのではないだろうか。

福音宣教が叫ばれている昨今、こうした現実の社会の中にあって「弱い立場」にある人々にキリストがどのように関わっておられるか。何を求めておられるか。「病院で入院している人」、「日常生活にも不自由する難病の方々」、「障害者」、「ホームレス」、あるいは、ちぢこまるようにして生きている「お年寄りたち」を通して。これはナイス運動以前から私たちに問われている課題である。「何かをしてあげる」ではなく、気負わず共に生きる、その生きようとする中に、新鮮な思いでそのメッセージを聞くことができるかも知れない。今回はお見舞いに行って、かえって私たちの痩せた心を励まされてしまったようである。

（黒崎教会）

教区人事異動

異動［二月二日付］

佐賀教会助任　M・ターディフ（鳥栖主任代行）

異動［四月一日付］

飯塚・田川教会主任　深堀勝人（教区会計）
教区会計　松井忠之（教区本部）
小神学校校長　森山信三（副校長）
直方教会主任　山下　正（司教秘書）
健軍教会主任　鵜野泰年（大楠）
大楠教会主任　下町豊重（小郡）
若松教会主任　西田邦洋（大牟田）
水巻教会主任　J・ガイヤール（門司）
光丘教会主任　J・バイヨ（黒崎）
光丘教会助任　H・キニュ（黒崎）
美野島司牧センター担当　M・コース（若松）
門司教会主任　A・ベルトラン（飯塚）
黒崎教会主任　L・ベリヨン（水巻）
大牟田教会主任　平田三好（直方）
小郡教会主任　牧山勝美（健軍）
ローマ留学　青木　悟（光丘）

転勤［四月一日付］

広島教区　棚町健之助（湯川）

異動を考える時期がきた。

司教様から内示をいただき、本通知（辞令）をいただくともう動かざるをえない。「私はここに留まりたい」とか「私はあそこの方がいい」とか思ってもそうはいかない。理由の如何を問わず、司教様の命令には服従のはずである▼神様にはもちろん、信者のあの人にも、未洗者のこの人にも世話になった。喜びや悲しみをともにしてくれた人、理解されずに苦しみ悩んでいた時、やさしく声をかけてくれた人がいた。まさしく、『共感・共有』の日々であった。今は祈りによるお返しでもって『時』を待とう。辞令を受けた司祭たちはそのような気持ちではなかろうか▼司祭の新年の集まりの挨拶で、教区総代理は「今年は教区の大躍進の年にしよう」と力強く語った。どうしたら言葉だけに終わらせずに済むのか。そもそも躍進すべき教区とはいったい何ものか。聖職者と信徒から成る教区。その一人ひとりがまず信者であることを自覚し、喜びから溢れる宣教の心を持てないと教区は進まない。変動する教区の中で変わらないイエス様とその代理者である司教を中心にし、内外に向けてそれぞれの立場で果たすべき使命を果たしていこう。それを一時ではなく生涯においてなし終えた時、神様は「よくやったね、今度あなたの行くところは本物の聖人たちが拍手で迎えてくれる天の国ですよ」と言われるだろう。「なすべきことはただ一つ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです」（フィリピの信徒への手紙3・13—14）。

【S】

聖地巡礼の旅

福岡発着22日間　45名様募集中！

聖地イスラエル　教皇様の地ローマ　聖フランシスコの地アッシジ　聖ベルナデッタヌベール　聖パウロ伝道の地トルコ・エフェソ　聖母出現の地ルルド

1994年5月12日㈭～6月2日㈭　旅行代金638,000円
引　率：松永久次郎司教
企　画：カトリック福岡司教区
問合先：近畿日本ツーリスト　☎092—751—0131

（宣教奉仕者選任式間近）

サン・スルピス大神学院で二月十四日に選任式が行われる。福岡教区の受選者は左記の通り。

日高　弘（糸島教会出身）
牧山美好（糸島教会出身）
田中重治（西新教会出身）

※三人は現在神学科一年生。司祭叙階を目指して祈りと学業に勤しむ彼らのために祈りましょう。

復活は変容である

復活というのは〝生きる〟とか〝甦る〟と言うようなことではありません。例えば、イエスは亡くなったラザロを生き返らせました。即ち、ラザロは、死ぬ前の状態に戻されたわけです。それは、復活ではありません。

イエスの復活は、変容のようなものです。十字架上のイエスの見苦しい体が、神の栄光に満ちた体に変容されたということです。

変容するとは、より美しく、より強く、永遠に生き生きしてくることです。洗礼によって主とむすばれたキリスト者も、主、イエスの変容にあずかる者となります。

イエスと共に復活する私たちは、イエスの御手に、我が身と我が生活のすべてを委ねるなら、そのすべてが変容されます。

例えば、私たちの心配、悲しみ等を復活のイエスの御手にお委ねすると、それらは変容されるのです（カナの婚宴の時に、水がおいしい葡萄酒に変容したように）。

また、私たちの計画、疑問、疑い、自己嫌悪、憎しみや裏切り等を復活のイエスの御手にお委ねすれば、信頼とやさしさに変容されます。私たちの身体も年をとれば弱くなってきますが、復活のイエスにお委ねすれば、人生の辛業のとき変容されます。フィリピの信徒への手紙には、次のように書いてあります。〈わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。〉（フィリピ3・20～21）

私たちの望みは、いつも狭すぎて貧弱すぎるのです。そのまま復活のイエスの御手にお預けしましょう。そうすれば、より豊かな終わりのない幸せに変容して下さいます。

私たちの変容は、死んでからのものではなく、既に始まっています。既に復活した者として生活できるのです。

＝水野源三さんの手本＝

彼は、七歳の時から脳性麻痺のため、一切の体の自由が奪われました。出来ることと言えば、瞬きだけです。お母さんは、五十音図を壁に掛け、源三さんの瞬きだけで、意思を伝えることが出来るようになったのです。彼の作った詩を紹介します。

わが心から
復活されたキリストの
お姿を見たその時に
わが心から、わが心から、
疑いはたちまち消え去る
復活されたキリストの
お声を聞いたその時に
わが心から、わが心から、
悲しみはたちまち消え去る
復活されたキリストの
愛に触れたその時に
わが心から、わが心から、
憎しみはたちまち消え去る
カルメル会・徳山　登神父

各教会黙想会日程表（3月1日現在）

地区	教会名	日程	指導司祭	テーマ
福岡	糸島	3月20日	森山信三神父	キリストの受難・復活と私たち
	今村	3月21日～23日	櫻井尚明神父	信・望・愛
	大楠	3月27日	鵜野泰年神父	
	大牟田	3月20日	M・ヴェッター神父	私たちの生活
	小郡	3月12日～13日	徳山　登神父	明るい信仰
	久留米	3月7日～9日	山田成章神父	福音書による主の受難
	古賀	3月4日～6日	春山勝美神父	キリストと共に
	笹丘	3月27日	三村誠一神父	
	浄水通	3月6日	杉原寛信神父	信仰について
	大名町	3月22日～24日	大山　悟神父	キリストと共に歩む
	高宮	3月27日	平田　寛神父	福音宣教と信者の役割
	茶山	3月19日～20日	牧山強美神父	家庭
	西新	3月5日～7日	鵜野泰年神父	聖母マリアの交響曲
	光丘	3月20日	徳山　登神父	証し
	二日市	3月4日～6日	徳山　登神父	明るい信仰
	本郷	3月24日～27日	森山信三神父	キリストの愛を生きる
	吉塚	3月13日～14日	戸村　修神父	
	老司	3月19日～20日	鵜野泰年神父	
北九州	飯塚	3月6日	牧山強美神父	キリストに学び、キリストに生きる
	黒崎	3月1日～3日	岩永義人神父	信・望・愛を生きる
	小倉	3月22日～24日	塩谷恵策神父	キリストに学んでキリストと共に生きる
	新田原	3月8日～10日	前田万葉神父	
	田川	未定		
	天神町	3月19日～21日	本田哲郎神父	キリストに学び、キリストに生きる
	豊津	3月11日	竹森　勇神父	キリスト者の生活
	戸畑	3月6日～9日	山元　眞神父	信仰の見直し
	直方	2月27日	山頭原太郎神父	
	八王寺	3月5日～6日	戸村　修神父	
	水巻	2月11日～13日	本田哲郎神父	イエス・キリストを中心にして生きる
	門司	2月26日～27日	春山勝美神父	フランシスコとクララのメッセージ
	門司港	3月27日	E・モーゼ神父	キリストに生きること
	湯川	3月9日～11日	中村　彰神父	回心
	行橋	3月15日	竹森　勇神父	キリスト者の生活
	若松	3月16日～18日	林　尚志神父	福音宣教について
佐賀	伊万里	3月13日	森山信三神父	過越の神秘
	佐賀	3月18日～20日	A・ディベルロ神父	ミサを生きる
	多久	3月20日	春山勝美神父	福音宣教と信徒の役割
	鳥栖	3月20日	M・マグリン神父	ロザリオの苦しみの玄義
	馬渡島	3月20日	畠山七郎神父	真の信仰
	呼子	3月12日～13日	杉原寛信神父	
	松島	3月16日	鵜野泰年神父	聖母マリアの交響曲
熊本	帯山	2月26日～27日	畠　基幸神父	キリストを学び、キリストに生きる
	菊池	未定		
	健軍	3月7日～8日	牧山勝美神父	信仰体験の分かち合い
	崎津	3月12日～13日	山内　実神父	信仰生活とは
	島崎	3月11日～13日	関口七郎神父	ミサとゆるしの秘跡について
	手取	3月18日～20日	山頭原太郎神父	悔い改めよ
	本渡	5月7日～8日	J・ブロドリック神父	神の愛の恵み
	水俣	3月26日～27日	徳山　登神父	
	武蔵ヶ丘	3月25日～27日	畠　基幸神父	
	八代	3月5日～6日	山頭原太郎神父	回心

創立30周年
コンサートで祝う
光丘幼稚園

博多区の光丘幼稚園（園長佐藤倭文子）で、二月十二日、創立三十周年記念の感謝の集いが、在園児、卒園児の両親や、卒園生によるファミリーコンサートを中心に、百五十人の参加者によって盛大に行われた（＝写真）。



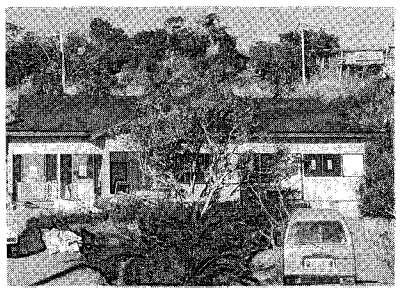
第一部は、光丘教会でチャペルコンサートが、園児によるローソク点火に始まり、青木悟神父様の聖書朗読、松永久次郎司教様のキリストの心を伝える温かいお話に続いてアヴェマリアの独唱、オルガン演奏、オーボエ四重奏が行われた。

第二部は、会場を幼稚園に移し、ファミリーコンサートが続けられた。特別出演として、世界的天才ピアニストの高雄有希さん（十六歳）が素晴らしい演奏を披露してくださり、「神様からの特別なプレゼント」の中での感謝の三十周年となった。

新司祭館
待望の落成式
―馬渡島教会―

二月十五日、待望の馬渡島教会の新司祭館の落成式が、松永久次郎司教様の列席のもと行われました。十一時からのミサには、約二百人の信者が与かりました。司教様はミサの説教で「キリスト信者は司祭と一緒に神への捧げ物をするものです。その司祭を大切にしてくださり、皆さんの力で新しい司祭館を造ってくださったことに感謝しています。真のキリスト信者は、その家庭から司祭を捧げるものです。この教会からも多くの召し出しがでるよう期待しています」という主旨のお話をされました（＝写真）。

雨の中、司祭館の祝別が行われ、十二時に祝宴に入りました。司教様を含め、六人の神父様方や、来賓の方、信者百余人でした。ちなみに、新司祭館は三十六坪の平屋で、信者が二十年間の積み立てで建てたものです。



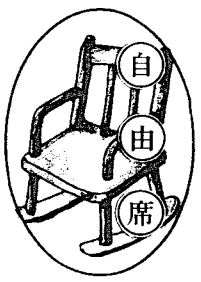
尚、聖堂の修復の課題がまだ残っています。信者一同、心を一つにして前進しようと決意を新たにいたしました。

馬渡島教会・一信者

福岡教区第33回クルシリヨ案内

日　時　5月2日(月)19：00～5日(木)16：00
場　所　福岡黙想の家
参加費　12,000円
（宿泊・食事・用品代として　当日受付）
携帯品　ロザリオ・着替・寝巻き・洗面用具
（連絡先）福岡教区クルシリヨ事務局
〒813　福岡市東区舞松原5-23-9
大谷眞造　☎092-661-0120

私の四旬節
戸畑教会・徳永康子



いつも灰の水曜日を迎えると頭から離れないことがありました。「これで良いのだろうか」という思いです。この時期、節制を心掛けていてもそれだけでは消極的な気がするのです。もっと、積極的に何かできないものだろうかと思ってしまうのです。

でも、ここ二、三年考え方が変わりました。今の生活を変えなくても、ここにいてできることがあるのではないかと思うようになったのです。小さくはあっても宣教ができないものだろうかと。その出会いを通して『行い』をもって「愛」を示すことが少しでもできれば良いと考えるようになりました。

幸い、二人の子供のおかげで若いお母さんたちとの出会いもあります。新しい時代を担い、築いていく子供たちの心の中に「愛」の掟（教え）がしっかりと根付いていればきっと世界は平和へ向かうことでしょう。純粋な子供たちの心をはじめにノックし育んでいく若い母親たちの心を私がノックするのはこの時期です。彼女たちとの集まりの中には実例がごろごろ転がっています。子供のこと、家庭のこと、学校のこと。そしていつも感心するのは、『場』さえ用意すれば、悩みに対するすばらしい答えを自ら見いだして帰っていくことです。自信を持って、子供たちにアドバイスできるようです。毎年四旬節の頃、新たな友を家に招き、「愛」を語りながら、それから長い付き合いが始まっていきます。

'94聖週間をともに…
〈主な典礼開始時刻〉
• 3月31日　聖木曜日　20:00
• 4月2日　聖土曜日　23:00
いのちの春、復活祭を迎えるために
静かな祈りの内に過ごしませんか？
• 4月1日　聖金曜日　15:00
• 4月3日　復活祭　11:00
【お問い合わせは下記へ】
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL　0940-32-3222

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

四旬節教書
―ミサ聖祭について―

＋聖父と聖子と聖霊の御名によって。アーメン。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、教会の全司教にあてた書簡の中で、「教会が聖体を作る」ように、「聖体が教会を建てる」という公会議の教えを指摘されましたが、聖体祭儀であるミサと、信者の信仰生活の間には深いつながりがあります。

今回は、このミサについて、幾つかの点を取り上げて考えてみたいと思います。

一、ミサは信仰生活の中心

「司祭キリストとそのからだである教会のわざである典礼の行事は、すべて、卓越した聖なる行為であって、その効果においては、教会の他のいかなる活動も、同等の理由や程度でこれに匹敵するものはない」とは、公会議の教え（典礼七）ですが、その典礼行事の中心であるミサのことを、同じ公会議は「キリスト教生活全体の泉であり頂点である」と言っています（教会一一）。わたしたちはこの教えを正しく理解し、この教えを信仰生活のなかで生かさねばならないと思います。

まことにミサは、キリストの救いのみ業の中心であり頂点である過ぎ越しの秘義・十字架の死と復活の秘義の秘跡的再現であり、神に対する最高の礼拝の意義を持っています。と同時にミサにおいて、特にご聖体拝領によって、わたしたちはキリストの救いの恵みに与かり、神との交わりに受け入れられます。わたしたちはまた、ミサにおいて、キリストの祭壇を囲んで共に集まり、地上に生きる神の民の姿を映し出すよう招かれています。このようにミサは、キリストとキリストのからだであるわたしたちが地上で行う最高の行為であり、キリスト教的生活の源泉すなわち、神に仕え、隣人に奉仕するキリスト者の愛を実践するためのエネルギーの源泉となるものです。わたしたちは、このようなミサの意味をよく弁え、信仰生活の実質的中心にするよう、心掛けねばならないと思います。

二、ミサの要素

ミサの主要部分は、みことばの祭儀と聖体祭儀で構成されています。

みことばの祭儀においてわたしたちは神のみことばを聞き、それを実生活の場に当てはめて、自分の行動の道しるべといたします。そのためには、まず神のみことばを正しく受け止め、正しく理解することが大切です。この点で、「・・（パウロの）手紙には難しく理解しにくい箇所があって、無学な人や心の定まらない人は、それを・・・曲解し、自分の滅びを招いています。」（IIペトロ三、一六）という、聖ペトロの警告を心すべきです。また聞いて理解するだけでなく、実行に移すべきです。「人がなすべき善を知りながら、それを行わないのは、その人にとって罪です」（ヤコブ四、一七）と書かれていることを忘れてはならないと思います（マタイ七、二六～二七参照）。

この、みことばの祭儀において、司祭がみことばを説き明かすとき、それをよく聞くようにお勧めいたします。しばしば神は、司祭の言葉を通して一人ひとりに大切なことをお伝えくださるからです。また、日頃から聖書に親しみ、小さな集会などでのお互いの分かち合いなどによって、みことばの内容を正しく受けとる練習をすることも大切です。聞く耳を育てておけば、多くのことを学びとることができるからです。

ところで聖体祭儀がミサの中心と言えます。聖体祭儀のとき、司祭の聖変化の言葉によって祭壇上にキリストが秘跡的に現存され、十字架の犠牲と栄光の復活がしるしのもとに再現されます。わたしたちはこの至聖なる神秘を前にして、深い信仰の心を持ち、敬虔な心でキリストの犠牲に与かり、神への礼拝、賛美、感謝、贖罪、祈願などの務めを全うするよう心掛けるべきです。

また聖体拝領の意味をよく弁え、相応しい心でこれを受けねばなりません。聖体拝領によってわたしたちは、キリストの十字架の犠牲に秘跡的に与かるとともに、キリストの救いの恵みを豊かにいただくことができるからです。ところで、今日の状況を見てみますと、確かに、多くの人がご聖体を拝領するようになりました。これは喜ばしいことです。しかしながら、すべての信者がこれに相応しい心を整えるよう注意を払っているでしょうか。わたしたちは、「だれでも、自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているのです」（Iコリント一一、二八～二九）との警告を忘れてはならないと思います。

以上申しましたように、わたしたちはミサすなわち、みことばの祭儀と聖体祭儀に正しく相応しく与かり、その実りを豊かにいただけるよう努めなければなりません。ミサはわたしたちの信仰生活のエネルギーの源泉とも言えるのですから、これを正しく活用して、キリスト者として力強く生きていかねばならないのです。

三、日曜日のミサ

一般の信者がミサと直接関わりをもつ通常の機会は日曜日だと思います。そこで、わたしたちは、初代教会の信者たちが週の初めの日にキリストの復活を記念して集まり、「パンを裂く」儀式を行っていたことを思い起こし、日曜日を「主の日」として大切にすること、「主の日」にミサに与かることを信者の特徴としなければならないと思います。

日曜日のミサの集会は、カトリック教会を表します。神を信じ、キリストを中心にして集まる神の民が教会ですが、その姿が日曜日のミサに最もよく表現されていると言えるからです。日曜日のミサに、信者は信仰を宣言し、神を礼拝するために集まります。そして周りの人お互いに励まし合い助け合うために集まります。信者は真の仲間として、お互いの交わりを確かめるために、人に対する真理と愛の奉仕の業のために、心を新たにして出発するために集まるのです。キリストの仲間が、キリストを中心にして、キリストのみ業に参加するために集まるのが、このミサの意味なのです。

日曜日のミサはまた、過ぎた一週間をキリストを通して父なる神に捧げる意味合い、そしてまた、向こう一週間の生活を通して父なる神に捧げる意味合いを持っています。わたしたちは

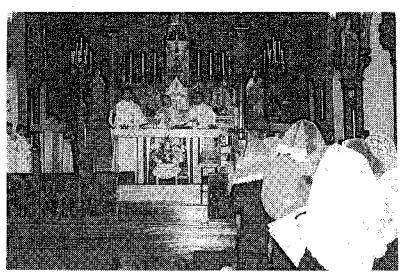
―信仰を鼓舞して―

今村教会信徒発見記念ミサ

「聖霊を通して常に教会を守り、導かれる慈しみ深い父よ、私たちは今村信徒発見、及びその後の歩みを顧み、あなたの行われたすべてのみ業をたたえ、感謝致します。」

私たち今村・本郷小教区の信徒は、二月二十六日の信徒発見記念日が近づくとこの祈りを唱えます。迫害の嵐の中にあった私たちの祖先も、やはりこのようにして祈っていたのだということを思い起こさせます。

さて、今年の今村信徒発見記念ミサは、五百人が参加し青木保神父様の司式で中浜一男神父様、川上惣一神父様による喜びと感謝に満ちた共同ミサでした。



受け継がれる信仰

青木神父様は説教の中で、「イエス様が私たちを救うために命を捧げられた『神は愛である』という素晴らしい教えを多くの人に伝えるためにこの共同体の中から、シスター、修道者、司祭が育つよう各家庭で努力して欲しい」と強く望まれました。

ミサ後、今村・本郷教会の信徒で「今村信徒発見を記念する祈り」を力強く唱和し、信仰を鼓舞されて、感激のうちに帰途につきました。

今村教会・久次佳二

平和と思っていたこの日本で…
～釜ヶ崎・人民パトロール～

遠くからワッショイの声が聞こえる。町のお祭りと思ってあたりを見回すがそれらしい雰囲気はない。人民パトロールだと聞かされ、それに参加した。

今年のパトロールは、「長引く不況で、野宿を余儀なくされた仲間たちが、寒さのため路上で死を迎えることがないように、彼らを力づけ、孤立した存在ではないことを示すと共に、野宿や路上死の解決、高齢・病弱者の就労など、生活保障制度を実現させるために大阪府・市の行政・議会が国レベルの対策に尽力してくれるように市民の皆様も働きかけてほしい」という主旨のビラを配りながら、またリーダーはマイクで静かに訴えながら、ワッショイの掛け声と共に六日間、市内を行進するのです。

この行進に対して、西成区の機動隊から始まり、電車に乗って行く先々で盾とこん棒を持った機動隊が二重三重となって待機しているのです。当然にらみあい。あっちこっちの高みからライトを照らしては顔写真を撮る警官たち。「突破しよう!」の声におっちゃんたちの怒号、女性、子供たちの悲鳴の中で激しいもみ合いとなる。盾で押しつけられ、顔にけがをした人、棒で頭を叩かれコブができた人、履物がなくなり靴とつっかけで帰った人、めがねのレンズが飛び、つるが曲がったH神父。盾と棒を持った屈強な機動隊に素手で向かうおっちゃんたち。しかし当然どこでも毎回退却させられた。

平和と思っていたこの日本で、国民を守るはずの警察が貧しく弱い日雇い労働者たちにこの異常と思われる対応はなぜなのか。釜ヶ崎の労働者の一体何を恐れているのか。機動隊の一人に聞いたが答えはない。

自信がない故に、弱い人たちを権力で押さえつけ、黙らせようとする権力者に対し、おかしいことはおかしいと叫ぶおっちゃんたちの勇気に、私たちもならいたいものである。

水巻教会・上野英子

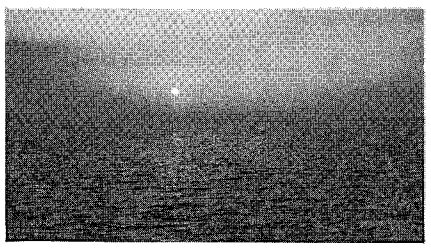
Q 神様へ質問します

「からだの復活」と言いますが、本当に私たちは死んでも生き返るのですか。

（5年生・Y）

復活というのは、確かに難しいですね。復活されたイエスさまがどんなふうだったか、まず考えてみましょう。

イエスさまは十字架上で亡くなられた後、三日目によみがえられました。でもどんなふうにお墓から出てこられたのか、だれも見ていません。では、お弟子さんたちが見たこと、それは亡くなられたはずのイエスさまが、こうしてみんなの前に現れたということでした。そして、みんなといっしょにご飯を食べたり、話をしたりされました。でもイエスさまが生きておられた時と違うこともいくつかありました。それは、戸にはカギをかけていたのに、幽霊のようにスーッと入ってこられたとか、いつの間にかお姿が消えてしまわれたということです。だから、お弟子さんたちは、幽霊が出たと思いました。でも確かに三年間いっしょについていった、あのイエスさまに間違いはありませんでした。復活したイエスさまは、どうしてこんなことができたのでしょうか。ほんとうに幽霊だったのでしょうか。いいえ。



私はあなたたちを復活させる

イエスさまは次のように言われました。「わたしが十字架で受けたこの傷を見なさい。ここに指を入れてみなさい。幽霊には骨も肉もないけれど、わたしにはそれがありますよ」と。だからちゃんと生きておられた時と同じ姿だったのですね。弟子たちはたぶんこの言葉をポカーンと聞いていたことでしょう。なにがなんだかよくわからなかったでしょう。

Y君も同じでしょうね。では、このことはどんな意味かよく考えてみましょう。私たちは、この地球上に生きているかぎり、いろいろな決まり（法則といいます）によって生きています。例えば、ニュートンという人は、木から落ちるりんごの実を見て、引力というものを発見したそうです。朝になれば太陽が昇る、これも一つの自然の法則ですね。でも復活したイエスさまのからだは、このような法則とか、決まりとは関係なしに生きておられるということです。ですから、この世におられると同時に、神さまのところにおられると言ったらよいかもしれません。私たちは時間の中で生きているでしょう。朝七時に起きて朝食をとり、八時に学校に行く。今日は日曜日で学校は休み、二週間後に春休み…とか。でもイエスさまには、昨日も今日も明日もありません。これを永遠と言います。イエスさまのからだはこの永遠に生きておられるのですね。永遠に生きるということは、死ぬことがないということです。「死なないいのち」、すばらしいと思いませんか。イエスさまと共に生きようとする時、私たちはこの永遠に死ぬことも、苦しむことも、悲しむこともない、いのちを受けるのです。Y君にいつかあるおばあちゃんが、お葬式の時に生き返った話をしましたね。二日間、意識がなかったのですが、棺に入れられて運ばれる前に、その人は目を覚ましました。でもそのおばあちゃんは、また数年後に亡くなりました。復活とはこのようではなく、もう二度と死ぬことはない、いのちのことです。幽霊のようにではなく、Y君だとわかるように、ちゃんとY君の全部がありま す。Y君の優しさ、人に対する思いやり、神さまと永遠に生きるのです。

ミサの時に「からだの復活、永遠のいのちを信じます」と宣言しますね。私たちの信仰のもっとも大切な点です。Y君のからだは、たとえ死んでも幽霊のようになるのではなく、イエスさまと同じようなからだをもって、どこかで神さまといっしょに生きるのです。

小神学校・森山信二神父

教区の動きは?

二月八日に司教館で教区司祭評議会が開かれた。司祭評議会は教区長の諮問機関で、年間二回開催される。現評議員は二十人。教区での諮問題について教区長から諮問があり、評議会で討議される。

今回は、評議会を経て、次のことが決まった。

「美野島司牧センター」の設置

四月一日から、福岡市博多区美野島の前幼稚園跡に、滞日外国人信者のための「美野島司牧センター」が設置される。担当司祭はM・コース神父（現若松教会主任）。一年間の試行期間が設けられる。

教区内全司祭研修会

六月十三日から十五日まで教区内の全司祭を対象とした研修会が開かれる。この研修会では、司牧上の諸問題、特に典礼や諸秘跡の準備および執行に際しての司牧的姿勢が検討される。司祭召命についても話し合われる。

小神学校の名称変更

司祭召命の苗床、福岡小神学校の名称が、四月一日から「福岡カトリック神学院」に変わる。神学院のスタッフとともに複数の召命担当司祭が任命され、今後は青年の召命も含めて、司祭の育成が検討されていく。

小教区の規約について

小教区ごとの規約が重要な点で異なっており、不都合な面もあるので、教区としての基本的な規約づくりが検討されている。今後、討議が重ねられる。

信徒と司祭の生涯養成

現在のところ、生涯養成として具体的なことは考えられていないが、すでに行われている種々の講座、研修会、講演会などを幅広く知らせ、信徒、司祭の参加を呼びかけていく。

「教区ハンドブック」の作成

過去二年間に亙って作成した「教区年間カレンダー」は今年は作らず、代わりに、教区カレンダー、信徒の心得、小教区と教会関連施設の住所録、主な祝祭日などが掲載された「教区ハンドブック」を作成する。復活祭の配布を目指して、現在、事務局が作成中。教区長は、少なくとも一家族に一冊はいき渡るようにと望んでいる。廉価にて発売予定。

特集『典礼暦』教区情報誌「くろすろーど」第九号発売

約二年に亙って発売されている教区の情報誌「くろすろーど」。隔月の発売で、今回は「典礼暦」の特集。一年の典礼の流れや、さまざまな祝日の説明が満載。

今年の教区年間テーマ「キリストを学び、キリストに生きる」を実践するために、まず典礼暦の勉強から始めてはどうでしょうか。

松永司教様が今年の四旬節教書で「ミサ聖祭について」語っておられますが、教会のカレンダー（典礼暦）を意識することで、主日（日曜日）のミサがより身近に感じることができるでしょう。

主日の典礼はそれぞれが独立しているのではなく、連続性をもっているので、毎日曜日にミサに欠かさず参加すれば、典礼の深い意味がわかり、信徒としての喜びを味わうことができるでしょう。

この情報誌、次回で第十号になりますが、折からの郵便料金の値上げなどで、財政的に苦しくなっています。現在対策を検討中。よりハンディなものにするか、教区報の中に綴じ込むようにするか思案しています。

発行してもうすぐ二年になりますが、まだまだ存在を知られていないのが残念です。ぜひ一度ご講読ください。そして編集部に情報をお寄せください。ちなみに、この情報誌のモットーは「わたしの情報はみんなの情報」です。教区報の読者の皆さまのご協力をお願いいたします。

講読希望の方は、司教館の教区広報部までご連絡ください。（092-522-5139）

聖パウロ書院でも販売しております。

（教区広報部）

〈創立百周年に向って新たな飛躍！〉
学校法人 熊本信愛女学院
理事長　黒木紗耶子
高等学校・中学校・幼稚園
〒860 熊本市上林町3番18号
TEL 096-354-5355(代)

業務用食肉販売業
肉のくろいわ
代表者　黒岩信吉
〒838-01　福岡県小郡市寺福童429-4
（店）☎0942-72-5532(FAX兼用)
（自宅）☎0942-72-5591

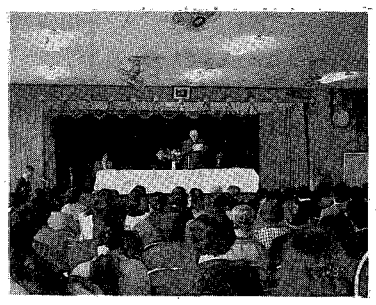
NICE-2 各地で報告会

共感・共有求めて

佐賀地区

一月三十日、松永久次郎司教臨席のもと、佐賀カトリック教会幼稚園講堂において、県内八教会の代表者約百三十人が集まり第二回ナイス全国大会の報告集会が行われた。

はじめに山元眞神父よりナイスの流れについて経過報告があり、続いて佐賀地区代表として出席した岡廸子さんから大要次のような感想が述べられた（＝写真）。



「生涯の中で特別な感動に満ちた実り多い大会でした。とりわけ聖霊の光に照らされ、教会の刷新と共に共感・共有できる共同体を目指すという参加者全員の真剣な祈りと意気込みがひしひしと感じられ、新しい日本のカトリック教会が大きく動き出したように思いました」

最後に松永司教から、「ナイス運動を正しく見つめ、現実の社会の中で信仰を生き生きと生きるために、これまで話し合ってきたことがらを基に宣教の方針を考えていきたい」との講話があり、感謝のミサをもって終了した。

佐賀教会・牧山満安

対話の必要性

二日市教会

昨年十月に行われたナイス2長崎大会について今年一月二十三日、九時のミサ後、担当委員深堀純氏と他二人の方方の来訪によって約五十分間の報告があった。

「家庭」というテーマは人間社会全般に関係しており、現代社会の価値観に流されがちな親子・夫婦間にあって、いかにカトリック信徒として行動していかなければならないか、との報告であった。また青年部門では社会生活の問題点が指摘されたわりには肯定的な前向きの面があまりとりあげられない向きもあった、との報告もされた。

報告に続き、短い質疑応答があり、「もっと対話の必要性について考え、ほかでも対話の場を（例えば、ウィークデーのある時間に自宅を提供している夫婦もある）もつことが大切である」ことが確認された。

当日は小雪のちらつく寒い日ではあったが、ミサ後多数の人が残ってこの報告に聞き入っていた。

磯辺良明

粘り強い分かち合いを

大牟田教会

私たち大牟田小教区は一月三十日ミサ終了後、聖堂で全体的分かち合いをいたしました。まず、ナイスがどのような目的で生まれたかに始まって、第一回ナイスから今回の展望「福音宣教する日本の教会の刷新のために」の発表にいたるまでを順を追って説明されました。

そして、展望に対する意見の交換をしましたが全体的分かち合いのためか余り意見がでませんでした。それでカトリック福岡情報誌の『くろすろーど』、『東京教区ニュース十二月号』、『福音宣教二月号』、『カトリック月刊誌』などの展望に対する意見を紹介しました。その結果、少しずつ良い雰囲気になり、各自の意見が出るようになりました。今思うことは、まだナイスについての認識が不足しているのは否まれないような気がして、今後は一人でも多くの方が参加して粘り強い分かち合いをし、ナイスの精神に応えていかねばならないと思いました。

山口作幸

宣教とその使命

高宮教会

一月三十日高宮教会で、ナイス2に参加された深堀純氏からその報告を聞きました。

長い間私たちはカトリック信者として横のつながりをほとんどもつことがありませんでした。七年前にナイスが始まったことにより、日本中のカトリック信者が共にキリストに生かされた者としての使命を分かち合えることはすばらしいと思います。

しかし、現実の生活の中で弱い人間としての自分を見つめる時、福音宣教というその使命は重くおしかかります。

その日のミサではマルコ福音書が読まれ、汚れた霊を追い出される権威あるキリストが語られました。汚れた霊の仕業である分裂、争い、苦しみ、痛み、それらをイエスは追放し、私たちを良き姿にもどしてくださいます。このキリストにいつもつながっているなら、キリストによってこの私を通しても福音宣教はなされると希望することが出来ます。キリストに信頼しつつ進みたいと願っています。

蓮尾エリ

クルシリヨへのお誘い 心の中に宿ったものは



第32回生　河南　明

私が再び福岡にやってきたのはちょうど一年前のこと。自分の中でもやもやとしていた時。極端な言い方をすると、「キリストは信じられる（信じたい）けど教会をどう信じていいのか分からない」そんな不信の状態を抜け出す契機を感じ始めた頃でした。

それから半年の間、教会で何をしようか、何ができるだろうか、どこに居場所を作ろうかと考えながら、教会で祈る以外は何もできないでいました（もちろん、祈ることはとても大切）。

クルシリヨに誘われたのは、そんな時でした。大名町教会に籍を移していない自分が大名町教会の信者として参加することに抵抗を感じていたので相当迷いましたが、神父様の温かい励ましで行ってみようと決断しました。

クルシリヨに参加して、心の中に宿したものは大きかったと思います。神様はこんなに愛してくれていて、この愛を返そうと一生懸命でいながらも、「それが自然なことだよ」とか、「働く人がいるのに、自分は何をしているんだろう。とても恥ずかしく思うと同時に、たとえうまくいかなくても、やると決めたら心を尽くし、精神を尽くして頑張ってみよう」。そんな気持ちがわいてきたのです。今これが自分の心のよりどころの一つになっています。

クルシリヨ前後の心の変化を、ざっと振り返ってみました。感じ方はそれぞれ違うけれども、きっとあなたの信仰の支えとなるものを見つけられると思います。

最後に、「歩けるように導いてくださった神様、神父様に感謝。クルシリヨで分かち合った友人に感謝。これから出会うあなたにも」。

分かち合いを続けていこう

古賀教会

二月十三日、ミサに引き続き、山元眞神父様、大名町教会の堀之内るみさんをお招きして、小教区での報告会が開かれた。

「自分の現実の生活をみつめ、神が共にいてくださることに気づくとき喜びが生まれる。それが福音宣教の源」、「自分が変われば周りが変わる。これが教会刷新、福音化につながる」といった主旨のお話に一同感銘深く聴き入った。

参加者からは、考える場が与えられて良かった・このままで終わらせないようにしたい・ミサの後や、地区集会の中でもっと分かち合いを続けたい・若い世代の価値観も含めて社会、家庭、教会との関わりあいについてもっと話し合いたいなどなど多くの強い関心が示された（＝写真）。



教会にとって必要とされている一人ひとりの重みを改めて自覚し、新たな出発点として活動を続けていきたい。

井上元之

幼稚園のできごと

カトリック聖クララ幼稚園

小さな召命の畑

「私は大きくなったらシスターの先生になります」

幼稚園のお誕生会は、同じ敷地内にある教会で行われ全員が参加します。当日、お祝いの子供たちは小さな生花の花束を祭壇に献花し、皆からお祈り、聖歌、HAPPY BIRTHDAYの喜びの挨拶を頂きます。当人たちは、嬉しさを隠し切れない表情で祭壇に立ち、将来の夢なども発表するのです。

三年保育のケイちゃんは、毎年この日が来るたびに「私が大きくなったらシスターの先生になります」と先生の方をじっと見つめて言ってきました。ほとんどは、花屋さん、パン屋さん、時には人気アニメの主人公などが並び、そしてそれが毎年変わるのが普通です。でもケイちゃんは変わりませんでした。聞くところによりますと小学生になって勉強社会に入ったケイちゃんは、今度はクラス発表会のとき「私は大きくなったら頭の良いシスターになりたいと思います」と発表したそうです。

幼稚園では数少ないカトリックの家庭から通う子供たちですが、今年の誕生会でも、三年保育のヒロ君（愛称）が「僕は大きくなったら神父様になりたいと思います」とマイクをピッタリ口に付け、言ってしまって安心したのか大きな溜め息をついて皆をびっくりさせました。ヒロ君は毎週日曜日のミサで、神父様の祭服に触るのが大好きで、それは憧れでもあります。

『三つ子の魂百まで』と聞きなれた故事ですが、幼稚園の子供たちを囲んで、遊び、祈り、語らう毎日のなかで蒔かれた小さな種が、やがて芽を出し、健やかに成長していくことを祈りながら、今年も卒園していく子供たちを見送る季節になりました。

「わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです」（一コリ3・9）

園長・谷口キクヨ

BOOK 読みは専科

★わが理想 エミール・ヌーベール著 岳野慶作訳



本書はマリア学の専門家であるエミール・ヌーベール師により、フランス語で著作されたものであるが、欧州の主要国語に訳され、いたるところで好評を博している。

改訂版として今回二十五年ぶり再版された本書は、第一巻理想、第二巻理想の現実に必要なもの、第三巻イエスの転化、第四巻わたしの兵士、に大きく分かれている。聖母マリアへの信心を深めるには必読の一冊。

中央出版社　一、三〇〇円

◇

★人びとと共に歩むマリア マルティーニ著



ミラノの大司教、新約聖書学者であるマルティーニ師が修道女たちの黙想を指導したときの説教集。

女性らしさの秘境を最初に探検したマリア。彼女の反映である福音書の中の女たち。女性の使命、召命の深さ、みごとさを照らす黙想書。

マリアのカリスマは教会全体を勇気づけ、痛みの部分に注意を促し、どう対処すればいいか適当な人に報告し介入を求める。

女子パウロ会　一、三〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417
素材 { 石 石 他 / 理 影 の / 大 御 そ

会合と催し

3・4月の行事

※ゴチックは司教日程

3月

6日 佐賀納骨堂祝別式
12日 飯塚聖母幼稚園落成式
教区教会学校リーダー研修(～13日・手取)
14日 宣教奉仕者・教会奉仕者選任式
19日 聖ヨセフ・教区長霊名祝日
召命徹夜祈祷会(～20日)
22日 朝祷会九州大会(手取)
23日 特別臨時司教総会(～24日)
27日 受難(枝)の主日
世界青年の日
聖木曜日
31日 聖香油ミサ(カテドラル)

4月

1日 聖金曜日(主の受難)(大斎・小斎)
2日 聖土曜日(復活徹夜祭)
3日 復活の主日
4日 吉野天使幼稚園落成式
10日 花岡山殉教祭
13日 司教座聖堂献堂記念日
17日 熊本地区ナイス報告会(健軍教会)
茶山教会堅信式
19日 臨時司祭評議会・顧問会
24日 召命祈願日
浄水通教会堅信式
29日 福岡地区婦人会総会・ウォーカーソン・伊万里トラピスチヌ聖堂祝別式

……福岡黙想の家……

1～2日 福岡女学院大学グループ黙想会
3日 ミカエル会
4～6日 御受難会主催 四旬節黙想会(鈴木神父指導)
6日 典礼・聖歌と祈り研究会(参加者募集中)
7～10日 広島教区神学生黙想
11～13日 御受難会主催 四旬節黙想会(マテオ神父指導)
14～16日 御受難会共同体の日
17～18日 泰星高校新卒業生黙想
19～21日 カトリック部落問題委員会春期合同合宿
22～25日 オブレート会黙想
26～27日 久留米信愛短期大学職員研修会
29～30日 福岡雙葉学園職員研修会
31～4/2日 聖週間の黙想 復活徹夜祭



御摂理とは不思議なもの

一九五四年(昭和二十九年)三月十九日に浄水通の教会で四人、一人は何日かおくれて郷里の教会で計五人の司祭が深堀仙右ェ門司教様によって叙階されました。ところがこの五人、叙階の前日、司教様の所に行き「どの教会に任命されるのですか」と聞きました。司教様は少し驚いた様子でしたが、例の顔でみつめながら叱りもしないで「あなたがたはどこに行きたいのか」と尋ねられましたので各自が教会の名をあげ、私も「馬渡島教会」と申しました。翌日、四人が叙階され、着任地が発表されたのです。私の場合、まさかが実現し、同時に心配が心の中に浮かんで来ました。赴任する日、司教様の所に挨拶に行ったところ、「堤神父様、御摂理とは不思議なものですね」と言われたので「どうしてですか」と聞きますと「まさかあなたが司祭になるとは思いませんでした」と言われました。思い起こしますと、摂理とは不思議なものです。小神学生の一年の時は、ミッション会のベノア神父様が校長でしたがこの一年間は無難に過ぎ、二年生になった時、後継者として同じくミッション会のレウトル神父様が校長としてお出でになりました。この頃から雰囲気に慣れたせいもあってか、いたずらをするようになっていました。もちろん名監督とうたわれた懐かしいプレボ神父様、平田勇神父様も一緒におられましたが校長先生はデリケートな方で廊下を走っても罰が下されましたが、小神学生の三年生の二学期が始まった九月半ば頃に大きな事件を四人の神学生で起こしてしまったのです。三人は他教区から来ていた神学生でしたので〝パイラ〟になり、私は校長室に呼ばれ、「あなたは福岡教区だから私に責任がある」といって一週間の謹慎を命じられただけで私の召命は続きました。

それから泰星中学卒業、中神進学、そして兵役にとられ、中国の雲南省の第一戦で〝ドンパチ〟を繰り返しながら終戦を迎えて、昭和二十一年五月に無事帰国し、大神学校に再入学したのです。

御摂理に感謝。

茶山教会・堤要吉神父

【徹夜祈祷会のお知らせ】

日時 三月十九日(土)十九時～二十日(日)朝食まで
場所 サン・スルピス大神学院
テーマ 『ヨセフと共に召命を祈る』
参加費 一、〇〇〇円
主催 召命を共に祈る会
申込先 福岡小神学校 森山信三神父 ☎〇九二―五三一―六八二二

青柳さんを囲んで

＊なぜペルー人と係わるようになったのか？
＊獄中の話　＊今後どうなるのか？　など

お話：青柳信行さん
3月13日14:00～16:00　大名町教会
3月27日10:30～12:00　佐賀教会
問合先：福岡小神学校　森山信三
☎092-531-6821

熊本花岡山殉教祭へのご案内

【時代は1615～1635年、親、子、孫
3代にわたる殉教者の聖なる歴史を偲ぶ】

日　時：4月10日(日)11：00
行　事：野外ミサ　司式　松永久次郎司教
場　所：熊本花岡山殉教者墓地前
問合先：熊本・島崎教会　☎096-352-5610

【第8回聖霊による刷新九州大会】

日　時：7月24日(日)～26日(火)
会　場：熊本交通センター・ホテル
指導司祭：ラバリー神父（コロンバン会司祭）
特別講師：松永久次郎司教
定　員：200人　※申込み締め切り　4月30日
問合わせ：カトリック福岡司教館
ブラザー床島、杉山　☎092-522-5139

第1回　カトリック高校生大会

応募作文選考による参加者募集

テーマ：東アジア社会とわたしたちの信仰
日　時：8月1日(月)～5日(金)
場　所：北海道　支笏湖ユース・ホステル
応募資格：1994年4月現在高校在学
またはそれに相当する年齢の男女
問合先：熊本・帯山教会　大水幸一神父
TEL／FAX 096-382-9413

3月命日の司祭

＊マキシム・ボア師（パリ外国宣教会）
一九五九年三月十九日
元新田原教会主任
＊ジェームス・ドイル師（聖コロンバン会）
一九六二年三月二十六日
元荒尾教会主任
＊ユゥゼーヌ・ジョリ師（パリ外国宣教会）
一九六六年三月六日
元久留米教会主任
＊フランソワ・マリ・ヴェイヨン師（パリ外国宣教会）
一九七三年三月十二日
元唐津教会主任
＊ルイ・マリ・ベリボ師（聖ドミニコ修道会）
一九七七年三月十六日
元箱崎教会主任
＊ルッチ・ミケレ師（ミラノ外国宣教会）
一九八七年三月二日
元鹿島教会主任
＊ジョージ・ベラス師（聖コロンバン会）
一九九〇年三月十九日
元水俣教会主任

【朝祷会九州ブロック大会】

『すべての人を一つにしてください』(ヨハ17・21)

日　時：3月21日(日)11時～16時
会　場：カトリック手取教会信徒会館2階
受　付：10時
※会費 1,000円（昼食代を含む）
問合わせ：熊本市島崎4-6-9
高木慶治　☎096-352-4454



聖心のウルスラ
宣教女修道会

およそ四百年前（一五七五年）イタリア（パルマ）で生まれた、本修道会の起源は、創立者マッダレナ・モリナリにより、貧しい不幸な少女たちを世話し教育する慈善事業という全く福音的で小さな花のようです。その後、青少年への教育事業となり学校も創立され、大きく発展していきました。そして、第二の創立者マードレ・マリア・ルクレチア・ジレリ（現在列福調査中）により、『宣教』という活気に満ちた使徒職の現在にいたっています。（宣教地＝イタリア・オーストラリア・日本・台湾・フィリピン）

日本における活動は、一九五二年二月来日したイタリア人修道女によって、福岡・美野島の地で貧しさの中で始まりました。

日本での使徒職は、本部・福岡（幼稚園・教会奉仕・SECO奉仕と分かち合い）・宮崎（短期大学・専修学校・高校・幼稚園・学生寮）・三重（身体障害者寮護施設）です。

「聖心のウルスラ宣教女修道会の特徴、それは愛の精神と家族的雰囲気です」（マードレ・ジレリ）を常に心がけ「わたしがいつも思っていること、それは神のご光栄と隣人愛です」（マードレ・ジレリ）をモットーに、歩んでおります。本部には修練院・志願院もあります。ぜひ一度遊びにいらっしゃいませんか？

小神学校基金へのご寄付

故エリザベト向井チカ様の香典返しとして、向井啓二様より金一封をいただきました。心より感謝いたします。

故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡小神学校　青木　保

編集室から

春を感じさせる黄砂（こうさ）は、「春を告げる使者」と言われる。杉花粉も春を思わせる。アレルギー体質の人はこの時期はいやだろう。何にしても、自分の好き嫌いとは無関係に、神が「今のあなたに必要だよ」と言って与えられるものはありがたくおいしいただくしかない。『常にすべてのものに感謝せよ』とパウロが言っているように何でも「おいしいただく心」でいたいものである。編集者はさしづめ証しを告げる記者だろうか、しかし編集アレルギーでないようにしたい。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創(つく)る
FUJHi　**藤木工務店**
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092—522—5139
FAX　092—523—2152
振替口座　福岡6—20729
定価一部60円

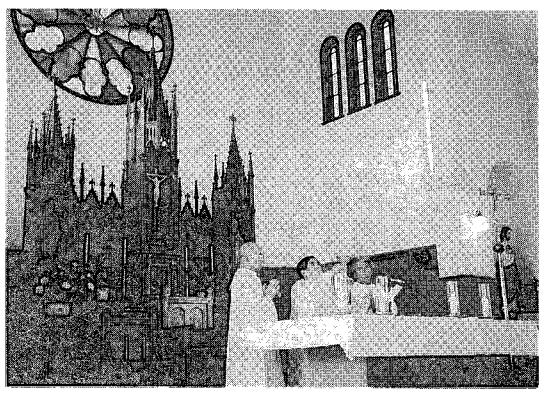
今月のみことば

何事も愛をもって行いなさい
（Ⅰコリ16・14）

大名町・中村信哉神父

霊名の祝日　ヨセフ松永久次郎司教
信者こぞって集い祝う

三月十八日、教区長ヨセフ松永久次郎司教の霊名の祝いが催された。松永司教を中心に教区で働く司祭、修道者、信徒がともに感謝のミサを捧げた。ミサ後、司教館で祝賀会が盛大に執り行われた。



ヨセフ松永司教の霊名を祝うミサが福岡市の浄水通教会にて挙行された（＝**写真**）。

聖歌『よろこびに心をはずませ』の流れる中、松永司教は教区総代理の青木保神父（浄水通教会）、同じ霊名をもつ竹森勇神父（新田原教会）と共に入堂した。約五十人の司祭団（教区司祭・宣教会司祭・修道会司祭）と多くの信徒は司教とともに心を一つにして神に感謝を捧げた。

福音朗読した青木悟神父（光丘教会）が説教をした。師は、「福音書（マタイ）ではヨセフのもの静かな姿が偲ばれる。彼は神に信頼して、神のお働きを静かに受け入れたのである。救い主が生まれるという神の約束を信じた彼は、イザヤ預言者の言葉を成就させる働きを静かなうちに行った。神のみ言葉に『アーメン（そうであります）』と応えたからである。

私たちもヨセフのように、神のみ言葉に忠実でありながら生活全体を確かなもの（アーメン）にしていくように努めよう。ミサ中にヨセフのとりつぎを願おう」と話した。

司教司式の聖体祭儀で聖なるものとなったパンが集った人に授与され、派遣の言葉でミサを終えた。

ミサ後、司教館の五階で祝賀会が行われた。はじめに青木保神父の祝辞が述べられた。司教は答えて、「今日、ヨセフの霊名をもつ信者にもおめでとうを言いたい。ヨセフは大工の仕事をしていた。今年中に多くの建物が立つだろう。それも神の国の建設につながるものである。私たちも福音宣教しながら、救いの建設のために最後まで忠実に勤めていこう」と述べた。

司教自らの食前の祈りが唱えられ、同じ霊名をもつB・ジョー神父（手取教会）の乾杯の音頭で宴に入った。尚、司教のために小教区から準備された『霊的花束』が数人の主任司祭から贈られた。始終和やかな雰囲気であった。

時の話題

禁教令の「死の壁」をともに越えた肥後のキリシタン家族

高木　光行

肥後の国、熊本。この市街地の南西部に一般によく知られ市民に馴染まれた山、「花岡山」があります。この頂に程近い山懐に、肥後のキリシタン一家が密かに人知れず葬られたのは今を去る三百六十年前、即ち寛永年間のことでした。

この被葬者の詳細は、一家の主人小笠原玄也、妻加賀山マリアみや、その実子九人、それにこの家族に縁のあったお手伝い四人の計十五人であります。その埋葬の経緯は家族皆がキリシタンであったため、その科で処刑されてのことでした。

この先人たちの遺徳を偲び島崎教会では、毎年四月の第一日曜日にこの墓前にて『花岡山殉教祭』が挙行されています。

ところで、この小笠原玄也は、大阪玉造のガラシャ邸表門の警衛に当たりガラシャ夫人の最期をみとり殉死した小笠原少斉秀清の三男でした。一方、妻マリアみやは、細川忠興の小倉時代の重臣、加賀山隼人正の長女で、この父隼人正は勇猛果敢な武将でしたが、キリシタン大名、高山右近の影響で熱心なキリシタンになっており、このため慶長十七年、長女マリアみやに先立ち、殉教した人でした。

当時の武家社会にあって、この夫婦の生涯は、人間本来の良心に基づき、己の自由意志より、自ら信じる処を生き抜くことにあったようです。自ら信じる処、それはキリスト教を奉じることでした。これは同時に、死を覚悟して生きることでもありました。

このキリシタン一族十五人が処刑されたのは寛永十二年十一月（一六三二年）のことでした（参考文献「日本キリシタン殉教史」）。

当時と今とでは隔世の感がありますが、この家族の殉教の史実を前にして、私自身、己の『生きざま』を省みます時、同じくキリストの内に生きる者として、あまりの隔たりに、ただ立ちつくすばかりです。

「主よ、この家族がキリシタンであり続けるため、何故これ程の十字架を背負わなければならなかったのですか」

主は、この素朴な私たちの問いかけにどう答えてくださるだろうか。

（島崎教会）

司祭人事

●異動

新任地・（旧任地）・氏名の順

▽佐賀教会主任（同助任）マルコ・ターディフ＝ミラノ外国宣教会▽鹿島教会主任（山梨県富士吉田教会より）ロレンツォ・マネルバ＝同会▽武雄教会主任（山梨県富士吉田教会より、九月着任予定）ビルジニオ・チェリッツァ＝同会▽神奈川県大和教会へ（佐賀教会主任）アルベルト・ディベッロ＝同会▽山梨県富士吉田教会へ（鹿島・武雄教会主任）アルフレド・スカットロン＝同会▽泰星学園（研修）梶山義夫＝イエズス会▽東京都麹町教会へ（福岡修道院）パトリック・ブランガン＝同会▽八王寺教会付（戸畑教会助任）クロード・バスチ＝パリ外国宣教会

●司祭評議会評議員

▽青木保（浄水通）▽山元眞（教区本部）▽松井忠之（教区本部）▽高見三明（聖スルピス大神学院）▽森山信三（福岡カトリック神学院）▽三村邦明（久留米）▽山川辰幸（大名町）▽岩永義人（小倉）▽中浜一男（今村）▽牧山勝美（小郡）▽川上惣一（本郷）▽山田成章（久留米）▽平田敬（西新）▽深堀勝人（飯塚・田川）▽マニュエル・ラバルタ＝パリ外国宣教会（天神町）▽ジュリアン・ガイヤール＝同会（水巻）▽シーン・ライル＝聖コロンバン会（ファミリーセンター）▽ジョー・ブロデリック＝同会（手取）▽クラウディオ・ガザルディ＝ミラノ外国宣教会（伊万里）▽アルド・テムペリーニ＝同会（多久）▽ブレンドン・シュルツ＝スカボロ外国宣教会（吉塚）▽フランシス・ハーン＝オブレート会（古賀）

司祭評議会は、司教に委託された神の民の司牧を助けるための諮問機関である。

評議員は、職務上、司祭の互選、教区長の任命によって決まる。評議会は教区長が招集、主宰する。任期は三年間。任期は三年間。

神の民に奉仕するために

—宣教・教会奉仕者選任式—

三月十四日、サン・スルピス大神学院聖堂にて福岡・長崎両教区合わせて七人の神学生が、福岡教区長松永久次郎司教より宣教奉仕者、教会奉仕者に選任された。

松永司教は、「父なる神の呼びかけに相応しく応えるために、祈る心、聞き分ける耳を持つように心掛け、キリストの業、尊い儀式に与かる者となるための心がまえが必要である。み言葉に奉仕する者（宣教奉仕者）としてみ言葉に親しみ、よく味わい、キリストの生命を分配する者（教会奉仕者）としてキリストを学び、深い交わりを保っていくこと。弱さの中にいただく奉仕職であるが、恵みの中で弱さを乗り越えながら永遠の生命に到達するよう、自らも努力すること」と諭した。



救いの杯を受ける奉仕者

新しく宣教奉仕者に選任されたのは福岡教区の日高弘、田中重治、牧山美好神学生。長崎教区の久志敏則、松田聡史神学生。教会奉仕者は長崎教区の嘉末寛樹、中島誠志神学生。

式後、祝賀会が同神学院の食堂で行われ、親族、恩人、友人など、参加者は終始、和やかな雰囲気の中、喜びの時を過ごした。

お詫びと訂正

教区報三月号「教区長・四旬節教書」中、「三、**日曜日のミサ**」（三段、十行目）「…、神の民の恵みとわたしたち…」は、「…、神の恵みとわたしたち…」の誤りでした。訂正しておわびいたします。

教書は保存板です。今すぐ訂正いただきたく、よろしくお願いいたします。

編集部

聖地巡礼の旅　福岡発着22日間　45名様募集中！

聖地イスラエル　教皇様の地ローマ　聖フランシスコの地アッシジ　聖ベルナデッタの地ヌベール　聖パウロ伝道の地トルコ・エフェソ　聖母出現の地ルルド

1994年5月12日㈭～6月2日㈭　旅行代金638,000円
引　率：松永久次郎司教
企　画：カトリック福岡司教区
問合先：近畿日本ツーリスト　☎092—751—0131

みちくさ

信仰深い若夫婦とその子供たちの話。父が言った。「おい、祈りをするぞ」。子供たち「うん、分かった」。家族そろっての夜の祈りの時間である。この時間は一日の感謝にあてられ、何をしてても横において祈りをする。子供は小さい時からのことだから何の違和感もない。さて、祈りが終ってから、中学生の女の子が「お父さん、私考えていたんだけど、夜お祈りすると近所の迷惑にならない？それに変に思われない？」と言った。親はあっけにとられて何も言えなかった。昔は夜になればどこからともなく祈りの声がしてきたものを今の時代は祈りをする時間さえもったいないし、祈りの声が恥ずかしい？テレビが代行してくれる？▼祈りの大切さ、必要性など理解しながら親になった時、子供にそれをどう伝えていくのか。神への感謝、礼拝、賛美、嘆願の姿を上手に伝えよう。神であるイエス様でさえ、御父に対する祈りを忘れず、必要な時間と場所を確保し祈っておられた。それならこの小さな私たち人間はもっと▼Jリーグの表彰式の模様を目にした。優勝チームの一人がインタビューを受けた。選手曰く、「イエス・キリストのおかげです。そう望まれたのです。神に感謝します」。外国人選手は試合中でも十字をしたりして、神へお願いをしたりするのをよく見るが、優勝の時でも神のことを口で表すことができるのには驚いた▼信仰は信仰、生活は生活と言う人がいるが、信者は信仰に基づく生活を必然的に求められている。世界最大のカトリックを恥じることも信仰を恥じることもない。もっと堂々と。私たちが信じているのは神様かそれとも……。

【S】

狭間に生きる

「人は二つの椅子の間に掛けているようなものだ」という言葉を聞いたことがあります。理想と現実のギャップがあることは、どんな人も感じていると思います。ギャップをどう受け止めるかは、生き方を左右する問題だと思います。

理想ばかりになってしまえば、現実を動かす力はなくなります。現実ばかりを考えていれば、どこへ理想をもっていけばよいかを見失ってしまいます。

わたしの好きな言葉の中に、「最善を期待し、最悪に備えよ」という言葉があります。理想という目的を失わず、現実をしっかり見つめることができればといつも理想にしていますが…。

「カトリック愛と性を考える研修会」も三回を迎えました。愛と性の問題は、この理想と現実のギャップが大きいテーマではないかと思います。どちらかというと、このギャップの中で、人の意見が現実容認に傾いているように思うときがあります。

教会には命と性について、はっきりしたビジョンがあります。自然な家族計画、中絶への絶対の拒否です。このビジョンを見失ってしまったら現実をどこへ導けばよいのだろうと思います。現実だからそうはいかないといって、多くの命が失われたり、性を通して結局は女性の方が苦しい思いをしているように見える現実をどうすればよいのか疑問に思ったりします。

山上の説教の中では厳しい道が示されています。その通り実行すれば、どれだけ目や手を捨ててしまわなければならないでしょうか。しかし、それは現実だからといって妥協してはならず、理想を失わずに生きよ、という呼びかけにも聞こえます。そして、山上の説教が単に理想に終わらないのは、神の限りない赦しの福音をもマタイは伝えているからだと思います。理想に生きられないという現実があれば、それは神の癒しを求めているのだと思います。神は、私を赦し、理想に向かう力をも与えようとして下さっていると思います。

倒れないことではなく起き続けていけたらと思います。神の恵みに与かりながらいまだ完成されていない狭間に生きる人間に、神は伴侶となって下さいました。その矛盾を十字架で共にし、今も私たちと共にいて下さるという信頼を、この復活の時に新たにできればと願っています。

光丘教会・青木　悟神父

福音宣教とは？

糸島教会ナイス報告会

二月二十七日、糸島教会に山元眞神父様がおいでになりナイス報告会がありました。ミサ中のお説教の時間がそれにあてられ、―『福音宣教とは？』『キリスト者の家庭とは？』。理想的なものを見つめて私たちは生きているが現実は大きくかけ離れている。模範的回答は誰にでも判っているが、自分たちがそこに至る事が出来ない。頭に描いた理想的な信徒の姿。こうでないと神様がきてくれないと思い込む。ありのままの現実を見て、知って一人ひとりが刷新されなければ開かれた教会にならない。そして真の神の家族となるには信者同士の分かち合いが必要―とお話して下さいましたが、なかなか難しい問題でもあります。

ミサ後、場所を移して分かち合いの場が持たれましたがどうしても皆、口が重たくなってしまいます。各自、各家庭において、大なり小なりいろいろな問題、悩みをかかえ、夫婦間・親子間・兄弟間で信仰に対する考え方、価値観が一致しないのです。家庭内での福音宣教がうまく運ばないのに外に向かってするなどとても出来ないというのが信徒の現状だと思います。これも理想ばかりを見つめ過ぎて自分たちがそこに至ることが出来ないことで足踏みどころか立ち止まってしまっているのかも知れません。もっと現実に目を向け、自分の弱さを知り、神により頼み、かたくなな心を少しずつでも開いて、本当の信仰の喜びを見いださなければと痛感致しました。喜びの中に福音があると思います。

大六野那智子

積極的な堅信の準備を

―リーダー研修会―

二月二十八日、カテドラル大名町教会（福岡市）で福岡地区教会学校担当者会（松井忠之師）主催のリーダー研修会が行われた。

テーマは堅信。日ごろからの関心があるだけに、教会学校のリーダーだけではなく、親たちの参加も多くみられた。遠く、北九州、熊本地区からの参加者もあった。

この研修会は教区の年間テーマ「キリストを学び、キリストに生きる」を念頭に企画されたもの。教区長である松永次郎司教を講師に迎えて堅信の秘跡の意味や、準備をするにあたっての具体的なポイントを話していただいた。また、講話の中で、教区としても司祭評議会などで堅信の準備について取り扱われるということを知り、教区の積極的な姿勢を感じてうれしかった、という声も参加者から聞かれた。

午後はグループに分かれて講話の分かち合いが行われ、活発な意見交換がなされた。また、教区典礼委員長の松井忠之神父から堅信の式についての説明があった。最後にミサをして散会した。

参加者の一人は「反省することばかり。初聖体も堅信も担当者に任せっきりでした。現代社会の中で、信仰を守り伝えることは非常に難しく、親子共々もっと勉強をしなければ、と思いました。今後もこのような企画を通して学んでいきたいと思います」と語った。

今村教会・鳥羽美和子

「子どもの信仰教育を考える集い」開催

子どもの信仰教育を考える集いの研修会が昨年から始まり、今年は三月十二、十三日に日本カトリック研修センター所長・野下千年神父様とシスター景山あき子のお二人を招いて行いました。

一日目五十人、二日目が六十二人と福岡教区全域からの参加に感謝致しました。

初日、講演予定のシスター

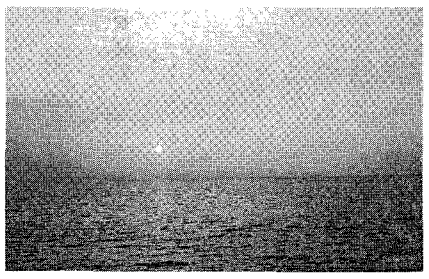
すべての人を一つにして下さい

―朝祷九ブロ大会―

『皆が一つになるようにと祈られた主キリスト、あなたを信じるすべてのキリスト者を一つに集めて下さい。キリスト者が協力し、人々の一致の力となることができますように』

この祈りを胸に、第四回朝祷会九州ブロック大会が三月二十一日、熊本のカトリック手取教会（主任・B・ジョー神父）の信徒会館で開催された。

目的は、ブロックの親睦と活性化をはかるためである。今回の参加者は朝祷会連合本部、千代田朝祷会、名古屋朝祷会、大阪、北九州小倉、八幡、福岡、熊本朝祷会合わせて百十人であった。プロテスタントとカトリックの信徒が半々であった。



主においてひとつ

主を礼拝することから始まり、賛美歌があり、聖書が朗読された。ジョー神父が祈祷を先唱し皆は心を合わせた。熊本聖書教会の牧師長沢忠雄師が「奨励」し、参加者自由の共同祈願が唱えられ、主の祈りをもって午前の部を終了した。午後は、熊本聖三一教会司祭の堀尾憲孝師が食前の祈りを唱えて『愛餐会』が行われた。その後、各朝祷会の現状報告があり、懇談と協議がなされた。そして各朝祷会の共同祈願があり、賛美歌をもって閉会となった。

島崎教会・高木慶治

参加者の驚きと感謝の声に現れていました。

熊本信徒協議会司牧部長　藤井恵美子

練成会を終えて

―福岡ブロック青年会―

青年会による練成会を三月五、六日に大名町教会で行いました。光丘、老司、茶山、西新教会から十五人の参加もありました。

テーマは『今、キリスト者として』。

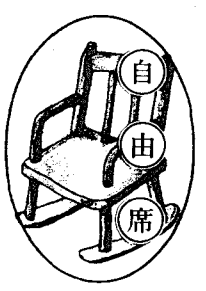
指導と講話は森山信三神父様と中村信哉神父様にお願いしました。森山神父様は聖書をもとにした生き方を大切にするように望まれ、特にイエス様の例え話を自分の事例にあてはめながら神の望みを知るようにと話されました。中村神父様は犠牲や思いやり、祈りの尊さを説かれました。

講話によってお互いの根本的な姿勢を見つめ直し、分かち合いによって、現状の妨げをどうすべきか理解できました。

この練成会を機に、分かち合い、連帯性を強めて行きたいと思います。

大名町教会・村上鈴香

青少年の信仰が育つように



司祭・下町豊重

福岡教区青少年司牧担当司祭団（代表・大水幸一師）は青少年の信仰の育成を日々考え、力を注いでいる。例えば教区全体の青少年の参加を募りながら、黙想会やスポーツ大会、錬成会、巡礼などを計画し、皆が神の子であることの自覚を高め、親睦を深めてもらったりしている。

教区には現在、五ブロック（熊本、筑後、佐賀、福岡、北九州）があり、ブロック毎により若い司祭が担当している。ブロックでも黙想会、スポーツ、レクレーション、錬成会、巡礼が催され、お互いの繋がりと信仰の向上が計られている。

担当司祭団は、月一度の集まりを持ち、各ブロック担当者の教会を回り、現状報告や今後の取り組みに白熱した論を展開する。自分の教会の司牧、或いは教区の各種委員会や幼稚園の事業に携わりながらも、こと青少年の信仰育成に注がれるそのエネルギーには驚いてしまう。神様からたくさんの恵みをいただいている証拠である。青少年の現状を憂えるキリストの心、その代表者司教の心を汲んで活動する若手司祭を宝とし、祈りと援助で激励しなければならないだろう。俗に、「天は二物（ぶつ）を与えない」というが、司祭には当てはまらないような気がする。しかし神様は司祭ばかりに恵みを与えられるのではない。教会の宝である若者にも直接に、或いは間接に与えておられる。私たちはもっと若者に目を向け、縦横の『十字』の繋がりを大切にできるよう考えてあげねばなるまい。

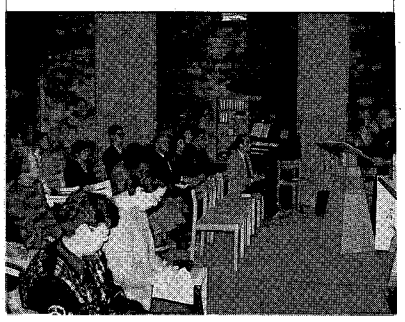
祈りの日　毎週火曜日はオープンハウスの日です
ミサから始まり、沈黙の中での会食の後、十字架の道行や聖時間を、御受難会士と共に過ごします。この日の会費は無料です。
皆様のおいでをお待ち致しております。
ミサ：午前11：00より15：00頃まで
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL　0940-32-3222

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

紹介『歌と祈りの集い』

福岡典礼聖歌研究会



黙想の家で行われる福岡典礼聖歌研究会は、今回（三月六日）で第十四回目の集いとなりました。

毎回「典礼聖歌」や「教会の祈り」を、ともに歌い、祈り、そして「みことばの朗読」を通して私たちの信仰が本当に深められていくのが感じられます。

祈りの指導を鈴木忠一神父様が、「典礼はいつも私たちの身近なものであること」をご自分の体験をもとにユーモラスに話され（＝写真）、聖歌の指導を大名町教会所属の深堀純氏が「祈り」としての聖歌の重要さをグレゴリオ聖歌の歴史・現代の典礼などを含めて指導しておられます。リラックスした雰囲気で時間のたつのもつい忘れてしまいます。

毎回約三十人の参加者の中には、初めての方、一回も欠かさず参加する方もいますが、もう少し多くなれば歌声も大きく、もっと楽しく充実したものに発展するでしょう。

（研究会事務局）

『納骨堂』の祝別・落成式

佐賀教会



佐賀教会（主任・アルベルト・ディベルロ神父）では佐賀市郊外にある教会墓地に納骨堂を新築（＝写真）。

三月六日、信徒約百人が参加し、松永久次郎司教を迎えて祝別、落成式を行った。司教は説教の中で「納骨堂はいわば天国への扉のような所です。度々訪れ、たのもしい心をもって祈って下さい」と述べた。

納骨堂の設計は、江藤誠祐設計事務所、建築は佐賀市の㈱マベックが担当し、それぞれ感謝状と記念品が贈られた。総工費二千五百万円。

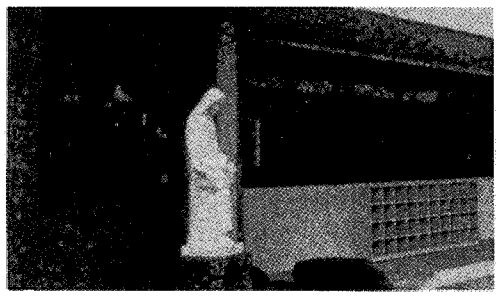
現地は金立山麓に位置し、遙か有明海を臨む景勝地で吉野ケ里とは指呼の間にある。

建物は周囲の自然に相応しく、清楚幽玄、深緑の大きな屋根に淡いベージュの壁。鉄骨平屋建23坪。納骨箱数は百二十八個。一箱の大きさは、タテ60、ヨコ48、奥行40センチで、四人分の遺骨が収容できる。フロアには祭壇を設け、地下には共同納骨堂、その他水道を配備。天井は高く、ひさしの長い重厚な屋根が特徴。教会で希望する人たちの申し込みを広く受け付けている。

牧山満安

飯塚聖母幼稚園

新園舎の落成祝う



三月十二日、待望の飯塚聖母幼稚園新園舎落成式が松永久次郎司教様の司式のもとで行われました。新園舎は鉄筋コンクリート二階建で、五つの教室と広いホールがあります（＝写真）。

司教様により新園舎、園庭のマリア像の祝別が行われ設計・施工者に感謝状が手渡されました。また、園児から花束贈呈があり「立派な素敵な幼稚園をありがとうございました」と喜びの挨拶もありました。

その後、祝賀会では、卒園児、在園児のお父様方による宿場太鼓のこけらおとしなどもあり、和やかな一時を過ごしました。あいにくの雨にもかかわらず、飯塚市長様はじめ、神父様方、幼稚園関係の方々のご出席を頂きました。

司教様は「心を入れ替えて子供のようにならなければ決して天国に入ることができない」と聖書のみ言葉を引用されました。

私たちは幼児教育に携わる者として、常にこの言葉を心に留め、園長、職員が一丸となって神の愛を感じ、園児たちを伸び伸びと育んでいくことができますようにと固く心に誓いました。

職員・西田貴子

「いのちを考える」

―筑後ブロック青年黙想会―

二月二十日に本郷教会で、筑後ブロック青年会の黙想会が行われた。青年十八人が参加した。尚、指導者として中浜一男、下町豊重、川上惣一師の三人が当った。テーマは「いのちについて」。まず、ビデオ『生きてこそ』を鑑賞し、三グループに分かれて話し合い、全体会での発表、ミサという流れであった。

ビデオは実話を映画化したもので、飛行機が墜落し生存者がさまざまな苦難の中で生きていく姿を通して、「いのち」についての尊さを訴えるものであった。中でも、生きるために仲間の死体を食べて生き延びたという話があり、各人がそれぞれの角度から考えることのできるものであった。

ビデオ鑑賞後、小グループで話し合いを行い各神父様から貴重な意見を頂いたことにより、一層「いのち」の大事さを各人が考えさせられた。この黙想会で青年たちは、「いのち」について考えることにより、その大切さ、また人は一人では生きていけないのだということをあらためて感じることができた。これからの人生においても「いのち」の大切さを考えていくようにと各人が思い黙想会を終了した。

ブロック青年会長・柳　健二



クルシリヨへのお誘い

クルシリヨって何度か聞いたことあるけれども、どんな黙想会かしら？なんだかその名前の響きが意味ありげね、と思いつつ昨年のゴールデンウィークに黙想の家にて三泊四日の神との対話に参加しました。福岡教区内の各教会から参加した三十六人は、神様のお恵みと喜びを、共に深い信仰のうちに体験することができました。

四日間という短い期間の中で、不思議にも毎日少しずつではありますが、自分の心の中の古い皮がはがされ、信仰の光で包まれてなんとも幸せな温かい気持ちになっていく体験をしました。

日々の生活の中でぶつかる種々の問題も乗り越えられるような自信が与えられた黙想でした。まったく初対面の者同士がグループ行動をするうちに親交深い仲で結ばれてゆくというのも魅力の一つで、年に何度か集まっては親睦を計っています。また福音宣教の担い手となってそれぞれ与えられた場所で、神様の望まれる方法でもって活動する使命をも与えられています。

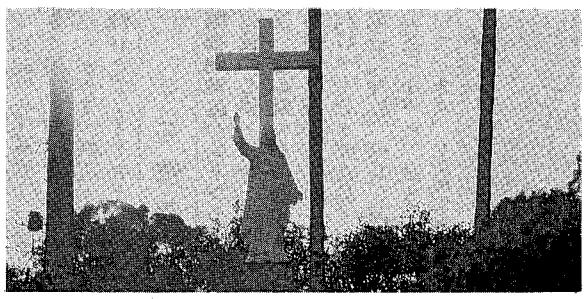
自分の中で眠っている光を探しに多くの人が今年も参加されることを望んでいます。

ゴールデンウィークに海外旅行もいいけれど、まずは心のビタミン補給をしにクルシリヨに参加されることをお勧めいたします。

手取教会・田代浩子

詳しいご案内は4面に

「目を覚ましていなさい」



「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。」（ルカ6章）イエス様のこのお姿に倣って、のべ百名程の人が、三月十九日から二十日まで聖スルピス大神学院に集った。

夜の八時に聖体が顕示され、一時間交代で司祭、修道者そして多くの信徒が朝まで主に祈り、賛美を捧げた。未明の三時、四時に目を覚まして、祈りに来て下さった方の熱意には頭の下がる思いであった。早朝、司教様とともに主の食卓を囲み、よろこびのうちに閉会した。

数年前、アシジで教皇様は諸宗教の代表者を前にして、次のように言われた。「わたしたちは、共通の祈りのためには、ともに祈ることができません。しかし、他者が祈っている間、そばにいることはできます。わたしたちは『ともに祈る』というよりは『祈るためにともにいる』のです。」

聖堂での礼拝と同時に、ホールでは、様々なプログラムが進行した。参加者は、正にみな一つの目的、つまり祈るために同じ一つの場、時間を共有した。

召命は、このように心を一つにして祈る小さき群れの中から育まれていくのだと実感した。

召命を共に祈る会

森山信三神父

BOOK 読みは専科



★信じるものの小さなことば
文　テクラ・メルロ
絵　矢野滋子

「いつもいつも喜んでいることはできないかもしれない。でもいつも平和でいることはできます。平和は、愛と思いやりと一致の実。」

「神さまにおゆだねしましょう。彼は善いかた、かぎりもなく善いおかたです。好きなことも嫌いなこともすべてを彼のみ手から受けましょう。」

美しい絵と共に、右のような信仰に生きた一人の修道女の言葉が集められたミニ本です。

入学・就職祝い、誕生日のプレゼント、病気見舞いなどにも喜ばれています。

女子パウロ会　六〇〇円

◆　◆



★藤津鹿島のキリシタン
川上茂治著

ドミニコ会が肥前で最初に設立したロザリオの聖母にささげる教会の約七年間の記録で、数々の貴重なキリシタンの史料を通じて、郷土の歴史がどのようにかかわったかを検証したものです。

送料共一、八一〇円

申込・問合先

鹿島市大字中村二七四―一三

☎0954-62-6241　川上

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材　石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

4・5月の行事

＊ゴチックは司教日程

4月

1日　聖金曜日（主の受難）（大斎・小斎）
2日　聖土曜日（復活徹夜祭）
3日　復活の主日
4日　吉野天使幼稚園落成式
10日　花岡山殉教祭
13日　司教座聖堂献堂記念日
17日　茶山教会堅信式
福岡地区信徒協役員会
熊本地区ナイス報告会（健軍教会）
19日　臨時司祭評議会・顧問会
24日　浄水通教会堅信式
召命祈願日
28日　福岡地区婦人会総会
29日　伊万里トラピスチヌ聖堂献堂式
ウォーカーソン

5月

2日　クルシリヨ（～5日）
8日　広報の日（献金）
13日　聖書講座①
15日　主の昇天
教区修女連研修会
20日　聖書講座②
22日　聖霊降臨の主日
教区信徒協役員会
27日　聖書講座③
29日　三位一体の主日
……

行橋教会堅信式・広報研修会

福岡黙想の家

3/31～2日　聖なる三日間の典礼・復活徹夜祭
3日　復活祭
4～6日　メノナイト宣教師団集会
10～15日　コロンバン会総会
……

■**熊本花岡山殉教祭**　4月10日(日)11時　時代は一六一五年～一六三五年。親、子、孫、三代にわたる殉教者の聖なる歴史を偲ぶ。松永久次郎司教司式野外ミサ。［場所］熊本花岡山殉教者墓地前［問合先］島崎教会☎0996－35－2－5610

■**熊本地区ナイス報告会**　4月17日10時～15時半［場所］健軍教会［内容］ミサ（十時）ナイスの経過と会議の内容・参加者の報告と所感・意見発表・司教団のメッセージの説明・信徒に求められるもの・今後の取り組み［対象］熊本地区全信徒・一人でも多くの方の参加をお願いします。

■**福岡地区婦人会総会**　4月28日(木)10時（大名町教会）

■**福岡地区婦人会講演会**　4月28日(木)13時半(大名町教会)参加自由・無料［講師］結城了悟神父（イエズス会・長崎26聖人記念館々長［講演テーマ］信仰のルーツ

■**ひとりでは歩けない…第5回福岡ウォーカーソン「みんなで召命を育てよう」**　4月29日(金)10時［集合場所］福岡カトリック神学院・弁当持参・雨天決行［主催］召命を共に祈る会［問合先］カトリック神学院・森山神父☎092－531－6821

■**諸宗教対話研修会**　4月29日(金)14時～16時半［場所］手取教会［講師］立正佼成会員［テーマ］立正佼成会とその平和活動について［問合先］生命山カトリック別院☎092－68－85－3100

■**研修会（諸宗教対話）**　4月29日(金)17時半～5月1日［場所］生命山カトリック別院［指導］フランコ神父［問合先］生命山（同右）

■**福岡教区第33回クルシリヨ**　5月2日(月)19時～5日(木)16時［場所］福岡黙想の家［参加費］一二〇〇〇円（宿泊・食費・用品代として／当日受付）［携帯品］ロザリオ・着替・寝巻・洗面用具［申込・問合先］各小教区主任司祭［締切］4月25日

■**第8回聖霊による刷新九州大会**　7月24日(日)～26日(火)［会場］熊本交通センター・ホテル［指導］ラバリー神父（コロンバン会）［特別講師］松永久次郎司教［定員］二〇〇人［申込締切］4月30日［問合先］教区本部、Br.床島・杉山☎092－522－5139

■**福岡結婚準備セミナー**　5月7日より毎木曜・土曜日（計8回）［場所］カテドラルセンター［問合先］ファミリーセンター☎092－541－1－6207

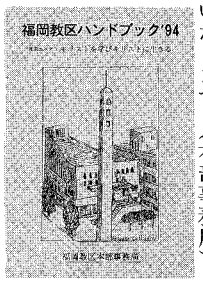
■**熊本結婚準備セミナー**　5月9日より毎月曜・水曜日（計8回）［問合先］手取教会☎0996－35－2－3030

■**広報の日研修会「教会における情報の伝達」**　5月8日（世界広報の日）14時～16時半［場所］カテドラルセンター［目的］教会における情報伝達の現状を理解し、各小教区での対応を考える［対象］各小教区広報担当者、その他どなたでも［講師］山元眞神父他［参加費］一〇〇〇円［問合先］教区本部広報部☎092－522－5139

■**聖書講座【ヨハネ福音書】**　5月13日(金)19時～21時（以後毎週金曜日同時間7月15日まで10回）［受講料］一括5000円・1回毎800円［申込・問合先］教区本部事務局☎092－522－5139

ミニ情報

■**福岡教区ハンドブック'94**　信徒の心得・カレンダー・教会、修道院や事業所の住所等の情報を集めた小冊子・B6判47ページ・非売品。復活祭前後に発行。ぜひ一家に一冊お持ち下さい。献金をお願いいたします。（本部事務局）



■**「くろすろーど」最終号**　教区情報誌『くろすろーど』が次号（第10号）で終わりになります。郵送料の値上げ、購読者数の伸び悩みがその理由です。今後は教区報の中に挟み込みになります。そうすれば、経費の削減になりますし、情報の受け手も一気に十倍になるからです。最終号は5月中旬に、挟み込みは教区報6月号から発行予定です。

■**第1回日本カトリック高校生大会**　8月1日(月)～5日(金)韓国・香港・マカオ・台湾・日本の高校生たちよ、語り合おう！支笏湖のほとり、雄大な自然の中で東アジアの20人の仲間たちとともに！［テーマ］東アジア社会とわたしたちの信仰［場所］北海道・支笏湖ユース・ホステル［応募資格］作文選考による・4月現在高校在学、またはそれに相当する年齢の男女［応募方法］住所、氏名を明記した返信用封筒（80円切手添付）を同封し、詳しい応募要項を左記から取り寄せた上、応募してください〒135東京都江東区潮見2－10－10カトリック中央協議会青少年委員会［応募締切］4月末日必着

4月命日の司祭

＊アンリ・レウトル師（パリ外国宣教会）
一九四四年四月二十五日
元新田原教会主任

＊フランソワ・ブレンゲ師（パリ外国宣教会）
一九四六年四月五日
元佐賀教会主任

＊ジョゼフ・ドレル師（パリ外国宣教会）
一九八四年四月十五日
元直方教会主任

＊パウロ大野正恒師（イエズス会）
一九八五年四月十二日
元泰星学園校長

＊カール・シュミッツ師（御受難修道会）
一九八八年四月七日
元黙想の家院長

編集室から

桜の花が真っ盛り。この季節に何を期待しようか。神から造られる私たち信者のあるべき姿がよりよく表されていくように。『神は陶工者、私たちはねんど』。神から期待される良質のものでありたい。新年度。くれぐれも、このねんどはどうしようもないと言われないようにしたい。せめて教区報が紙ねんどの材料にならないように。



こかげをつくる使命

こかげと聞いて気楽に承知しましたが、いよいよそのために机に向かって筆を執ると、何も出てこないのです。私はなんとこかげをさがしているのですが、それが見当たりません。よく考えてみれば本来なら私はそんなことを言ってはならないのです。

今、多くの人が疲れて休む場所（こかげ）を探しています。そして私も人々に小さなこかげとなっていくべきです。今は都会はもちろんのこと、どこでも開発が進んで自然が消え去り、高層建築が姿を見せています。しかしその反面、木は伐り倒され、こかげは消えていっているのです。それでも少し残っているこかげには、ゴミが捨てられてとても休める所とは言えません。休養できる大自然のこかげが姿を消したために人々は休養する場所を失い、それだけ苦しみや疲れは多くなっているようです。こうしたことは精神の分野においても言えるのではないでしょうか。職場や学校、そして家庭の中で苦しみ、悩んでいる人は多く、心の安らぎを求め続けています。一体本当のこかげで休息して元気を取り戻すにはどうすればよいのでしょうか。

イエス様は、誰でも疲れた人がいたら私のところに来なさい、と言われました。そのことを思い出さないキリスト者もいるのではないでしょうか。

教会を保養センターと言ったら失礼でしょう。病院でもないと言われるでしょう。しかしイエス様のもとに集まった人々は、罪や病気で苦しみ悩んでいる者ばかりでした。もちろんイエス様を殺そうとする人も居ましたが、イエス様は彼らのこかげになって休ませました。

今、私共のまわりにも疲れていて、しかも休む所を探している人々は多くいます。私共は本物のこかげにはなれなくても、イエス様を人人に紹介することによってこかげにならなくてはいけないと、深く反省させられています。

いろいろの宗教が、その布教のいき過ぎのためマスコミに取り上げられています。そんなとき、私共の宗教はとりたてて問題になりません。これは布教が順調に成果を挙げているからでしょう。

とにかく今こそイエス様を中心にすえたこかげが、強く求められていることを確信して、私共に与えられた使命を果たしていきましょう。

熊本信愛
山頭原太郎神父

主の道を求めて

宮崎カリタス修道女会

アントニオ・カヴォリ神父は、第一次世界大戦中、従軍司祭として激戦の中で多くの若者を天国に見送った。彼は終戦して除隊後、宣教師となるためサレジオ会を選んだ。そのときから彼の魂は、聖ヨハネ・ボスコを聖徳の鏡として愛し、祈りと働き、快活と勤勉、家庭的精神（これらはカリタス修道女会の福祉活動の基本的方針となっている）の中で、イエスの聖心の愛の使徒として活動を開始した。宮崎を根拠に始められた愛の奉仕は、「貧困」の一語に尽きる当時の社会に溢れた浮浪者、病人、孤児たちのうえに集中された。『救護院』と称する収容施設（後にカリタスの園の母体となる）は常に満杯だった。一九三七年チマッチ師（現在列福調査中）の協力と支持の下にカヴォリ神父は『宮崎カリタス修道女会』を創立した。会員は、「神がまずわたしたちを愛してくださったからです」（ヨハネの手紙Ⅰ4・19）全ての活動を通して、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」（マタイ25・40）という福音の精神に従って、創立者の心を心とし、日本国内と諸外国に於いて、福祉、教育、医療、出版、小教区活動などの使徒職に励みながら今日に至っています。

福岡修道院・谷口キクヨ

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092—522—5139
FAX　092—523—2152
振替口座　福岡6—20729
定価一部60円

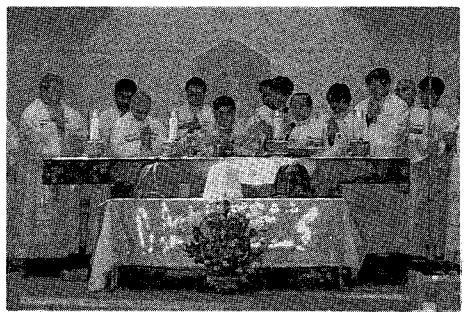
今月のみことば

責めるべきことがあっても、
赦し合いなさい
（コロサイ3・13）
佐賀　M・ターディフ神父

聖なる3日間

典礼暦年の頂点を盛大に祝う

今年もカテドラルを中心に、各小教区で聖週間の「聖なる三日間」の典礼が盛大に執り行われた。キリストの受難と復活を記念する聖なる過越の三日間は典礼暦年の頂点である。復活祭の記念である主日のミサを大切にしたい。



聖香油ミサ（聖木曜日）

週の最初の日が「主の日」と呼ばれ、キリストの復活を祝う根源の祝日として一週間の中心であるように、「聖なる三日間」は典礼暦年の頂点である（儀式書「聖週間の典礼」参照）。この典礼暦の中心である「聖なる三日間」は、古代から盛大に祝われてきた。

カテドラル大名町教会では例年、教区長の主司式のもとに聖週間の典礼が執り行われているが、カテドラルにとどまらず、各小教区でもこの典礼への参加者は、けっして多くはない。信者の間で、この典礼の意義がより理解され、典礼の豊かさが多くの人々に及ぶことが望まれている。

第二回福音宣教推進全国会議の答申に対する司教団の文書「家庭と宣教」の中でも言及されているように、「典礼と家庭生活の関係をより緊密なものとすることは日本の教会共同体の大きな課題」である。現行の典礼の精神と法規を学びながら、主日のミサを中心に生きたい。

司教団「家庭と宣教」を発表

分かち合いに努力と工夫を

昨年秋に開かれた第二回福音宣教推進全国会議（NICE・2）の答申にこたえて、日本カトリック司教協議会は「家庭と宣教―家庭を支え福音を生きる教会共同体の実現をめざして」という司教団文書を発表した。**（全文は3面に掲載）**

この文書は、先に開かれた特別臨時司教総会（会期・三月二十三日～二十四日）で最終案を検討した結果生まれたもの。現代社会の中での家庭の現実に目を向けることから出発し、「分かち合いを通して」「共感、共有」を進めていくことによって教会共同体の刷新が可能になり、それが福音宣教につながる、と説明。そのために、信仰生活を豊かにする典礼の力を再評価し、教会の中での若者の「場」の必要性も説いている。終わりに、「福音宣教しようとする日本の教会の刷新運動を継続させ発展させていく決意」を表明している。

教区NICE担当の山元眞神父は「この文書を一人でも多くの信者に読んでいただきたい。そして今後の教会共同体の刷新を具体的に共に考えていきたい」と語っている。

聖木曜日の荘厳な典礼

聖香油・聖体・司祭職制定の記念日

三月三十一日、カテドラルにて聖香油ミサが行われた。教区長松永久次郎司教と約六十人の司祭により荘厳な聖式が執り行われた。

入祭の聖歌「喜びの聖なる油」の流れる中、油が祭壇に運ばれた。ミサの間に病者の油と洗礼志願者の油の祝福、および香油の聖別が行われた。

また、聖木曜日は「司祭職制定の日」である。「キリストの祭司職を果たす者が世にあってキリストの証となることができますように」と集会祈願を唱えた司教は集まった司祭団に対して「パパ様（教皇ヨハネ・パウロ二世）が贈られた司祭への手紙をもとに黙想しましょう。教会の真理は愛です。聖体祭儀こそ愛の真理を表しています。司式する恵みを受けた私たちは自分の役務を忠実に果たしていきましょう。また、キリストが家族を大切にされたように、司祭も神の家族を大切にし、家庭と共に、家庭のために祈ること。そして、家庭が司祭の召命を養い育てる場であるように」と諭した。

喜びの金祝・銀祝

―引き続き祈りを―

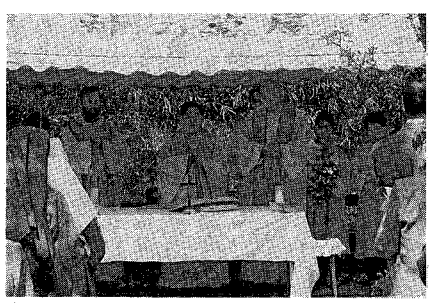
聖木曜日の聖香油のミサ後、司祭職制定の記念が、大名町教会二階ホールで催された。席上、教区で働く司祭の金祝組と銀祝組が紹介された。

金祝司祭は、K・オマホニー師（荒尾）。銀祝司祭は、J・ブロデリック師（手取）とH・オカロール師（武蔵ヶ丘）の二人である。

松永司教の、「教区で長い間働いて下さり感謝しています。これからも永く頑張って下さい」との挨拶に、銀祝のオカロール師は、「銀祝を迎えられたのは一つの奇跡である。これからも祈りをしていただきたい」と述べ、同ブロデリック師は、「これまでの支えを感謝したい。金祝を迎えたいので祈りを引き続きお願いしたい」と語った。金祝のオマホニー師は健康上、欠席したが祈りを続けたい。

厳かに 花岡山殉教祭

四月十日、熊本市花岡山中腹にある加賀山マリアみや殉教碑前で、松永久次郎司教司式のもとに花岡山殉教祭が行われた（**写真**）。



一六三五年、小笠原玄也、その妻みや、およびその一族の殉教の血が流されたこの場所は島崎教会信者にとっても聖地である。

当日は松永司教、県内外より多数の司祭、修道者、信徒の出席で百五十人を超えた。快晴で桜吹雪の舞い散る中、厳かな殉教祭であった。

「価値ある一日を過ごせた」と信徒はよろこんでいる。

聖書講座 ―ヨハネ福音書を読む―

「キリストを学びキリストに生きる」ために

6面に案内

時の話題

高木　光行

前回、この欄にて、肥後の殉教者、キリシタン一家を紹介しました。そして、この事実を前に、「主よ、この家族がキリシタンであり続けるため、何故これ程の十字架を背負わなければならなかったのですか」と設問したのです。この一家の主人小笠原玄也は細川忠興、忠利二代にわたる転宗のすすめにも拘わらず、「ころばざる書きもの」まで書き、これを拒絶し、このため、禄を離れる身となりました。「武士」からの身分剝奪は妻みやと九人の子どもたちの生活そのものを極度に脅かすものでした。当時この一家については、「何ものかにとりつかれた世捨て人だ」と周囲の人の目に、そのように映ったことでありましょう。

先人たちの「生き方」を偲んで

「この一族の払った代償について、余りにも大き過ぎたのではないかと、あなたは疑問をお持ちのようですが、一言、忠言しましょう。キリスト者であること、それは、神の生命に与かり、いつも喜びの内にあって永遠に生きることなのです。」

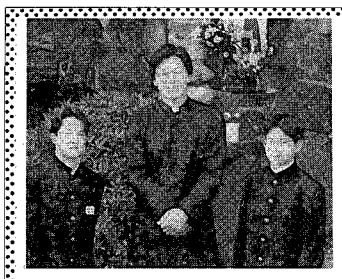
「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、私のために命を失う者は、それを救うのである」（ルカ9・24）

今年、新年のメッセージでヨハネ・パウロ二世は、「もし、あなたがたが世界の平和を真に願うのであれば、もてる物一切を貧しい人々に分け与えなさい」と、強い口調で訴えられ、神の意にかなう者の「生き方」を示唆されました。

キリストの内に生きる者として、この呼びかけに今私はどう応えようとしているのかいつも反省させられているところです。思い起こせば、禄を離れ、過ぎゆくこの世の地位、身分にとらわれず、貧しくても、キリスト者であり続けようとした、小笠原玄也、マリアみや一家は、み摂理によって、その時代時代に示された神の意にかなう者の「生き方」に従い、最も忠実に生き抜こうとした先人たちだったのでしょう。時には、その生き方が私たちには眩しすぎる時もありますが、もっと勇気を振るって、この先人たちの「生き方」に、日々の生活の中で関わりたいと願うものです。

（島崎教会）

福岡カトリック神学院新入生紹介



福岡カトリック神学院は、二人の新入生（**谷口誠司・新田原教会出身**＝**写真左**、**徳永心・本郷教会出身**＝**同右**）を迎えた。全員で八人。将来の司祭を目指して歩んでいる。

今後共、祈りと援助をお願いしたい。

福岡カトリック神学院
院長・森山信三

みちくさ

夜遅くまで仕事をした。帰りは十二時を過ぎていた。車を運転するには目が少しかすんでいた。雨も降っており、最悪の条件。早く帰らないとまた明日が早い。途中、所々が工事中。向かう時には影も形もなかったのに。さあ、後5分で着くぞ。ガードマンに車を止められた。「この先は工事をしているから通ってはいけませんよ。行きたければどうぞ。おそらく戻ってきますよ、あの車のように」。見ると、何台かが引き返してきている。どうしようか、帰り着かないと早朝にミサがあるのに困るなあ。そこではっと思い出した。そうだ、ちょっと入って右に曲がれば。案の定、道が開かれていた。喜び勇んで通って行った▼時々、考えてもないような事態が起こる。しかし、どうにか切り抜けてきている。また、すっかり忘れていたこと―それは大切なこと―を事前に思い出したり、人を通して教えてもらったりして大した事故につながらないで済んだり。「今のあなたにはこれが必要なのだよ」と教え、助けてくださる聖霊のお働きを感じざるを得ない。逆に、悪霊に惑わされることもある。神のお望みとは別の方向に歩こうとしている時である。聖霊のお働きに感謝しながら前向きに進んで行こう。見えないけれども見える業を通して聖霊の存在を知る私たちである。聖霊のお働きに気づき、力づけて頂こう。私たちの人生の道しるべであるキリストは、悪霊を追い払いながら、そして聖霊とともにおん父のお望みを果たしていかれた。聖霊のお働きを軽んじてはならない。

「私を冒瀆しても聖霊を冒瀆することは許されない」とさえキリストは言われた（マタイ12・32参照）。

【S】



福岡教区教勢 (1993.1.1～12.31)



※司祭・修道者・神学生の数は含まれません

地区名	小教区名	在籍信徒数			転入			転出			洗礼	成人洗礼			求道者			不明者	死亡	結婚				ミサ参加者		
		男	女	合計	'93	'92	'91	'93	'92	'91	幼児	'93	'92	'91	'93	'92	'91			信者	混宗	異宗	他宗	主日	復活	降誕祭
福岡地区	糸島	125	121	246	17	32	36	14	10	4	2	1	1	0	2	5	3	0	1	0	0	1	0	100	150	200
	今村	449	542	991	6	30	1	7	5	9	10	16	7	6	6	6	2	0	19	4	0	6	0	700	900	1,100
	大楠	89	97	186	5	4	15	7	8	22	7	5	4	6	5	4	0	0	0	0	0	2	3	90	150	200
	大牟田	75	137	212	0	8	3	2	9	5	2	3	0	2	3	10	10	0	1	0	0	1	21	70	190	190
	小郡	165	210	375	6	10	14	2	5	4	1	1	4	6	2	2	1	7	3	0	0	2	0	130	310	360
	久留米	524	708	1,232	26	170	22	30	34	36	8	4	11	10	4	4	8	4	9	1	0	12	35	430	670	950
	古賀	357	411	768	52	49	51	18	26	20	12	13	5	3	0	16	17	0	2	1	0	3	9	243	410	590
	笹丘	321	442	763	21	42	33	22	38	25	11	9	10	9	7	8	10	3	6	1	0	9	4	350	550	800
福岡県総人口	浄水通	161	248	409	14	21	31	24	25	8	5	16	13	13	22	30	137	5	1	2	0	18	135	250	300	1,130
4,842,450人	大名町	673	905	1,578	75	102	127	62	45	85	21	25	8	31	51	41	24	282	13	4	1	26	95	500	1,200	2,000
	高宮	208	323	531	25	28	25	18	21	24	6	4	10	8	3	6	5	27	4	3	0	4	16	110	200	300
県総信徒数	茶山	260	296	556	16	23	23	24	5	33	4	2	1	5	3	0	1	0	3	1	0	2	0	250	270	280
23,689人	西新	560	652	1,212	65	60	59	24	55	248	11	12	5	3	9	13	2	0	5	3	0	8	2	400	500	630
比率 0.5%	箱崎	132	178	310	11	18	24	21	8	27	3	1	0	0	0	5	3	0	2	0	0	0	0	100	180	250
	光丘	556	625	1,181	64	46	62	44	33	34	10	7	10	1	12	7	12	124	5	2	0	3	2	350	480	660
	二日市	184	232	416	27	11	18	11	14	28	3	0	6	0	9	6	6	10	5	0	1	0	0	230	290	500
	本郷	319	334	653	3	7	8	1	2	14	8	1	1	2	2	2	0	22	1	1	0	2	0	380	550	650
	吉塚	286	386	672	15	13	8	16	23	14	9	2	4	2	7	4	9	0	4	0	0	4	0	250	400	450
	老司	276	334	610	17	6	25	24	7	15	3	1	9	5	5	0	6	0	0	0	0	7	0	150	250	400
	小計	5,720	7,181	12,901	465	680	585	371	373	655	136	123	109	112	152	169	256	484	84	23	2	110	322	5,083	7,950	11,640
北九州地区	飯塚	108	146	254	16	4	5	10	2	28	4	3	2	0	3	3	3	0	3	0	0	3	2	90	130	180
	黒崎	405	673	1,078	20	23	10	31	19	8	10	10	10	9	12	15	10	0	5	1	0	12	7	400	450	700
	小倉	1,113	1,454	2,567	53	38	42	47	40	53	16	21	16	20	22	29	34	28	15	2	0	14	19	500	700	1,500
	新田原	894	976	1,870	19	13	29	27	20	12	16	2	3	3	1	3	4	0	12	4	0	8	5	800	1,400	1,300
	田川	56	93	149	0	1	0	0	0	0	4	1	0	0	1	0	2	26	0	0	0	0	1	35	100	100
	天神町	130	182	312	10	10	14	2	13	5	2	0	1	1	2	1	2	0	3	0	0	1	0	85	150	190
	戸畑	385	386	771	7	11	3	8	31	12	7	21	6	8	6	35	12	0	10	1	0	7	5	180	300	500
	直方	70	72	142	2	9	7	5	2	0	5	4	1	1	2	4	3	20	0	0	0	1	0	35	100	100
	八王寺	97	124	221	9	6	1	10	0	4	1	4	0	0	0	11	9	0	1	0	1	0	8	75	110	200
	水巻	300	379	679	29	32	16	9	11	2	2	2	5	5	0	0	10	2	3	0	0	6	5	200	300	450
	門司	153	233	386	6	14	7	9	17	10	1	1	10	1	2	2	3	0	1	0	0	0	1	180	240	420
	門司港	71	92	163	0	5	0	0	6	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	1	0	1	0	30	70	60
	湯川	561	634	1,195	8	34	22	9	16	9	11	1	5	3	9	0	6	0	0	0	0	4	0	400	620	710
	行橋	312	348	660	11	15	16	11	9	11	6	0	11	7	6	2	9	3	5	0	0	9	2	250	400	500
	若松	155	186	341	4	10	5	0	4	0	2	2	0	2	2	2	0	0	3	0	0	1	0	70	160	220
	小計	4,810	5,978	10,788	194	225	177	178	190	154	87	72	70	61	68	108	109	79	62	9	1	67	55	3,330	5,230	7,130
福岡県合計		10,530	13,159	23,689	659	905	762	549	563	809	223	195	179	173	220	277	365	563	146	32	3	177	377	8,413	13,180	18,770
佐賀地区	伊万里	105	121	226	3	11	0	1	11	4	4	1	3	1	6	0	2	0	0	1	0	1	0	60	130	150
	鹿島	21	26	47	0	0	0	0	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	30	50
佐賀県総人口	唐津	157	203	360	5	7	6	16	7	7	3	2	2	2	0	0	0	0	2	0	0	6	0	80	140	230
878,437人	佐賀	273	461	734	20	✓ 37	36	26	18	27	7	13	10	5	10	10	10	0	5	2	1	3	18	200	357	560
	多久	56	58	114	0	2	1	0	1	0	4	3	0	0	1	3	2	0	1	0	0	1	0	40	55	65
県総信徒数	武雄	31	44	75	4	4	4	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	20	60	80
2,590人	鳥栖	130	182	312	14	8	5	13	18	15	5	5	6	2	8	7	8	0	6	0	0	1	2	120	230	260
比率 0.3%	馬渡島	186	163	349	2	0	0	10	0	2	9	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	180	330	350
	呼子	191	182	373	12	0	1	13	10	6	7	1	0	0	0	0	0	0	3	1	0	5	0	350	365	400
佐賀県合計		1,150	1,440	2,590	60	69	53	79	69	65	43	26	21	10	25	20	22	0	21	4	1	18	21	1,060	1,697	2,145
熊本地区	荒尾	42	96	138	8	0	1	12	0	1	2	3	4	4	10	10	13	0	3	1	0	0	0	50	75	90
	大江	128	178	306	5	1	0	9	3	3	0	0	0	0	2	2	1	0	5	1	0	2	4	50	150	150
	帯山	114	158	272	11	15	19	15	15	16	2	2	7	4	9	2	6	18	3	0	0	1	0	120	150	170
	菊池	26	56	82	6	1	5	1	0	0	2	1	1	0	0	0	1	28	0	1	0	0	0	30	50	100
熊本県総人口	健軍	204	253	457	16	13	21	38	23	41	4	6	3	3	4	4	5	53	4	0	0	3	0	150	250	400
1,844,627人	崎津	105	137	242	0	0	0	20	1	4	5	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	2	0	80	153	160
	島崎	137	218	355	6	7	4	7	4	4	2	2	1	3	5	7	8	0	8	0	0	0	3	150	200	300
県総信徒数	玉名	51	79	130	4	6	9	2	2	1	1	0	0	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	55	160	200
4,195人	手取	525	743	1,268	46	53	34	32	31	43	17	38	43	28	29	42	19	114	33	1	0	19	46	500	550	650
比率 0.2%	人吉	67	136	203	6	10	1	4	9	1	4	1	1	5	0	1	1	0	2	0	1	0	2	70	120	280
	本渡	51	91	142	56	5	4	20	2	5	7	5	0	2	2	6	0	0	1	0	0	2	2	30	70	130
	水俣	35	62	97	2	4	0	2	5	2	2	1	0	1	0	2	0	4	1	0	0	0	0	28	47	88
	武蔵ヶ丘	156	204	360	8	14	4	4	11	36	7	4	9	3	15	18	8	62	6	0	0	2	1	185	200	330
	八代	47	96	143	2	42	11	19	10	13	0	2	4	2	6	6	0	0	1	0	0	0	4	90	120	300
熊本県合計		1,688	2,507	4,195	176	171	113	185	116	170	55	65	73	55	84	103	63	286	67	4	1	31	62	1,588	2,295	3,348
教区総計		13,368	17,106	30,474	895	1,145	928	813	748	1,044	321	286	273	238	329	400	450	849	234	40	5	226	460	11,061	17,172	24,263

教勢を読む

典礼の充実を目指す必要

―福音宣教のために―

①信徒総数は増加（百二十二人増）。教区内三県総人口に対する信徒の比率は〇、四パーセント。「教会の使命は福音宣教です。」福音宣教はその地区のすべての人を対象としていることを再確認したい。

②主日のミサ参加者数は、百九十三人の減少。毎週のミサ参加者を厳密に数えて統計を出しているわけではないが、近年の主日ミサ参加者は確実に減っている。「教会共同体が、家庭を支え、家庭を通して福音宣教を推進していくために、…一つの大きな源泉は典礼」である。「現行の典礼の精神と法規を学ぶこと」によって「一人ひとりの信者の信仰生活をより豊かなものとすることが不可欠」であろう。若者のミサ参加の現状にも目を向ける必要がある。

③信者同士の結婚は増えているが（八組）それ以外の結婚は減っている（二十九組）。とはいえ、教会での挙式を望む人は相変わらず多い。当事者のみならず、未洗者の参列者への対応が福音宣教のきっかけになることが望まれる。

④この教勢には左記のデーターは含まれていない。

【司祭】……一〇一人
【教区】
【宣教／修道会】六三人
【修道者】……五〇四人
【教区神学生】……一二人

信徒三〇〇人あたりに一人の司祭がいる割合になる。司祭の高齢化が進んでいるとはいえ、信徒と司祭が一丸となって福音宣教に取り組めば希望は大いにあると考えられる。「現実のなかで理想を求めて努力するには多くの困難を伴いますが、それを一つひとつ克服して前進していくことこそキリスト者の道であり、そこにこそ大きな喜びがあります。」（括弧内は「家庭と宣教」からの引用文）〔事務局〕

祈りの日へどうぞ
◆ 毎週火曜日　午前11：00（ミサ）～15：30
◆ ミサ・十字架の道行き・聖時間・晩のいのり
◆ 簡単なお食事をご用意します（無料）
〔スケジュールの都合で出来ない場合があります、お電話でお確かめ下さい〕
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL　0940-32-3222

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

家庭と宣教

家庭を支え福音を生きる
教会共同体の実現をめざして

キリストにおいて兄弟姉妹である皆さん

「家庭の現実から福音宣教のあり方を探る―神のみ旨に基づく家庭を育てるために―」を主題として開かれた第二回福音宣教推進全国会議（以下、第二回全国会議と略します）は、日本におけるカトリック教会の、一つの記念すべき集まりでした。

この集まりにおいてわたしたち信者一同は、それぞれ違う場所に住み、異なる問題に直面していても、同じ神の子、同じキリストにおける兄弟姉妹であることを確かめ合うことができました。また、日本の教会が、さまざまな人間の弱さと限界をもちながらも、聖霊の導きのもと、ともに一つの仲間として同じ歩みを続けている、という喜びを確認しました。参加者は、それぞれのことを体験し、その喜びを自分の教区へもちかえることができたと思います。

一、家庭の現実から

教会の使命は福音宣教です。第一回福音宣教推進全国会議（以下、第一回全国会議と略します）に際し、日本のカトリック教会は、福音宣教のあり方を考えるにあたって、生活の現実から出発する方向を選びました。第二回全国会議は、第一回全国会議にならい、人々の生活の中心である家庭の現実に焦点を当てることから出発して、この使命に取り組むことにしました。

現代の家庭をみてまず気づくことは、社会のあり方が家庭に大きく影響を与えているということです。今の社会では、経済価値が過度に優先され、人よりも物を大切にする傾向が目立ちます。この社会のあり方は、その基本的構成単位である家庭の人間関係に深刻なゆがみをもたらしています（注1）。

また、最近の人々の性や結婚についての考え方のなかには、人間の尊厳に反する点が含まれています。本来、男女の性は、結婚によって夫婦の共同体をつくり、新しいいのち、子どもを生み育てることに向けられていますが、最近、この点について、人々の考え方は変わってきました。性のもつ意義と役割、さらに倫理についての意識も大きく変わりつつあります。新しいいのちの誕生についての配慮にも多くの問題がみられます。

このような現象の背景には、社会の重圧に苦しむ人間の弱さがあり、他方、一人ひとりの人間のエゴイズムという問題があります。

しかし反面、人間と家庭の正しいあり方を模索する動きもみられます。「こころの時代」といわれてから久しくなりますが、多くの人々は、経済価値が人間にとって第一の価値ではないことにあらためて気づき、家族の交わりを大切にするようになっています。人々の間で、高齢者への配慮、女性の人権、そしていのちの尊厳に対する意識も高くなりました。さらに、家庭という枠組みを越えて、病者や障害者の介護に献身し、幼いいのちの尊さを訴え、また子どもの人権を擁護する人々の声もしばしば聞かれます。

このように、現代の家庭には、人間らしく生きたいという切なる飢え渇きがあり、また、一人ひとりの人格の尊厳を大切にする動きもあり、それを「福音の芽生え」とよぶことができます。

この現実をみるとき、今の家庭こそ救いを必要としている、といえます。この救いを求める叫びは、たとえ人々が意識していないとしても、救い主キリストへの飢え渇き、キリストを求める叫びであるといっても間違いではありません。この叫びにこたえることが、今のわたしたち日本のカトリック教会の務めではないでしょうか。

二、愛の共同体である家庭

この現実を前提として、あらためて、教会の教える家庭とその使命について考えたいと思います。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、「家庭は、人間共同体すなわち夫と妻、親と子、親戚からなる共同体です」（注2）と述べています。また、家庭は次の四つの使命をもっていると教えています。

①愛の共同体をつくること。
②生命に仕えること。
③社会の進歩発展に参加すること。
④教会の生命と使命に参加すること（注3）。

この使命に生きることは決して容易なことではありません。しかし、この理想に向かって歩むようわたしたち一人ひとりを励まし助ける神の愛、神の力をわたしたちは受けることができます。家庭は何よりもまず愛の共同体です。愛があってこそわたしたちは、家庭の使命に参加し、家庭の使命を生きることができるのです。

そこでわたしたちが、愛の共同体である家庭を築いていくためには、まずわたしたち一人ひとりが、神の愛をしっかりと受け止めることが必要です。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」（ヨハネ3・16）。どんな家庭も、いかなる状況におかれていても、この神の愛から切り離されてはいません。信仰を通して神の愛を深く知れば知るほど、わたしたちには神の愛にこたえる力が与えられることでしょう。なぜなら、「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」（ローマ5・5）。

イエスは、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしのおきてである」（ヨハネ15・12）といわれました。わたしたちはまず、イエスが、どんなに深くわたしたちを愛してくださっているのかを知らなければなりません。そうすれば、わたしたちも互いに愛し合うようになるでしょう。またイエスは、「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしのおきてを守る」（ヨハネ14・15）といわれました。イエスがわたしたちに与えられたのは愛のおきてです。愛のおきては、自由を束縛するものではありません。それは、わたしたちが日々の生活のなかで神の愛にこたえていくよう、促し駆り立てる聖霊の働きです。この機会に、おきてということを具体的に神の愛にこたえる道として、あらためて教会共同体のなかで再認識したいと思います。

三、家庭を支える教会

家庭と教会

神に対する愛は隣人に対する愛によって表現され、実行されます。隣人愛はまず家庭において実践されるべきです。ところで、日本の教会の信者のなかには、家族全員が信者ではない家庭に属している人が少なくありません。教会生活を送ることについても、具体的な生き方の点でも、家族の考え方や意識の違いに苦しんでいる人も少なくないと思います。この点において、まさに家庭は、教会と社会の接点であるといえます。この現実のなかでキリスト者としてあかしをすることは、言うはやすく行うはかたしと、いえるでしょう。

「家庭は教会の生命と使命にあずかり、歴史のなかで神の国の建設に奉仕しています」（注4）。家庭も教会も、ともに愛の共同体であり、いのちを生み育てる共同体です。実際、カトリック教会の伝統のなかに「家庭の教会」という表現があります。それは、家庭とは、本来、教会の生命と使命に参加するものであることを端的に表しています。現在の日本の現実は、この理想から離れていますが、いつの日か、すべての人が神の家族となる日を待ち望みながら、ともに手をたずさえて歩んでいきたいと切望しています。

共感・共有を通して

教会共同体の務めは、信者が日々家庭において、神の愛にこたえて「家庭の教会」を築いていくよう、支え助けることにあります。司教、司祭、修道者、カテキスタなども、そのためにそれぞれの責任を果たすよう招かれています。

ところで、この務めを果たすにあたって、わたしたち一人ひとりの信者は、「共感・共有」ということを大切にしたいものです。わたしたちがイエス・キリストにならい、日々出会う人人、とくに弱い立場におかれた人々の苦しみや痛みに共感し、それを担い、それを信者の交わりのなかで、キリストの十字架とともに神にささげながら、言葉と生活によってキリストの生き方を宣言するとき、わたしたちは、愛のおきてを実行しているといえるでしょう。そのような地味で目立たない日々の努力の積み重ねのなかに、新しい福音宣教のあり方があるのではないでしょうか。

典礼を通して

教会共同体が、家庭を支え、家庭を通して福音宣教を推進していくためには、一人ひとりの信者の信仰生活をより豊かなものとすることが不可欠です。そのための一つの大きな源泉は典礼です。というのは、典礼、とくにミサこそ、神と人、そしてキリストにおける人と人との交わりと一致の頂点を示すものだからです。

第一回全国会議の提案にもすでにみられるように、典礼と家庭生活の関係をより緊密なものとすることは日本の教会共同体の大きな課題となっています。

ところで、第二バチカン公会議の典礼刷新は、日本の教会にも、かなりの工夫と創意の可能性を開いてくれました。ですからまず、現行の典礼の精神と法規を学ぶことはたいへん有益です。また、すでに全国で行われているさまざまな試みの分かち合いを行うことも大いに勧められます。

それぞれの共同体で、日本文化のなかに福音が開花し、典礼が人々の心の琴線に触れ、生活の力、光、導きとなるように、努力を続けましょう。

若者の信仰と活動

若者への配慮は、第一回全国会議以来の重要な課題です。第二回全国会議は、若い人々の信仰を深めるよい刺激と励ましの契機となりました。若者は固有、独自の使命をもつ存在です。若者たちや少年少女がともに集まり、学びながら、祈りと信仰を深めることのできる場が教会共同体のなかにあることが必要です。

若い時代はエネルギーにあふれている時代です。その力が教会と社会のなかでキリストをあかしする活動に向けられるように期待しています。この活動の体験は人生の喜びとなり宝となると信じています。

なお、この課題には、教会共同体とともに家庭自体の努力も大きな要素を占めているということをあらためて思い起こしたいものです。とくに、家庭における「分かち合い」や家庭の祈りなどの努力と工夫が求められています。

四、分かち合いを通して

愛の共同体である教会と家庭を支え育てていくために、『ともに喜びをもって生きよう―第一回福音宣教推進全国会議にこたえて―』で述べた「ともに」の精神、そしてすでに述べたその趣旨をいかす「共感・共有」が大切です。この精神と趣旨を育てる一つの道として、第二回全国会議・答申「展望―福音宣教する日本の教会の刷新のために―」（以下、「展望」と略します）で提案されている「分かち合い」の意義を考察してみたいと思います。

「言葉による分かち合いにとどまらず、物や時間やお金などを含めて自分自身の痛みをも伴う生き方を分かち合う、このような生き方が福音宣教の重要な柱として定着していくことが大切であり、さらに『福音宣教』と『分かち合い』との関係をより明確にしていくことが求められています」と、「展望」は述べています。

「分かち合い」には、貧しい人々、苦しんでいる人々とともに苦しみ、自分が受けたたまものをその人々とともに分かち合うことも、本質的な要素として含まれます。

「分かち合い」にはまず、同じ人間としての深い共感と共有がなければなりません。その模範を示したのは、人となられた神であるイエス・キリストご自身です。

わたしたちはこのキリストが、生活の現場でそれぞれ真剣に生きようと努力している人、とくに困難な状況のなかでキリストに従おうと努力している人とともにおられ、声をかけてくださっていると信じます。

わたしたちが、キリストを中心にして集まり、心を開いて語り合うとき、キリストの声はより力強く響きます。そうすれば、自分自身の状況を正しくわきまえるだけではなく、兄弟姉妹の立場にも正しい理解を示すことができるよう変えられることでしょう。このようにして、わたしたちはともに重荷を担いながら、「展望」のいう「現実を識別して（見分けて）生きる信仰者」として成長することができると思います。

「分かち合い」は教会共同体全体の課題であり、わたしたち一人ひとりの課題です。「分かち合い」が福音宣教とつながるものであってほしいと願っています。そのためには、「分かち合い」の神学的意義をさらに探求することが必要です。福音宣教とは何か、そして、いかに福音宣教すべきかの基準はイエス・キリストご自身の生き方とその福音宣教にあります。日々の祈りと体験、そして、聖書と教会の教えの学習を通して、この課題を追求していくことが、一人ひとりに切に求められます（注5）。

終わりに

わたしたち司教団は、今後も全国の皆さんの声に耳を傾けながら、皆さんと手をたずさえて、福音宣教しようとする日本の教会の刷新運動を継続させ発展させていく決意です。現実のなかで理想を求めて努力するには多くの困難を伴いますが、それを一つひとつ克服して前進していくことこそキリスト者の道であり、そこにこそ大きな喜びがあります。キリストを見つめつつ、聖霊に導かれ、真心こめて、神の恵みにこたえてともに歩んでまいりましょう。

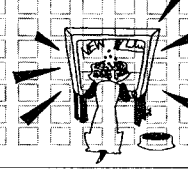
教会の母である聖母マリアの取り次ぎによって、皆さん一人ひとりのうえに父と子と聖霊による慰め、光、導き、力を願いながら。

一九九四年三月二十四日

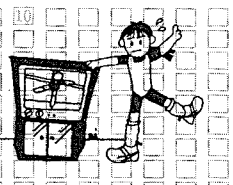
日本カトリック司教団

＊注は次ページ最下段に掲載

5・8「世界広報の日」



テレビとのつき合い方を考えてみよう



「世界広報の日」は、広報機関による教会の多種多様な使徒職がいっそう強化されるために設定されたもので、今年は第28回目。この日、信者はこの分野における各自の義務について教えられ、この種の使徒職のために祈り、これを援助するために献金するよう勧められる。(「広報機関に関する教令」18番参照)毎年教皇メッセージが出されているが、今年のテーマは「テレビと家庭―よい視聴のための指針」。広報の日を機会に、日頃のテレビとの付き合い方を考えてみたい。

テレビの家庭におよぼす影響がいかに大きいかは、いまさらいうまでもない。テレビのない生活は考えられないほど、テレビは私たちの日常生活に完全に浸透している。テレビの良い影響、悪い影響、それぞれ考えられる。今、テレビとの「付き合い方」が問われている。

テレビを消す?

テレビを消すことも一つの方法でしょう。しかし、一歩踏み込んで、テレビを家庭の中でより価値のあるものとするために、家族みんなでテレビの利用法を考えてみることも大切。テレビから流れてくる情報(番組)を意識的に受け止めること。受け身ではなく、視聴者が「自由に」選んで見ることも必要でしょう。

番組を知る

確かに実際に見なければわからない番組もあるが、前もってどのような番組が放送されるかを知ることができる。番組を知ることによって、それを能動的に選ぶことができる。カトリック関係の番組も放送されている。このことは、まだよく知られていない。また、宗教番組だけではなく、すばらしい番組もたくさん放送されている。良い判断をするためには、まず、プログラムを知ることが必要。

親の役割

今年は国連の定める「国際家族年」。教皇ヨハネ・パウロ二世はこのことにたびたび言及している。家庭づくりのカギを握るのがテレビということができる。今回の教皇メッセージで特に注目されるのは、番組の内容とは無関係に、テレビそのものが家族の一人ひとりを自分の世界に孤立させ、やがては親子の対話の断絶を招く恐れがあると憂えている点。両親は「子どもたちがテレビを見る量と質を適正にするよう導く」必要がある。

見る・聞く 読む・参加する

広報の日を機会に、次に紹介するテレビ番組を見、ラジオ番組を聞き、本を読み、研修会に参加してはどうだろうか。



▼テレビ番組

「心のともしび」(15分間)
西日本放送　(土) 7時30分
福岡放送　(土) 6時30分
　(日) 6時15分
熊本県民テレビ(土) 7時30分

▼ラジオ番組

「心のともしび」(5分間)
RKB毎日(月～金) 5時50分
　(日) 6時00分
熊本放送　(月～金) 23時20分
　(日) 24時00分
長崎放送　(月～金) 5時25分
　(土) 6時35分

「太陽のほほえみ」(5分間)
熊本放送　(日～金) 6時05分
長崎放送　(月～金) 5時15分

※プログラムの内容はカトリック新聞に毎週掲載。

▼推薦図書

カルロ・マリア・マルティーニ著／今道瑤子訳「だれが私に触れたのか―個とマス・メディア」女子パウロ会 二一〇〇円。テレビとの対話の形をとって書かれたユニークな書。マス・メディア、特にテレビとの付き合い方に触れている。著者はイタリア、ミラノの大司教で枢機卿。

▼カトリック新聞購読者数

・福岡県546人(676部)
・佐賀県　32人(156部)
・熊本県148人(185部)

[4月12日現在]

教区内の信者総世帯数は約一万。新聞の購読部数は約千部。一割の家庭がカトリック新聞を購読していることになる。この数は多いといえるだろうか。

▼カトリック福岡教区報

発行部数は約六〇〇〇部。二年前から購読料は無料になっているが、作成・印刷費用は信者が収めている教区費から捻出されている。一人でも多くの信者の手元に行き渡るよう、関係各位の努力と工夫が求められる。

▼教区広報研修会

詳しくは6面参照。広報の日にあたり、教会における情報伝達の現状を理解するのが目的。各小教区の広報担当者以外の参加も可。参加者にはカトリック中央協議会広報部発行のパンフを配布。

第28回「世界広報の日」
教皇メッセージ(抄訳)

テレビと家庭

―よい視聴のための指針―

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

この数十年、テレビは、家庭生活に深刻な影響を与えてきました。テレビは、家庭生活を豊かにします。家族のきずなをより強くし、他の家族や地域社会との連帯感を養い育てます。また、一般的な知識だけでなく、宗教的知識を増やし、神のことばを聴き、宗教的自覚を深め、その道徳的、精神的生活を豊かにもできます。

しかし、テレビは、家庭の生活に害を与えることもあり得ます。性描写や残忍な暴力描写、道徳的相対主義や宗教的懐疑、事件や時事問題をゆがめ、操作された解説を広めたり、人間相互の尊厳、正義と平和の実現をさまたげる誤った人生のビジョンをたたえること、などです。

番組自体は道徳的に反していなくとも、テレビは、親を子どもから、子どもを親から遠ざけることによって、家庭に消極的な影響を与えることがあります。

国連の「国際家族年」にあたる一九九四年、「世界広報の日」のテーマ「テレビと家庭―よい視聴のための指針」において、私は、特に親の責任、テレビ界、公共機関そして教会の司牧的教育的任務にたずさわる人々に焦点をあてたいと思います。

神は、両親に、彼らの子どもたちが、「小さいときから真理を求め、真理にしたがって生き、善を求め、育まれる」(一九九一年『世界平和の日』教皇メッセージ3)のを助ける重大な責任を負わされました。子どもたちが、「すべて真実であること、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて名誉なこと、すべて名誉なこと」(フィリピ4・8)を大事にするよう導くのは、両親の義務です。

両親は、子どもたちのテレビを見る習慣が健全に発達するよう導く、人間的で道徳的、宗教的な習慣が形成されるのを積極的に助けるべきです。子どもたちがテレビを見る量と質を適正にするよう導き、番組の中の倫理的価値観を見抜き、判断しなければなりません。

子どもたちのテレビを見る習慣を形成するということは、ある時はテレビを消すことを意味します。なすべきもっとよいことがあったり、他の家族への配慮から、それが必要であったりするからです。テレビを子守代わりにする親たちは、その子どもたちの最初の教育者としての役割を放棄するものです。

親たちはメディアの経営者と制作者への関心を怠ってはなりません。場合によっては、メディアに対して、スポンサーや広告主、そして公的機関に対して、彼らの利害を代表する協議会を作って互いに連携することが望まれます。

・・・　・・・

テレビ関係者は、視聴者の大部分を占める家庭への責任を負っています。テレビ界で働く人々は、プロとして、また個人的にも、社会の基礎となる愛と連帯の共同体である家族にかかわりをもつように求められています。テレビ番組で、人生の意味についての重大な問題などを扱う際は、事実を常に心にとめ、社会の共通善を求める真摯な配慮が求められます。「真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネ8・32)とイエスは言われました。テレビ局の倫理コードには、家庭生活を支える諸価値の促進が明記された項目が含まれていなければなりません。テレビ界と一般市民をメンバーにした「メディア協議会」は、番組を視聴者の要望と評価によりよくこたえる極めて望ましい方法です。

・・・

教会は、知識や情報の自由な交換が大切であることを認め、言論と出版の自由を支持しており(『現代世界憲章』59参照)、「個人と家族と社会のプライバシーの権利や礼儀作法、そして基本的諸価値の保護」の尊重も重要視しています(教皇庁広報評議会『メディアにおけるポルノグラフィーと暴力』21参照)。メディア教育や映画や番組の評価を教会関係の組織が受け持つことは、家族へのすばらしいサービスです。

放送に携わるプロは、子どもたちや青年への人生の意味の表現を職業にしているのですから、人間と家庭生活の完全な意味を説き、倫理的宗教的原則の理解の手助けをしている教会司牧から学んでほしいと思います。

結婚に基づく家庭は、神が「社会の自然かつ基礎的な集団単位」(『世界人権宣言』16条3項)とされた人間のかけがえのない共同体です。テレビなどのコミュニケーション・メディアは、多くの家庭の連帯と社会への奉仕精神をさらに強めます。テレビがこの共同体に今まで果たしてきた貢献と、果たされる未来に感謝します。

「世界広報の日」にあたり、神のみ言葉とイエス・キリストの真実と愛の中にある共同体そのものである教会は、家庭とすべてのメディアそして公的機関が自らの崇高な多くの使命を現実のものとして受けとめ、社会の初めであり、生き生きとした共同体である家庭を力づけ、家庭に貢献するように勧めます。

一九九四年一月二十四日
バチカンから
ヨハネ・パウロ二世

前ページ「家庭と宣教」

＊注

(1)「NICE・2における濱尾文郎司教の基調考察―家庭を取り巻く社会の現実」(『カトリック新聞』一九九三年十一月十四日号、十一月二十一日号、十一月二十八日号)参照。

(2)教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的勧告『家庭―愛といのちのきずな―(Familiaris consortio)』18。教皇や司教は、教会の指導者としてキリストの教えを伝えたり説明したりする、教導権の責任をもっています。公会議や教皇の教えは、今この世界のなかで、キリストがお望みになることを示すものですから、信者はこれを真剣に学ぶことによって、そこから多くの光を得ることができます。なお、家庭を取り巻く社会の構造に関する問題については、教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『真の開発とは―人間不在の開発から人間尊重の発展へ(Sollicitudo rei socialis)』をはじめすとる数々の社会回勅の学習が有益です。

(3)同17参照。

(4)同49。

(5)福音宣教についての教会の教えを学ぶことが大切です。とくに次の二つの公文書、教皇パウロ六世使徒的勧告『福音宣教(Evangelii nuntiandi)』、教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『救い主の使命(Redemptoris missio)』を学習するようお勧めします。

――――――――

この司教団メッセージ「家庭と宣教―家庭を支え福音を生きる教会共同体の実現をめざして」は、カトリック中央協議会から発行(頒布価一〇〇円・税込み)。資料として第二回福音宣教推進全国会議の答申「展望―福音宣教する日本の教会の刷新のために―」も掲載されている。〔注文・問合先〕カトリック中央協議会 ☎03―5632―4411

宣教と輝き

ある教会でミサに与った。そのミサの説教で主任神父様が「…皆さん持って帰って下さい。残しても利子はつきません」と声高らかに叫んだ。何のことかとよく聴いてみると、「カトリック精神と霊性」を教会に残して帰る人が多いらしい。そういわれると他人事ではない。教会に入るときは、カトリック者として入るが、そこから出るときには、カトリックの精神をすでに忘れ、あるいはそこに残して自分の生活（社会、職場）に戻ることがしばしばあるのではなかろうか。

復活されたキリストは、私たちに繰り返し求める。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16・15）。私たちは日曜だけの信者であってはならず、常にその具体的日常生活を通してキリストを証しする宣教者でなければならない。

キリストとその教えを十分に知らない私たちは、キリストを生活の中で証できるのであろうか。確かに、キリストをその教えを知らなければ、生活にその教えを生かせないし、従って、キリストを証しすることは困難であるし不可能でさえある。しかし、宣教は単にキリストとその教えを言葉で宣べることだけではなく、その「教えに生きる」ことでもある。私たちはキリストの教えに生きるに十分な知識と力を持っているし、そして今それに生きようと努めている。私たちに今できる宣教は、キリストの教えに生きるという生活の中での「輝き」なのではないだろうか。

先日、私の部屋の電球が切れた。電球がついているときには何も思わないが、切れると不自由さを感じるものだ。私たちができる宣教はこのようなものなのかも知れない。目だつ「輝き」ではなく、そっとまわりを明るく照らし、真理を見いださせ、暖かく包む電灯の如き「輝き」による宣教なのではないか。

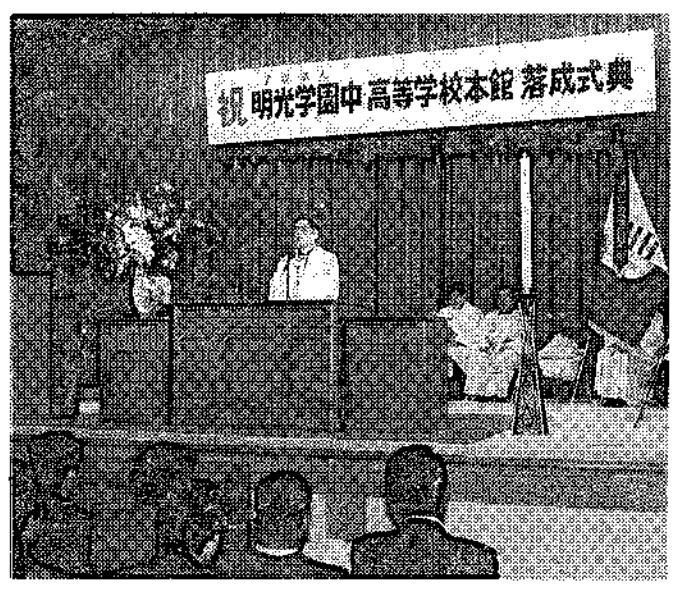
パウロは言う、「キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています」（コロサイ1・24）

私たちもキリストの、隣人の苦しみの欠けているところを、この身で補える者になりたい。これが今、私たちが出来る小さなキリストの証なのではないだろうか。

サン・スルピス大神学院　大山　悟神父

喜びと感謝
明光学園新校舎祝別落成式

神の恵みにより、大自然に陽春みなぎり、生命の息吹と復活への喜びに溢れる三月二十九日、福岡教区長松永久次郎司教様の司式により、明光学園増改築祝別落成式が挙行された。管理棟・静修室・食堂・図書館・身障者用エレベーター・諸特別教室等の祝別後、新大ホールに於いて荘厳にみ言葉の祭儀による式典が行われた（＝**写真**）。



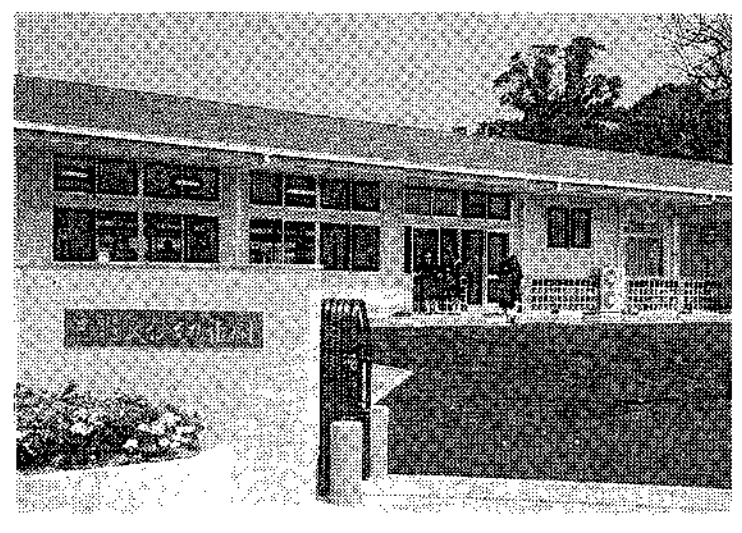
司教様からの祝辞は「神の知恵、知識に基づいた愛深い人、自分の人生を豊かにし周りの人も豊かにする人を育てる学園の発展を祈ります」と九百人の列席者に深い感銘を与えた。宮脇寃子校長は「素晴らしい新校舎に対する神と人々への喜びと感謝」を述べ、生徒代表の浜地恵子さんが「新校舎で学べる喜び、勉学への精進の決意」を宣言して挨拶。最後に全校生徒が明光オーケストラ伴奏による「ハレルヤコーラス」の大合唱と感謝。①丘の上に立つ②伝統ある③キリスト教の④新しい⑤女子の⑥学校という設計コンセプトが見事に実現され、二十一世紀を展望する教育環境が整備。これを契機に生徒、職員が心を一つにして創立の理念「愛と奉仕の全人格教育」を刷新し邁進することを誓い、感謝の中に使徒活動に前進中である。

明光学園理事長・吉田文子

桜の下で　新園舎落成式
—吉野天使幼稚園—

四月四日、吉野天使幼稚園の新園舎落成式が松永久次郎司教様をはじめ、神父様方、新築にあたった工事関係者、創立当初より関わりある先生方、保護者会の方々などの参列のもとに行われました。

明光学園高校生によるオーケストラ演奏の中、松永司教様司式のもと、無事工事が完了した事を神様に感謝し、これから新園舎で生活する子どもたちや教員が神様の愛で満たされ、健やかに成長するよう祝福がありました。



春陽あびる新園舎

来賓挨拶では、初代園長山川辰幸神父様が当時を思い出し感慨深げに話されました。

その後の祝賀会は、和やかなうちに進み、特に歴代の先生方が、何年、何十年ぶりに再会され、お互いの近況を語り合われたり、当時を思い出したりして話がつきないようでした。

お越し頂いた方々から、「うらやましい」「子どもたちは幸せですね」という声や激励の言葉もたくさん頂きました。今後共、皆さんの期待に添えるよう頑張っていきたいと思います。

落成式に出席できたことは幸せです。たくさんの人々が幼稚園のために力を注いで下さっていることを心から実感することができました。

教諭・西高恵美

熊本地区　分かち合いを実践
—ナイス報告会—

四月十七日、第二回福音宣教推進全国会議（NICE・2）の報告会が健軍教会で行われ、県下の信徒約百四十人が参加した。主催は熊本地区信徒使徒職協議会。

山元眞神父の経過報告に続き、熊本・福岡地区の全国会議参加者四人がこの二年間の取り組み、出会い、思いを報告した。その後「ナイスの心を受けて」のテーマで二人の信徒が意見を述べ、さらに「私はこう変わりたい」を中心テーマに分かち合いを行った。

山元神父はこれまでの経過説明の後、答申に対する司教団文書「家庭と宣教」の内容にも触れ、「司教団は現実の中で生きている信徒の姿を評価している。信徒は自信を持っていいのではないか」と語り、もっと自分の現実を分かち合うことを勧めた。

意見を述べた矢部由子さん（武蔵ヶ丘）は「普段の生活を見直し、み言葉を聞くだけでなく行う人になろう」と呼びかけた。また高木光行さん（島崎）は、父親として自尊心を次々とはぎとられ、十字架のはだかのキリストに改めて出会った過程を述べた。



分かち合いのグループ

会は終始打ちとけた雰囲気の中に進められ、ユーモアにあふれた話に場内は大いに湧いた。分かち合いも和やかに行われ、最後に、この報告会を今後の活動の出発点とすることを確認し合った。「肩の力を抜き、心を開いて自分の弱さを語り合おう」とのメッセージが印象的であった。

地区信徒協書記・長浜　聡

久留米信愛女学院幼稚園
幼稚園のできごと

本園へは三年程前から久留米JRと西鉄の両駅から「信愛女学院」行きの市内バスが発車しています。春は花々がいっぱい咲き乱れ、夏は緑の木陰を提供し、秋は紅葉の美しさで彩り、冬は実の熟すのを待って野鳥が飛び交う自然に恵まれた環境にあります。

今春第六十三回目の卒園式を迎えましたが、これまでの卒園児は七千三百二十一人を数えます。

毎年二月に行われる年長児ドッジボール大会は、八チームに分かれてのトーナメント方式。どのチームも見事なチームワーク。リーダーの具体的な指示と熱気渦巻く練習。一人ひとりの力が発揮されながら協力する姿。スピードのある強いボールの投げ受け。応援に駆けつけたお父様、お母様の歓声が沸き上がります。両チーム、目の離せない強烈な試合が繰り広げられました。

今年は晴天に恵まれ風もなく、子供たちは朝からワクワクした表情で、その緊張ぶりは五歳児とは思えないものでした。○○チームの○○君のボールの投げ癖や強さ加減など、お互い細かく観察し合っています。

試合当日、代表者が籤を引いて相手チームを決めます。「○○チームと一回戦で当たりたくないね」「相手は手ごわいぞ！相手が疲れた頃に当たりたいなあ」等々の声が聞こえました。あるチームは連続一時間十分もの間、すごい迫力で、顔や手足を泥だらけにし、勝敗を競っていました。待ちに待った結果発表。跳び上がって喜ぶ子供、悔し泣きする子供たちの姿が見られました。

どのチームも力を出し切った充実感と深い絆に結ばれての喜びの表彰式。敵も味方もなく平和な喜びが、音楽と共に、園庭いっぱい流れる素晴らしい一日となりました。

主任・押川リンコ

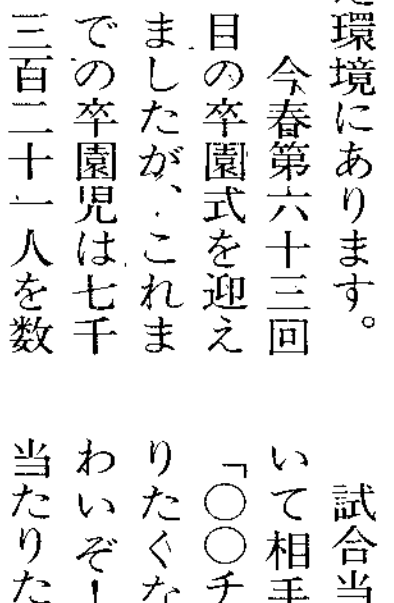
佐賀地区　「国際家族年」にちなんで
—人生講座—

佐賀教会（マルコ・ターディフ神父）では五月十二日から七月七日まで、第九回「カトリック人生講座」を開く。

この講座はすでに九年目を迎え、開かれた教会の象徴的な企画として関心を集めている。今年は国際家族年にちなんで「家族」を主なテーマとして取りあげたところが特徴。講座は毎木曜日に昼夜二回同一内容で開かれる。会費は三千円。申込先は佐賀教会 ☎0952－23－4754

BOOK 読みま専科

★コルベ　川下　勝著

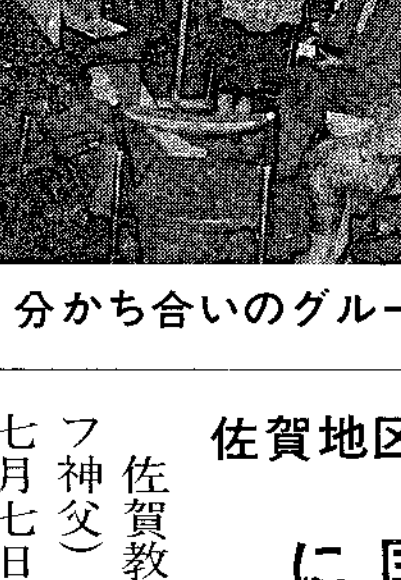


本書は世界の著名な思想家の生涯を、社会的背景にふれながら興味深く描き、その思想を分かりやすく紹介、解説する「人と思想」の中の一冊である。

マキシミリアノ・コルベ神父の生涯を、宗教家でありながらも、先端の機械文明と情報機能を自己の信念の実現のためにいち早く取り入れた、時代を先取りする人、人間の尊厳を否定する死の収容所にあって、身代わりの死を遂げた愛の殉教者、現代の苦悩を私たちとともに担った生身の人間として紹介している。

◇清水書院　六二〇円◇

★ひとりきりのとき人は愛することができる　A・デ・メロ著　中谷春代訳



東洋と西洋の霊性の統合で顕著なデ・メロ師の回想録・自叙伝ともいえる。師が晩年導かれた苦しい道のり、黙想の一つひとつが描かれ各黙想を聖書のみことばで始めている。「愛は存在そのもの」「愛には対象がない」と愛という神秘をかいま見ることができるように手をかしてくれる。

女子パウロ会　一四〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

5・6月の行事

※ゴチックは司教日程

5月

2日　クルシリヨ（～5日）
8日　広報の日（献金）
行橋教会堅信式・広報研修会
13日　聖書講座①
15日　主の昇天
教区修道女連盟研修会
Sr.根岸講演会〔小倉〕
18日　助祭司祭候補者認可式
20日　聖書講座②
22日　聖霊降臨の主日
教区信徒協役員会
27日　聖書講座③
29日　三位一体の主日
吉塚教会ナイス報告会

6月

3日　聖書講座④
5日　キリストの聖体
10日　イエスのみ心
聖書講座⑤
12日　**手取教会堅信式**
典礼・聖歌と祈りの集い
13日　**教区内司祭研修会**（～15日）
17日　聖書講座⑥
19日　**西新教会堅信式**
20日　**定例司教総会**（～25日）
24日　聖書講座⑦
26日　聖ペトロ使徒座（献金）
新田原教会信徒研修会
29日　聖ペトロ・聖パウロ

▽福岡黙想の家

2日～5日　福岡教区クルシリヨ
13日～15日　カノッサ在世会黙想会
19日　日本聖公会婦人会
21日～22日　祈りの会

■**福岡結婚準備セミナー**　5月7日より毎木曜・土曜日（計8回）〔場所〕カテドラルセンター〔問合先〕ファミリーセンター☎092－541－6207

■**広報の日研修会「教会における情報の伝達」**　5月8日（世界広報の日）14時～16時半〔場所〕カテドラルセンター〔目的〕教会における情報伝達の現状を理解し、各小教区での対応を考える〔対象〕各小教区広報担当者・その他どなたでも〔講師〕山元眞神父他〔参加費〕一〇〇〇円〔問合先〕教区本部広報部☎092－522－5139

■**熊本結婚準備セミナー**　5月9日より毎月曜・水曜日（計8回）〔場所〕手取教会〔問合先〕同右☎096－352－3030

■**聖書講座【ヨハネ福音書】**　5月13日(金)19時～21時（以後毎週金曜日同時間7月15日まで10回）〔受講料〕一括五〇〇〇円・一回毎八〇〇円〔申込・問合先〕教区本部事務局☎092－522－5139
〔テーマ・聖書章節・講師〕①序〔1・1～18〕山元眞②洗礼者ヨハネの証しと最初のしるし〔1・19～2〕中村彰③ニコデモ、サマリアの女との対話〔3～4〕松井忠之④ベトザタの池の病人のいやし〔5〕牧山勝美⑤命のパン〔6〕川上惣一⑥生きた水〔7〕平田寛⑦イエスは世の光〔8〕森山信三⑧盲人のいやし〔9〕同右⑨イエスは良い羊飼い〔10〕大水幸一⑩ラザロ、生き返る〔11〕松永久次郎司教

■**典礼・聖歌と祈りの集い**　「…まず、現行の典礼の精神と法規を学ぶことはたいへん有益です。また、すでに全国で行われているさまざまな試みの分かち合いを行うことも大いに勧められます。」（司教団文書「家庭と宣教」）15回目を迎えるこの集いは典礼聖歌の研修を通して、歌いながら、祈りながら行われるユニークな典礼研修会です。
6月12日(日)14時～17時半〔場所〕福岡黙想の家〔お話〕鈴木忠一神父〔聖歌指導〕深堀純氏〔会費〕一〇〇〇円〔主催〕福岡典礼聖歌研究会

■**第4回カトリック愛と性を考える研修会**　7月10日(日)〔会場〕戸畑明治学園〔テーマ〕家族のきづな、いのちと性〔講師〕ヨセフ松永久次郎司教〔連絡先〕カトリック・ファミリーセンター☎092－541－6207詳細は次号で

■**第8回聖霊による刷新九州大会**　7月24日(日)～26日(火)〔会場〕熊本交通センター・ホテル〔指導〕ラバリー神父（聖コロンバン会）〔特別講師〕松永久次郎司教〔定員〕二〇〇人・定員になり次第締め切ります〔問合先〕教区本部・Br.床島・杉山☎092－522－5139

ミニ情報

■**美野島司牧センター**　4月1日から福岡市博多区の旧福岡カトリック幼稚園跡を利用して、外国人のための司牧センターができました。相談を受け付けています。☎092－431－1419（担当はマルセル・コース神父）

■**雨宮慧神父ラジオに出演**　NHKラジオ第二放送「こころをよむ」で四月三日から出演。〔題〕「旧約聖書の預言者たち」〔テキスト〕同題でNHK出版から。上巻七五〇円。下巻は六月に発売予定。〔放送日時〕毎週日曜日午前11時15分～12時〔再放送〕同週火曜日午前11時～翌週午後11時15分～／九月まで放送予定。

■**Sr.根岸講演会**　5月15日(日)13時～15時（予定）「人々に手を差し伸べ神のみ旨を行う人、これ私の兄弟であり、母である。」Sr.根岸は日本のたくさんのキリストと歩む家族に支えられ、遠いアフリカのシエラ・レオネで他の日本人シスター二人と共に援助活動に携わっておられる。そのシスターが三度目の休暇で、12月27日に帰国され、多忙の中、小倉教会にも足を運んでくださる。この機会に、より多くの方々にお話しを聞いていただきたい。〔場所〕カトリック小倉教会〔講演テーマ〕日本のシエラ・レオネ援助がもたらした実り〔参加費〕無料・援助募金あり〔問合先〕中村神父☎093・921・0093

■**召命祈願ミサ**　松永司教様司式の召命祈願ミサをはじめ、様々な企画を準備しております。〔日時〕6月26日(日)午後〔場所〕カテドラル〔主催〕召命を共に祈る会

■**教区ハンドブック'94**　信徒の心得・カレンダー・教会、修道院や事業所の住所等の情報を集めた小冊子・B6判47ページ・カレンダーは予定の書き込みが可能・非売品（一冊一〇〇円の献金）ぜひ一家に一冊お持ち下さい。各小教区にあります。
（本部事務局）

■**教区ハンドブック'94の追加訂正箇所**　関係者の方々にはご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正いたします。
【追加】27ページ8行目「ペトロ青木悟　在イタリア」／28ページ5行目「01－03－1）美野島（巡）イエスのみ心＊土20時」／【訂正】4ページ4行目「徳に」→「特に」／28ページ21行目「大字久保19－02－4」→「花見東2－23－1」／29ページ22行目「地区婦人会」→「福岡地区婦人会」／32ページ19行目「美野島外国人司牧センター」→「美野島司牧センター」／33ページ8行目「第4日」→「英第4日」／34ページ1行目「両3日」→「西（スペイン語）第3日」／同19行目「八王寺」→「八幡」／41ページ16行目「5335」→「5355」／同18行目「3541－53335～8」→「3521－9078」
（本部事務局）

■**健軍教会にFAX導入**　096－368－1046

■**終生誓願式**　5月29日(日)正午〔場所〕カトリック湯川教会〔誓願者〕深堀美智子（天使の聖母宣教修道女会）参加自由です。

5月命日の司祭

†フェルナンド・チリ司教（パリ外国宣教会）
一九三〇年五月十日
初代福岡教区長
†フランソワ・ルマリエ師（パリ外国宣教会）
一九四五年五月五日
元八代教会主任
†ヨハネ棚町正刀師
一九六八年五月十五日
元茶山教会主任

編集室から

『こいのぼり』が泳いでいる。年に一度の出番である。人から注目され、喜ばれる。それが済んだら、また丁寧に保存される。神から泳がされている私たちは、回りの人からいつも「ほほー」といわれる位の信者でありたい。教区報が『のぼり』の一角を担えるなら。



四十二年間の司祭生活を反省しているわたしの心に厳しく迫る天の声は、「わたしの言葉を聞いて、それを守らない者がいても、わたしはその者を裁かない。わたしは、世を裁くためではなく、世を救うために来たからである」（ヨハネ12・47）とのみ言葉かも知れない。過去、現在を通しての意識行動の中に、救う司祭ではなく、裁く司祭に重きを置いてきたことはなかっただろうか。信徒を司牧する一人の司祭が、司祭対司祭の関係にあるかのような対応をしたときに、恐い司祭、信徒とは別世界の人にみえてくるにちがいない。信徒の目線の高さで教え、話し、接することも大切であろう。家庭を持たない司祭にとっては、円満な家庭生活を語ることは簡単であろうが、親子、夫婦の引き裂かれた現実を知ったとき、どんな特効薬があるのだろうか。結婚準備講座に参加した一人の信徒にわたしは質問した。秘跡はいくつありますか―三つです、の答え。みなさんはその信徒をどのようにごらんになったであろうか。わたしは甘い対応だったかもしれないが、三つも知っていたことをほめてあげた。しかし、正解が七つと説明をうけたとき、かれは赤面して下を向いてしまった。ここで雷が落ちたならば、その信徒は、結婚式後、教会に姿をみせたであろうか。ときどき、教会詣でをしているかれを見て、いなか司祭は胸を撫で下ろしている昨今である。

「司祭の役務と生活に関する教令」（第一章十九―二十一）によれば「司祭は地上の生命とは違う生命の証人および管理者であるのでなければキリストの役務者であることはできないが、人々の実生活と生活条件には関係がない人間としてとどまるならば、人々に仕えることはできない。司祭の役務そのものは、司祭がこの世に従うべきではないことを、特別な理由をもって要求する。しかし、それは同時に、司祭がこの世の中で人々の間に生活し、よき牧者として自分の羊たちを知り、この群れに属さない羊をも導いてキリストの声を聞かせ、一つの群れ、ひとりの牧者となるよう努めるべきことを要求する。」との檄を飛ばしている。罪を除いては、すべてにおいてわたしたち兄弟に似た者となられた主イエスに比して、罪に翻弄（ほんろう）されるわたしたちは、ひとすじに神と隣人に心を開き、神を静かに眺める、救う司祭でありたい。

久留米教会・山田成章

主の道を求めて

礼拝会

会の正式名称は、「聖体と愛徳のはしため礼拝会修道女会」で日本では礼拝会です。

一八五六年聖マリア・ミカエラによってスペインのマドリッドで創立され、聖体に現存するイエスの継続礼拝と売春によって疎外され、搾取されている女性と他の隷属の犠牲者の解放と向上につくすことを目的としています。

主にスペイン語圏で活動し、アジアでは日本とインドだけです。第二バチカン公会議後、修道会も見直され、今ではスペイン、ポルトガル、ドミニカなどではエイズや麻薬患者を対象とする小さい共同体が再編制されています。日本では横浜で、女性の緊急一時保護施設、大阪の阿倍野に更生保護の小さなグループ。東京の練馬に養護施設出身者のアフターケア施設があります。

福岡の共同体が創立された目的は、召命のためでした。そろそろ十五年になろうとしていますが、大きな実りはまだ見えていません。これもわたしたちの生き方が問われているのではと問いかけつつ、四十二人の寮生と大名町教会での働きの場を通して、物質主義化された現代社会において、福音を伝え、キリスト教的価値観のパン種になるようにとの呼びかけに応えようとして働いています。
（最終回）

このシリーズは終了します。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区淨水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

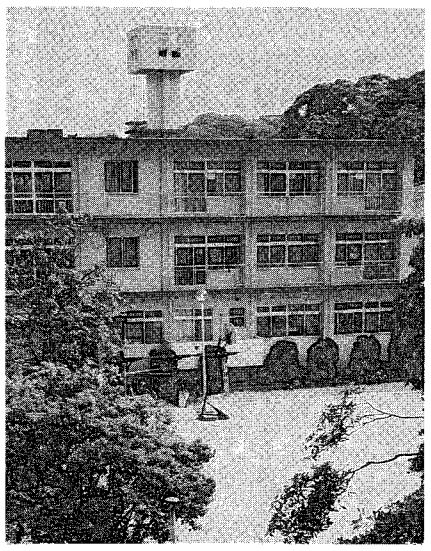
あなたがたは
世の光である。
（マタイ5・14）

鹿島教会　L・マネルバ神父

召命祈願

主のぶどう園に働き人を
6月26日にカテドラルでミサ

今後は一小教区一司祭の時代が終わり巡回教会が増えていくなど、折から司祭、修道者の召命不足が叫ばれている。熊本地区では新たに「召命を祈る集い」が一年を通して企画されるなど、教区内での召命の関心も高まってきた。そういう流れの中で、六月二十六日にはカテドラルで松永久次郎司教司式の召命祈願ミサも計画されている。より一層の祈りが期待される。



改称した福岡カトリック神学院

有志の司祭、修道者から成る「召命をともに祈る会」（代表・森山信三神父）では、召命徹夜祈祷会やウォーカソンなど、召命の促進を願いながら様々な企画をしているが、来る六月二十六日午後二時から、カテドラル大名町教会で「召命を考える集い」を計画している。

この集いは、教区司祭、神学生、男子修道会、女子修道会から召命についてのばだけで会話がない。②日曜日のミサにあずかることを嫌うようになる。③休日に子供と遊んでくれない。④嫁と姑の関係。特に孫に対して溺愛する。⑤どうあっても離婚はできない。

このような悩みを聞き、私は日本人の風俗、習慣、考え方について述べ、いくらかの理解を得てもらった。

遠い異国に来た彼女たちの憩いの場は教会であり、ミサにあずかることであり、タガログ語で自由に話し合える仲間との集いであろう。

現状報告を受け、参加者ともに召命の未来について考えるもの。さらに、そのまとめとして松永久次郎司教を中心に感謝の祭儀を執り行い、主のぶどう園に働き人を送ってくださるよう、心を一つにして祈る。多くの信徒、修道者、司祭の参加が望まれている。

また、福岡教区修道女連盟（会長・Sr.黒木紗耶子）は、五月十五日の総会で、「教区共同体」としての意識を高めるために、教区の召命促進運動に積極的に協力していくことを今年度の目標として掲げている。

熊本地区では「召命を祈る集い」（代表・大水幸一神父）が新たに発足し、特に、熊本市内の信徒、修道者に積極的な参加を呼びかけている。

今、教区共同体が一丸となって司祭、修道者の召命を祈ることが求められている。

時の話題

フィリピン女性にやさしさを

斎藤　正道

先日の名古屋空港での航空機墜落事故の記事の中で、比国出身の日本人の妻が亡くなり、葬儀が教会で行われ、奇跡的にも彼女の二人の男の子が重傷を負いながらも助かったという。

現在この地方都市でも比国人を妻に迎えるというケースが出てきている。

「ファーザー」。私はある日、教会に来た若い母親から声をかけられた。彼女がまだ乳児であった男の子を抱え、日本人の夫と教会を訪れ、結婚、洗礼を望み、代父をつとめたことを思い出した。

夫はまじめに働いてくれているとかで幸福そうであり、私は内心喜んだ。

さて、私は先年熊本市で、日本人と結婚し子供を抱えている比国の女性グループと語り合う機会があった。

「釣った魚には餌はいらない」一人の女性から出たことばに驚いた。また、「日本人は結婚前はとても優しいが、その後は冷たい」という話。わけをたずねると、①帰宅後は「風呂、飯、寝る」のこと

「クムスタカ（お元気ですか）」と問えば、必ず「マブチ（元気です）」と笑顔が返ってくる。私たちの教会の集会所でもお茶をすすめることがある。

私たちよりもより熱心な信仰をもち、幼い頃から両親とともに教会で祈りを捧げた仲間である彼女たち。

日本に来て、同じ宗教を信じる集団、教会があることに心の支えを見つけてほしいと思う。

国際親善という大きなスローガンでなく、まず近くから彼女たちをみつめてあげたいと考えている。

（八代教会）

ヨリ　クルシリヨ

聖霊に満たされた日々

昭和四十三年にはじまった福岡教区クルシリヨは、今年で三十三回を迎え、超大型連休の最中に、福岡黙想の家で開かれた。

近年のクルシリヨは、年ごとに参加者が増えはじめ、今回は十八年ぶりに三十七人と多くの参加者があり、しかも累計数も千人に達するなど、エポックを画したクルシリヨであった。

第二バチカン公会議で信徒の使徒職に関する教令が出され、「信徒の働きがなければ、教会が現存して活動することは、ほとんど不可能に近い。」（教令・序一）と訴えており、信徒の責任感と自覚を促し、キリストと教会への奉仕に向かうように求められている。クルシリヨは、この要請にも応えるべく、信徒の養成、研修の役割を担っており、松永久次郎司教をはじめ、多くの司祭の期待にそえるようにスタッフ一同努力を続け、五月五日の最終日に、参加者全員が「神に感謝」と心からの叫びにも近い、はつらつとした声を残し閉会した。

なお、参加者のなかから多くの司祭、修道者の召命が芽生えている。

今回参加者の数人の方の所感を紹介し、報告にかえさせていただきたい。

『神学生として信徒の皆様の生の声、思いや悩みを直接聴き、共に考え、分かち合えたことは大きな刺激でした。これからは多くの人の声に耳を傾けながら司祭職を準備していきたい』（大神学生）。

『すばらしい世界でした。これからは勇気を出して小教区で、社会の中で働くことを誓います。』（主婦六十歳）。

『社会的な地位や年齢などの壁を越え、子供のように自由な心になっていくのです。



集い、喜び、伝える人々

助祭・司祭候補者認可式

主の祭壇めざして

五月十八日、福岡サン・スルピス大神学院（院長・高見三明師）にて助祭・司祭候補者認可式が荘厳に行われた。

認可を受けたのは、長崎大司教区の一ノ瀬輝幸、川口昭人、岡秋美、山田良秋と大分司教区の上田徹（新田原教会）神学生の五人である。司式した長崎大司教区の島本要大司教は「今日の式は志願者が将来聖職に就くことを教会が公に認可するというものです。神と人とに喜んで仕えていく準備が十分になされるように」と激励した。

候補者の兄弟の一人は「祈り続けたい」と語った。

大神学院入学



藤渕邦大（くにひろ）神学生

昨年度一年間、カトリック神学院で準備をしていたペトロ藤渕邦大さん（28歳―小倉教会出身）が福岡サン・スルピス大神学院の哲学科に入学した。本人は「先の長い道程です。今後ともお祈りで支えてください」と語っている。

終生誓願式

シスターになった！



Sr.深堀美智子

五月二十九日、聖母月の最後の日曜日、三位一体の主日に、天使の聖母宣教修道女会（本部・静岡）のマリアSr.深堀美智子が湯川教会（北九州市小倉南区）で教区長松永久次郎司教司式のもと、終生誓願を立てた。Sr.深堀は長崎大司教区の浦上教会出身。一年間カナダに滞在し、その後三カ月のペルー生活を経て今年度から同修道会の小倉修道院に所属。湯川教会の司牧補助をしている。

これに先立ち、四月十日には武蔵ヶ丘教会熊本）で主任司祭H・オカロール師司式のもと、クララSr.松山浩子が終生誓願を立てた。



Sr.松山浩子

Sr.松山は同教会出身で、幼きイエズス修道会（本部・宝塚）所属。入会前からアフリカでの宣教を望んでおり、今回、終生誓願宣立準備のために、チャドから一時帰国。一年間の修練期間を日本で終えた。現在、フランスで語学研修をしており、再びアフリカに戻って、チャドにある信愛幼稚園の教諭をする予定。熊本信愛女学院の卒業生。

これからは私の方から心を開いて人々との出会いを大切にしていきます』（会社員）。

クルシリヨ事務局

みちくさ

役所に行った。受付が四カ所あり、いずれも行列ができていた。私も並んだ。なかなか前に進まない。中には雑誌を見ながら並んでいる人。子ども連れの人。じっとできない子を時々たしなめている。ある人は待ち長いのかぶつぶつ言っている。新婚の夫婦は一緒にいるからか、にこにこしている。ある人が素通りして受付に何やら大声でどなっている。「そっちのミスだからちゃんと処理しなさいよ」。

「すみません」と平謝りする受付の人。また、長く待てないで時計を見てつぶやきながら帰る人。いろいろである。私のすぐ前には小学生の男の子。と思ったら、お母さんがやって来た。「ぼく、ありがとう。助かったよ。これ買って来たよ」とその子にアイスクリームを手渡した。「そうか、母親の代わりに並んでいたんだ」と納得▼立って待つこと約一時間。忍耐の限度である。私も代わってもらいたかった。ふと受付の後ろのポスターが目に入った。「平和を愛する人」という大きな文字が書いてあった▼『救いの時』にもこうやって並ぶのだろうか。いや今並んでいるのだ。受付は主イエス。受付けてもらえるまでどのようにして待つのか。ただぼーっとして待つのか。「早くして」とせがみながらか。遅いのをぶつぶつ言ったら、よい受付はできないだろう。せめて霊的な本ぐらい読んでいれば少しは価値ある時間にできるだろう。とはいえ、救いを自分の代わりの人に頼むわけはいかない。いつ来るか判らない救いの受付のために心の準備だけは怠らないように。申請書には生きて来たことの記入ミスはないだろうか。少なくとも全てをご存じのイエスの方にはミスはない。

【S】

生かして生きる

ある時、父は庭の石垣を築きながらいった。「人はこの石のように生きなければならない」。「石が生きる」という意味を理解できず不思議な顔をしている私に父は、「丁度、小石が大きな石を固定しかみ合わせを可能にするように、他人様の役に立つものになるということだ」と説明してくれた。父にとって「生きるとは生かす」ことだったようである。

人は生きるために苦労し、汗を流し、精を出して働き、自分の力で立とうとする。そしてあたかも自分の足だけで立っているかのように思いあがる。大地が足を支えてくれていることを忘れて…。

人はあたかも石垣の大きい石が、小石によって支えられて初めて生きるように、他の人々によって受けとめられ、支えられてこそ生きるものになるのではなかろうか。

人は自分の思いや考えを他者に聴いてもらえることによって成長し、自己を確立することが出来るのではないだろうか。自分の足で立ち、自分の力だけで生きているようであっても、知らず知らずのうちに誰かの「御陰」で生きているし、誰かに「お世話」になっているものである。

キリストは言われる。「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」（マタイ5・45）。「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは鳥よりも価値あるものではないか」（マタイ6・26）。神はいつも私たちを支え、守ってくださっている。私たちは、常に神に、そして人々に生かされていることに気づきたい。生きている事実、つまり、生かされている現実を認識するときにこそ、「生きる」意味を理解するのではないだろうか。他者を受け入れ、隣人を支え、まわりの人々に聴く、そのとき人は他者を生かし、そしてそれによって「その人」として生きるのである。

私たちの口は一つだが、耳は二つ神から頂いた。私たちは話すことより、まず聴く存在でありたい。聴くことによって他人を受け入れ、支え、生かし、こうして聴く者であることによって自己を成長させ、「私」として生きるのではないだろうか。

サン・スルピス大神学院
大山　悟神父

キリストの道を見出す機会を
〈ウォーカソン・70余人参加〉



今年で五回目を迎えるウォーカソンが、四月二十九日、初夏を思わせるような晴天のもとに行われた。

福岡カトリック神学院から聖パウロ小神学校、笹丘教会を経て福岡サン・スルピス大神学院までの道のりを祈りのうちに歩いた。市内はもとより、熊本や北九州などからの、あわせて約七十人の参加があり、召命のために熱心に祈ってくださる方々の力を感じた。午後からは、サッカーやバレーボールなど、思い思いのスポーツを楽しみ、聖体賛美式にて閉会した。賛美式での聖歌は生き生きとしたすばらしいものであった。

エマオの弟子が、悲嘆のうちにエルサレムを後にしていたとき、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩きはじめられた。

あらゆる交通機関が発達して、私たちは歩くことが少なくなったであろう。しかし、「道である」と言われたキリストは、私たちに真の道を示してくださり、ともに歩んでくださる。悲しみのとき、苦しみのとき、絶望しているとき、キリストは共に歩んでくださる。多くの方々がウォーカソンを通してキリストの道を見出す機会となることを願う。

福岡カトリック神学院
院長・森山信三神父

喜びの献堂式

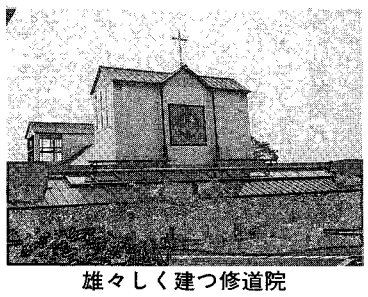
伊万里の聖母修道院

創立四十周年を迎えた伊万里の聖母修道院は、予想外の老朽化のため数年来の懸案となっていた、聖堂改築の願いが実現し、四月二十九日、献堂の大きな喜びに恵まれました。

松永久次郎司教様のお祈りに従って麗しい神の家が姿を現すのを目のあたりにし、神への奉仕に呼ばれた者の幸いに全身が満たされました。

さらに「切り出され、ためされ、磨きあげられたこの石は、天の匠みのみ手により、ひとつひとつは取り出され、聖なる家の壁として、とどまる石は主におかる」とのシトー会献堂式賛美歌に、主の呼びにみなぎる天上の町、真のエルサレムの姿を表すよう、新しい出発を誓い合った今日の佳日でございました。

伊万里の聖母修道院



雄々しく建つ修道院

知って知らせる
―教区広報研修会―

「世界広報の日」の五月八日、カテドラル大名町教会で広報研修会が開かれた。テーマは「教会における情報の伝達―その現実と今後の対応」。各小教区から広報委員など、約二十五人が参加した。

教区広報担当の山元眞神父（教区本部事務局）は講演の中で、教区の情報伝達の現状を説明し、情報源となっている「カトリック新聞」「カトリック中央協議会会報」や他キリスト教諸派の新聞などを紹介した。

また、教区本部と各小教区、小教区同士のパイプの通りをよくするために、より一層の「教区報」の利用と教区新聞への情報提供が求められた。

「今回は講演中心の研修会で互いの情報交換が欠けていたようだ。次はゆっくり時間をとってじっくり話し合いたい」「参加者が少なすぎる。研修会の情報自体が流れていないのではないか」という参加者の声があった。

教区の公式機関紙である「カトリック福岡教区報」は現在六千部が発行されているが、まだ十分に信徒には伝わっていないようだ。教区報が聖堂に残ることのないよう、配布に気を配っていただきたい。

情報は知った人が知らせることによって伝わっていく。まず、様々な有益な情報を知るためにいろいろな情報源に触れ、知ったことを伝えていきたい。

なお、七月三日午後一時から司教館で「広報活動を考える会」が企画されている。



情報の伝達方法を説明する山元神父

松永司教が激励
結婚準備セミナー―懇親会

福岡地区は四月十日司教館にて、熊本地区は四月二十四日手取教会信徒会館にて、スタッフと家族の懇親会が催された。奉仕活動のねぎらいと家族同士の触れ合い、信徒使徒職である結婚準備セミナーの奉仕活動の意味と自覚の深め合いが目的。

参加者は福岡で三十人、熊本では二十人、ビュッフェ形式の昼食を囲み和やかな集いとなった。子供たち（幼児から大学生まで）も親の奉仕活動を理解し、喜んで応援していることが分かり、有意義な時を過ごした。また松永久次郎司教から寄せられた、感謝と励ましのメッセージを全員で読み、感動した。

以下、『司教のメッセージ』

―善意ある奉仕者の皆様へ―

神のみ旨の実現を家庭の真の幸せのために、「結婚ゼミナール」が始められて二十年になると聞きます。この間、キリストと人々に対する愛のうちに、時間とエネルギーを捧げて、この運動に直接・間接、協力を続けて来られた皆様に、深い敬意を表するとともに、心からの感謝を申し上げたいと思います。（中略）

結婚の神秘を尊く正しく生きるためには、教会の導きのもとに神のみ言葉をよく学ぶとともに、男女の性をもつものとして創造された人間の本性に刻み込まれた神の教えを誤ることなく読み取り、それを正しく生きることが必要です。

この分野において教会がその使命を全うするためには、正統な信仰をもち実際に結婚生活を生きている信徒の協力が不可欠となります。これこそ、信徒使徒職の重要な分野の一つなのです。

この非常に重要で、また非常にデリケートな分野の使徒職の実践に、皆様は長年の間忠実に献身して来られました。それほど目立たなくても、数多くの家庭の幸せのために意味深い貢献をなさって来られたと信じます。

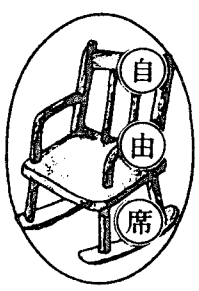
今後とも、この地道な活動を続けながら、キリストの救いの愛に与かり、隣人の真の幸せに貢献して欲しいと思います。

教区人事

▽休暇（手取教会主任）ジョー・ブロデリック＝聖コロンバン会▽手取教会主任（横浜・平塚教会主任）ウイリアム・カリー＝聖コロンバン会

ボランティア

糸島教会・平田直之



前原市にあります特別養護老人ホーム富の里には、現在五十人のお年寄りが生活されております。八十パーセントの方が痴呆であり、身体的にも、精神的にも重度の方が利用されている施設です。この施設に、年間延べ千人以上の方がボランティアとして来園されています。カトリック関係では、サン・スルピス大神学院の神学生の皆さんが毎週一回、カトリック福岡地区婦人会の皆さんが定期的に月一、二回来園されます。

施設の状況は、限られた職員数の中、ボランティアの方には、洗濯物整理、掃除、裁縫、行事の手伝い、カット（理美容）等、様々な援助を頂いております。

お年寄りと直接関わることを望まれる方、裏方に徹し活動される方と様々ですが、ボランティア無くしては施設が成り立たないのも現状です。カットボランティアについては、現状四、五人の方が定期的にきて下さりカットして頂いております。施設としてはお年寄りにいつまでもきれいで、またおしゃれを楽しんで頂きたいとの願いです。キリスト教を基盤としたボランタリズムは、無償・無条件の贈与、更には一方的贈与として愛他主義に根ざしたものですが、一方アジアにおける互酬性の背後にあるものは、神を拝む心で人に与える、つまり与える人がひざまづき、与えられる人が立っている思想だとの事。示唆される言葉ですが、日ごろの活動本当に感謝申し上げます。

（特別養護老人ホーム　富の里施設長）

黙想の家ご案内

福岡黙想の家は福岡市と北九州市のほぼ中間、宗像市の中央部に位置し、住宅街に広がる広大な自然林の中にあります。**祈りたい時祈るために、疲れた時休むために、ひとりになるために、**いらっしゃいませんか。個人黙想もできます。

〈お問い合わせは下記へ・午前9：30～17：00〉

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　**共立総合防災**

＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検

〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

参加しませんか

◈聖書講座《ヨハネ福音書を読む》
「キリストを学びキリストに生きる」ために
場所：福岡大名町カテドラルセンター／時間：毎週金曜日19時～21時／受講料：1回毎800円／問合先：教区本部事務局092-522-5139／プログラム：6月3日・5章「ベトザタの池の病人のいやし」（牧山勝美）／10日・6章「命のパン」（川上惣一）／17日・7章「生きた水」（平田寛）／24日・8章「イエスは世の光」（森山信三）／7月1日・9章「盲人のいやし」（同上）／8日・10章「イエスはよい羊飼い」（大水幸一）／15日・11章「ラザロ、生き返る」（松永久次郎司教）

◈典礼・聖歌と祈りの集い
15回目を迎えるこの集いは、典礼聖歌の研修を通して、歌いながら、祈りながら行われる研修会です
日時：6月12日（日）14時～17時30分
場所：福岡黙想の家／お話し：鈴木忠一神父／聖歌指導：深堀純氏／会費：1000円／問合先：黙想の家0940-32-3222

◈SE・CO バザー　日時：6月19日（日）父の日10時30分～14時／場所：福岡市南区塩原聖心ウルスラ幼稚園／問合先：ボランティア　セコの会　092-512-0033

◈生と死を考える講演会「生と死を見つめて」
日時：6月25日（土）18時～20時30分
講師：アルフォンス・デーケン神父／場所：熊本鶴屋デパート7階大ホール／参加費：1000円／問合先：熊本カトリック案内所096-322-7948

◈「老いと死をみつめて---人生の危機への挑戦」
日時：6月26日（日）14時～16時／場所：福岡雙葉学園講堂（駐車場はありません）／講師：アルフォンス・デーケン神父／主催：福岡生と老い・死をみつめる会／問合先：大山092-713-8523／聖パウロ書院092-741-4588

◈召命を考える集い　司教とともに祈る
日時：6月26日（日）14時～16時／場所：カテドラルセンター／プログラム：司祭、修道者の召命についての現状報告。召命祈願ミサ（松永司教司式）主催：召命を共に祈る会／問合先：森山信三神父092-531-6821

◈召命を祈る集い　熊本地区、特に熊本市内の信徒・修道者の皆さんの参加を希望します／日時：7月3日（日）場所：天使の園修道院／問合先：大水幸一神父（帯山教会）096-382-9413

◈広報を考える会　小教区広報担当者をはじめ、広報活動に関心のある方、お茶を飲みながら教会の広報活動について考えましょう。日時：7月3日（日）14時～16時30分／場所：司教館別館5階／参加費：無料／主催：教区広報委員会
問合先：教区本部092-522-5139

◈カトリック愛と性を考える研修会
日時：7月10日（日）14時～17時15分
場所：戸畑・明治学園／テーマ：家族のきずな、いのちと性---今私たちが知りたい結婚と家庭に関する神の計画／講師：松永久次郎司教／プログラム：基調講演・ビデオ・証し・分かち合い・聖体賛美式／会費：500円（学生300円）／主催：教区信仰教育・家庭委員会／問合先：カトリックファミリーセンター092-541-6207

◈第10回出会いの集い　山元神父さまを囲んで楽しいひとときとフォークミサを　日時：7月3日（日）11時30分～16時／場所：カテドラル／講師：山元眞神父／テーマ：出会いのよろこび／会費：1000円（昼食代含む）／対象：20歳以上の独身男女／プログラム：講話・歌・ゲーム・フォークミサ他／問合先：児玉幸子092-922-5126

◈修女連養成講座　教区年間テーマ「キリストを学びキリストに生きる」に基づき、現代社会の諸問題を典礼の中においても生きることを目指して開かれるものです。修道女に限らず、信徒の方の参加も待っています。
日時：7月10日（日）10時～15時場所／司教館別館5階ホール／講師：林尚志神父／テーマ：「神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない」現代における私たちの日常生活と典礼／会費：1000円（弁当持参）申込不要／対象：教区内修道女、信徒の希望者／15時からのミサは参加自由／問合先：Sr. 黒木096-324-6212

◈94年平和巡礼　《長崎》日時：8月9日～10日／問合先：中村信哉神父092-741-3687《広島》日時：8月5日～6日／問合先：中村彰神父093-921-0093／参加費：4000円（高校生3000円）

◈福岡カルメル会で共に祈ることができます
5時30分～6時30分（念祷・沈黙の祈り）／6時30分～聖務（朝の祈り）／7時ミサ／ミサ後聖務／17時～18時（念祷・沈黙の祈り）／18時聖務（晩の祈り・時によって変更あり）／問合先：カルメル会092-807-7361

◇ビデオ貸します　先日小倉教会で行われたSr. 根岸の帰国講演会ビデオ　問合先：福吉三代子093-962-1395（送料実費負担）

CROSSROAD
No.11/1994
くろすろーど
わたしの情報は　みんなの情報
CATHOLIC
INFORMATION
FUKUOKA

さまざまな出会いを求めて

教区本部の事務局にはいろんな情報が集まってきます。そんな情報を見ると、みなさん、それぞれの場で、福音宣教のために一所懸命頑張っておられると感じます。そして、このような「頑張り情報」を一人でも多くの人に知ってもらえたらいいと思います。「くろすろーど」（CROSSROAD）は、英語で「交差道路」「横丁」「十字路」を意味します。この情報欄を通して、主においてさまざまな出会いが実現し、キリスト者として共に成長できれば幸いに思います。
「くろすろーど」は、小冊子のかたちで2年前から発行されていましたが、今回からは隔月で教区報に折り込みで登場します。その時は、教区報の6面が青少年対象の紙面になります。この折り込みは真ん中から半分に折って使えるように編集されています。　（教区広報委員会　委員長　山元　眞）

6月

1日（水）人吉教会人生講座第1回
3日（金）聖書講座第4回［カテドラル］
5日（日）キリストの聖体
7日（火）★教区顧問会
10日（金）イエスのみ心
　聖書講座第5回［カテドラル］
11日（土）聖バルナバ使徒　聖母のみ心
12日（日）★手取教会堅信式
　典礼・聖歌と祈りの集い
13日（月）★教区全司祭研修会（～15日）
17日（金）聖書講座第6回［カテドラル］
19日（日）★西新教会堅信式　父の日
20日（月）★定例司教総会（～25日）
21日（火）＋ドミニコ深堀仙右衛門司教
　＋トマス平田好
24日（金）洗礼者聖ヨハネの誕生
　聖書講座第7回
25日（土）生と死を考える講演会［熊本］
26日（日）聖ペトロ使徒座への献金
　★召命を考える集い［カテドラル］
　「老いと死をみつめて」講演会
　［雙葉学園］
　新田原教会信徒研修会
29日（水）聖ペトロ・聖パウロ

★　司教日程

7月

1日（金）聖書講座第8回［カテドラル］
2日（土）＋W. シュルツ
3日（日）召命を祈る集い［天使の園修道院］
　広報を考える会［司教館］
7日（木）福岡地区婦人会市内巡礼バス旅行
8日（金）聖書講座第9回［カテドラル］
10日（日）★愛と性を考える研修会
　［戸畑・明治学園］
　教区修女連養成講座［司教館］
　出会いの集い［大名町］
11日（月）聖ベネディクト
15日（金）★聖書講座第10回［カテドラル］
16日（土）カルメル山の聖母
20日（水）＋ヤコブ平田勇
22日（金）聖マリア・マグダラ
　生命山黙想会（～29日）
24日（日）★聖霊による刷新九州大会［熊本］
　（～28日）
25日（月）聖ヤコブ使徒
　＋J. ラグレブ　＋J. ブルトン
28日（木）＋L. ルリエ
29日（金）聖マルタ
31日（日）＋ヨハネ平田惣五郎

＋　司祭命日

特集：海外の宣教師たち（1）

ブラジル宣教の父　ドミニコ中村長八神父

初めて

ドミニコ中村長八神父は、日本教会史上最初の海外派遣宣教師としてブラジルに派遣された。ブラジルの教会関係者や日本公使館から依頼を受け、日本の文部省の要請に応えてのものであった。１９２３年6月１１日のことである。日系移民の宣教司牧と日伯親善に尽くし、１９４０年ブラジルのアルバレス・マッシャード市グワィサーラにて永眠。享年７５歳であった。

中村神父の葬儀にあたっては、慣例に従って日本人墓地に墓が掘られ埋葬のてはずが完了したところで、市長が異例の権限を発動して、市の中央墓地内の特別功労者用地に新たに墓を掘り直すよう命じたことは、あまりにも有名なエピソードとして今日まで語られている。

死後、中村神父は教会側からは「モンセニョール」の称号が与えられ、市からは名誉市民の称号が与えられた。現在、アルバレス・マッシャードの市庁舎から墓地まで約３キロの市道に「中村長八神父通り」の名が付され、神父の遺徳が記念されている。



生前の１９３８年には、当時の教皇ピオ１１世より、神父の業績を讃えて、日本人として最初の「有功章（ベネ・メレンティ）」が贈られた（＝写真）。

日伯文化協会発行の日系人学校用の日本語教科書には福沢諭吉とともに「日系移民の父中村長八神父」と題する小伝が紹介されている。

長崎生まれ

中村神父は１８６５年長崎県五島に生まれた。１８９７年司祭に叙階されるや奄美大島に派遣され、島の開拓宣教に従事した。信仰面のみならず、学習塾や夜間学校を開設し、「村教育資料」を編纂（さん）するなど、島民の文化振興に貢献した。１９９１年3月１７日にブラジルのサンパウロ州北部にあるアルバレス・マッシャード市で開かれた中村神父の帰天５０周年記念行事では、長崎の島本要大司教の祝辞（代読）をはじめ、同神父の出生の地、福江市の市長や浦頭教会（旧堂崎教会）信徒からのメッセージが披露された。



三井郡大刀洗（今村）出身者と

中村神父はマッシャードの４キロ奥地のグワィサーラに小聖堂を建て、ここを拠点に宣教活動を行った。一つの州がおよそ日本の本州に匹敵する州境を越え、数十か所におよぶ日系人の集落を巡った。この集落には福岡県三井郡大刀洗村（現在の大刀洗町＝今村小教区）出身の信者が多くいた。汽車で、馬で、それもない奥地には徒歩でやってくるスータン姿で荷物を振り分ける神父を迎えると、人々は久しぶりに心の潤いを取り戻した。また、学校も病院も郵便局もない所が多く、当局に働きかけて学校を建てるなど、宣教以外にも多大の貢献をしている。

今村小教区出身の証言から

【日本カトリック研修センター所長：野下千年神父の１９８６年の聞き取り調査から】

平田松行氏

《大正３年3月２５日生・１６歳で渡伯》

ある時、夕方5時すぎて神父が駅に着いた。乗り物がなかった。どんなに事情を話しても誰も車を出してくれるものはいなかった。「もう歩こうや」と神父。常に二つの大型トランクの荷物を持っていた。一つのトランクはミサ道具と祭壇石が入っていたので全体では６０キロもあった。もう一つは着替え入れだった。松行氏は重いトランクを担いだ。途中雨に合う。暗くなってくる。３キロくらい手前まできたところに小川があり、そこで神父様は転げてスータンも泥まみれになってしまった。ぬれねずみの神父様は替えのバッチーナがなかったので今村氏の外套を着せ、スータンを洗って小屋の中で火を焚いてあぶった。「神父様大変でしたね」「僕はつとめだから何でもない。君たちこそはた迷惑だったな。」中村神父様は信者が一軒でもあれば訪ねていった。１０キロくらいは歩いた。そして年のつとめをさせた。…

平田善次氏

《大正６年生・１３歳で渡伯》

中村神父様は日曜日はミサの前に３回鐘を鳴らした。一番鐘で一つ、二番鐘で二つ、始まり時には三つ鐘が鳴った。鐘というのは鉄道レールを１メートルくらい切断したもので、教会の軒先の低い所にワイヤーで吊るし、それを金づちで叩いた。9時にミサ、続いて子供と若者（１４歳～１８歳）の公教要理が聖堂で行われ、その後は教会の庭の花壇の作業をさせられた。…

外出時はいつもスータン姿だった。ある時は泥棒にあったが、スータン姿を見ると逃げていった。「自分は泥棒が４、５人くらいかかってきても投げ飛ばしてやるわ」といっておられた。…

話しは上手な神父様だったが、歌は下手だった。でも好きではあった。だからアンナさんは「教え子がみんな下手」という。「アヴェ・マリア」をよく歌わせた。…

信者たちは交替で司祭館に泊まり込んで看病した。ベランダに抱えて連れて出て、長椅子に横たえてやると、神父様は痩せて骨と皮になっていく自分の足を叩きながら「筋肉はどこに飛んでいったろうか」と言っていた。死ぬまで神父様は床を汚したことがなかった。歯は寝たままで磨いてやった。息が切れる直前には床の周りの一人一人と握手をして息を切った。時の市長は医師でもあり、神父様を診てくれていた医師は、ドクトル・オスカルという人だった。病気がはっきりしないから医者を変えようという人がいたが、「医者は一人でよい」といっていた。

井手フミヨさん

《明治３４年生・１３歳で渡伯》

その頃、神父様と共に同じ汽車に乗り、マッシャードまで帰った。トラックもない頃であった。もちろんオミニブスもないときで、アルバレスの駅から井手さんのコロッサ（馬車）で井手磯太郎氏の宅に着いた。その夜は井手氏の宅に泊まられた。当時はマッシャードにはカペラもなかったので、井手氏宅でミサをたて、いくらかの信者が集まっていた。（信者は何十家族もいたようだが、ミサにきていたのは大刀洗出身の信者ばかりだった）…

神父様が寝付かれてから、マッシャードの信者たちがきていた。市長自身も達者だったので、よく見てくれていた。１９４０年3月１４日に帰天された。午後だったと思う。青年たちが、お通夜をとりしきった。葬式の日、葬儀は町の教会から墓地まで１キロくらいは人の行列が続いて歩くこともできないほどだった。

今回の特集は、日本カトリック研修センター所長の野下千年神父様のご協力を得ました。紙面を借りてお礼申し上げます。

日本カトリック研修センター開設３周年特別企画

巡礼：*ブラジルの聖地と中村長八神父の足跡を訪ねて*

１９９４年8月3日（水）～8月１７日（水）
随行司教：野村純一司教／団長：野下千年神父
旅行代金：６６５、０００円
申込締切：6月３０日
最低実施人員：２０名
問合先・申込先：パックスインターナショナル
TEL０３（３５６１）０７５５
担当：木村・秋間／取扱主任者：菊池信昭

福岡黙想の家
◎祈りの日へどうぞ
◆毎週火曜日１１時（ミサ）～１５時３０分
◆ミサ・十字架の道行き・聖時間・晩の祈り
◆簡単なお食事をご用意します（無料）
TEL　０９４０-３２-３２２２

生命山　◎フィリピンにおけるシルシラのグループの分かち合い
日時：6月１９日（日）１４時～１６時３０分
場所：熊本手取教会　信徒ホール
問合先：生命山カトリック別院
TEL　０９６８-８５-３１００

ミサと講演で一致深まる

地区婦人会

四月二十八日、第十一回福岡地区婦人会総会がカテドラル（大名町教会）講堂で行われた。

定刻十時、八十人近い会員で福岡地区カトリック婦人会会員の祈りに始まり、指導司祭の堤要吉神父様より、めだたない地味な活動だけど、地区の婦人会として力を合わせて働いて欲しいとのお言葉があった。その後、活動報告、会計報告、およびボランティア・モニカ会の活動報告の中で、賛助金は参加協力の出来ない人の金銭的援助なので支えていってほしいとの要請があった。

総会に続いてミサ。平田三郎司教様、平田正喜神父様の病気回復のための共同祈願をし、霊的花束を贈った。昼食をはさんで、午後一時より参加者も百六十人となり、二十六聖人記念館館長結城了悟神父様の「キリシタン時代の婦人たち」の講演。先祖の婦人たちが信仰を守るために働いていたことを知り、婦人たちの力強さを感じる大変興味のある話であった。

最後に召命を祈願し、心を一つにして天使祝詞を三回唱えて三時前に散会した。

参加者は、「初めて参加して整然とした中に婦人のパワーを感じた」。「地区婦人たち八十人以上が一同に会せて良かった」。「賛助会会費は相互扶助的助け合いで良いので協力して出来るだけ参加したい」。

会長・山口紀子

第33回 出会い、喜び、伝える —教区クルシリヨ—

今回クルシリヨでは、担当の神父様、スタッフの皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

このクルシリヨというものは信徒が一生のうちで一回だけ参加できるものと聞いていたので、どんなものだろうかと前から関心はありました。行こうと思ったら、まとまった時間をつくらなければならなかったので、実際に参加するとなると、結構めんどうに思えたのが事実でした。しかし、私の場合は、結婚の準備もかねて、また、仕事での悩み、プライベートな問題、将来のことなど、いろんなものが重なりあってか、参加できる状態になりました。いや、これは招かれた状態にあったといったほうが適切だと今では思えます。この集まりに参加して学んだことは、教会の共同体に属している私たちひとりひとりが、改めて共同体がいかにあるべきか。また、その中にあって私たちひとりひとりが何をする必要があるのかを共に考えさせられたと思います。そして、この集まりに参加して感じたことは、この集まり自体が多くの信徒によって支えられているという事実。そんなものを感じました。この集まりを機会に、私たちひとりひとりがより神の似姿へと養われていくのではなかろうかと感じたのは私だけでしょうか。

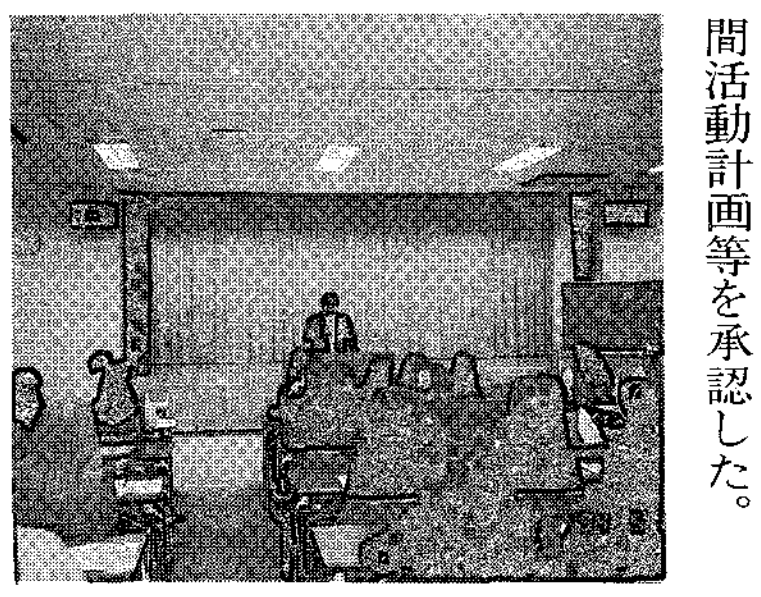
最後に、この集まりに参加して、もっと多くの方々が、自分自身のために参加を必要としているのではと思いました。

佐賀教会 ステファノ吉武 勉

教区の召命促進への意欲新たに

修女連

五月十五日、教区修女連の総会・研修会が大名町カテドラルで開催された。ナイスへの取り組みの中で漸次目覚めていった「教区共同体」としての意識の高まりを、教区の召命促進への協力として具体化しようという今年度の目標に、一同意欲的に賛成し、年間活動計画等を承認した。



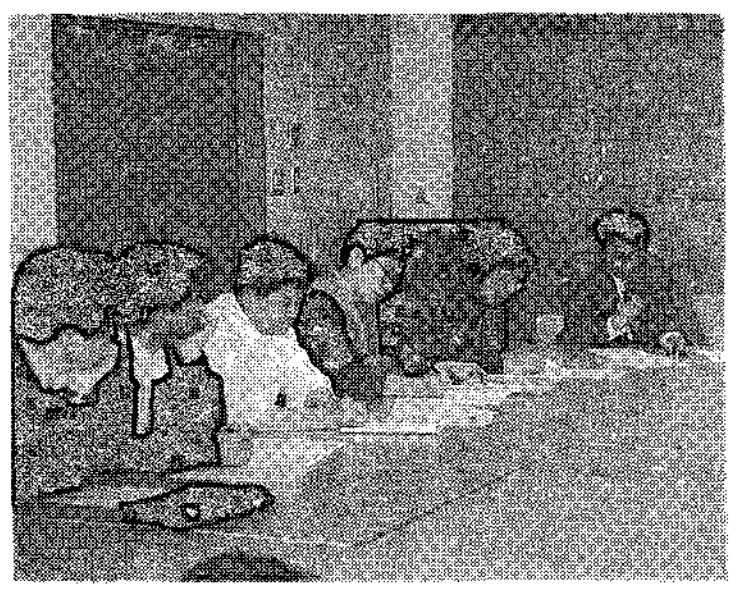
刷新を求めるミサをはさんで、午後を研修の時とした。平田三好師の修女連担当としての就任の挨拶に続き、「家庭を支える共同体」と題して山元眞師の講話を聞いた（＝**写真**）。家庭を受け入れる共同体となるために、交わりが教会の本質であることを再度確認すること、自分のガリラヤ(日常生活の場)で人々と関わり、共にいてくださる主を伝えていく宣教の使命を強調された。

会長・Sr.黒木紗耶子

春季合宿を終えて

カトリック部落問題委員会

カトリック部落問題委員会の合宿が三月十九日から二十一日まで宗像にある福岡黙想の家で行われた（＝**写真**）。



福岡県下、特に筑豊を中心に部落差別、在日韓国人・朝鮮人に対する差別がどのような形でなされて来たのか、差別を作り出してゆく構造と差別の歴史がどのようなものであるかを今回の現地学習で参加者六十人は現場に立つことで身をもって知ることができた。全参加者は、筑豊における炭鉱の圧政や差別の実態のすさまじさ、差別の中で生き抜いてきた人たちのやさしさとたくましさを心に刻みこまれた。

一九九二年に社会司教委員会から「部落差別の克服をめざして―部落問題に関するカトリックの基本姿勢」が出されている。これは部落問題にたいして日本のカトリック教会が打ち出した初めての文書である。この文書の文言にあるように、福岡教区においても部落問題をあつかう機関を設置するよう取り組みを求めてやまない。

北九州正義と平和協議会 宮崎裕之

『共感を求めて』のバザー

四月二十四日、『共感を求めて光丘カトリック会館建設バザー』が行われました（＝**写真**）。前日まで雨で空模様が心配されましたが、晴れのバザー日和となりました。



恒例のように、教会学校の子供たちをはじめ青年会も頑張りました。壮年会の青空市場もお父様方の掛け声で盛り上がり、つい野菜を買ってしまった、と両手にいっぱい下げたお母様方の姿が微笑ましい。食堂関係の婦人のパワーも相変わらず素晴らしく、朝五時からの準備も何のその。新しく赴任されたバイヨ神父様、キニュー神父様とともに信徒一同、共同体づくりの一歩を踏み出しました。他の教会の方々をはじめ、町内の方々もたくさんお出かけいただきました。神に感謝。

光丘教会・平田久子

幼稚園のできごと

明光幼稚園

初めて親から離れ、集団生活に入った園児にとっては入園当初は不安な毎日でした。しかし、日一日と先生や友達との信頼感が深められ、安心感も出て、朝の登園時には元気で幼稚園の門に入ります。一人ひとりが門の側に立っているマリア像に小さい手を合わせて朝のあいさつをします。それから、保育室に入り、出席シールを貼り、所持品の整理をしてから、小さい手を使って心ゆくまでお仕事やお遊びをします。先生が少しでも手を出して助けてあげようとすれば、「自分でするの」と言って、自分一人でしようとする姿に成長を感じます。幼児期の人間形成の大切な時期に、大事なお子様をお預かりし、責任の重大さを感じます。特に心の教育の重大さを感じます。先日、卒園児のお母様からこの様なお便りを頂きました。

「卒園式の日のお話になりますが、式の終わった後、くつ箱の所に我が子がいて、昨年交通事故でお亡くなりになられたT君のくつ箱に、自分の頂いたスイートピーの花をそっと置いてあげました。そんなやさしい心を持ってくれた事がとてもうれしく思います…」。「…子どももお祈りを通していろいろと感じさせられる時がある様です。D君はバザーの時に自分で選んでお祈りの本を二冊買いました。祈る場所がありませんが、自分の洋服ダンスの一段を台にして、そこに幼稚園でお誕生日に頂いたろうそくとマリア様の像を置いて祭壇を作り、お祈りの本を開いて祈っていました。祈る心を育まれた子どもたちは本当に幸せだと思いました」

この二通の手紙を読ませて頂き、神に向かう子どもの心が伝わって来ました。新入園児の純粋な心にも、祈る心が育まれます様にと祈りつつ。

園長・Sr.加藤節子

熊本クリスチャンボランティア センター発会式

熊本クリスチャン・ボランティアセンターは、援助を待つ人々の熱い期待の中、四月三十日念願の発会式の日を迎えた。地区長J・プロデリック師による、キリストの手足となって奉仕するこのセンターへの祝福と激励の言葉によって開会した。

「心といのちの交わりを創造していくこと」がボランティアであると、林尚志師（イエズス会・下関労働教育センター所長）は、ボランティアの心を精力的に訴えた。八十余人の参加者は胸を熱くして耳を傾けた。続いてセンターの「運営規則」を審議・承認した。

運営委員長兼事務局長にSr.黒木紗耶子、副委員長に鈴木明朗氏が選任された。専任スタッフの岸晴美さんも紹介された。センターのスタートが切られた。指導司祭・鵜野泰年師の励ましの言葉と祈りによって閉会した。

運営委員長・Sr.黒木紗耶子

BOOK 読みま専科

★開け！—なぜできないコミュニケーション—

K・M・マルティーニ著 今道瑤子訳



本書は、イタリアのマルティーニ枢機卿が教区の人々のためにあてた司牧書簡です。元ローマ教皇庁立聖書研究所所長を勤めた新約聖書学の権威である師の、聖書学に基づく深い洞察から生まれたコミュニケーション理論と勧めの本。現代に生きるすべての人々、特に本当にコミュニケーションを望んでいる方にぜひ読んでいただきたい本です。

女子パウロ会 一、〇〇〇円

◇ ◇

★今を生きることば

平田栄一著



本書は、毎日若い人たちと接する高校教諭の著者が、日々の小さな悩み、生き方、人生の迷いなどの問題解決の糸口になればと、若い人たちに向けて書きとめてきたことば集です。

三浦綾子氏は「常に祈り、聖書に聴く姿勢から生み出された珠玉の人生観！凝縮された思索！より深く人生を生きる道が、ここにさやかに示されている。幾度も驚嘆して私は読んだ。」と本書を紹介しています。

女子パウロ会 一、〇〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2−21
TEL096−352−2417

くろすぼーど

ウォーカソンについて

（中3・川瀬まり・大名町）

それは快晴の日、私はうきうき気分で、自転車を走らせた。今日はウォーカソン。良い天気にも恵まれ、はりきっての出発だった。私は毎回これに参加しているが、今回は人数がわりと少なかった。しかし、あのクリスマス・イン・ドーム以来の友人に私は会えました。話もはずむ。神学院から男子パウロ修道院へ、それから笹丘教会へ、そして終点の大神学校。たったの四つだったけれど、ロザリオを一連ささげ、あとはフリータイム。私は、大好きなバスケをして、顔を真っ赤に焼きました。家に帰ると、もうくたくたでしたが、今日はとても楽しい一日でした。

さて、ここで、私はウォーカソンの一日を日記のように書いたわけですが、ウォーカソンの本当の意味、あるいは目的とは何なんでしょうか。私は遊びが目的でこの日に参加しました。教会学校の友人にもくるように言いました。

もし、私が今回参加しなかったら、友人にも会えなかったし、大神学生とのふれあいもなかったと思います。このウォーカソンで、たくさんの発見がありました。こういう行事からたくさんの人と知りあい、友情の輪を広げていくのではないのでしょうか。

普段、教会に顔を見せない友人がひょっこりくると、みなで歓迎し共に喜びます。大人の人から小さな子供まで、このウォーカソンに参加し、友情の輪を広げたらよいと思います。

私の今回のウォーカソンでの発見は、このようなことでした。みなさんも、何かとびっきりのものを発見してみませんか？

お母さん

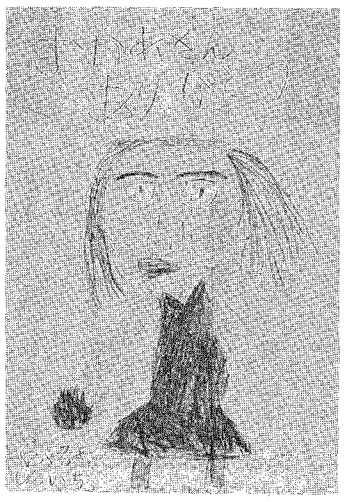
（6年・又居拓也　4年・香織・新田原）

「お母さん、これ見て！」
「お母さん、あれどこにあるの？」
朝起きてから、夜ねるまで、一日に何回、「お母さん！」ってよぶだろう。

わたしたちのお母さんは、家事、仕事、そして、子供会の事、教会学校の事、と毎日とても忙しそうです。だから、母の日に何かをプレゼントしようと考えていました。でもその日、お母さんをおこらせる事をしてしまって、とうとう何もしてあげる事ができませんでした。それでわたしたちはどうしようかと考えました。そして、これから毎日、わたしたちのできる事は自分たちでしようと思いました。

一年分の感謝を、母の日一日だけでお返しするのではなく、毎日毎日をありがとうの気持ちでいようと思います。いつも明るくやさしい元気なお母さんでいてほしいから。

そして、5月はマリア様の月です。ロザリオのお祈りもたくさんしようと思います。



ふるき　しんいち君（1年・新田原）

おかげ

わたしの夢

だれでも子どものころには『将来の夢』を思いえがくでしょう。パイロット、そうりだいじん、Jリーグの選手など、いろいろと夢を心にいだいて、それがかなうように努力し、人生の道を歩んでいきます。

わたしは小さいころ、さまざまな職業に心ひかれましたが、その中には司祭（神父さま）になるという夢は入っていませんでした。中学時代も、たっきゅうの選手、ようちえんの先生、声楽の先生など、しょうらい何になるのか、はっきり決まっていませんでした。まさに、夢だったのです。

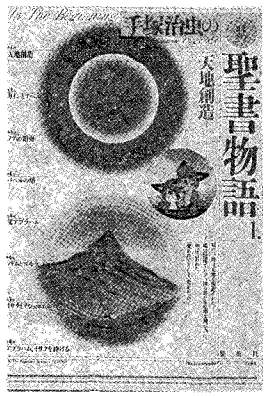


中村信哉
しんぷさま（大名町）

そうこうしている間、中学3年の冬のある日、神父さまから「司祭になってみませんか」と声をかけられました。

神さまの計画は人間の力では考えられないふしぎなものだと思います。勉強ぎらい、ひっこみじあん、人まえに出るとあがってしまう、そんなわたしを司祭にされるのですから…。

神父さまのあのひとことに急に司祭へのあこがれを強く感じたのでした。今、人びとの救いのために神さまのお手伝いができることを感謝しています。もしかするとあなたも呼ばれているかも？「わたしに従いなさい」というイエスさまの声がきこえませんか。



〈旧約　聖書物語1〉
手塚治虫　著
集英社二五〇〇円

―巨匠手塚治虫が遺したアニメ聖書の最高峰―

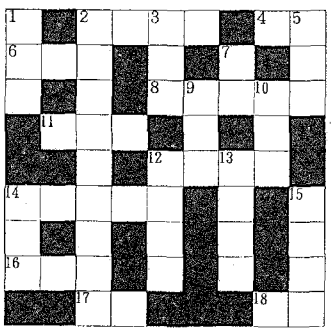
聖書アニメはたくさんあるが、感動を与える作品には残念ながら出合った事がない。しかし、今やっと、故手塚氏の情熱あふれた逸作が出版された。

この作品は「聖書」のアニメテレビのシリーズ企画として、イタリアから手塚氏に依頼されたものを本にまとめたもので、『天地創造』『十戒』『イエスの誕生』の三巻からなる。子供が楽しく読める本。（溝）

編集後記　六月

『松の木ばかりがまつじゃない』。いつかどこかで聞いた歌だ。まつにもいろいろある。最終的で最高の幸福をまちながら頑張ろう。教区報をまっている方のためにも。『くろすぼーど』と、6面の『くろすぼーど』は隔月で登場します。お楽しみに。

くろすわーど



【タテのカギ】
①約束の地
②福岡教区の司教さまの名前
③イエスさまが育ったまち
⑤主がほろぼされた小さな町の名前。創世記19章。
⑦イエスさまがいやした病気「〇〇病」
⑨信仰宣言のこと。ラテン語。
⑩イエスさまが十字架の上で叫ばれたことば「〇〇〇、エロイ、レマ、サバクタニ。」
⑫旧約聖書9番目の書き物「〇〇〇〇記」
⑬「愛」のラテン語
⑭旧約聖書の歴史書のひとつ「〇〇〇記」
⑮イエスさまが十字架につけられた丘の名前

【ヨコのカギ】
②「主よ、来てください。」のアラム語。よく知られた歌の題名。
④むかし、キリシタンのことをこう呼んでいた。挪蘇とも書く。
⑥秘跡（ひせき）の数
⑧死者ミサのときの歌の題名。ラテン語。「鎮魂歌」ともいう。
⑪幼子イエスさまをおがみにきた占星術の学者たちはどこから来た？
⑫イエスさまの時代のユダヤ教の二大勢力の一つ。ファリサイ派と対立。
⑭イエスさまが復活された町の名前
⑯イエスさまが生き返らせた友達の名前
⑰アブラムが父親テラと出発したカルデアの町の名前。創世記11章31節。
⑱〇〇イによる福音　《回答は次回に》

信三神父さまのお答えします。

Q カトリック神学院は、昔、小神学校と呼んでいたものと同じですか。

A はい。名前が変わっただけで、中身はまったく同じです。

Q 神学院とは、どんなところですか。

A 司祭を目ざす中学生、高校生が、生活をともにしながら、日々祈り、勉強、そしてスポーツにはげみ、キリストの弟子になるためにふさわしい準備をするところです。

Q どうして共同生活をするのですか。

A わがままを捨てて、神さまの使いやすい道具になるためです。

Q 神学院に入るためには？

A まず、カトリックの洗礼を受けていて、司祭になりたいと思っていること。また、人人のために働きたいという気持ちをもっていること。主任神父様の推せんも必要です。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

「まさしく　わたし自身である」
（ルカ24・39）

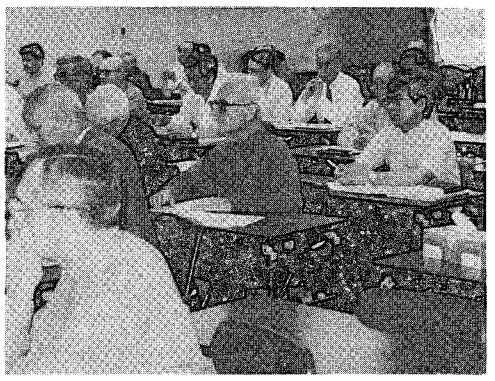
生命山　クラウディオ神父

福岡教区内司祭研修会

司牧の見地から

より豊かな教会作りを目指して

六月十三日から十五日まで福岡教区カテドラルにて、教区内司祭（教区司祭・修道会司祭・宣教会司祭）の研修会が開かれた。参加人数は六十余人。司牧の見地から諸問題を採り上げ、今後の教会作りを目指して、真剣に話し合った。テーマは「司牧上の諸問題」。目的は、司祭間の共通の基盤作りとよりよい司牧の在り方を探ること。



熱心に取り組む司祭たち

『すべてを造り、治められる神よ、み旨を行うことができるよう、私たちに知恵と勇気を授け、導いてください』との祈りから始まった司祭研修会は、三日間の濃い内容を消化していった。

初めの挨拶で、教区長松永久次郎司教は、参加者全員に対する労（ねぎら）いの言葉を述べ、『この研修会が信者の教育と利益になるように。時として、司祭には何げない小さなことでも、信者にとっては重大なことであったりする。信者に対する責任をよく考慮した司牧ができるよう、この研修会を生かして欲しい。また司牧と宣教は同一性の要素を有しているので偏りがないよう賢明に働いてもらいたい』と話した。

今回の研修会は、近年にない方法で計画された。執行部は、先の司祭評議会で討議された司牧上の問題点を、より深くより広く考えるために予め数人の司祭に①ミサ典礼の細かな点についての司牧的配慮について②ミサを依頼するよう信者に勧めることについて③未洗者の結婚式について④未洗者の葬式について⑤初聖体式の準備について⑥堅信式の準備について⑦特別聖体奉仕者の現状についてを問題提起として挙げるよう依頼した。依頼された司祭は研修の一日目に、自分の体験を交えながらこれらの諸問題を提起した。

①のミサ典礼の細かな点については大名町教会の深堀純氏が、⑦の特別聖体奉仕者の現状については手取教会の平田悠貴子氏が、それぞれ信徒の立場から提起した。そのため研修会は一層充実したものとなった。

二日目は、ミサをはさんで午前と午後に分団会を持ち、活発な意見を交換した。日ごろ信者が思っている事、司祭がなさねばならない事、信者に考えて欲しい事などがよりはっきりと示された。

三日目は、司教の講話があった。内容は、二日目の分団会での意見のまとめを司教が予め目を通し、それを教区の今後の方針につなげていくというものである。司教は「皆で司牧の現状でかかえている問題に真剣に取り組み、何らかの解決を求めていきたい。またこれからも一致して励んで欲しい」と語った。

続いて、質疑応答があり、司祭一同で感謝のミサをし、昼食をとってそれぞれの小教区に帰っていった。今後の司牧の活躍を祈りたい。

尚、研修会で出された意見は事務局によってまとめられそれを基に教区の具体的な司牧指針が示される。ミサ典礼など細かな点が統一される可能性があるが、その時は信徒の方の協力をお願いしたい。

時の話題

ある若者の選択

佐無田　斌

四月、大学を卒業したN君が村に帰ってきた。

彼は、三ヘクタールの茶園を経営する農家の一人息子、所謂後継ぎである。

だから、両親の期待を一身に集めていた彼が、進学の際、法学を選んだと聞いた時はびっくりもし、卒業したら恐らく郷里には残らないだろうと思っていたが、その彼が、いま、毎日、茶園で仕事に取り組んでいる。

農業は苦労のわりに報いが少ないと、先行きに見切りをつけて離農してゆく若者も少なくないし、今年の学卒新規就農者は、全国あわせてたった一三〇〇人、一年間に生まれる医者の数より少ないそうである。

机の前の仕事と違って、茶園の仕事には、草取り・施肥・茶摘みなど単調な長時間の作業が多いし、炎天下の作業もある。

こんな仕事を前にして、将来を決めるまでに、彼の心中には、きっとさまざまな葛藤や紆余曲折があったに違いないが、彼は、こんな農業に、敢えて挑戦する決断をしたのだ。

いま彼のひたいに、赤銅の肉体に、厳しい労働のあとが刻まれているが、その顔は意外に明るい。

田園将に蕪れなんとしている時、このような人材が農村に残り支えてくれることは、日本の農業・農村にとっても実に心強いことである。

彼は、農業にとって得難い若者であるが、実は教会にとっても、新しい息吹と活力を与えてくれる貴重な人材、若者の一人なのである。

田舎の教会では、信者の高齢化と若者の流出によって、『働き手の居ない教会』が生まれはしないかとの思いが切実であり、一人でも多くの若い働き手の欲しい時である。

嬉しいことに、私たちの教会には、昨年から二十代の若者が一人二人と増えてきている。意欲に満ちた若者たちである。

私たちは、素晴らしいこの若者たちを贈って下さった主に感謝しながら、青年でなければ出来ない、ふさわしい活動の役割と場所を、積極的に提供しながら、共にイキイキとした共同体を作り上げたいものである。

（人吉教会）

好評のキリスト教講座

課題は受け入れ態勢の充実

キリスト教に興味を持つ人々のために佐賀と熊本地区でキリスト教講座が開かれている。福音宣教の実践の場として企画され、参加者からも好評を得ている。

佐賀地区では「人生講座」の名称で一九八四年から佐賀教会で始まった。講師として当時多久教会主任司祭であったアレグリーニ・アレグリーノ神父（現在佐賀ロザリオの園付き＝ミラノ外国宣教会）が専任で講師を務め、前期十回、後期八回の講義をした。同神父は日本文化に深い造詣を持っており、自らの実践と豊富な体験をもとに人生の根幹に触れながら、現代人にとって今、問われているものは何か、を聖書に照らしながらやさしく語りかけた。

第二回目は「生きがい・文化講座」と銘打って一九八七年に開催され、講師も神父以外に福祉施設員、大学教授、医師、僧侶、修道女、一般信徒など多士済済。その後は「カトリック人生講座」の名称で毎年開催され、好評を博している。第三回目からは、プログラムにオプションツアーが組み込まれ、トラピスト修道院、大神学院、長崎・平戸巡礼、キリシタン史跡訪問などが行われた。今年は国際家族年にちなんで「家族」をメインテーマに第九回目が開催されている。参加者は未洗者が約七十人。信徒約二十五人。修道者も参加している。難題のように見えるテーマでも、「教会ではこう教えている」「聖書にはこう示されている」という講座のねらいが好評を得ている。

昨年九月からは「聖書を読む会」が毎月の初木曜日、午後七時半から九時まで佐賀教会で開かれている。講師はA・アレグリーノ神父。参加者は約三十人で未洗者も含まれている。参加費は無料で、今秋には第二回目が開催される予定。参加者は「どんな人生にも、どんな環境、状況の下でも必ず聖書の中に助言、指示、励ましの言葉があることに気づかされる。聖書の奥深さを座談的雰囲気の中で学べるのがたいへんよい」と語っている。

熊本地区では、一九八八年に熊本市内の五教会（手取・健軍・島崎・帯山・武蔵が丘）の合同で「短期キリスト教講座」の第一回目が一般市民を対象に開催された。今秋には第七回目を迎える。この講座は熊本地区信徒使徒職協議会が、その活動の一環として行っているもので、信徒の具体的な宣教活動として高く評価されている。第三回までは広く市民になじむように教会外の施設を利用し、第四回目からは教会施設を利用したが好評であった。講師は、司祭、修道者、信徒など広い範囲に及び、最近ではプロテスタント教会牧師、僧侶などにその枠を広げている。メインテーマは「生きがいをさがそう」で宗教色の強い内容を避け、人生論、哲学的な話題、人生体験などを中心においている。参加者は約百二十人の未洗者と約九十人の信徒。修道者も十人ほど参加している。

熊本市内での講座のノウハウを利用して、一九九〇年から人吉教会で翌年九一年からは水俣教会で、今年は八代教会でも同様の講座が開かれるようになった。各教会とも信徒、未洗者を含めて約九十人の参加者がいることは、教会の規模からしても驚くべきことである。仏教の僧職にある人が信徒数名を伴って来られたり、興味をもっているが教会に来るきっかけを見つけられなかった人、未洗者の夫と共に参加する人など、よい方向に向いている。アンケートによる評価もよく、この企画を今後とも続けて欲しいとの要望も多い。

アフターケアーは、各小教区が行っているが、受け入れ態勢が必ずしも整っているとはいえず、今後の課題として残されている。

福岡地区でも、一般市民を対象としたキリスト教講座が求められていたが、この六月に短期キリスト教講座福岡地区実行委員会（担当・牧山勝美神父）が結成され、来年初めの開講を目指して準備が進んでいる。

みちくさ

公園に行くと、様々な光景を目にする。体操をしているご老人、走っている若者、トランペットを吹いている人、大声をはりあげて発声の練習をしている人▼けれど同じ場所にいるのに心の有り様は違う。もし、彼らの心にキリストが住んでおられるならと思う。人生の歩き方、走り方、鳴らし方、表現の仕方が違っていてもキリストがいてくださるならキリストが指導してくださる。『もっとこうしたらいいよ』▼「神の声」が聞こえる。心に訴えかけてくる。それを逃してはならない。自分で蓋（ふた）をしてはならない。心に挿入された真珠、神の声、神のみ言葉を取り出そう▼ある人が感情的にこう言った。『神の言葉で人が暮らしていけるか』。これは教会に近づかない人を心配して『神のみ言葉に耳を傾けるように』と促した人がもらった答えである。あまりに金銭にこだわり、欲に走る時、神のみ言葉はよく聞こえない。いや、聞くまいと思っている。悲しい事実である。豊かさを得るためにも、魂の行方を示す神の指導に耳を傾けたい。

「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」（マタイ4・4）。人の生命は魂と体が一つになったもの。不滅の魂を養い、育てるものの第一は魂の創造主なる神の声である。神の言葉は書にされたもの（聖書）、伝えられたもの（聖伝）、心に響くもの（良心）、そして人を通して頂くものがある。ある人は、良心に訴えかける神の声に気づかなかったが、聖書を三回も通読して人生の価値を大きく変えた。ある人は一回も読み通してないが、良心的に生きている。さて自分はどっちだろうか。

【S】

「木を見て森を見ず」

旧約聖書を読もうとしても『レビ記』あたりで力尽きてしまう方が多いのではないでしょうか？　また、それを乗り越えても『歴代誌』あたりでキレてしまうのではないでしょうか？　それは、旧約聖書を前から順番に読もうとするところに問題があると思うのです。確かにそれはそれでよいのですが、『申命記』や『歴代誌』のようにそれまでの書物の記事がダブらせられていたり、〝歴史書〟〝預言書〟〝教訓書〟という分類の中で同時代のものが別々に記されていたりするのです。

「木を見て森を見ず」ということわざがあります。まさに旧約聖書は四十六本の木からできているひとつの森なのです。そして、この森はキリストへの道を準備させる「救いの歴史」なのです。つまり、人間の歴史の中に働かれた神について、その神に応える人間の姿が、そこに示されているのです。

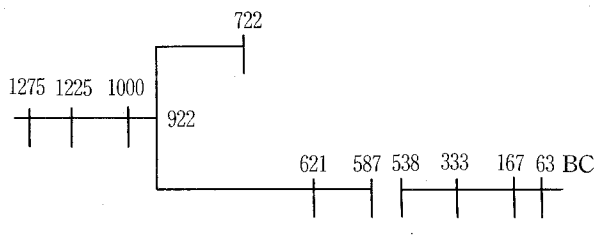
そこで、旧約聖書を読もうという方にひとつ提案をしたいと思います。それは歴史、つまり年表の中で旧約聖書を読むということです。すでに多くの聖書歴史年表が出版されていますが、それを参考にして自分で聖書歴史年表を作りながら旧約聖書を読むのです。

以下のような歴史年表という幹をしっかりおさえ、その中で活躍する預言者たちを付加して枝葉をつけていくのです。確かにそこでは年代の不正確さなどの問題も生じますが、細かいことにこだわることによって大切なメッセージを見落とさないようにしたいものです。

読者の皆様、下記の年代の出来事を聖書を読みながら完成してみませんか。

帯山教会・大水　幸一神父

年表：出来事を入れてみましょう



聖体行列と賛美式

老司教会



六月五日『キリストの聖体』の祝日に、ミサの聖体拝領に続いて、聖体行列並びに聖体賛美式が行われた（＝写真）。

先ず、聖堂にて聖体賛美式に合わせ、聖歌「タントゥム・エルゴ」が歌われ、その間、献香。その後、松井忠之神父様から聖体行列の意義について話があった。

続いて、十字架を先頭に侍者、花まきの少女、聖体を奉持した司祭、信徒の順で、聖堂から約五十メートル離れた駐車場の広場まで、聖歌を歌いながら行列し、そこで献香、花まきがあり、「聖体賛美式の祈り」が唱えられた。

その後、中央の無原罪のマリア像まで行列し、そこで再び献香、花まきが行われ、子どもの祈りが朗読された。

続いて、聖堂に戻り、「タントゥム・エルゴ」の聖歌に続いて「アドロ・テ・デボーテ」の祈りが唱えられ、聖体による祝福、賛美の祈りが捧げられ、「みははマリア」の聖歌で厳かに閉会した。

老司教会・広報部

誓願宣立　この大いなる恵みを賛美する日に

五月二十九日　湯川教会

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」（マタイ・10－8）

教会学校の女子四年生とリーダーの話。「誓願式ってなーに？」（それは、シスターが神様に誓いをすることですよ。）「どうして、終生誓願と言いますか？」（それはね、シスター深堀が神様と一緒になって、死ぬまで人々のために働きますと皆の前で約束することなのですからよ。）「あっ！分かった。それ神様と結婚することですね。」

終生誓願式は湯川教会の創立（四十五年前）以来初めてのできごとです。先の女子の単純な質問は、たくさんの信者も持っていたのではないでしょうか。好奇心もあってか初めての方が多く、予想外に聖堂はいっぱいになり、三百人以上は入っていたと思います。当教会以外にも近隣教会の信者の方々、中津からサレジオ会の神学生、高宮教会の主任司祭、東京からマリア会の司祭、そして北九州地区の司祭方、松永司教様、十五名の共同ミサの中で、シスター深堀が、生涯を捧げる誓願文を自ら、はっきりと教会の前で公的に読み上げた時、一同は深い感動を覚えました。

これに先立ち松永司教様から、「誓願宣立は神の恵みと彼女のまごころとの出会いであり、神の民一同に対する恵みのしるしでもあります。」とのおことばがありました。

司教様と司祭団の祝福の後で、シスター深堀のお礼のことばがありました。「自分が今ここに在るのは、全く主の限りない慈しみと恵みによるものとしか言えない。『神様の慈しみは、いのちにまさる！』と確信しています。私が真の福音を心に聞き、知る者となれるように、そして教会の証し人としても、この使命を全うする事ができますようにお祈りください。」と堂々と、あるときは声を詰まらせながらも、最後まではっきりと話しました。あいさつを聞いていた人々の中には涙ぐんでいる方々もありました。

この誓願式は、召命へのよい証しとなり、湯川教会にとっても、恵み豊かな日、信徒の協力一致の賜でした。

天使の聖母宣教修道女会
Sr. 杉本美佐子

召命学校ご案内

今年も、福岡カトリック神学院と聖パウロ小神学校では司祭修道者の召命を祈願し、召命学校と題して、錬成会が行われる。教区や修道会の聖職者の誕生が減少している中で、司祭および信徒が現状を認識し一人でも多くの志願者を送り出すことが強く望まれる。この錬成会で、「司祭になりたい、修道者になりたい」という少年が増えることを期待するものである。

召命学校

対　象：小学校４～６年生男子（中学生希望者も可）
日　時：８月17日㈬　午後３時～19日㈮　昼食後
場　所：福岡カトリック神学院（旧小神学校）
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
定　員：30人
申込み：福岡カトリック神学院　森山信三神父
☎092－531－6821　FAX524－7373

召命錬成会

対　象：小学３年生～６年生の男子
日　時：7月22日㈮ 午後4時～24日㈰ 午前10時30分
場　所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証のコピー、筆記用具
◎申し込み締め切りは、７月15日です。
〒810 福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ小神学校 ☎092－531－0924

新たな気持ちで再出発

―福岡地区では典礼研修を計画―

新年度の始めにあたり、教区信徒使徒職協議会（信徒協）の役員改正が行われた。第二回の全国会議も終わり、新たな気持ちで宣教に励む信徒協の働きが期待される。福岡地区では、司教団文書「家庭と宣教」を受けて、九月にミサ典礼に関しての研修会が開かれる。

去る五月二十二日、カテドラルセンターで本年度第一回の教区信徒使徒職協議会役員会が開かれ、各地区および各種団体の本年度の活動計画の発表と役員改選が行われた。

今期（一九九四～九五年度）は熊本地区が事務局担当となり、新役員の顔ぶれが次のとおり決定した。なお新会長、副会長は同日、司教館に松永久次郎司教を訪問し、承認を得た。（敬称略、カッコ内は所属小教区）

福岡教区信徒使徒職協議会
会　長　佐無田斌（八吉）
副会長　大水茂市（新田原）
同　井上元之（古賀）
同　櫻井太郎（佐賀）

各教区信徒使徒職協議会も役員の改選が行われ、次のように決まった。

北九州地区
会　長　大水茂市（新田原）
副会長　上村義幸（黒崎）
同　増水将二（戸畑）
福岡地区
会　長　井上元之（古賀）
副会長　青木康雄（今村）
同　中村武司（吉塚）
佐賀地区
会　長　櫻井太郎（佐賀）
副会長　田丸　鋭（佐賀）
同　中川義幸（多久）
同　古賀　満（武雄）
熊本地区
会　長　佐無田斌（八吉）
副会長　阿部由子（手取）
同　岩下文男（武蔵が丘）

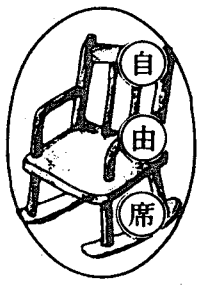
この九月には福岡地区で典礼をテーマとした信徒研修会が計画されている。多くの参加者が望まれる。詳細は次号。

教区人事

▽門司港教会管理者（大江教会主任）牧山重光▽大江教会主任（本渡教会主任兼任）フランシス・マッケイ＝聖コロンバン会▽黒崎教会助任（戸畑教会助任）クロード・バスチ＝パリ外国宣教会

共なる成長を目指して

戸村　修神父



かつて中学時代の三年間を暮らした、なつかしの古巣に戻ってから早や半年。ゆっくりと感傷にひたる間もなく、子どもの高校入試、入学手続、卒業式。一人を東京へ送り出し、ヤレヤレと息つく間もなく、新入生（入会志願者）を迎える準備、入学式等々あわただしく、たくさんの事を一遍に経験した感である。

そして今、四人の息子たちがここで生活している。中学２年生、１年生それぞれ二人ずつである。かつて私もそうであったが、中学卒業までここで暮らすことになる。

先日、授業参観、家庭訪問、そして中間テストと、学校行事があった。親としての気持ちを多少なりとも味わわせてもらった。試験前には『勉強しているか』と聞くと『してますよ』との答え。試験が終わって『できたか』と聞くと『できました』と。

最近は、成績表に順位は書いてなく、どれ位のところにいる、という表わし方をしている。結果はどうだったかはここでは公表しないでおく。

学校での成績だけでなく、生活全体を通して、今日の息子たちが、明日はどう成長するかは楽しみではあるが、一方では、こちらの世話の仕方にもかかっていることを思う時、不安はぬぐいきれない。

パウロは言っている『わたしは植え、アポロは水をやりました。しかし、成長させてくださったのは神です』と。成長させてくださるのは神であっても、世話を一生懸命にしなければならない。息子たちの成長を願いながら共に成長してゆきたい。

（聖パウロ小神学校）

生活にピリオド。
男がほっとするキリストとの3日間
募集中
［日時］８月５日㈮PM８：00～７日㈰PM４：00
［会費］１万２千円　［対象］男性
［指導］大森正樹師（南山・人間関係科教授）・鈴木忠一神父
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松３－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

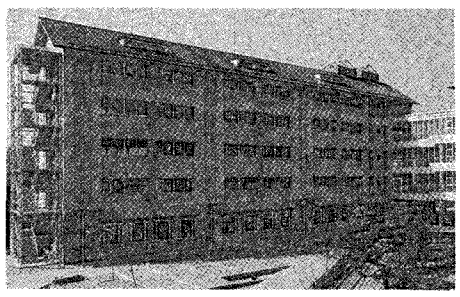
明治学園高等学校
男子校舎祝福式

松永久次郎司教様の司式により五月十九日に高等学校男子校舎が祝福された。明治学園では、高等学校に男子生徒が入学して、男女共に、中・高六ヵ年教育が実施されている。この度、十三ヵ月の工期を経て、男子生徒の学習の場である校舎が完成した。鉄筋コンクリート造五階建で、ホール・宗教室。理科室・会議室と九教室から成る建物である（＝写真）。

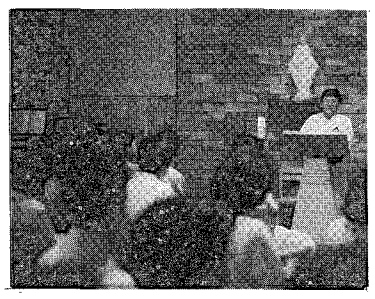
明治学園高等学校に男子生徒が入学したのは三年前のことである。学園が修道会に移管されてから、何回か取り沙汰された男子高校はその都度立ち消えになってきたが、今回それが実現したのは、〝神のみ旨だったから〟と関係者は思っている。カトリック教会には摂理に対する信仰があるが、男子生徒の入学と新校舎の完成はまさに摂理に導かれたものであった。足掛け五年、この期間に様々な出来事や人との出会いがあり、男子高校設立事業募金委員会の発足と活動、保護者、卒業生、地域社会の人々の協力と支援の中に神の導きがみえた。

学園で学ぶ生徒たちがキリストの生き方に倣うものになることを願い祈る祝福式・竣工式であった。

（明治学園）



話があった。畠神父様は、公会議後の典礼刷新の時期に活躍した司祭の影響を受けている。今回は典礼の精神の中から、『霊的な歌は神への賛美と感謝に功を奏する』ことを話してもらったのである（＝写真）。



後、歌で綴った「教会の夕べの祈り」で締めくくられた。

参加者は、「聖歌がこれほど素晴らしいものとは思わなかった」「神様の言葉を良く味わえるよう、もっと大事に歌いたい」「地元の教会で普及したい」等の所感を残し、満たされた心で黙想の家をあとにした。

古賀教会信徒・山下幸年

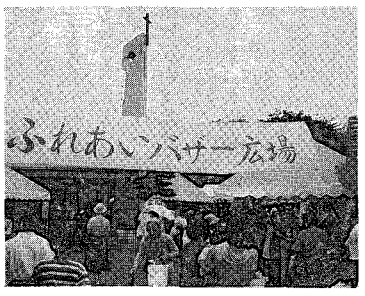
老司教会
ふれあいバザー大盛況

五月八日、恒例の第十八回バザーが開催された。さわやかな〝五月晴れ〟。準備に当たった関係者一同、神の恵みの豊かさを喜び合った。

今年は例年にも増して〝心のふれあい〟を大きな目標として掲げ、近所の方々を対象に、当日の朝刊に新聞折り込みが実施された。

そのせいか、日頃顔を見ない未洗者の方々が続々とつめかけ、友愛品コーナーなど、開場から一時間もたたない内に、ほとんどが売り切れる程の活況を呈した。

また、今年初めて試みられた餅つきコーナーも若い青壮年に子どもたちも加わり大はしゃぎ。つき終わると、またたく間に売れていった。



夏日を思わせる陽気で、飲みもののコーナーや、から揚げ、焼き鳥コーナーも盛況。焼きそばやお好み焼など、当初準備した食券も正午過ぎには売り切れる始末。子どもたちのために用意された金魚すくいや、恐怖の大迷路コーナーなども大好評。賑やかで暖かな〝ふれあいバザー〟となり、午後三時前、大成功のうちに幕を閉じた。

神に感謝！

（老司教会広報室）

顧みられない子どもを皆で支える

SE・CO

・六月十九日の父の日に、フィリピンの飢えや病に苦しむ子どもを皆で支えるバザーが大橋の聖ウルスラ幼稚園で行われました。小雨の中、十時三十分開場。各コーナーはたちまち長い列が出来るほどの盛況でした。

会員の創作手芸品、リサイクル品、遊休品、手作りの菓子、漬物などが大繁盛。食堂コーナーのイタリア風スパゲッティは当バザーのシンボル。子どもコーナーは若いお母さん方の感性で、さすがと言った演出に人気上々。



どのコーナーも大盛況

福岡海星女学院付属
マリア幼稚園

マリア幼稚園はマリアの宣教者フランシスコ修道会により、昭和二十六年に福岡市高宮に設立され、昭和三十九年に現在地に移転しました。当地は福岡市南区の老司池のほとりに位置し、四十三回生が巣立っております。青空にそびえ立つマリア像は、本学院全体を暖かく包み、園児たちもマリア様のみ許で素直に祈る心、やさしい心が自然に育っているように思われます。学院は自然の森の中にあり、若葉の緑が風に大きく揺れるさまはほほえみに包まれる安らぎを覚えさせてくれます。さまざまな小鳥たちが巣を作って雛を育て、道端の大きな松の木の下には野あざみが咲き、名も知らない小さな野花が一輪一輪調和よく咲いているのを観る時、賛美と感謝があふれ出てきます。

幼稚園のできごと

私は四月に当園に赴任したばかりで園児たちについて書くにはもう少し時が必要ですが、毎日出会っている様々な事柄を心に大切におさめています。園児たちは「シスター」とやさしい声をかけ、清らかなほほえみをもって私を大事に迎えてくれました。

園長先生始め、若い先生方のほとんどが当学院の卒業生です。キリストの愛、創立者のお心が自然に流れ、心はおおらかで温かく、子どもたちをやさしく見守るまなざし、待つ忍耐、自然に合掌する素直な姿、園児たちのために一生懸命働く姿等、どこの園でも同じようなことなのでしょうが、この新しい任地でも新鮮な再発見をさせていただいております。

このすばらしい環境の中で私も創立者マリ・ド・パッションのお心に沿って、日々新たにキリストの愛を発見し、伝えていきたいと念願しております。

主任教諭
Sr. 石黒トキ

典礼聖歌と祈りの集い
〝賛美は聖歌と祈りの中で〟

六月十二日、福岡黙想の家で、第十五回目の「典礼聖歌と祈りの集い」が行われた。福岡、佐賀、熊本などから四十人以上が集まった。

前段は深堀純先生のユーモア溢れる指導のもと、聖歌の練習に励んだ。この中で、私たちが日頃気付かなかった事柄（例えば歌う早さにもみ言葉を味わわせる意味があること）や、主の言葉を伝える部分を更に心を込めて歌うにはどうすれば良いかなどについて学んだ。時間とともに錬成された賛美は、聖堂に高くこだまし、私たちが主とともにいることを心から感じた。

後段は、畠基幸神父様（御受難会）から「神への賛美と感謝を歌う意義について」の話があった。畠神父様は、公会議後の典礼刷新の時期に活躍した司祭の影響を受けている。今回は典礼の精神の中から、『霊的な歌は神への賛美と感謝に功を奏する』ことを話してもらったのである（＝写真）。

後、歌で綴った「教会の夕べの祈り」で締めくくられた。

参加者は、「聖歌がこれほど素晴らしいものとは思わなかった」「神様の言葉を良く味わえるよう、もっと大事に歌いたい」「地元の教会で普及したい」等の所感を残し、満たされた心で黙想の家をあとにした。

古賀教会信徒・山下幸年

老司教会
ふれあいバザー大盛況

五月八日、恒例の第十八回バザーが開催された。さわやかな〝五月晴れ〟。準備に当たった関係者一同、神の恵みの豊かさを喜び合った。

今年は例年にも増して〝心のふれあい〟を大きな目標として掲げ、近所の方々を対象に、当日の朝刊に新聞折り込みが実施された。

そのせいか、日頃顔を見ない未洗者の方々が続々とつめかけ、友愛品コーナーなど、開場から一時間もたたない内に、ほとんどが売り切れる程の活況を呈した。

また、今年初めて試みられた餅つきコーナーも若い青壮年に子どもたちも加わり大はしゃぎ。つき終わると、またたく間に売れていった。

夏日を思わせる陽気で、飲みもののコーナーや、から揚げ、焼き鳥コーナーも盛況。焼きそばやお好み焼など、当初準備した食券も正午過ぎには売り切れる始末。子どもたちのために用意された金魚すくいや、恐怖の大迷路コーナーなども大好評。賑やかで暖かな〝ふれあいバザー〟となり、午後三時前、大成功のうちに幕を閉じた。

神に感謝！

（老司教会広報室）

顧みられない子どもを皆で支える

SE・CO

・六月十九日の父の日に、フィリピンの飢えや病に苦しむ子どもを皆で支えるバザーが大橋の聖ウルスラ幼稚園で行われました。小雨の中、十時三十分開場。各コーナーはたちまち長い列が出来るほどの盛況でした。

会員の創作手芸品、リサイクル品、遊休品、手作りの菓子、漬物などが大繁盛。食堂コーナーのイタリア風スパゲッティは当バザーのシンボル。子どもコーナーは若いお母さん方の感性で、さすがと言った演出に人気上々。

どのコーナーも大盛況

福岡海星女学院付属
マリア幼稚園

マリア幼稚園はマリアの宣教者フランシスコ修道会により、昭和二十六年に福岡市高宮に設立され、昭和三十九年に現在地に移転しました。当地は福岡市南区の老司池のほとりに位置し、四十三回生が巣立っております。青空にそびえ立つマリア像は、本学院全体を暖かく包み、園児たちもマリア様のみ許で素直に祈る心、やさしい心が自然に育っているように思われます。学院は自然の森の中にあり、若葉の緑が風に大きく揺れるさまはほほえみに包まれる安らぎを覚えさせてくれます。さまざまな小鳥たちが巣を作って雛を育て、道端の大きな松の木の下には野あざみが咲き、名も知らない小さな野花が一輪一輪調和よく咲いているのを観る時、賛美と感謝があふれ出てきます。

幼稚園のできごと

私は四月に当園に赴任したばかりで園児たちについて書くにはもう少し時が必要ですが、毎日出会っている様々な事柄を心に大切におさめています。園児たちは「シスター」とやさしい声をかけ、清らかなほほえみをもって私を大事に迎えてくれました。

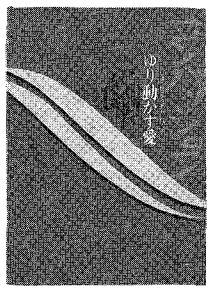
園長先生始め、若い先生方のほとんどが当学院の卒業生です。キリストの愛、創立者のお心が自然に流れ、心はおおらかで温かく、子どもたちをやさしく見守るまなざし、待つ忍耐、自然に合掌する素直な姿、園児たちのために一生懸命働く姿等、どこの園でも同じようなことなのでしょうが、この新しい任地でも新鮮な再発見をさせていただいております。

このすばらしい環境の中で私も創立者マリ・ド・パッションのお心に沿って、日々新たにキリストの愛を発見し、伝えていきたいと念願しております。

主任教諭
Sr. 石黒トキ

BOOK 読みは専科

★コンパッション
―ゆり動かす愛―
ヘンリー・J・M・ノーエン ほか著
石井健吾 訳



コンパッションとは共に耐え、共に苦しむことです。聖書では、「あわれみ」と訳しています。このあわれみを今どう生きるかを、いろいろな分野の人々が、体験をもとにおよそ三年がかりで考察したものをまとめです。

あわれみの意味とイエスの生き方が、やさしく美しく説明され、現場で深い痛みをとおしてあわれみを生きた人々の言葉が感動的です。

女子パウロ会 一、五〇〇円

◇　◇

★白い鳩のように
作画 牧村ジュン



キリストの愛と希望を伝えるために様々なメディアを使い、五十ヵ国で働く女子パウロ会のシスターたち。この会の初代総長、シスター・テクラ・メルロが今年生誕一〇〇年を迎えた。

かつてノアのもとに「よい便り」を運んだ鳩のようにはばたき、シスターたちから今なお「母」と呼ばれているシスター・テクラ・メルロの人生とは…。彼女の人生を簡潔に、忠実に画いた生誕一〇〇年記念出版の漫画。

女子パウロ会　五〇〇円

ジャパン建築
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

7・8月の行事

※ゴチックは司教日程

7月

1日　聖書講座⑧
3日　広報を考える会
　召命を祈る集い［天使の園修道院］
7日　福岡地区婦人会福岡市内巡礼バス旅行
8日　聖書講座⑨
10日　教区顧問会
12日　愛と性を考える研修会
　教区修女連養成講座出会いの集い
15日　聖書講座⑩(前期最終)講師／松永久次郎司教
22日　召命錬成会［福岡・聖パウロ小神学校］(～24日)
24日　聖霊による刷新九州大会(～28日)

8月

6日　主の変容
　平和旬間(～15日)
7日　平和祈願ミサ
14日　教区墓地ミサ
15日　聖母の被昇天
　馬渡島教会堅信式
17日　召命学校［福岡カトリック神学院］(～19日)
27日　福岡地区婦人会感謝ミサ

・・・・・・・・・・

▽福岡黙想の家

▼1(金)～3(日)新求道共同体黙想
▼9(土)～10(日)エマヌエル会黙想
▼26(火)～29(金)日本カトリック学校連合会研修
▼31(日)～8／9(火)修道女の為の8日間の黙想
（指導・マテオ神父）

・・・・・・・・・・

召命を祈る集い　7月3日(日)14時・熊本地区、特に熊本市内の信徒・修道者の皆さんの参加を希望します［場所］天使の園修道院［問合先］大水幸一神父(帯山教会)☎096―382―9413

広報を考える会　7月3日(日)14時～16時半・小教区広報担当者をはじめ、広報活動に関心のある方、お茶を飲みながら教会の広報活動について考えましょう［場所］司教館別館5階［参加費］無料［主催］教区広報委員会［問合先］教区本部広報部☎092―522―5139

聖書講座【ヨハネ福音書】　7月15日まで毎週金曜日19時～21時［場所］福岡大名町カテドラルセンター［日時・テーマ・聖書章節・講師］⑧1日・盲人のいやし［9］森山信三⑨8日・イエスは良い羊飼い［10］大水幸一⑩15日・**ラザロ、生き返る［11］松永久次郎司教**［受講料］一回毎800円［申込・問合先］教区本部事務局☎092―522―5139

第4回カトリック愛と性を考える研修会　7月10日(日)14時～17時15分［会場］戸畑・明治学園［テーマ］家族のきずな、いのちと性―今私たちが知りたい結婚と家庭に関する神の計画［講師］松永久次郎司教［プログラム］基調講演、ビデオ、証し、分かち合い、聖体賛美式［会費］500円(学生300円)［主催］教区信仰教育・家庭委員会［連絡先］カトリック・ファミリーセンター☎092―541―6207

第10回出会いの集い　7月10日(日)11時30分～16時・山元神父さまを囲んで楽しいひとときとフォークミサを［会場］カテドラルセンター1階講堂・小聖堂［テーマ］出会いのよろこび［対象］20歳以上の独身男女［プログラム］講話、歌、ゲーム、フォークミサ他［会費］1000円(昼食代含む)＊当日参加も可能ですが、出来るだけ事前にお申し込み下さい［問合・申込先］児玉幸子☎092―922―5126・安倍良子☎092―512―4028・峯幸子☎092―861―0443

教区修女連養成講座　7月10日(日)10時～15時・教区年間テーマ「キリストを学びキリストに生きる」に基づき、現代社会の諸問題を典礼の中においても生きることを目指して開かれるもの。修道女に限らず、信徒の方の参加も可能。［場所］司教館別館5階会議室［講師］林尚志神父(イエズス会・下関労働教育センター)［テーマ］「神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない」現代における私たちの日常生活と典礼［会費］1000円(弁当持参)＊15時からのミサには自由に参加できます［対象］教区内修道女、信徒の希望者［申込］当日受付にて［問合先］Sr.植木タヨ子☎092―531―0942・Sr.黒木紗耶子☎096―324―6212

ミニ情報

カトリック難聴者のつどい　［日時］7月23日(土)13時30分～24日(日)15時予定［内容］討論会及び史跡巡りのバスハイクを予定［場所］大分カトリック教会信徒会館［会費］3500円(食事・フトン代・バスレンタル代)［問合先］藤武茂(古賀教会所属)☎092―606―8537［住所］〒811―02福岡市東区奈多一丁目3―20―512★参加できない方でも当会合に関心をお持ちの方は、お気軽にご連絡ください。

94年青少年平和巡礼①「ヒロシマ平和行事参加」8月5日9時・小倉教会集合～6日18時同教会解散［内容］長崎市内巡礼・平和祈願ミサ［問合先］中村信哉神父(大名町)☎092―741―3687［主催］教区青少年委員会＊いずれも［対象］高校生・青年［定員］15名［参加費］4000円(高校生3000円)［申込締切］7月12日＊宿泊などの申込がありますので、締切は必ず守ってください。

世界青年大会　95年1月10日～15日［場所］マニラ・ケソンシティ(フィリピン)［内容］教皇様を迎えての様々な催し［参加費］15万円程度／教区青少年担当者による企画はありませんが、参加を希望される方はお知らせください。修道会や他教区の企画を紹介いたします。［問合先］大水幸一神父(帯山教会)☎096―382―9413

94年青少年平和巡礼②「ナガサキ」8月9日13時・大名町教会集合～10日18時同教会解散［内容］長崎市内巡礼・平和祈願ミサ［問合先］中村彰神父(小倉)☎093―921―0093

雨宮慧神父ラジオに出演　NHKラジオ第二放送「こころをよむ」に四月三日から出演。［題］「旧約聖書の預言者たち」［テキスト］同題でNHK出版から。下巻発売中。［放送日時］毎週日曜日午前11時15分～12時［再放送］同週火曜日午前11時～／翌週午後11時15分～／九月まで放送予定。

教区ハンドブック'94　信徒の心得・カレンダー・教会、修道院や事業所の住所等の情報を集めた小冊子・B6判47ページ・カレンダーは予定の書き込みが可能・非売品(一冊一〇〇円の献金)ぜひ一家に一冊お持ち下さい。各小教区にあります。［問合先］教区本部事務局☎092―522―5139

美野島司牧センター　外国人のためのセンターです。家族、健康、仕事他の相談を受け付けています。火・金・土・日曜日12時～19時まで開いています。☎092―431―1419(担当はマルセル・コース神父)

日本カトリック研修センター・コース案内

【4】宗教・倫理教育ワークショップ―福音的価値観をどう教えるか―　8月8日(月)16時～11日(木)13時30分［3泊4日］中学、高校で宗教・倫理を担当する教師が現場での体験や教材、授業案を持ち寄り、神学的、聖書的な視点を加えつつ、グループで検討しながら模擬授業を共に作りあげる。［対象］「宗教・倫理」担当者［定員］30名［費用］3万円(消費税900円は別)［場所］日本カトリック研修センター

【5】ヤング海外体験学習　8月22日(月)16時～29日(月)［7泊8日］日本に最も近くて遠い隣国である韓国を訪問する。あなたの若さで愛と平和の架け橋を築いてみませんか。出発前に「研修センター」でオリエンテーション学習を行う。［対象］青年信徒(高校生以上)［定員］25名［費用］11万円［場所］日本カトリック研修センター［問合先］いずれも☎466名古屋市昭和区広路町隼人30・日本カトリック研修センター研究企画部☎052―831―5037

7月命日の司祭

†ジョセフ・ブルトン神父(パリ外国宣教会)
一九五七年七月二十五日
元呼子教会主任

†ルネ・ルリエ神父(パリ外国宣教会)
一九七〇年七月二十八日
元聖小崎育児園園長

†ヤコブ平田勇神父
一九八〇年七月二十日
元西新教会主任

†ジョルジュ・ラグレブ神父(パリ外国宣教会)
一九八二年七月二十五日

†ウイリアム・シュルツ神父(スカボロ外国宣教会)
一九八七年七月二十日
元吉塚教会主任

＊教区報6月号の折り込み「くろすろーど」11号に同神父の命日を七月二日とお知らせしましたが、同月二十日の誤りでした。お詫びして訂正いたします。なお、教区ハンドブックにも同様の誤りがございますので、ご訂正ください。

†ヨハネ平田惣五郎神父
一九八九年七月三十一日
元浄水通教会主任

編集室から

友が最終バスで降りてくる。何時に何処に着くから待っててくれと言われたその時刻に間にあうように万障繰り合わせる。そして、いよいよバスが来て、降りて来る姿を見る時の感動。キリストが来られる時のために心の準備をして待とう。バスで来られるのか、電車か、飛行機か。もし、来られる日がいつなのか知らせがないならどうしようか。教区報でお知らせ出来たらいいが。

浄水通教会・青木　保神父



信仰の確信

確信(その一)

「イヤー、今日はさすがの私も参りました」。と、生物を教えていたベテランのA教諭が職員室に、いかにも気をつかった表情で入って来ました。

B教諭「どうなさいました」

A教諭「実は先刻授業で鶏の雄と雌の体の構造を説明して、『だから雄鶏は絶対に卵を産まないようになっている』と言ったところ、一人の生徒が手を上げて、『先生、雄鶏も卵を産みます。僕、雄鶏が卵を産むのをみました。』そこで私は『今、先生が説明をした通り雄鶏は絶対にネ』と言ったのですが、件の生徒はゆずらず、『いや、先生、僕この目で見たんです。間違いありません』と言うのです。目で見て実際に確かめたと言うので、科学者を自負していた私も、『君が本当に雄鶏が卵を産むのを見たと言うのであれば、本当にそうかも知れない』と折れて帰って来た所です」。

みんな、ゲラゲラ、クスクス…、ややあって、C教諭「私たちはすばらしい将来性のある生徒をもっているようです。ここに来ている神学生たちが、福音の真理を確信をもって宣教するようになったら素晴らしいですネ」。

雄鶏の卵は論外としても！

確信(その二)

カトリック教会でその名を知らない人はないと言われるカルメル会の一修道女、幼きイエズスの聖テレジアの残した聖書の一ページに自らの鮮血で書いた「クレド」(私は信じます)の一語があると聞く。

その確信の響きやいかに！

使徒聖パウロは言う。「わたしは確信します。死も、命も、天使も、支配するものも、…他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」(ロマ書8・38以下)。

噫！　いかにしたら聖人たちの信仰の確信に追従出来ようか！

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

カテドラルで召命を考える集い

主よ、私たちの祈りを聞き入れてください

青少年の召命を願い求めて、福岡教区長松永久次郎司教をはじめ、参加者たちは、カテドラル（大名町教会）で、キリスト者としての生き方を見つめ直す必要性を確認し、深い祈りを捧げた。



召命担当者の報告

『ラビ、どこに泊まっておられるのですか』。主は言われた。『来なさい、そうすれば分かる』（ヨハネ1・38）。

六月二十六日、他の大きな講演会と日時が重なったため参加者がわずかではないかと心配されたが、イエスのこの言葉に応えて、百人近くが参加した。集いでは、最初に聖パウロ修道会の戸村修神父が男子修道会の召命の現状、修道会と宣教会の区別などを分かり易く説明した。

続いて、幼きイエズス修道女会の黒木紗耶子修道女が女子修道会について、最後に森山信三神父（福岡カトリック神学院）が、教区司祭、神学生についてそれぞれ、現状、問題点、今後の展望などについて報告した。

各々に共通していることはやはり、召命の減少、また司祭、修道者の高齢化ということであった。しかし、このことに悲観することなく、各々の固有の召命、カリスマに目覚めて、教会にも社会にも広く貢献できる人材、信徒の養成に協力すべきことが確認された。

青少年の召命のためには、まずキリストの代理者として生きている司祭、修道者が、キリストに従う者としての喜びの姿を示すこと。また、キリストを信じて生きる信徒にその喜びを分かち合うことが求められる。

最後に松永久次郎司教を迎え、主の食卓を囲み、一同で熱い祈りを捧げ、散会した。

主催は召命を共に祈る会。

今月のみことば

わたしは
まことのぶどうの木
（ヨハネ15・1）

大牟田　平田三好神父

時の話題

本松　純一

数年前、クルシリヨに参加した時、私のグループに神学生がいた。雑談の中で、その神学生（今は立派な神父様になっておられる）に尋ねてみた。「神学校には説教学という科目がありますか？」答えは、「そんな学科はありません」であった。私は四十数年前に受洗し、勤務先の関係で、東京、名古屋、広島などを転々とし、数多くの教会でミサに与かり、多くの神父様の説教を聞く機会を得たのだが、その中で凄く魅せられる説教に接したことがある。そのほとんどが外国人の神父様であった。

何故心から魅せられたのか？私なりに分析してみた。それは、たどたどしい日本語ながら、情熱に溢れ、ご自分で体験されたエピソードをユーモアを交えながら話される外国人特有の話術にあるのではないかと思われる。

日本人は一般的にユーモアの少ない人種だと言われている。私もその一人だが…。

昨年、福岡カテドラルセンターで「生と老い・死をみつめる会」に参加し、上智大学教授デーケン神父様のお話を聞いた。「人は間違いなく死ぬ。しかし、死の間際までユーモアを忘れないように…」と。これまたユーモラスに話されていた。「ユーモアは天国へのパスポートかな？」と感じた次第。間違いだったらお許し下さい。

つい最近のカトリック新聞に、「五月八日（広報の日）東京での研修会で『カトリック系情報誌には、どうも面白さが欠けている。もっと面白さを盛り込む工夫が必要ではないだろうか』との提案がなされた」と報じていた。私も同感である。とは言え、どうすれば面白さ、つまりユーモアを盛り込むことが出来るのか。私も「教会だより」の編集者として頭を悩ませているのだが…。

そうだ！　老いと生をみつめる前に、紙面にユーモアを盛り込むコツを今度デーケン神父様にお会いしたときに聞いてみることにしよう。

ユーモアとは、ジョークと違い、温かな微笑みを誘う愛を含んだ面白さだと理解してはいるのだが、やはりユーモアを身につけるには日頃の心掛けが大切であるようだ。

（老司教会）

ユーモアは天国へのパスポート？

召命学校に参加を！

対　象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日　時：8月17日㈬ 午後3時～19日㈮ 昼食後
場　所：福岡カトリック神学院（旧小神学校）
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
定　員：30人
申込み：福岡カトリック神学院　森山信三神父
☎092－531－6821 FAX524－7373

家族のきづな・いのちと性

第四回カトリック愛と性を考える研修会

第四回カトリック愛と性を考える研修会が七月十日、北九州の明治学園で行われ、参加者は信徒・未洗者合わせて約百六十人であった。

まず、生命尊重ビデオを視聴。次に、松永久次郎司教の「家族のきづなと性」をテーマにした基調講演。続いて、若者と夫婦の生きた証し。各自の振り返り。三人グループの真実な分かち合い。熱気に溢れた恵み多い研修会は最後に松永司教司式の聖体賛美式をもって終った。

司教は、話の要点をプリントして話した。「性といのちが軽んじられがちな世相にあって、三位一体の神の愛に満ちた素晴らしいおくりものである性といのち、夫婦の愛と責任の在り方などについて、前教皇パウロ六世の『フマーネビテ―適切な産児の調節について―』は預言的なものであった」。また、ことしの家族年を記念して出された現教皇の『家族への手紙』の中のことばを引用して「教会の教導権は愛と責任に満ちた正しいものである」など、神の愛を訴えた。

若者と夫婦の体験談も、いのちの素晴らしさ、そのいのちに結びつく性の尊さの在り方についてであり、司教の話の証しになった。

参加者からは、①このような研修会に参加出来た感謝や喜び　②愛・性・いのちについて目が開かれたこと　③グループの分かち合いが勇気ある真実なものでたくさんの恵みをいただいたこと　④このような研修会は、若者や若い夫婦、小教区単位などでも行って欲しい…などの肯定的・積極的な感想や要望が寄せられた。

福音宣教省長官
J・トムコ枢機卿来福予定



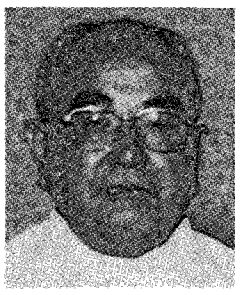
J・トムコ枢機卿

ローマ教皇庁の福音宣教省（旧布教聖省＝プロパガンダ・フィデ）長官ヨセフ・トムコ枢機卿が台湾訪問の途上、来日する。同枢機卿「カルディナル」はスロバキアのウダベスク生まれで七十歳。一九八五年に枢機卿に挙げられ、その年から福音宣教省の長官を務めている。

東京と高松に立ち寄られた後、九月二十日に福岡サン・スルピス大神学院訪問のため来福する予定。

大名町カテドラル聖堂建設の際、福音宣教省から援助を得た経緯もあり、同日午後にカテドラル訪問が予定されている。その際、司祭、修道者、近隣の信徒による小集会がもたれる予定。スケジュールが決定次第、小教区主任司祭を通して通知されるので、関係者各位の協力が求められる。

フランシスコ・ザビエル　平田正喜神父七月三日帰天



午前九時二十六分、亀山栄光病院で帰天。十二人兄弟の四番目で三男。享年七十三歳。

七月四日午後七時から大名町教会で通夜。五日午後十二時半から同教会で、松永久次郎司教司式のもと葬儀ミサ、告別式が執り行われた。

一九二一年一月十二日三井郡大刀洗町本郷に生まれ、福岡泰星中学校（小神学校）、福岡サン・スルピス大神学院を卒業後、一九五一年五月に大名町教会で司祭に叙階された。大名町、馬渡島教会の助任司祭を経て、一九五三年から福岡市の地行教会の主任司祭を五年間務めた。その後、大名町、小郡、新田原、老司教会の主任司祭を歴任した。

この間、教区顧問、司祭評議会評議員、財務顧問など、教区の重責を果した。

一九九二年十二月、体の不調を訴え、年が明けて久留米医科大学付属病院に入院。二月十四日に退院。今年一月に病気が再発。大野城市の秦病院に入院。三月に亀山栄光病院に移り、再手術。七月二日、松永司教に看取られ、枕元にたたずむ人たちの祈りのうちに安らかにこの世の生涯を終えた。

みちくさ

『なにごとのおわしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるる』（西行法師）。私たちは神を対象にしないで生きることは出来ない。朝起きて「ああ、今日も新しい一日をいただきました。ありがとうございます。罪のまま死なないで良かったです。今日もお捧げし、償いの日にします。よろしくお願いします」と心の中で唱える。元気なようでいつ亡くなるか解らないのが私たちである。だから一日一日を精一杯、大切に生きていきたいと思う。かといって、時に怠けることもあったりする。後で、時間がもったいなかったなあと思っても戻って来ない。寝る時間さえ惜しい日もあるのに。時を十分に生かせたらと思う▼この、『時』を与えられる神のみ手の中に私たちの生命はある。神は私たちがその生命を上手に使うようにと、知性と意志と感情をも与えられた。そしてついに神は、ご自分が与えたものを、また取り去られるのである。取り去られた者は、その生き方に応じて神の右か左に分けられるのである▼私たちが上手に生きるために恵みを与える神は、時々生き方を問われる。「あなたの魂は元気ですか」。「元気です」「今傷ついています」答えいろいろ。魂の行方を気にしながら生きて行かねば。いつでも天の国には入りたい。それが人生の目標だから。では今のこんな状態でいいのだろうか。主イエスならどう思われるか。主は言われた。「『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである」（マタイ7・21）と。天国行きの切符はもらったはずだが、どこに置いたかもう一度見てみよう。

【S】

「木を見て森を見ず」その2

前回は歴史年表を使っての旧約聖書の読み方について紹介しました。今回は旧約聖書を読むにあたっての大切なことについて述べてみたいと思います。

ある日のこと、イエスさまはユダヤ人たちに「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」（ヨハネ5・39）と言われました。ここに示されている「聖書」とは、旧約聖書のことです。旧約聖書はイエスさまについて準備するものとなっています。事実、福音書において旧約聖書を引用している箇所も三百回以上におよびます。また、直接引用していなくても、影響を受けている箇所も多く見られます。これらのほとんどは、旧約聖書の記述がイエスさまによって実現されたものとして記されています。たとえば、イエスさまは多くの癒しの奇跡を行っておられますが、これらの奇跡はイザヤ書（35・5―6、61・1―3、マタイ11・2―6、ルカ4・20―22）などの実現であり、旧約時代の偉人たちを越える者として示されているのです（列王記5・1―14、マタイ8・5―13、マタイ12・39―42）。また、嵐をしずめたり、水の上を歩いたりする奇跡についても一見無駄なようにも思えるのですが、「…あなたは誇り高い海を支配し、波が高く起これば、それをしずめられます」という詩編（89・9―10）のことばを見るとき理解できるのです。

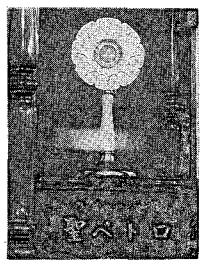
旧約聖書は、長い年月を経て、多くの人により表現方法や用語も、執筆の場所も動機も異にした寄せ集めです。しかし、それらは、イエス・キリストを指し示しているという点で結ばれ、統一があります。それ故、旧約聖書を読むとき、新約聖書に見られるイエスさまの姿を求めながら読むということが大切だと思われます。旧約聖書の記述は私たちがイエスさまを理解していく上で非常に助けになり、旧約聖書がイエス・キリストを中心として読まれるとき、そこで出会うイエス・キリストがより親密な存在となってくると思うのです。

それ故、もしこれから聖書をお買い求めになろうとされる方がおられましたら、少し高くつきますが『引照つき』聖書をお勧めいたします。また、すでに持っておられる方は「フランシスコ会訳新約聖書」の脚注を参考にされるとよいと思います。

（帯山教会・大水幸一神父）

使徒の聖遺物が奉納

本郷教会



聖ペトロの聖遺物

六月二十六日、聖ペトロ使徒座への献金ミサの中で、聖ペトロの聖遺物が奉納され、聖堂内に安置されました。

この聖遺物は、当本郷小教区出身で名古屋教区・主税町教会主任司祭の平田義雄神父様のご厚意により、昨年十一月三十日に奉納安置された聖アンドレアの聖遺物とともにいただいたものです。

十二使徒の中で最初の弟子となった兄弟の聖遺物を、私たち小教区の宝物として大切にし、主の召し出しに総てをおいて従った聖ペトロ・聖アンドレアを良き模範として、私たちも、主の呼びかけに応え、小教区の中から司祭や修道者を送り出すことが出来るように召命を求め、よりよい信仰生活を送っていくことを通じて、平田神父様に感謝の意を表していきたいと思います。

今、本郷教会は聖堂の改修工事中で、外壁の塗装をやり直しています。聖母被昇天祭までに完成の予定です。

切支丹時代に磔刑に処せられたジョアン又右衛門の記念碑が近くの「ハタモン場」にありますし、由緒ある今村教会も近くにあります。皆様のご訪問をお待ちしております。

本郷教会・江藤良一

生と死を考える

福岡では、「生と老い・死をみつめる会」主催で六月二十六日、上智大学教授A・デーケン神父の講演会を福岡雙葉学園講堂で行った。

当日三十四度を越す猛暑の中、約六百人の人々が集まり、成功裏に終了した。

デーケン教授は「老いと死をみつめて―人生の危機への挑戦」と題して、ユーモアを交えた巧みな話術で会衆を笑わせながら、死の大切さとそれがいかに生きるかにつながることを話し、そして、たしかに生きることの重要性を訴え、集った会衆に深い感銘を与えた。

熊本では、アルフォンス・デーケン上智大学教授が主催する「生と死を考える会」が一年の準備期間を経て六月二十一日、「熊本・生と死を考える会」（会長・葉山武志・手取教会）として発足した。

発足記念講演会が二十五日熊本市手取本町の鶴屋百貨店七階ホールで、主婦やお年寄り、医療・福祉従事者や宗教家ら約七百人を集めて行われ「熊本・生と死を考える会」の顧問であるアルフォンス・デーケン教授が「生と死をみつめて」と題し、「人間らしく死を迎えるということは、いかに人間らしく生きられるかということであり、医療従事者だけでなく、一般市民も真剣に生と死を考えることが重要である」と講演した。

同会の定例会は毎月第三土曜日に、カトリック手取教会信徒会館で催され、講演を主体とした「生と死を考えるセミナー」と身近な人の死や病や老いなどを自由に本音で語り合う「分かち合いの会」を行っている。今後社会で必要とされるホスピス介護ボランティアの養成にも取り組む予定である。

現在、宗教家、医療従事者、主婦や会社員など約百人の会員加入となっている。

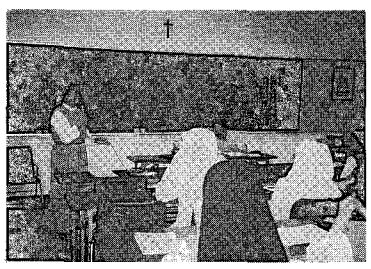
連絡先は、

☎〇九六(三二二)七九四八

熊本カトリック案内所内同会事務局。

典礼と生活の結びつきを

修女連



熱心に研修を行う参加者たち

七月十日、雙葉学園講堂に林尚志神父（イエズス会、下関労働教育センター所長）を講師に迎え、「神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない」というテーマのもとに、修女連養成講座が開かれた。対象は、教区内の修道女と信徒の希望者で参加者は約五十人。

教区修道女連盟（会長・Sr. 黒木紗耶子）では、今年度から生涯養成の一環として、さまざまなテーマのもとに養成講座を企画している。今回はその第一回目で、教区の年間テーマ「キリストを学びキリストに生きる」に基づき、現代社会の諸問題を典礼の中においても生きることを目指して開かれた。

信徒の参加者の一人、水巻教会の上野英子さんは林神父の講演を聞いて次のように語っている。

「典礼が生活とどのような関わりがあるのか、長い間疑問をもっていました。今回の講話を拝聴し、典礼、それは『生き方』であると解りました。神と人との関わりの中で常に他者の不足に配慮し、持っているものを分けること、私自身をも分けること、これが典礼の原点、そしてイエスの生き方が典礼の原型であると気づかされました。」

養成講座の第二回目は十月に予定されている。

出会いを求めて ―カテの会―



福岡教区カナの会は、「出会いのよろこび」をテーマに第十回出会いの集いを七月十日カテドラル大名町教会講堂で行った。

四年ぶりの開催だったことと各教会の司祭の協力により、合計六十七人の男女が出席。遠くは、大分、鹿児島、長崎、熊本からの参加もあった。

講師の山元眞神父（本部事務局）は講演で、今日の集いはお見合いではなく同じ価値観を持つ人との出会いであり、神からの恵み。結婚は愛する決断。そして自分で決めたその決断について責任を持つこと、と参加者を励ました。

ビュッフェ形式の昼食の頃には朝からの緊張もほぐれ、同神父のギターに合わせて歌い、ゲームに興じながら和やかな雰囲気の中に「出会い」が実現していった。

大聖堂の祭壇を囲んでフォークミサが行われ、派遣の祝福を受けて喜びの中に散会。「もっと話す時間が欲しかった」「来てよかった」との参加者の声を受けて、今年中に次の集いが計画されている。

ご会葬御礼

福岡教区司祭、故フランシスコ・ザビエル平田正喜神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき、心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院、並びに老司教会に寄贈させて頂きましたのでご了承くださいますようお願い申し上げます。実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

一九九四年七月　福岡教区長　松永久次郎

故フランシスコ・ザビエル平田正喜神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄付を司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。

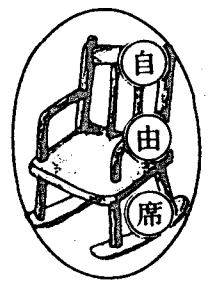
一九九四年七月　福岡カトリック神学院　森山信三

故フランシスコ・ザビエル平田正喜神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より老司教会改修費の一部として金一封をいただき心よりお礼申し上げます。神父様のご安息を信徒一同心よりお祈りいたします。

一九九四年七月　老司教会　委員長　水田為次郎　信徒一同

自分の花になる

上村牧子



自分の生き方、子育てに自信を失い、果てしなく続く暗いトンネルに一人居る様で、途方に暮れる私を慰め、私に一筋の光を与えてくれた本、それがSr.渡辺和子著の『心に愛がなければ』でした。

そのシスターのお話しを直接にお聞きできる喜びと期待、高まる緊張を胸に、お迎えしたシスターは、まるで野に吹くそよ風の様に、さりげなく私たちの目の前にお出でになり、優しく丁寧に話し始められました。そのお言葉一つ一つが私の心に染み渡り、私の心は次第に希望と勇気と自信で満ちていきました。

生きるとは、自分の置かれた所で、自分の限られた能力の中で、自分にしか咲かせられない花を毎日精一杯咲かせていくこと。それでいて、自分の花を人の咲かす花と比較せず、自分の花が、昨日よりも今日、たとえわずかでも美しく咲くように親自らが努力し、子どもとともに成長していくことは、子どもの幸せにつながること。自分の子がその子らしい花を咲かせられるよう見守り、時に励ますことが一番大切な親の役目であること、などをシスターは私に教えて下さいました。

また、自分の花をより美しく咲かせ続けるために必要で大切な糧となる「自分への優しさとほほ笑みと思いやり」こそ、親が子に残してやれる最高の財産であり、それを確かに身につけた子どもは、将来どんな苦境に遭っても挫けず、子ども自身が自分で幸せをつかみ取り、幸せになっていくことも学びました。

（小郡カトリック幼稚園　一保護者）

祈りの日・お休みのおしらせ
★8月全週　★9月6日　★9月27日
※変更の場合もあります、前もってお問い合わせ下さい
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

CROSSROAD No.12/1994
くろすろーど
わたしの情報は　みんなの情報
CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

積極的な参加を

教区本部の事務局にはいろんな情報が集まってきます。そんな情報を見ると、みなさん、それぞれの場で、福音宣教のために一所懸命頑張っておられると感じます。そして、このような「頑張り情報」を一人でも多くの人に知ってもらえたらいいと思います。本紙の名前、「くろすろーど」（CROSSROAD）は、英語で「交差道路」「横町」「十字路」を意味します。この情報欄を通して、主においてさまざまな出会いが実現し、キリスト者として共に成長できれば幸いに思います。とはいえ、教区内で行われているすべての行事や催し物を把握しているわけではなく、片手落ちのところもあるかと思いますが、とりあえず、ここに掲載されているもので可能なものに積極的に参加されてはいかがでしょう。　（教区広報委員長　山元　眞）

8月

4日(木)聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
　†M.ボヌカズ［田川］
6日(土)主のご変容・平和旬間（15日まで）
　†E.ベノア［門司港］
7日(日)★平和祈願ミサ（大名町　9:00~）
8日(月)聖ドミニコ
　†P.マルケシーニ［待労病院付］
10日(水)聖ラウレンチオ
11日(木)聖クララおとめ
12日(金)†A.ブルトン司教[第二代教区長]
　†J.オサリバン［熊本地区長］
13日(土)教区和田墓地開放（15日まで）
14日(日)★教区和田墓地ミサ　14:00~
　†ミカエル木村義巳［馬渡島］
15日(月)聖母の被昇天・平和旬間終日
　★馬渡島教会堅信式
17日(水)召命学校（19日まで）
19日(金)†ステファノ川口康頼[神学院]
20日(土)聖ベルナルド
22日(月)天の元后聖マリア
24日(水)聖バルトロマイ使徒
25日(木)結婚講座（北九州　9/29まで）
27日(土)聖モニカ
　★福岡地区婦人会感謝ミサ
29日(月)洗礼者聖ヨハネ殉教

★　司教日程

9月

1日(木)結婚講座（福岡　9/29まで）
3日(土)†P.コトレル［熊本地区］
6日(火)★司祭評議会　10:30~
　★顧問会　15:00~
　熊本・召命を祈る集い　19:00~
8日(木)聖マリアの誕生
10日(土)日本２０５福者殉教者
11日(日)カトリック国際協力の日(献金)
12日(月)結婚講座（熊本　10/5まで）
14日(水)十字架称賛
　ｻﾏｰﾅｲﾄin大名(大名町 19:00~)
15日(木)悲しみの聖母・敬老の日
　福岡地区信徒協研修会(大名町)
　†A.ヒューゼ［福岡司教館］
　筑後地区ソフトボール大会
17日(土)†P.オジョニ[ロザリオの園付]
20日(火)聖アンデレ金と同志殉教
　福音宣教省J.トムコ枢機卿来福
21日(水)聖マタイ使徒福音記者
23日(金)日本ｶﾄﾘｯｸ神学会第6回学術大会
25日(日)典礼-聖歌と祈りの集い　14:00~
28日(水)聖トマス西と15殉教者
29日(木)聖ﾐｶｴﾙ・ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ・ﾗﾌｧｴﾙ大天使
　†Y.ヴィオン［福岡司教館］
　聖書講座（大名町　12/2まで）

†　司祭命日

で活動。終わるころには、午前中におうちでゆっくり休んだ(?)お父さんやお母さんがお迎え。例会の他に、遠足や誕生会・ｸﾘｽﾏｽ会・劇や演奏会も楽しむ。小教区訪問をして教会学校の子供たちとの交流会もある。11月3日の「召命の集い」にも参加。この6月には、白合会だけで大神学院を再度訪問している(=写真)。例会の無い日曜日には、望んで近隣の教会に行く子供たちもいる。転勤先で教会を訪ね、そこで受洗した家族もいるという。1学期の終業式の日に取材したが、猛暑にもかかわらず、子供たちの笑顔はとびぬけて明るかった。この会が盛況な秘訣は？の問いに、園長は「お父さん方の協力が大です」と言い切った。



日本カトリック研修センター

◎典礼研修会コース　「主の死と復活を祝う」
　～日々の典礼、とりわけミサにおいて
　　典礼が活性化されてこないのはなぜか～
指導:Fr.土屋吉正(典礼学)・Fr.石川康輔(聖書学)Pr.新垣壬敏(歌唱指導他)／日時：9月1日(木)16:00~4日(日)13:30／対象:信徒・修道者・司祭／定員：40名／費用：25,000円(消費税750円は別)／場所：日本カトリック研修センター

◎ＥＡＰＩ公開講座
「結婚と家庭－国際家族年特別企画」
テーマ:「今日、最も強く問われている各世代の使命と責任についてEAPI(東ｱｼｱ司牧研究所)のｽﾀｯﾌと共に考える」／講師：J.KING・JOE DE MESA／日時:9月12日（月）16:00~16日(金)13:30／対象:信徒・修道者・司祭／定員：40名／費用:60,000円(消費税1,800円は別)場所：日本ｶﾄﾘｯｸ研修ｾﾝﾀｰ

☆問合先：日本カトリック研修センター
TEL 052(831)5037 FAX 052(831)5317



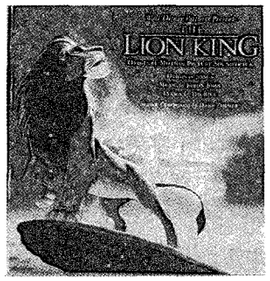
◆修女連第２回養成講座
テーマ　「私たちの生活とマス・メディア」
講師:長谷川昌子(女子ﾊﾟｳﾛ会・中央協広報部長)
日時:10月2日(日)10:30~15:00／場所:ｶﾃﾄﾞﾗﾙ1階講堂／参加費:1,000円(弁当代別)／対象：教区信徒・修道女／申込：当日受付にて／問合先：Sr.植木タヨ子092(531)0942・Sr.黒木紗耶子096(324)6212

ミニ情報

◆毎日新聞「信仰　こころ　生き方」
8月7日からｶﾄﾘｯｸ東京大司教区・白柳誠一大司教様と劇作家で ｶﾄﾘｯｸ信者の田中澄江さんの対談が、毎日新聞日曜朝刊に掲載されます。

◆ＮＨＫラジオ「旧約聖書の預言者たち」
雨宮慧(東京教区・上智大学助教授・聖書学者)神父の「旧約聖書の預言者たち」が ﾗｼﾞｵ放送されています。／放送予定日：NHKﾗｼﾞｵ第2放送[日曜日11:15~12:00][再放送：火曜日11:00~11:45][再々放送：翌週の日曜日23:15~24:00]／放送予定9月25日まで。NHK出版からﾃｷｽﾄ販売中。

◆「ライオン・キング」のＣＤ
只今上映中の映画「ライオン・キング」のサウンド・トラックが出ています。ｴﾙﾄﾝ・ｼﾞｮﾝ&ﾃｨﾑ・ﾗｲｽが手掛けた迫力あるサウンド。特に、オープニングのゴスペル色あふれた音色はアフリカの大地を想わせ、心に強く迫ってくるものがある。《生命の環》を哲学して作られた今回の映画をさらに盛り上げてくれる ｴﾈﾙｷﾞｯｼｭなCDです。



「くろすろーど」が小冊子の形から、折り込みに変わったとき、「編集がラクになる！」と思いきや、なんのなんの、そんなに甘くはなかった。ともかく書式を決めるのに四苦八苦。おかげでK君はもうほとんどワープロのプロ。Iさんは割り付けにますます磨きがかかりました。今回の爽やかなイラストはサッチャン作です。「くろす」に多大な貢献をしてきたJoH君はこの秋にドイツで論文発表の準備中。ｶﾞﾝﾊﾞﾚ!【魔琴】

参加しませんか

◆司教様と行く「教皇と家族の世界集会巡礼」

国際家族年にあたりﾛｰﾏ教皇庁家庭評議会によって、全世界のｶﾄﾘｯｸ信者のための「教皇と家族のための世界集会」が企画されました。新しく家庭生活を始められた方、家庭生活で一つの節目を迎えられた方など、結婚の秘跡を新たに見つめ直し家庭の信仰をさらに深めるために、教皇様の特別の祝福をお受けになられては！

日時：10月7日(金)~16日(日)<10日間>／団長：松永久次郎司教／副団長：赤波江謙一神父（聖パウロ会）／料金：358,000円(東京・大阪・福岡発着）／問合先・申込：鬟フソオワールド 03(5568)5281／担当　吉見:鈴木:清水

◆聖書講座《ヨハネ福音書を読む》

「キリストを学びキリストに生きる」ために

場所：大名町ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ／時間：毎金曜19時~21時／受講料：全10回 5,000円・1回 800円／問合先：教区本部事務局092(522)5139／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ:①9月30日・12章「ｴﾙｻﾚﾑ入城」(山元眞)②10月7日・13章「弟子の足を洗う」(平田敬)③14日・14章「ｲｴｽは父に至る道」(平田寛)④21日・15章「ｲｴｽはまことのぶどうの木」(大水幸一)⑤28日・16章「この世に勝つｲｴｽ」(森山信三)⑥11月4日・17章「ｲｴｽの祈り」(牧山勝美)⑦11日・18章「ｲｴｽの受難(1)」(松永久次郎司教)⑧18日・19章「ｲｴｽの受難(2)」(松永久次郎司教)⑨25日・特別講座(柊暁生)⑩12月2日・20~21章「ｲｴｽの復活」(松永久次郎司教)

◇聖書週間特別講演(柊暁生:聖書学者・ﾏﾘｱ会)

11月19日(土)　北九州小倉教会10時～12時
11月20日(日)　福岡大名町教会14時～16時

◆ピリオドの集い

生活にﾋﾟﾘｵﾄﾞを打って新しい頁を開いてみませんか。対象：ｶﾄﾘｯｸ男性信徒(信徒でない方も大歓迎)先着15名まで／日時：8月5日(金)~7日(日)　場所：福岡黙想の家／集合：8月5日夜(夕食を済ませて)なるべく深夜12時までに／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：ゆっくり、ﾏｲﾍﾟｰｽでお過ごしください。ﾐｻ・分かち合い(参加自由)あり。7日昼食後解散／参加費：12,000円(現物納付・労働奉仕も可)／問合先・申込：福岡黙想の家 0940(32)3222

◆結婚準備セミナー　(ｶﾄﾘｯｸﾌｧﾐﾘｰｾﾝﾀｰ)

【福岡】9月1日より毎木・土曜日（ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ：計8回）／問合先：ｶﾄﾘｯｸﾌｧﾐﾘｰｾﾝﾀｰ　TEL 092(541)6207 FAX 092(522)5022

【熊本】9月12日より毎月・水曜日(手取教会：計8回)／問合先：手取教会 TEL 096(352)3030 FAX 096(324)6749

◆熊本・召命を共に祈る会

召命のために共に祈りましょう。／日時：9月6日(火)19:00～20:00／場所：聖心修道院／問合先：帯山教会大水神父 TEL096(382)9413

◆福岡召命を共に祈る会青年の為の秋の巡礼

昨年の津和野巡礼に続いての第2弾。今回は平戸を巡りながらともに召命のために祈り、考えたいと思います。多くの方々の参加をお待ちしています。／日時:9月10日(土)~11日(日)場所：平戸・生月／宿泊：平戸ｵﾗﾝﾀﾞ館／参加費：7,000～8,000円程度／対象：原則としてｶﾄﾘｯｸ青年申込・問合先：8月下旬まで 福岡ｶﾄﾘｯｸ神学院　森山信三　092(531)6821

◆信徒協福岡地区夏期研修会

「ミサ」～交わりを育て支えあう共同体を目指して／日時：9月15日(木)9:30～16:00／場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙ大名町教会／講師:深堀敏司教(高松教区長)　対象：福岡地区信徒・修道者・司祭／参加費:500円(弁当代別)／申込：各小教区・修道院まで

◆第7回熊本短期キリスト教講座

「生きがいをさがそう」

場所：ｶﾄﾘｯｸ手取教会会館2Fﾎｰﾙ／日時:9月16日~11月4日／毎金曜(全8回)午前の部10:00~12:00　夜の部19:00~21:00／参加費：講座全体で1,000円／定員：午前の部、夜の部ともに 150名／問合・申込先：ｶﾄﾘｯｸ案内所(10:30~18:00) 〒860熊本市上通町 3-34(鶴屋前)TEL 096(322)7948<毎週木曜及び祭日休み>／主催：熊本地区ｶﾄﾘｯｸ教会／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：①9月16日「心を育てる教育」(Br.ﾊﾟﾄﾘｯｸ・ﾌﾗﾝｼｽ)②9月23日「家庭のなやみとそのいやし」(Fr.ｲﾝﾄﾞﾛ・ﾘﾊﾞｽ)③9月30日「生きるいのちのすばらしさ」(Sr.寺本松野)④10月7日「人生のかぎ－聖書」(Rev.長沢忠雄)⑤10月14日「小さくされた者の側に立って」(Fr. 本田哲郎) ⑥10月21日「仏教の慈悲とｷﾘｽﾄ教の愛」(Fr.奥村一郎) ⑦10月28日「神の愛は周りの人を通して」(船本満幸)「ｷﾘｽﾄ者として生きる」(青柳夫妻)⑧11月4日ﾋﾞﾃﾞｵ「傷ついた家庭に光を」



◆典礼－聖歌と祈りの集い

日時：9月25日 14:00～17:00／場所：福岡黙想の家 0940(32)3222 〒811-41 福岡県宗像市名残1056　お話：鈴木忠一神父／聖歌指導：深堀純／会費：1,000円／主催：福岡典礼聖歌研究会

◆ＳＥＣＯ～奉仕と分かち合いのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ ｸﾞﾙｰﾌﾟ

○ＳＥＣＯ秋の集い(全体会) /日時:9月25日(日)10:30~14:00／場所：聖心のｳﾙｽﾗ宣教女修道会・福岡修道院ﾎｰﾙ／お話し・歌:山元眞神父／昼食:神父様を囲んで軽食／どなたでもご参加下さい

○手作り品の集い　ﾊﾞｻﾞｰ・ｶﾞﾚｰｼﾞｾｰﾙを11月6日に計画中。準備を手伝ってくださる方を待っています。どなたでも気軽にどうぞ!／日時：第3日曜日の午後、第2・第4月曜日10:00~／場所:SECOの部屋(修道院近くの専用の家)／問合先：Sr.富山憲子092(512)0033・龍優子(581)6838・吉田寿美(561)7801

◆若者の集い~共に十字架の知恵を学び・祈ろう

講師：ﾃﾈｶ神父(ﾌﾗﾝｼｽｺ会)、青柳行信(吉塚)、橋本宗明(ｶﾄﾘｯｸ点字図書館館長)、植松功(聖公会)他／日時:9月23日13:30~25日13:00／場所：宝塚黙想の家／定員:30名／費用：5,000円(当日受付にて)　募集対象:20~35歳までの男女（既婚者も含む）で「現代の十字架につけられた人々」に興味ある信者　問合先:御受難会 畠基幸神父0940(32)3222

◆「師イエズスの友」になりませんか

会員となる資格：受洗礼の有無、男女の別を問わず、聖体への信心を深め、聖体の師ｲｴｽの親しい友として、ｼｽﾀｰたちと共に、聖体を中心として祈りと働きをささげたいと望む方／会員のつとめ：第1日曜日または可能な日に、聖体訪問をする。月刊誌「いのり」の送料、会員のためにささげられるミサ聖祭(第1日曜日)の謝礼にあてるため年に2,000円の献金／問合先：〒810 福岡市中央区浄水通 37 師イエズス修道女会浄水通修道院 092(526)9176 担当 Sr.小柳澄子

◆福岡「生と老い・死を見つめる会」

この会はだれでもが生と死について考え、学び行動することのできる場となることを目指しています。／定例会：毎月最後の日曜日 14:00~16:00 ｶﾄﾘｯｸ大名町教会4階会議室／年会費：3,000円／賛助会員:1口1万円(何口でも可)／定例会費：500円／事務局：大山美穂子 TEL/FAX 092(713)8523・市原照明 092(781)5616

◆友愛会点字教室（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ希望者対象）

視覚障害者のためのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱになってくださる方方、点字を学んでみられませんか。健常者と視覚障害者が共に生きることの大切さや障害者への心の在り方、接し方なども語り合える情報交換の場になります。／問合先:小柳ゆみ092(851)7993

◆「熊本クリスチャンボランティアセンター」

4月30日熊本手取教会別館に「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ」が開設されました。維持会員・活動会員を募集しています。問合先：Sr.黒木紗耶子 095(325)4471

◆こんな会もありますヨ。《白百合会》

福岡市南区大橋にある聖心ｳﾙｽﾗ幼稚園(園長Sr.ﾙﾅｱ・ﾎﾝﾊﾟｰﾅ)の卒園児の会。会員は小学1～6年生で現在68人。ほとんどが未洗者の子供たち。30年前に発足。創立当初は習字、そろばん、英語の塾的なものだったが、子供たちの「もっと神様のお話しを聞きたい!!」という声で、祈りと(神様の)勉強、遊びを中心にした集いに。月に2回の例会。日曜日10:00~11:30。修道院の聖堂に集まってお祈りをした後、幼稚園の教室や運動場

生命山

◎黙想会　テーマ「日本文化に基づく霊性」
指導：フランコ神父
日時：7月22日（金）～29日（金）7泊8日
　　8月2日（火）～9日（火）7泊8日
問合先：生命山カトリック別院
　　TEL 0968-85-3100

福岡黙想の家

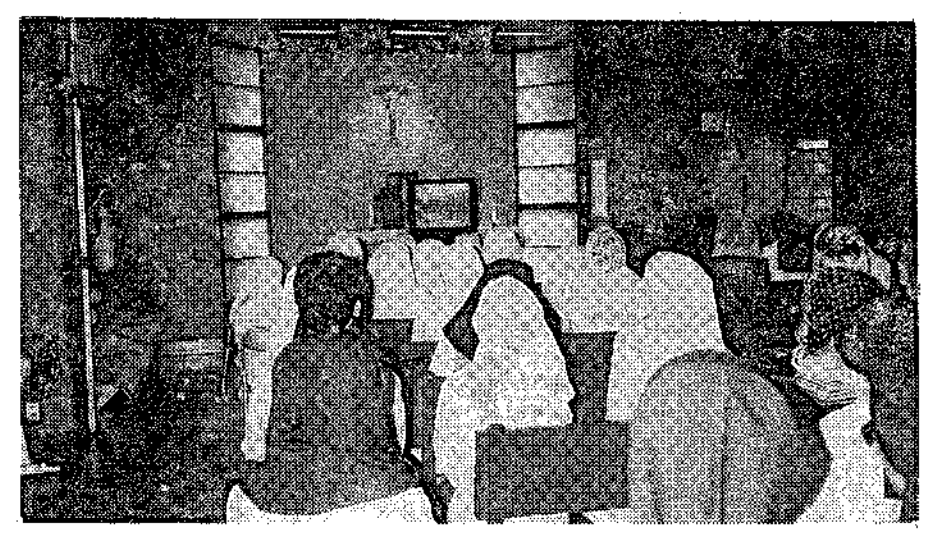
◎黙想の家スケジュール
7/31(日)~8/ 9(土) 修道女の為の8日間の黙想
8/ 5(金)~8/ 7(日) 生活にピリオドをうつ会
8/11(木)~8/20(土) 幼きイエズス会黙想
8/21(日)~8/27(土) サレジオ会黙想
8/29(月)~8/30(火) 久留米信愛・中高職員研修
9/ 4(日)~9/ 9(金) オブレート会黙想
9/25(日)　典礼　聖歌と祈りの集い
問合先：福岡黙想の家（宗像市名残 1056）
　　TEL 0940(32)3222

第2回 召命を祈る集い

熊本地区

七月三日、ショファイユの幼きイエズス修道会・天使の園修道院において、第二回熊本地区「召命を祈る集い」が行われました。厳しい暑さの中にもかかわらず、約六十人の信徒、修道者が集まり、召命に対する強い関心が示されました。

指導司祭の大水幸一神父様によるヨハネ福音書からのお話の後、ビデオ上映によって修道生活の道が紹介され、続いてロザリオの祈り、共同祈願をいたしました。共同祈願では、生活の中での体験を通して我が子の司祭職への召命を願う祈りがなされるなど、こころからにじみ出ることばに、参加者一同、心をひとつにして祈り合いました。またその日、司祭として生涯を全うされ、御父のみもとに逝かれた平田正喜神父様のために祈りを捧げ、後に続く司祭、修道者の召命をさらに求め、第二回の祈りの集いを終えました。

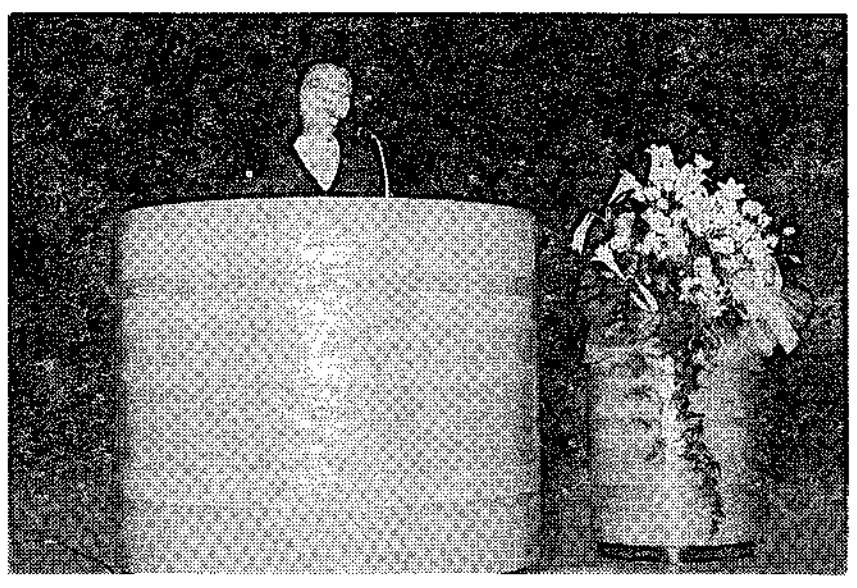

修道生活のビデオを観る

次回は、九月六日午後七時より上林町（熊本）聖心修道院にて行われる予定です。

熊本召命を共に祈る会

三つの化粧品を心に

六月十二日、小郡文化会館で、渡辺和子修道女（ナミュール・ノートルダム修道女会、日本カトリック学校理事長）の講演が行われた。入場者は六百余人（＝写真）。



これは幼稚園創立以来、お世話になっている地域社会、卒園児の保護者に感謝の念を表すためのイベントである。主催は、小郡カトリック幼稚園保護者会及び小郡カトリック幼稚園（宗教法人カトリック福岡司教区立）。

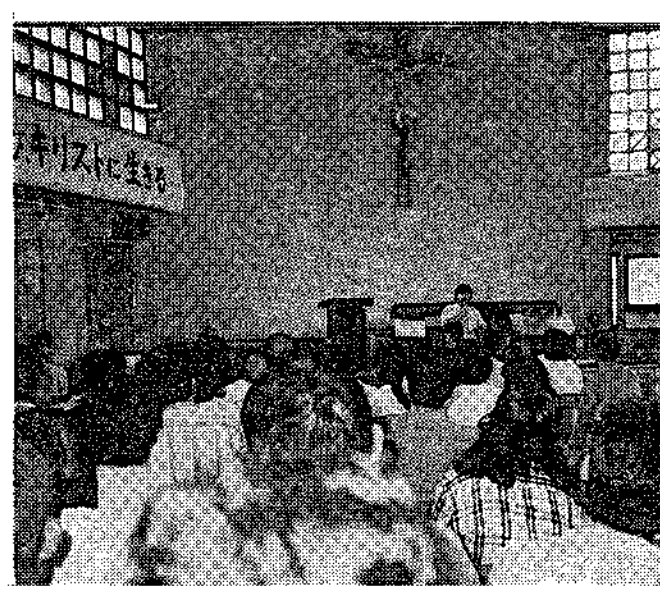
シスターは、「子どもの幸せを願って」という演題を基に『優しさ、ほほ笑み、思いやりの三つの化粧品を心に持って生きること』を話した。自身の体験を基に語ったその話し方には迫るものがあり、聴衆者の多くがハンカチを目にあてていた。「久しぶりに心の洗濯ができました。シスターの話しに希望と勇気を見い出しました」という人が大勢いた。

主催者側は、このようなイベントを企画出来、努力が実ったことを神に感謝した。

ナイス2とその後

新田原教会信徒研修会

六月二十六日、新田原教会で、教区事務局長の山元眞神父様を迎えて信徒研修会が行われた（＝写真）。



テーマを「ナイス2とその後」と題しての講演は力強く真実に迫り、聖堂を埋めた聴衆の心を完全に捉えた。

福音を、まだキリストを知らない人々にどうすれば告げ知らせることができるかと、第二回全国会議は呼びかけている。これに応えて家庭は、現実の中に神とのかかわりをどのようにもっているのか、私たちの信仰生活を見直す時である。

福音を人々に伝えるためには、教会の刷新と回心が求められている。教会とは一人ひとりの自分である。そして、いま自分がおかれている立場でキリストに倣い、愛の実践を地道に行うこと、それが福音宣教であり、教会の活性である。

そのポイントは、「分かち合いの実行、ミサ典礼に意識的参加、若者の信仰活動」であると。また「私たちは自分が救われるために洗礼を授かったのではなく、他人に福音を告げ知らせるためである」ことを認識しなければならないと力説した。

研修会は参加者に深い感銘を与えて閉会した。

切江　敏夫

——＊——＊——

小教区の情報が宣教につながる

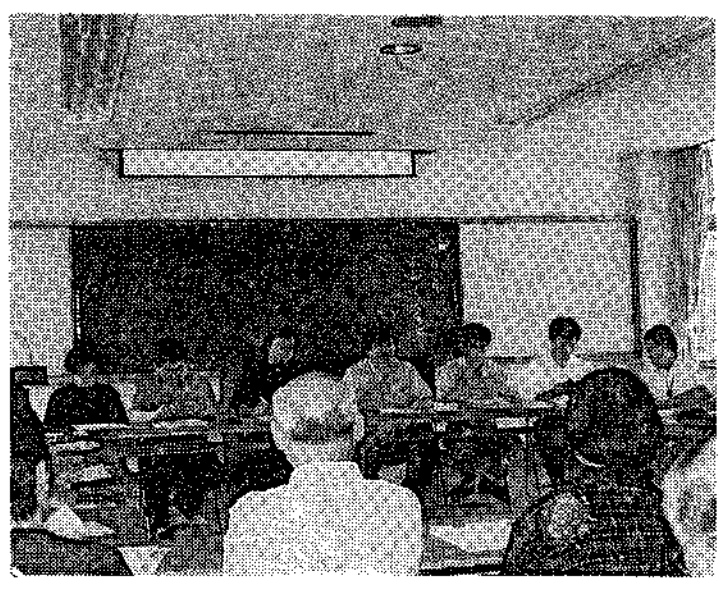
—広報活動を考える集い—

七月三日、福岡教区司教館にて広報活動を考える集いが行われた（写真下）。

対象は、各小教区広報担当者および広報活動に関心のある人。主催は教区広報委員会（委員長山元眞神父）。

この日、遠くは水俣や若松からも参加があり、予想を上回る三十五人ほど。小教区報（教会だより、お知らせなど）や広報活動に関してのアイデアを持ち寄った。

初めに祈り、次に委員長の挨拶。そして前半を教区報編集長（下町豊重神父）を交えての「教区報に対する質問、意見、要望など」に使い、後半は「小教区報作りの問題点、アイデアなど」の意見発表に用いた。小教区報に携わっている人の熱心さが伺えた。中にはこれから広報活動に携わろうとする人も多く、この場での情報を得てそれを持ち帰る姿勢も見られ、分かち合いは充実したものとなった。今回の集いは、小教区の情報が小教区を活性化するのみでなく、即福音宣教に繋がっていることを気づかせるものであった。



主催者に対して「地区レベルでの広報活動を考える集い」を望む声が多く聞かれた。

カルメル会修道院と糸島教会へ巡礼

—福岡地区婦人会—

三十度を越える七月七日、教区召命促進のため、また今歩んでおられる司祭・修道者のために祈るという目的で小さな巡礼が催されました。

堤要吉神父様とともに、約百五十人の会員（高齢者も）が参加し、中型バス五台に分乗して志摩半島へと向かいました。

昨年、今宿の地に移転したばかりのカルメル会修道院からはるかに美しい海原を見渡し、猛暑の中にも爽やかな緑風。虚飾なく静謐（ひつ）さに満ちた修道院の聖堂にてロザリオの喜びの玄義を唱和しました。こんなに大勢の巡礼者を迎えて、寛大な配慮を示してくださった徳山登神父様そしてシスター方。ほんのひとときでしたが、こうした隠れたところで私たちの救いのために一心に祈ってくださっている姿に直に触れたことで感動いたしました。

苗が伸びゆく田んぼ、幾つものビニールハウスを横に見ながら糸島教会へ。白いスータン姿の平田三郎司教様、日高、牧山両大神学生、婦人会の皆様が温かく出迎えてくださいました。折しも、この三日に亡くなられた平田正喜神父様への追悼の意も込めて、ミサが捧げられました。地区婦人会の誕生に尽力なさった司教様はこれまでの会員の働きに思いを馳せ、労をねぎらってくださり、特に家庭にある母、妻として家庭は最も小さな教会であることを力説し、聖モニカの生涯にも言及されました（＝写真）。



午後には糸島の地を巡り、美しい海岸線を走りながら帰途に着きました。（中間　涼）

菊池聖母幼稚園

幼稚園のできごと

毎朝、お家の方に送られて元気一杯に登園してくる子どもたち。教会の前で立ち止まり、頭を下げて「イエス様おはようございます。今日も一日お守り下さい」とさわやかな挨拶で一日の始まりです。

この子どもたちの影響で、家族の方も教会の前を通られる時は必ず頭を下げられます。

また、園児の小さい弟妹がかわいい手を合わせ「まんまんちゃん、あっ！」と頭を下げるのはなんとも微笑ましい光景です。

四月に入園したばかりの三歳児が家に帰って「お母さんみんな神様からもらった命があっとだけん大切にせなんとよ」と伝えたそうで、小さな我が子に生命の尊さを再確認させていただきましたという嬉しいお便り。子どもたちは砂地に水がしみ込むように神様のお話を聴き取り、家庭で伝えてくれます。まさしくキリストの小さな使者です。

私たちにとって、卒園児のアフターケアも大切な仕事です。小学校へ授業参観にいって直接様子を見たり、担当の先生たちと話しあったりしながら幼稚園で共に育んだものをどう活かしているか見つめていきます。

先日、ある小学校で今年卒園した一人の子が全校集会で手を挙げて「お友だちの名前はその人を大切にするため、呼び捨てにせず、〇〇くんとか〇〇さんとか呼んだ方がいいと思います」と発表したと伝え聞き、そのことは、一人ひとりを神様からの大切な贈りものとして関わることをモットーに保育してきた私たちに大きなプレゼントでした。

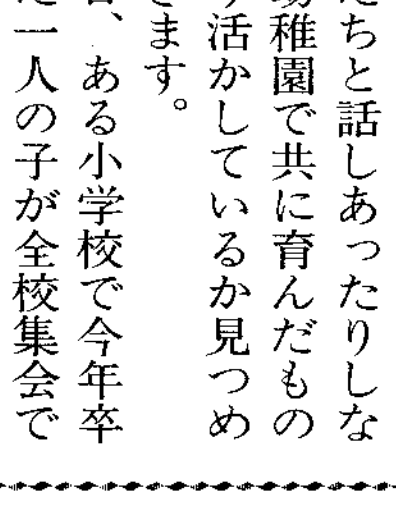
Sr.村田加代子

BOOK 読みま専科

★老いの輝き

—長寿社会をどう生きるのか—

吉山　登著



主な内容は、長寿社会と宗教、交わりの喜び、死の不安に対して、信仰の支え、主はすべてを完成される、これからの長寿社会のあり方。

家庭や職場で精いっぱい働いてきたあなたが、ふと自分の年輪を振り返るとき、ときには暗い心に陥ってしまう。

本書には気分転換を計る想像力と知性があります。さらにもっと大切なこと…。

著者は熱っぽく訴えている。高齢者には読んでほしい本。

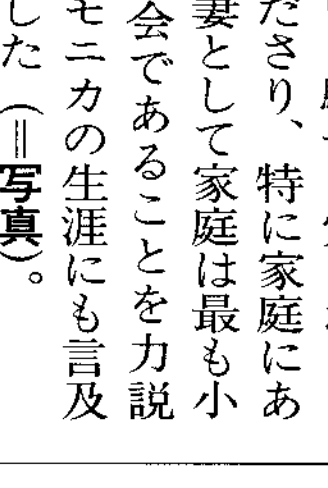
中央出版社　一、三〇〇円

◇　◇

★この指とまれ

—あとりえの窓から—

今井美沙子著



「私たちのあとりえの二十三年間は『この指とまれ』であった。絵は心の表現である。身体とか言葉が不自由でも、心は誰だって自由なのだ」

児童画教室あとりえ今井は著者とご主人との二人三脚で続けられてきた。そこには巣立っていったあとりえ仲間たちとのいろいろな出来事や体験、友情が芽生える。

子どものしつけや悩みごとに細やかな配慮をもつよう、親子の家庭環境の改善をわかりやすく示唆している本。

中央出版社　一、二〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

ぼくも がんばるぞ
（中2・棚町渉・本郷）

北野学園で、ぼくたち中学生は笛をみんなの前で吹きました。題は、「きよきおとめとて」と「春がきた」をえんそうしました。みんなよろこんでもらってうれしかったです。

でもその中に耳の聞こえない人、目の見えない人は、げきやえんそう、歌などの時、さびしかったかもしれないと思うと、何もできない自分が、なんだかなさけなく思えました。

北野学園のみなさんは、自分たちの力のできるはんいでがんばって、練習してきたおんがくをぼくたちにきかせて下さいました。ぼくは、がんばればきっと何かできると思いました。

学園のみなさんは不幸にも事故や病気で体が不自由になってしまったけど、ぼくたちは体が動くし、自由に見聞きできるので、学園のみなさんがしたくてもできなかった分を、ぼくはがんばろうとおもいます。

北野学園は、三井郡北野町にある身体障害者の施設です。本郷や今村教会の近くにあるので、棚町君たちは教会学校のメンバーといっしょにに訪問しました。そのときの感想文です。

大切な おくりもの
（あるお母さん・小倉）

りさこちゃんは六さい。四さいのとき「いちばんはじめのおくりもの」という本と出合って、イエスさまを信じ、大切なものを幼いイエスさまにささげることをきめました。

きょねんのふくおか市民クリスマスにはお母さんをさそってさんかし、「毎日がクリスマス」というしんぷさまのおはなしを聞きました。毎日まいにちのクリスマスに、世界じゅうのおともだちをたすけるために幼いイエスさまにプレゼントをすることもきめました。

りさこちゃんは大好きなおやつを半分がまんします。そして世界じゅうのおともだちのためにずっと献金してきました。

今回はシエラ・レオネの子どもたちのために、おやつをがまんしたちょきんをささげてくれました。

さいきんは、お母さんのお手伝いをしていただくお小遣いをためる「お手伝いけんきん」をはじめたそうです。これもお友だちのためです。イエスさまもお母さんもとてもよろこんでいます。

りさこちゃん、聞こえますか？　イエスさまの声が。目をとじて、耳をすませてごらん。聞こえてくるでしょう。

「小さな人びとに食べさせてくれてありがとう。りさこちゃんがしてくれたことは、わたしにしてくれたことなんだよ」とおっしゃってるイエスさまの声が。



原田さち子（大名町・20歳）

木かけ

大きな夢を

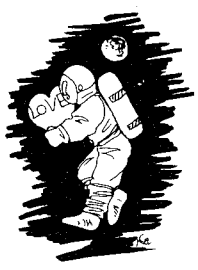
七月に向井千秋さんが宇宙に飛び立ちました。子供のころの夢を大人になっても持ち続け、それを見事に実現させた魅力的な人だと思います。夢を持っている人の顔は生き生きとしていて、目は輝いています。子供の目が輝いているのは夢がたくさんあるからでしょう。もし大人になるにしたがって、夢を失っていくとしたら悲しいことだと思います。

ところで、私の夢ですが、司祭になる夢を実現した今、これからの自分の夢は何だろうと考えます。語学の勉強もいい。外国に宣教に行くのもいい。聖地巡礼もいい。これらよりももっといい夢は、もっとキリストに似る者になりたいという夢だろう。キリストが生きたように、キリストのまなざしで、キリストの心で多くの人と出会い、関わっていきたいと思う。

夢が大きければ大きいほど人は成長できます。夢をなくしてしまったら人生はたちまちつまらないものになるでしょう。みなさんもたくさんの大きな夢を心に描いてみませんか。もっと魅力的な人になれるはずです。



中村　彰
しんぷさま（小倉）



〈ピカソの絵本　あっちむいて　ホイッ！〉

小学館一四八〇円

理論にかたよらない名画との楽しいつきあい方を提案、実践した名画絵本のピカソ編。20世紀絵画の歴史の先頭を走って来たピカソの代表作品と楽しい言葉で構成された内容はなかなか知的でおもしろい。

一味違った「アート批評会」の出来そうな新しいコミュニケーション画集です。（溝）



この欄は、小倉教会広報部、溝田美恵子さんの担当です。

信三神父さまのお答えします

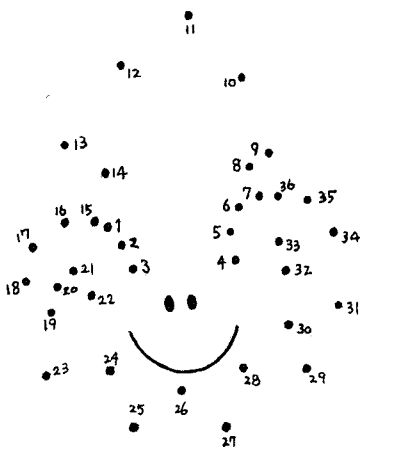
Q わたしたちの教区に、神父さまは、どのくらいいらっしゃるのですか。

A 福岡教区には、いま百名くらいの神父さまがいらっしゃいます。そのうち、40名くらいが日本人、あとの60名は、外国人の神父さま方です。また、60さいを過ぎた神父さまは、半分以上で、お年を召した方が多くなってきました。ですから、わたしたちは、多くの若者たち、子どもたちが、「わたしについてきなさい」というイエスさまのみことばにこたえてくれることを、いつも祈っています。

このQ&Aに答えてくださる神父さまは福岡カトリック神学院の森山信三神父さまです。信三神父さまは、司祭をめざす神学生のお世話をしておられます。

ゲームコーナー

ばんごうのちかくの●をじゅんばんにせんでつないでいってごらん。なにがでてくるかな？　ヒント：海にいます



くろすわーど
6月号解答

1 カ	■	2 マ	ラ	3 ナ	タ	■	4 ヤ	5 ソ
6 ナ	ナ	ツ	■	ザ	■	7 ラ	■	ド
ン	■	ナ	■	8 レ	9 ク	イ	10 エ	ム
■	11 ヒ	ガ	シ	■	レ	■	ロ	■
■	■	ヒ	■	12 サ	ド	13 カ	イ	■
14 エ	ル	サ	レ	ム	■	リ	■	15 ゴ
ズ	■	ジ	■	エ	■	タ	■	ル
16 ラ	ザ	ロ	■	ル	■	ス	■	ゴ
■	■	17 ウ	ル	■	■	■	18 マ	タ

神学院で八月十七日から「召命学校」があります。参加してみませんか。一面を見て下さい。

お知らせ

「くろすぼーど」は隔月で発行しています。小・中・高生・青年の作文、絵、イラスト、習字などの作品を募集しています。どしどしご応募ください。

9月号は休刊です。　今月号は9月と合併号です。

編集後記

忘れ物をしたらあわてる。メモをした手帳はどこにいったか。せっかく忘れないようにメモしたのにその手帳もない。暑さのせい？　年のせい？　すべきことが多すぎるとどこかで大事なことを、大事なものを忘れるのだ。私は多くの紙（かみ）に兼ね仕えることは出来ない。でも、また明日新しい原稿がくる。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL　092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

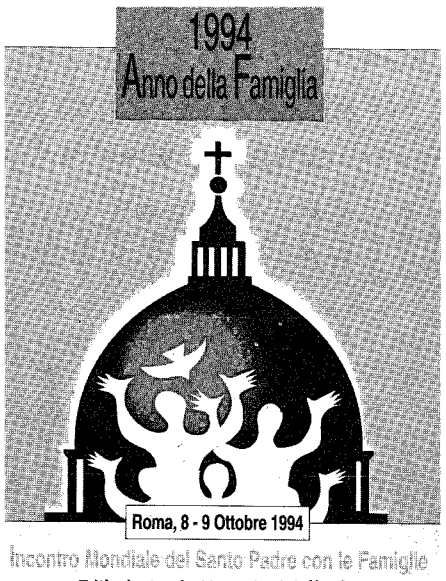
松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

なんでもこの人の
言うとおりにしてください
（ヨハネ2・5）

笹丘教会　T・ドワイヤー神父

10月9日……一九九四年国際家族年……世界集会に日本から58人　バチカン



「教皇と家族の世界集会」

国際家族年の今年、十月九日バチカンにて開催される「教皇と家族の世界集会」に日本の神の民の家族を代表して58人が全国から参加する。教区長松永久次郎司教は、その団長として十月七日の出発に先立ち、バチカンでの集まりに祈りの心で参加してほしいと語っている。

一、家庭・それは神の恵み

人間が家庭の交わりの中で暮らすのは本来、神のお恵みであり、人間にとって必要なこと、好ましいことでした。創世記に、「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」と言われて、女を造り、家庭を祝福されたことが記されてある通りです。そして、人間もこのお恵みを喜んで受け取ったのでした。人間はそれぞれ自分自身で神のかたどりでしたが、共にいることでより良いものとなることができたのでした。

ところが人間が罪を犯したとき、この家族の交わりにも傷痕が残りました。男女はお互いに相手を訴え、相手から自分を守らねばならない者となってしまったのでした。そして、この状態は、人間の罪の歴史とともにより厳しいものとなっていきました。

二、キリストの救い

救い主キリストはお恵みの神秘のなかに、一つの家庭の中に生まれ、その家族を通して地上での人間の成長の過程、人間の歴史の流れを体験されました。家庭に関わることをすべて受け入れ、それを聖化なさったのでした。

キリストご自身は、新しい家庭を造りませんでしたが、その宣教活動の初めに、カナの婚宴の場で、神の子としての力を現して、新しい家庭を祝福なさいました。また、結婚を初めの姿に返し、秘跡の位に挙げてお恵みのしるしとしてくださるとともに、家庭教会の諸問題行事等への協力方法を協議し計画実践に移すという活動をして来た。もう二十三年の歴史があるが、ここ二年くらい、事情があって中断していた。それが今年再開され、第一回の臨時委員会が先月開かれた。ヤングキャンプ神父様のこれから半年間のミサや司牧宣教のスケジュールが検討され、活動案が出来たのだが、土曜の夜から日曜の朝にかけてミサは三回、その間の移動はいかにお元気な神父様でも大変である。

この大忙しの神父様を私たち（聖体奉仕者を含めて）はどうお助けすべきかが、天草の教会が抱える問題である。

（本渡教会）

三、キリストの教会と家庭

何時の時代にもキリストの理想を生き抜くことは困難なことですが、現在の家庭の中では特にそうです。夫婦相互の誠実を生きること、神から贈られる新しい命を受けいれ育てることは、困難な課題とも考えられる時代となりました。地球規模の人口問題、そして倫理と進歩するテクニックの問題など、キリスト者夫婦の前には幾多の困難が横たわっています。キリスト者が家庭を平凡に生きることが、ある場合十字架の道とさえなります。

このような状況において、教皇ヨハネ・パウロ二世は、家庭の上に神の特別のお恵みを祈るため、家庭生活を生きる人々を励ますため、「教皇と家族の世界集会」を呼びかけられました。その呼びかけに応えて十月九日、ローマに全世界のキリスト者が集まります。

福岡教区のキリスト者もこの集まりに、祈りの心で参加して欲しいと思います。自分たちの家庭の上に神の祝福を祈ると共に、キリストの心で家庭生活を生き抜く誓いを新たにしてほしいと思います。

＊十月九日に先立ち六日からローマで開催される「愛と文明の心」をテーマにした大会に日本のカトリック者を代表して福岡教区の深堀純・邦枝（大名町教会所属）夫妻が参加する。その報告は教区報の十二月号に掲載予定。

カトリック家庭委員会（委員長松永久次郎司教）では国際家族年を特別の祈りの年として、全ての神の民が心を一つにできるように「家庭のための祈り」をつくりました。

折々の機会に利用して下さい。尚、近日中にカードが発行される予定です。

時の話題

天草事情

辻久

聖体（集会祭儀）奉仕者研修修了書を頂いてから一年半近くなる。一九九二年五月から育成コース研修会が一泊二日の日程で始まり、隔月に五回、一九九三年一月の研修会で全部修了して四月に任命式があったのである。以来、本渡教会でも四回集会祭儀を体験した。何回やっても初回と同じく冷や汗をかいている。四回共、主任神父様が夏休みで不在の時であった。然して今の私は？

一五六六年、ポルトガルの宣教師ルイス・デ・アルメイダが来島し、伝道を始めてから四百有余年、名実ともにキリシタンの島であった天草も、天草島原の乱後は徹底的な弾圧を受けて、信者の多くはいわゆる「隠れキリシタン」として潜伏し、明治六年のキリスト教公認までの約二百六十年間、地下活動をして信仰を守って来た。現在歴史も古い大江、崎津、そして創立四十三年の本渡の三教会に、四百年来の信仰の灯が掲げ続けられている。しかし、一教会に一人の司祭という形は過去のものになりつつある。司祭のいない教会がぽつぽつ出てくるのではないだろうか。

現に天草の三教会に神父様は一人である。大江教会には配属なく、本渡教会の司祭は休暇で、来年初めまではお留守。従って崎津教会のヤングキャンプ神父様が一人で天草を走り回られる事になっているので、そのお忙しいこと。

天草の三教会では、各教会の委員で天草地区教会委員会を組織している。年三回の委員会を各教会を会場として開き、委員の研修親睦を図り、教会の諸問題行事等への協力方法を協議し計画実践に移すという活動をして来た。もう二十三年の歴史があるが、ここ二年くらい、事情があって中断していた。それが今年再開され、第一回の臨時委員会が先月開かれた。ヤングキャンプ神父様のこれから半年間のミサや司牧宣教のスケジュールが検討され、活動案が出来たのだが、土曜の夜から日曜の朝にかけてミサは三回、その間の移動はいかにお元気な神父様でも大変である。

この大忙しの神父様を私たち（聖体奉仕者を含めて）はどうお助けすべきかが、天草の教会が抱える問題である。

（本渡教会）

《家庭のための祈り》

いつくしみ深い神よ
あなたは御ひとり子イエスの養育を、聖母マリアと聖ヨセフの手におゆだねになり、聖家族の中に私たちの家庭の模範をお示しになりました。

私たちの家庭を祝福してください。私たちの両親、夫、妻、兄弟、姉妹、そして子どもたち一人ひとりの働きの上に必要な恵みを与えてください。社会の中に生きる私たちが、間違った考えに支配されることなく、聖家族の模範にしたがって正しい道を歩むことができますように。

また私たちの家族が、お互いの弱さや痛み、そして喜びを分け合いながら、どのような時にも、あなたの導きのもとに信仰の光を見いだしていくことができますように。

私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

枢機卿来福
志免教会　カテドラル　大神学院

ローマ教皇庁の福音宣教省長官ヨセフ・トムコ枢機卿が九月二十日福岡を訪問した。主な目的は福岡サンスルピス大神学院の訪問。枢機卿は空港からカテドラルに向かう途中、現在建築中の志免巡回教会に立ち寄り、同教会の上棟式の司式をした。

カテドラルでは午後二時から、信徒、修道者、司祭の歓迎を受けた。

大神学院では午後四時からラテン語によるミサが捧げられ、夕食をともにした後、親しい雰囲気の中で、教授との集いがもたれた。同枢機卿は司祭の養成の労をねぎらい、励ましの言葉を贈った。

翌朝長崎にたち、二十四日松永司教等に見送られ、福岡から台湾に向け出発した。


上棟式での枢機卿

教区人事

▽老司教会主任（唐津教会主任）ジュセッペ（ピーノ）・カッツァニーガ＝ミラノ外国宣教会▽唐津教会主任（山梨県富士吉田教会より）ビルジニオ・チェリッツァ＝同会

日本カトリック高校生大会
教区から3人参加

初めての日本カトリック高校生大会が、八月一日より五日まで、北海道支笏湖ユースホステルにて行われた。

北海道から沖縄までの全国の高校生（約五十人）、更に香港・韓国・マカオ・台湾からの参加者（二十六人）も迎え、国際的な大会となった。

「東アジアの社会と私たちの信仰」のテーマのもと、言葉や習慣の違いを乗り越え、同じ高校生の立場から社会と信仰を見つめ分かち合った。

福岡教区から東優子さん、内藤聡子さん（小倉教会）、清田信子さん（健軍教会）の三人が参加した。この大会を通して刺激を受けた彼女たちの今後の活躍を期待したい。

なお、彼女たちの参加感想は本紙6面と「くろすろーど13号」に記載されている。

みちくさ

「えっ、まさか！あの人が」この「まさか」は、喜びであったり、悲しみのそれであったりする▼十五歳という若さで男の子が亡くなった。その子は利発で、運動面にも秀でていた。バレーボール部のキャプテンも務めたことがあり全校生徒から慕われていた。そんな彼が愛する父や母や兄弟を離れていち早く天に召されたのであった。「神は何とむごいことをなさるのか。希望に溢れていた彼だったのに、せめて成人式まで、せめて結婚式まで生かしてあげても良かっただろうに」と人々は口にする。確かに、両親にしても、兄弟にとっても悲しい事実である。しかし、この事実を眼の当たりにして、人間の気持ちも大切だが、命を与え、命を取り去られる神のお気持ちを思わなければならない。その計画を知ることのできない人間にとって、神のなさる業に抵抗できない▼神は多くの恵みを彼に与え、彼はそれを十分に生かしていった。神にも人にも誠実に生きていった。臨終の時に、病者の塗油の秘跡も授かった。今、彼は天国にいて我々のために神に取り次いでくれている。そんな彼を偲んでの通夜の弔問客は夜中まで途絶えなかった。葬儀ミサ・告別式には、平日なのに参列者の数珠ができた。人の多くがハンカチを目にした。出棺では、沿道一杯の群れができた。そして、初めてカトリックの葬儀に参加した人は「すばらしい葬儀だった」と口々に言った。神が彼の死を通して栄光を現されたのである▼人の死はいつやって来るかわからない。イエスが言われるように警戒している必要がある。しかし、自分の死を通して神が栄光を受けられるようにしたいものである。

【S】

自分探し

皆さんは、「心はどこにあるのか」と聞かれたら、なんと答えるだろうか。かつて、ある学校で「宗教人間学」という授業を担当していたときに、生徒に一度は聞いていたテーマである。

「宗教人間学」などと、ご大層な名前がついていたが、何のことはない、「人間ってなんだろうか」と考える時間にしていた。たまたま、神父であるわたしが担当していたため、「宗教」という名がついたと解釈し、それで、「わたしが考えることが、即『宗教人間学』になるんだ」、などと生徒には話していた。履歴書などの「職業欄」に記入するときには、「宗教家」に分類されるからである（神父は職業かといわれる方もあるやもしれないが）。

生徒たちに先のテーマでなぜ質問するのかと言うと、わたしたちがいかにあいまいな言葉を使っているのか、また言葉の意味をよく知って使っているのか、ということに気づいてもらうためである。そこから出発して、自分が知っていると考えていることを見直してもらおうとしたわけである。「あなたは人間か」と聞けば「そうだ」と答える。「では、人間とは」と聞くなら、どう答えるだろうか。

「人間」ってなんだろうか。それを考えることは、「わたし」を考えること。「わたしは人間である」と思っている限り。

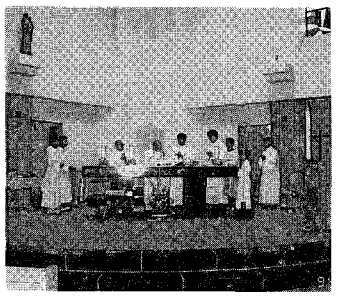
だから「わたし」が「人間」を考えるための教科書だ。この教科書はどのようにして作られてきたのか。何が書かれてきたのか。もう完成してしまった教科書か、まだ完成の途上にある教科書であるか。今の「わたしという教科書」を知ること。ものの見方、考え方などに始まる、自分自身の内面を形造ることに大きな影響を与えている「わたし」をとりまく社会環境などの外面的要素を学ぶことによって。

さて、先の質問の「心はどこにあるのか」との「心」は自分を知り、考えるためのきっかけの一つにすぎない。このような言葉にしても、あるいは自分の好き嫌いにしても、あるいはまた、善悪の判断にしても同じように、「なぜそう考え、思うのか」を考えることを通して、「わたし自身」を意識して知ることになるのではないだろうか。わたし自身、「わたし」が育ったこの日本語をいかに知らないかを知り始めたばかりである。

聖パウロ修道会　戸村　修神父

正義は愛からのもの 平和は神からのもの

平和祈願ミサ



十三回目を迎えた平和旬間の八月七日、カテドラルの大聖堂において松永久次郎司教司式の平和祈願ミサが捧げられた（＝写真）。

数人の司祭の共同司式で行われたミサの説教で松永司教は、「平和を祈るというとき複雑な思いがし、心が痛みます。共産主義も崩壊し、植民地政策などもなくなった今なお、平和は脅かされ続けています。内戦、民族紛争、難民の惨状、虐殺など、しかもキリスト教徒同士、また同じ宗教の民族間にその現実を見るとき、人間はいかに深く原罪の結果を負っているかを感じさせられます。また、最近関心をもたれている正義についても、自己の権利の獲得やその障害となるものを許さないための運動にとどまらず、自己の権利を主張するとき相手の側のことも考えなければならない。お互いに原罪の結果を持つ者として謙遜に許しを願う。そして自分も許す。また許したことを表す行いが必要です。正義は愛からのもの、平和は神からである」ということを諄（じゅん）々と述べた。会衆は、司教の話に聴き入り典礼の中で一層平和の訪れを祈願した。

なお、当日は成人三人の洗礼と堅信式が司教自らの手によって執り行われ、大名町教会共同体に新しい兄弟を迎えて喜びと感謝のうちにミサを終えた。

大名町教会　鈴木美子

教区青年巡礼

広島

今回の広島巡礼団は「平和をともに祈る集い」に参加した。テゼ共同体の方の指導のもと、短い歌と沈黙を繰り返しながら平和を求めて祈った。やわらかなメロディに詩編や祈りの言葉が重なりあい、ここに集ったわたしたち一人一人の心の糸で「平和を！」という祈りを紡いでいるような不思議な体験だった。「ルワンダ・ヘルツェゴビナ・東ティモールなど争いが絶えず本当の意味での生きることが精一杯の人々に、特に子供達のために、私には何ができるのか…」祈っているうちに頭はボーッとなってきた。でも、はっきりと感じたことがある。身近なことでやれそうなことは、心を尽くして丁寧にやってみよう。それが、きっと届くと信じて。

大名町教会　河南　明

長崎

八月九日・十日に教区青年が長崎を巡礼した。原爆資料館、浦上天主堂。行く先々で見かけたリヤカーのアイスクリーム屋さんも、さすがにコルベ神父のルルドでは出会わなかった。蝉の声以外は静かなその場所で私たちはマリア様へお祈りを捧げた。

この巡礼で得たものは、店のガラス細工とかではなく、バッグに詰め込めない何かだったが、大切なもので、今しっかりと摑んでいると思う。一諸に行った仲間と神父様たちの間にいて、原爆の悲惨さや苦しみを思い起こすはずの平和祈願の巡礼中、私はとても幸せを感じた。

大名町教会　原田さち子

燃え続ける クルシリスタ



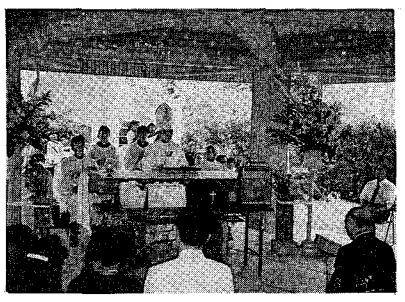
七月二十四日、クルシリスタ（クルシリヨ体験者）が集まりました（＝写真）。

今回は三十一回生の自主的な呼びかけから伝わってきたものでした。丸二年を過ぎても燃え続ける三十一回生の情熱に胸を打たれました。新田原の方々の地域に根づいた深い信仰も感じました。おもてなしのお料理や地元の果物で満たされた後、分かち合いが行われました。

初対面の三十一回生や三十二回生の方々に交じって「自分自身について」語り合いました。クルシリヨという太い絆で結ばれているのを感じました。分かち合いの後は祈り。年齢も生活環境も全く異なる人々のこの集まりは、「わたしの名によって集まるところにわたしもその中にいる」（マタイ18・20）ことを生き生きと感じさせるものでした。このクルシリヨの集いの恵みをもっと広げていこうと思います。

第三十三回生　吉武ゆり

死者との交わり 各地で墓地ミサ



福岡では、八月十四日、教区和田墓地で、松永司教司式の死者ミサが行われた（＝写真）。

司祭団は七人。約五百人の信徒が集まった。典礼はマリアの被昇天が用いられた。司教は「墓地は死者を迎えてそこに預かる所ではなく、本来ここから天国に向かって旅立つ所です。諸聖人の仲間に加わるよう祈りましょう。また神の家族として、祈りを必要としている人のために祈りましょう。それは福音宣教となるのです」と話した。ミサ後、故平田正喜神父他の納骨式が司教の手によって行われた。

佐賀では、八月十五日に恒例の「佐賀カトリック墓地ミサ」が行われた。昨年まで野外ミサだったので真昼の暑さを避けて夕方に集まった。今年は新しくできた納骨堂に集まって朝十時からミサを捧げた。約六十人の信者は主イエスの復活の力を表している聖母被昇天を祝いながら亡くなった人々のために祈った。多くの信者はミサ前後に墓参りしたり、墓掃除したりした。

佐賀地区では墓地のミサは地区行事になっていないが、県内の信者の多くは実家の近くの墓にお参りし、その教会のミサに参加するようだ。

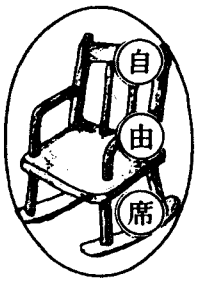
北九州では、八月十五日、北九州カトリック納骨堂で小倉教会の中村彰神父様の司式にて岩永義人神父様、湯川教会の平田寛神父様、天神町教会のラバルタ神父様による合同追悼ミサが熱心な信者多数（四百五十人位）の参列により、ルルドの聖母マリア像前の広場にて、厳粛にして盛大に執り行われました。風台風の通過後で天候に恵まれた一日でした。

北九州カトリック納骨堂管理委員会

熊本では、八月十二日夕刻から、手取教会のマッコンネル神父様の司式により、墓地ミサが行われました。今年は手取教会の当番でしたので手取教会の信徒が司会、聖書朗読、聖歌等担当いたしました。参加者は六十人位でした。

当日は台風十三号の影響もあって、風がかなり強く吹きつけたり、祭壇の白布が飛ばされないようにしたり、工夫が要りましたが、蚊が少なくて助かりました。ミサ後、参加者（遺族）は納骨堂の中に入って、めいめいの墓標（柄と言っています）の前で祈りを捧げ、七時半頃閉門、それぞれ帰宅いたしました。

納骨堂管理者　深堀秀一



秋田の聖母崇敬の旅

本渡教会・辻　久

私が家内と共に友人の誘いを受けて第八回秋田の聖母崇敬の旅に参加したのは、今年の四月二十九日から三日間であった。二十九日の午後三時には秋田空港着、はじめて東北の大地を踏みしめる。空気は冷たい。遠くに見える山にはまだ雪が残っている。

貸し切りの車で約四十分。途中きれいに咲き残っている桜を見ながら、「聖マリアの家」に着く。合掌造り風の建物。ここが私たち一行二十一人の宿泊研修の場である。安田貞治神父様、聖体奉仕会のシスター方の御指導で祈り、黙想、ミサとイエスの御心と聖母の御心に捧げる祈りの生活が始まるのである。

二日目の朝。外は十度以下と、天草の真冬並の寒さである。五時半から祈り、七時からミサ、七時半朝食という日課で始まる。食後マリアの庭園散歩。ついで一万二千坪の栗園をロザリオ一環唱えながら一巡する。聖堂は十畳二間位の御座敷。その隣の十畳の部屋には木彫の聖母像が安置されていて、その前にはろうそくが絶えることなく灯されている。この聖母像の涙の現象は一九七五年一月四日から始まって一九八一年九月十五日まで百一回に及んだのである。また、シスター笹川が二回も聖母からのお告げを受けられたことなど、ここで起こった事実を安田師は淡々と私たちに話して下さった。

三日目六時半、祈り。七時ミサ。その中で聖体奉仕会の準会員になる方、十一人の誓願式も行われた。八時四十分、名残を惜しみながら車は秋田空港に向かったのである。

'94 心をひらいて
むなかた TEN・TENまつり
10月9日前夜祭・独り芝居（コルベ神父）
福岡黙想の家 〒811-41 宗像市名残1056 TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社 共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

月13日(日)13時30分／場所：日本ｶﾄﾘｯｸ研修ｾﾝﾀｰ／対象：信徒、修道者、司祭／費用：25,000円(消費税600円は別)／定員：25名

☆問合先：日本カトリック研修センター
TEL 052(831)5037 FAX 052(831)5317

◆修女連第２回養成講座

１０月２日の予定が延期となりました。

感想文

カトリック高校生大会に参加して

私はこの「カトリック高校生大会」に参加してすごくよかったと思っています。

最初、タイワンの人達と同室だと知ったときコミュニケーションできるかどうか大きな不安を持ちましたが、タイワンの人は英語がとてもうまく、私の片言以下の英語でも、分からないところは漢字を混じえながら通じ合えたことがとてもうれしく思えました。

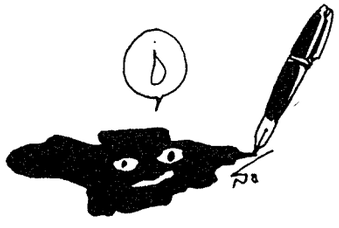
この大会中のミサは日本語だけでなく、日によっては韓国語・中国語でも行われ、神父様の言っていたことはほとんど分からなかったけれども、韓国語や中国語でうたわれる聖歌がとてもきれいなハーモニーに聞こえたことがとても印象深く、機会があればまた、韓国語や中国語のミサに出てみたいと思います。

私はこの大会後のキャンプも参加しましたが、このキャンプでより多くの友達を作ることができました。

このキャンプは北海道の高校生で企画・運営しているものらしく、予定が狂ったところもありましたが、執行部の人の努力もあり、楽しく過ごすことができました。ただ、私は釧路湿原で日の出を見るために徹夜をしてカゼをひいてしまったという大バカ者だったので翌々日の雌阿寒岳登山に参加できなかったことが残念でした。

この大会及びキャンプに参加してホンコン・マカオ・タイワン・韓国、そして日本と、多くの人に出会えたことは私にとって大きなプラスになったと思います。代表と言えるようなことは出来なかったけれども、福岡教区代表としてこの大会に参加させてもらったことに深く感謝します。そしてスタッフをはじめ、この大会のお世話をしてくださった多く方々、ありがとうございました。

（清田　信子・健軍）



私は、今回のカトリック高校生大会に参加することができて本当によかったと思います。なぜなら、普段ではできない体験ができたからです。例えば、外国人と友達になることとかです。それに、祈りの時にたくさん歌を歌ったのですが、私はその時「たくさんの人で祈るのっていいなぁ。」と思いました。

実は、本当によかったなんていっている私ですが、北海道についた日には「つかれたぁ、かえりたいよー。」なんていってたんです。２日目は韓国語のミサを受けました。もちろん初めてでした。でも、またうけてみたいと思いました。

三日目は友達もたくさんできて楽しかったです。その日のプログラムの船上ミサが中止になりクルージングになったんですが、その後に野外ミサがあって、「自然の中でミサをするのもいいなぁ。」と思ったりしました。そして、一番楽しかったのがダンス・パーティー。今までこんなに楽しかったことがあっただろうかというほど楽しかったんです。

それから、信仰のあかしとわかちあいの時、ある人がいった「クリスチャンでよかったと思います。」という言葉に私は共感しました。

五日目は朝からミサで大会最後のプログラムでした。何人かの女の子が泣いているのを見て私も涙がでてきてしまいました。

もし、第２回大会があるなら、また参加したいと思います。

（東　優子・小倉）

㊀今回は常連スタッフに加えて、飛び入りの助っ人、今井啓之が登場した。ヒロ君はただ今、Ｄ教会で要理の勉強中。くろすぼーどの山元神父のイラストは彼の作。こわ～っ!【顧事】
㊀はらへったー！　ねむい！　JoHおみやげ～よろしく。祝200安打　【ｸｪｰｻｰ】
㊀参加できることを喜んでいます。【テクラ】
㊁蚊を何とかしてください。　【さち子】

CROSSROAD No.13/1994

くろすろーど

わたしの情報は　みんなの情報

CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

とにかく参加してみては

教区本部の事務局にはいろんな情報が集まってきます。そんな情報を見ると、みなさん、それぞれの場で、福音宣教のために一所懸命頑張っておられると感じます。そして、このような「頑張り情報」を一人でも多くの人に知ってもらえたらいいと思います。本紙の名前、「くろすろーど」（CROSSROAD）は、英語で「交差道路」「横町」「十字路」を意味します。この情報欄を通して、主においてさまざまな出会いが実現し、キリスト者として共に成長できれば幸いに思います。とりあえず、ここに掲載されているもので可能なものに積極的に参加してみませんか。

10月

1日(土)幼きイエスの聖テレジア
2日(日)★恵楓園訪問
3日(月)†E.ラゲ[福岡司教館]
4日(火)アシジの聖フランシスコ
7日(金)ロザリオの聖母
　聖書講座第12回(以後毎金曜日)
　★司教巡礼出発(16日まで)
　《教皇と家庭の世界集会》
9日(日)★教皇様と意向を合わせて祈るミサ
10日(月)ＴＥＮ・ＴＥＮまつり[黙想の家]
14日(金)ヤングママの黙想会[司教館別館]
16日(日)福岡地区信徒協役員会
　茶山バザー
　一日静修[熊本]
17日(月)聖イグナチオ(アンチオケ)
　★教区司祭黙想会[黙想の家 ~21日]
18日(火)聖ルカ福音記者
19日(水)十字架の聖パウロ
23日(日)世界宣教の日(指定献金日)
　★湯川教会堅信式
　天草殉教祭
　†J.B.ドラビ[黒崎]
27日(木)†J.ベルトラン[門司港]
28日(金)聖シモン・聖ユダ使徒
30日(日)★新田原教会堅信式
　教区墓地ミサ(14:00~)
　小倉バザー・帯山バザー
31日(月)†ヨセフ・糸永一[今村]

★　司教日程

11月

1日(火)諸聖人
2日(水)死者の日
3日(木)★召命の集い[大神学院]
　†F.ボア[黒崎援助修道会]
4日(金)聖カロロ・ボロメオ
　聖書講座第16回(以後毎金曜日)
6日(日)★鳥栖教会堅信式
　第11回出会いの集い・月一会(~7日)
8日(火)★教区顧問会
9日(水)ラテラン教会の献堂
10日(木)聖レオ一世教皇
　結婚準備セミナー[ｶﾃﾄﾞﾗﾙ:8回]
13日(日)★小倉教会堅信式
　大楠バザー
17日(木)聖エリザベト(ハンガリー)
　★神学院祭[大神学院]
20日(日)王であるキリスト(年間最後の主日)
　聖書週間(27日まで)
　★帯山教会堅信式
　新田原バザー
21日(月)聖マリアの奉献
22日(火)聖セシリアおとめ殉教者
23日(水)勤労感謝の日
　★北九州地区信徒協講演会
　教区青年球技大会[熊本ﾏﾘｽﾄ学園]
26日(土)聖書週間特別講演(小倉・Fr.柊暁生)
27日(日)聖書週間特別講演(ｶﾃﾄﾞﾗﾙ・Fr.柊暁生)
　★ｶﾄﾘｯｸ愛と性を考える研修会[佐賀]
　年の黙想会[笹丘教会]
　†S.セヴェリーノ[唐津]
30日(水)聖アンデレ使徒

†　司祭命日

参加しませんか

◆聖書講座《ヨハネ福音書を読む》

「キリストを学びキリストに生きる」ために

場所：大名町ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ／時間：毎金曜19時~21時／受講料：全10回 5,000円・1回 800円／問合先：教区本部事務局092(522)5139／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：⑫10月7日・13章「弟子の足を洗う」(平田敬)⑬14日・14章「ｲｴｽは父に至る道」(平田寛)⑭21日・15章「ｲｴｽはまことのぶどうの木」(牧山勝美)⑮28日・16章「この世に勝つｲｴｽ」(森山信三)⑯11月4日・17章「ｲｴｽの祈り」(牧山勝美)⑰11日・18章「ｲｴｽの受難(1)」(松永久次郎司教)⑱18日・19章「ｲｴｽの受難(2)」(松永久次郎司教)⑲25日・特別講座「ﾖﾊﾈ福音書におけるしるし」(柊暁生)⑳12月2日・20~21章「ｲｴｽの復活」(松永久次郎司教)

◇聖書週間特別講演

「エデンの園」～木の実と胎の実と大地の実～

講　師：Fr.柊暁生(聖書学者・ﾏﾘｱ会)

受講料：1,000円

11月26日(土)　北九州小倉教会10時～12時

11月27日(日)　福岡大名町教会14時～16時

(㊙くろすろーどNo.12に記載した日付が間違っていました。お詫びして訂正いたします。)

◆第7回熊本短期キリスト教講座

「生きがいをさがそう」

場所：ｶﾄﾘｯｸ手取教会会館2Fﾎｰﾙ／日時：9月16日～11月4日／毎金曜(全8回)午前の部10時～12時 夜の部19時～21時／参加費：講座全体で1,000円 定員：午前の部、夜の部ともに 150名／問合先・申込先：ｶﾄﾘｯｸ案内所（10時30分～18時）〒860 熊本市上通町3-34(鶴屋前) TEL 096(322)7948 <毎週木曜及び祭日休み>／主催：熊本地区ｶﾄﾘｯｸ教会／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：④10月7日「人生のかぎ―聖書」(Rev.長沢忠雄)⑤10月14日「小さくされた者の側に立って」(Fr.本田哲郎)⑥10月21日「仏教の慈悲とｷﾘｽﾄ教の愛」(Fr.奥村一郎) ⑦10月28日「神の愛は周りの人を通して」(船本満幸)「ｷﾘｽﾄ者として生きる」(青柳夫妻)⑧11月4日ﾋﾞﾃﾞｵ「傷ついた家庭に光を」

◆第5回カトリック愛と性を考える研修会

《福音に照らされた国際家族年》

家族のきずな・いのちと性

～自己の実現としあわせのために

日時：11月27日(日)10時～16時／会場：佐賀ｶﾄﾘｯｸ幼稚園講堂／講師：松永久次郎司教／会費：500円(学生300円)／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：《9時30分～ 受付》《10時～16時：基調講演・ﾋﾞﾃﾞｵ・証し・分ち合い・ﾐｻ聖祭／弁当(500円)希望者は11月23日(水)までに電話で0952(23)4754までご連絡ください。筆記用具持参。多数の参加をお待ちしています。(信者でない方も歓迎します)／問合先：ｶﾄﾘｯｸﾌｧﾐﾘｰｾﾝﾀｰ 092(541)6207

◆女子青年のための黙想会

「主よ、お話しください。

あなたのしもべが聞いておりますから」

日時：10月8日(土)16時~10日(月)朝食後／場所：福音の光修道会「湯布院祈りの家」 大分郡湯布院町川上宇道中島 451-11　庄屋の里／指導：Fr.塩谷（ｲｴｽﾞｽ会 泰星高校）／対象：「神様の私への望みを知りたい」未婚の女性信徒／参加費：6,000円／問合先：福音の光修道会　Sr.川岡　092(581)1663

◆むなかたＴＥＮ・ＴＥＮまつり

～　1994 心をひらいて　～

【宗像黙想の家】

10月9日(日)19時～ 前夜祭・独り芝居

10月10日(月)10時～15時

◆ヤングママの黙想会

テーマ：生活の中での祈り／日時：10月14日(金)10時30分~15時／場所：司教館別館／指導：Fr.山元／会費：1,000円／主催：福岡地区婦人会／申込締切：10月2日（当日参加も可）

◆召命を考える「一日静修」

テーマ：「このわたしが?!」／日時：10月16日(日)9時(受付)～16時(解散)／場所：ﾏﾘｱの宣教者ﾌﾗﾝｼｽｺ修道会熊本第一修道院／指導：Fr.山元 対象：未婚の女性／持参：筆記用具・聖書／費用：500円(当日受付で)／問合先：ﾏﾘｱの宣教者ﾌﾗﾝｼｽｺ修道会熊本第一修道院 Sr.藤井由美 096(352)4005

◆天草殉教祭

日時：10月23日(日)／式典ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：①神式（祇園橋）9時～10時②仏式（千人塚）16時~16時30分③ｶﾄﾘｯｸﾐｻ(千人塚)17時～18時④ｷｬﾝﾄﾞﾙ行列：千人塚～祇園橋～銀天街～本渡ｶﾄﾘｯｸ教会 18時～19時30分／問合先：本渡教会　0969(22)2758



◆研修会ご案内

テーマ：しあわせの手だてとして　～人権の国際化～日時：11月1日(火)15時～3日(木)12時／場所：御聖体の宣教ｸﾗﾗ修道会黙想の家[軽井沢]講師：小川浩一・桑山紀彦(講演会に同時通訳有)／費用：15,000円／申込締切：10月17日(月)／問合先：日本ｶﾄﾘｯｸ国際協力委員会「滞日外国人と連帯する会」TEL 03(5632)4441 FAX 03(5632)4465

◆ＳＥＣＯ～奉仕と分かち合いのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ ｸﾞﾙｰﾌﾟ

①11月4日(日)ガレージセール／13時～15時 塩原聖心のｳﾙｽﾗ幼稚園裏 高木橋角SE・COの家

②11月13日(日)大楠教会バザーに信徒会のご好意により参加(ﾌｨﾘﾋﾟﾝ援助)

③12月4日(日)「共に過ごそう会」／ﾋﾟｸﾆｯｸ形式で聖心のｳﾙｽﾗ修道会篠栗「祈りの家」にて山元眞神父様と共に。／時間：現地集合10時30分～解散16時／弁当代：大人1,000円、子供 600円(弁当持参可)／締切：11月19日(土)／問合先・申込：龍092(581)6838、桑畑092(582)0685、樋口0946(24)9128、Sr.富山092(512)0033《連絡は午後7時以降に。》

◆第11回出会いの集い

テーマ：『みのりを願って』～楽しいひとときと野外ﾌｫｰｸﾐｻで!／日時：11月6日(日)10時30分～16時30分／場所：聖ﾊﾟｳﾛ小神学校／講師：深堀純・邦枝夫妻[大名町信徒]／内容：講演・昼食・歌とｹﾞｰﾑ他、野外ﾌｫｰｸﾐｻ(Fr.山元)・派遣の祝福/会費：1,000円(昼食代含む)／対象：20歳以上の独身男女／主催：カトリック福岡司教区カナの会／問合先：峰幸子 092(861)0443

◆松永司教様の教皇文書研究会

日時：11月10日（木)10時~11時(以降毎週木曜日)参加費：500円／場所：ｶﾄﾘｯｸ大名町教会／主催：福岡地区婦人会

福岡黙想の家

◎黙想の家スケジュール

10/ 9(日)	TEN・TENまつり前夜祭
10/10(月)	むなかたTEN・TENまつり
10/12(水)	ミカエル会
10/15(土)~10/16(日)	泰星学園職員研修
10/17(月)~10/21(金)	福岡教区司祭黙想会
10/23(日)~10/29(土)	サレジオ会黙想会
11/ 3(木)~11/ 6(日)	院長研修会

問合先：福岡黙想の家（宗像市名残 1056）TEL 0940(32)3222

◆結婚準備セミナー（福岡）

日時：11月10日より毎木・土曜日（全8回）

場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ／問合先：ｶﾄﾘｯｸﾌｧﾐﾘｰｾﾝﾀｰ TEL 092(541)6207 FAX 092(522)5022

◆教区青年球技大会

テーマ：『みんな集まれ　この指とまれ!!』～楽しいね　みんなで遊ぶって～／日時：11月23日(木) 9時30分～16時／場所：熊本ﾏﾘｽﾄ学園ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：ﾐｻ~ﾚｸﾚｰｼｮﾝ~ﾄﾞｯｼﾞﾎﾞｰﾙ／参加費：700円(当日に)／持参：弁当、体育館ｼｭｰｽﾞ、ﾀｵﾙなども忘れずに！／問合先：Fr.中村彰(小倉)。小教区宛に配られるﾁﾗｼをご覧ください。

◆福岡「生と老い・死を見つめる会」

この会はだれでもが生と死について考え、学び行動することのできる場となることを目指しています。／定例会：毎月最後の日曜日14時~16時ｶﾄﾘｯｸ大名町教会4階会議室／年会費：3,000円／賛助会員 1口1万円(何口でも可)／定例会費：500円／事務局：大山美穂子 TEL/FAX 092(713)8523・市原照明092(781)5616

◆湯川教会の「天使の友学童保育クラブ」

学童保育が始まりました。かぎっ子達の楽しい安全な遊び場だけでなく、心の教育、ｷﾘｽﾄ教的な心を育てていけたらと頑張っています。

対象：小学生1~3年生(共稼ぎ、母子・父子家庭の児童)／定員：20名／時間：平日《下校時から17時30分まで》(但し、長期休み中は9時～17時)／目的：心身の健やかなる育成と生活指導／保育費：月額 5,000円(おやつと教材費)／指導員：シスターと教会の信徒(高校生・大学生・母親4名)のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ／問合先：天使の聖母宣教修道女会　Sr.杉本　093(941)2104

◆大楠教会・バザー

日時：11月13日(日)10時30分より／出展：海産物手作り品、食品、聖具など多数。その他ｹﾞｰﾑｺｰﾅｰ、抽選(一等一万円相当)／☆今年の目玉：♪教会別カラオケ大会(1教会2人)景品あり。ふるってご参加ください♪／問合先：大楠教会 092(521)6946

日本カトリック研修センター

◎老いの生きがいを求めて

テーマ：人生を飾る／日時：10月7日(金)16時~10月11日(火)13時 (4泊5日)／場所：日本ｶﾄﾘｯｸ研修ｾﾝﾀｰ／対象：信徒、修道者、司祭／費用：35,000円(消費税1,050円は別)／定員：25名

◎福音刷新コースⅢ

テーマ：小さくされた人々との共感～NICEⅠ・Ⅱを基本として、日本における社会の問題を福音の立場から考察する。／日時：11月11日(金)16時～11

1994年10月1日発行

☆司教さまとあくしゅ　福岡

猛暑と断水の中、八月十七日から十九日まで三日間の召命学校が行われた。参加者も四十人をこえ、うれしい悲鳴であった（‖写真）。



今年は、大神学生も含めて全ての神学生がスタッフとなり、子どもたちと寝食をともにした。ビデオによる神学院の紹介、寸劇大会など、例年にないプログラムもあって大いに盛り上がりを見せた。

参加した一人の子どもの感想文―「召命学校でしんぷさまになろうという思いが、もっと強くなりました。」―このように書いてくれたのは、一人だけであったが、スタッフへの最高のなぐさめとよろこびのことばである。

三日目には、司教様をお迎えし、祭壇を囲んでミサが捧げられた。司教様は、一人一人に握手をして、平和のあいさつをかわしてくださり、心温まるミサとなった。召命のために祈り、援助してくださるすべての方々のために感謝したいと思う。

福岡カトリック神学院　森山信三神父

☆新鮮なエネルギー　奉仕のために　パウロ会

七月二十二日から二十四日にかけて、聖パウロ小神学校では、夏休み恒例の召命錬成会が行われた。

今年の参加者は十三人。ビデオ、ゲーム、スポーツを楽しみ、神父様や小神学生の話を聞き、そして皆で心を一つにして祈り、御ミサをささげ、とても楽しい親睦の時を過ごした。

猛烈な暑さに見舞われたが子どもたちの元気のよさにはいつものことながら驚かされる。子どものたちの中に隠されている宝物、エネルギーは、本当にすごいの一言。そのすばらしい新鮮なエネルギーをいつの日か、神と人々とのためによく使い、役立ててくれるよう心から願いたい。

人間が呼びかけて、「錬成会に来ないかい」と言えば十三人が参加してくれた。神の呼びかけは人の声よりももっと深く入り込むはず。神の呼びかけを聞き、喜んで召し出しにこたえてもらいたい。

聖パウロ会　杉原寛信神父

夏休み　錬成キャンプ

☆創造主を感じつつ　熊本

神様のお恵みで子どもたちと共に楽しんだサマーキャンプ、今回初めてスタッフの一員として参加致しました。今年のテーマは『神様がわかるでしょう』でした。子どもたちの感想文を読んでみますとみんな神様を感じているようです。

今回は四回に分けてのキャンプでしたが、大水幸一神父様、フランシスケン修道院の藤井院長様をはじめシスター方、神学生、スタッフの皆様そして本渡、大江および阿蘇地区のシスター方、信者の皆様の協力は見事なものでした。

本渡・大江では、天草の殉教者荒川アダムをはじめ、熊本の殉教者たちについて学びました。また、阿蘇では大自然の中で創造主を感じつつ、再生紙を作ったりして環境問題などについてとりくみました。

島崎教会　高木和夫

☆信仰を自分のものに　佐賀

佐賀地区では、別に計画している鳥栖教会を除いて小学生合同夏季キャンプを毎年行っています。今年は七月二十二日から二十四日まで伊万里教会で六十人ぐらいの子どもたちの参加がありました。

教区年間テーマを考えて、今年は『祈り』をテーマにして計画してみました。自分で作ったロザリオを唱え、自分で塗った絵と作った十字架を持って十字架の道行を祈り、祭壇を囲んで説明を聞きながらごミサを捧げました。その他、猛暑のこともあって子どもたちの一番楽しみになったのは、やはり市民プールに行く時間だったみたいです。聖クララ会のシスターたちが中心に牧山美好神学生の協力を得て今年のキャンプも無事終わりました。

一方、中・高生のキャンプは少し足をのばして湯布院教会に行ってきました。教会の神父様は鳥栖と佐賀教会の子ども十五人と引率者六人を温かく迎え八月五日から七日まで快くもてなしてくださいました。『信仰』がテーマで、子どもたちが持っている疑問を取り上げることによって信仰を自分のものとすることの大事さが強調されました。その他、町巡り、温泉入浴、野外ミサを含む登山、ビデオ、花火などもありました。

佐賀教会M・ターディフ神父

賛美の声響く！　聖霊刷新九州大会　第8回

「さあ！渇く者はみな水に近寄れ」のテーマのもと、岩手から沖縄に至る各地から二百余人が熊本に馳せ参じた。七月二十四日から二十六日の三日間、主への賛美と感謝の声が会場に渦巻いた。

教皇様の遠縁に当たるエドワード・ブジョストフスキ神父様の指導は、達者な日本語で、ユーモアを交えながらの解りやすいものであった。

「神の飢え渇き」の第一講話から、「人間は神を求める」、そして「聖霊の七つの賜」へと聖書の多くの言葉や「シルワンの手記」などを引用しながら導かれた。最終日は、松永久次郎司教様から「聖霊と教会刷新」について教えを受けた。司教様は「主を讃え、神との交わりの中に留まる限り本物の生命となる。自身の内に塩を持ち、誠実に努力を重ね、自信と謙虚さを持って進むように」と話された。

司教様司式のミサの中で、参加者全員が司教様のために心を一つにして祈れたことは何よりの歓びであった。

心も新たに福音宣教に向けて、力強い第一歩となった。

祈りの会　中本岐余子

生命山での黙想会に参加して

「お盆までは真夏ですよ。お盆からは秋の気配が始まります。夏には冬がいいと思います。夏には夏がいいと思う私ですが、日本の大自然の中で育まれた先祖様方の宗教心・文化には、キリストの救いの啓示をより深く悟らせてくださる何かがありますね」。指導者フランコ神父様の言葉によって始まった生命山カトリック別院（玉名）での黙想会（八月二日から九日）は、汗を流し、自然の心地よい風にあたり、うちわ（内和があり、扇風機なし）でもって、自分を尽くすことが神の恵みであることを悟らせて頂くことになりました。七日間、毎日、典礼が生活の中に溶け込む喜びを味わうことができました。

特に印象深かったのは、朝夕の祈りです。日の出を目前に旭の中で朝の祈りをする。全てを与え尽くす霊である命の豊かさを心一杯・体一杯に味わいました。頂きます！

山の頂きに沈む夕日を前に夕の祈りを心から捧げます。大きな大きな明るい、あたたかい円現です。ご自分を与え尽くした神の親心は一日、また一日と信じる者の心を強め、深めて下さいました。合掌。

島根・出雲教会　岡俊郎神父

妻として母としての模範　―聖モニカ祭―

八月二十七日、カテドラルセンターで聖モニカへの感謝を捧げるミサが、松永久次郎司教、堤要吉、ライル両神父の司式によって行われた（‖写真）。福岡地区婦人会主催。



息子、聖アウグスティヌスの神に対する信頼を取り戻すことだけを願った母聖モニカについての話があり、「女性の立場が強くなった昨今ではあるが、妻として母として神からいただいた能力を充分に使わなくてはいけない。日々の家庭生活でキリスト者としての生き方を子どもたちへ伝えていくように」との司教の励ましがあった。

続いて、会員に関わりのあるこの一年間に亡くなった七十六人の追悼式が、雨が激しさを増す中で執り行われた。

茶山教会　下田廣子

崎津みなとのフェスティバル　ライトアップされる教会

町に住む若者たちが、地域活性化の一つとして企画した手作りイベント、「崎津みなとのフェスティバル」が八月六日、熊本県天草郡河浦町崎津で開かれました。今年で六回目（‖写真）。



当崎津地区は、東シナ海から入江をなす羊角湾にあり、漁村集落の海辺に建つ崎津天主堂は、その景観の美しさから全国的に知られています。

この天主堂をメインとしたフェスティバルを開催して、当地区活性化の糸口をつかもうと同漁協青年部が中心となって、毎年多彩なイベントを展開するのです。

今年は漁村らしく船でエビを獲ったりシイラ釣りを体験したり、昼には漁港広場でタイのつかみ捕りもあり、親子連れなどで賑わいました。

夕暮れ時には、地元婦人会や中学生など総勢二百六十人が崎津ハイヤ踊りで町を練り歩き、気勢をあげました。

また、漁港広場ではバーベキューが催される中、崎津教会堂がライトアップされ、その美しい全貌（ぼう）が夕やみの中にくっきりと映し出されました。

この後、教会堂から約百人の信者がキャンドルを手に漁港広場までを行進し、世界平和祈願祭が催され、人々の幸福を祈りました。フェスティバルのフィナーレには花火が打ち上げられ、教会堂のライトアップとともに崎津の夜空を彩り大きな歓声の中に幕を閉じました。

河浦町役場　小濱慶一

カトリック福岡司教館への寄付の御礼

下町豊重神父様のご母堂、故マリア下町八重子様の香典返しとして下町一豊様より金一封頂きました。

故人の安息を祈り、感謝のうちにご報告させて頂きます。

一九九四年八月　カトリック福岡司教館　松井忠之

★なぜこの道を？　―十七人の司祭の手記―



「人はそれぞれ自分の人生の道として、ある生き方を選択し、決断していく。

そこには人の思いを越えた大いなるものの意志が働いているのではないだろうか？

司祭の道を志した十七人の筆者も、思わぬ人との出会い、挫折、人生が織りなす悲喜こもごものなかで、一条の光に導かれるようにその道が開かれていったのである。」

裏表紙より

福岡教区では、山元眞神父様が「五円玉が縁で」を執筆しています。ぜひご家族の皆さまでお読み下さい。

女子パウロ会　五二〇円

BOOK 読みは専科

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

じゅんれい体験記

（谷口純子・大名町）

教会学校で長崎へ行きました。コルベ神父様の「聖母の騎士」と二十六聖人記念館をまわりました。バスの中でも、二十六聖人やコルベ神父様の絵本や紙しばい、ビデオを見て、それぞれのじゅんきょう者について学びました。聖母の騎士では、小崎修道士の熱のこもった、心のこもった話にみんなぐんぐんひきつけられ、コルベ神父様を、みじかに感じ、親しみをもつことができました。また、二十六聖人の遺骨や遺品を見ながら、信仰をもつことのすばらしさを強く感じました。

浦上天主堂や中町教会でも教会のことを、各教会の神父様や以前お世話になった村川助祭様に説明していただきました。長崎の教会学校のすごさを感じました。

わたしたちは、二十六聖人の記念ひの前で「主は水辺に立った」をみんなで声高らかに歌いました。その歌の中にある「主と共に行こう」ということばを味わいながら、あらためてイエスさまについて行こうと心に決めました。すばらしいじゅんれいでした。

楽しかったCYGのキャンプ

（小5・岡部真依・水巻）

私は、CYGのキャンプをもう三回もしました。もちろん一回目のキャンプも、二回目のキャンプも、とても楽しかったです。でも、今年のキャンプは、中でもピカ一なのです。なぜなら、キャンプファイヤーを朝にしたからです。わたしは、神父様が、朝にキャンプファイヤーをするときいてうそかと思っていたけれど、ほんとうに朝にキャンプファイヤーをしたのでびっくりしました。けれども朝のキャンプファイヤーもとてもきれいでかんどうしました。また朝のキャンプファイヤーをやってみたいです。

一生忘れない感動のミサ

（内藤聡子・小倉）

私は日本カトリック高校生大会にでることが出来て、本当に良かったと思います。日本でヒットした歌とかみんな知ってて、それぞれの言葉で声をあわせて歌った時、国境なんか、関係ないと思いました。最後のミサで、みんながスクラムを組んで泣きながら歌った時の感動はきっと一生忘れないでしょう。マカオの女のコが「ワタシハアナタヲスキデス。」と日本語で言ってくれ、超感激でした。男のコも女のコもみんな泣いてました。こんな感動を味わったのは生まれて初めてです。一人の男のコが「僕はクリスチャンで良かった。」と言いました。私も同感です。この大会に出ることができたのも神様のお恵みだと思います。そして今、私をこの大会に行かせてくれた人たちに心から感謝したいと思います。ありがとうございました。





アジアの友だちといっしょに

木かけ

三つのお願い

もうずーっとまえのことになりますが、わたしの初聖体の思い出を書きましょう。

小学校二年生のときのことです。シスターのしどうで初告解（はつこっかい＝初めて「ゆるしの秘跡」をうけること）と初聖体（初めてご聖体のイエスさまをいただくこと）のじゅんびをしました。初聖体クラスは40人くらいいたでしょうか。告解のしかたを何回もれんしゅうしました。初めての告解のときは先にお母さんが告解して、わたしがするときは横にいっしょにいてくれました。とてもきんちょうしたことを思い出します。心がまっしろになった気分でした。



山元　眞
しんぷさま（司教館）

初めてご聖体のイエスさまをいただいたすぐあとで、イエスさまに三つのお願いをしました。初聖体のじゅんびをするときに、シスターが、「ご聖体のイエスさまを初めていただいたら、すぐに三つのお願いをしなさい。そして、ずっと聖体はいりょうするたびにいつもきれいな心でお願いしていたら、きっとその願いはかなえられます。でも、その願いは、ひとのためのものですよ」とおしえてくださいました。わたしはずっと「神父さまにしてください」とお願いしました。神さまは、ほかの二つのお願いもいっしょにかなえてくださいました。

〈「紅にほふ」一・二〜〉



小学館　各六五〇円

はっきり言って漫画だが、戦後半世紀過ぎてしまった現在、「知ってもらう」には一番早く、取っ付きやすい。大正末期、夢と希望を持って中国大陸に渡って行った日本女性三人の生き様を劇的に描写している。（溝）

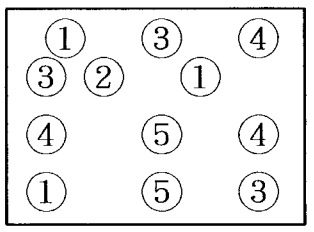
信三神父さまのお答えします

Q　ぼくは、頭があまりよくないけど、神学院に入る事ができますか。

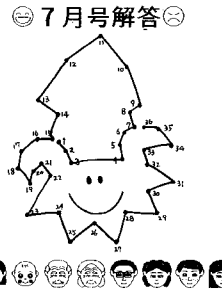
A　勿論です。神学院生は、中学生は平尾中に通学し、高校は、原則として、近くの公立高校に進学することになっています。高校受験が少し大変ですが、現在ここにいる中学三年は、そのために、近くの学習塾に通って一生懸命頑張っています。さて、神父様になるためには、信仰と、そして必要な知識が求められます。しかし、頭がよい人が必ず立派な司祭になるとは限りませんし、逆に、勉強があまりよくできない人は、司祭になる資格がないともいえません。大切なことは、神さまに対する信仰と、人々に対する愛です。そしてハートです。

橋かけ

ルール：
①数字は、その数字につながる橋の数です。
②橋はタテヨコにかけられ、ナナメや、数字をとびこえてはかけられません。
③橋は1カ所に2つまでかけられます。
④橋どうしが交差してはいけません。
⑤全体が橋でつながらなくてはいけません。



7月号解答





ご寄付お礼

中山テル様より香典返しとして金一封を神学院に頂きました。
故人の永遠の安息をお祈り致します。
福岡カトリック神学院　森山信三

編集後記

夏が終わって、秋が来た。夏場は福岡方面は雨が少なく多くの地域が断水を余儀なくされた。水の有り難さを知らされた時であった。与えられる水は、使い方で人を助けたり、傷つけたりする。教区報の使命は、人を殺す事ではなく生かす事にある。魂に刺激が与えられるように願っている。せめて、あきが来ないように内容に潤いをと思っている。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ——安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL　092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、…イエス・キリストを知ることです

（ヨハネ17・3）

荒尾　K・オマホニ神父

教区司祭黙想会

必要な殉教者の心

先人を模範とした司牧と宣教を



教区司祭の黙想会が十月十七日から二十一日まで、宗像の福岡黙想の家で行われた。司祭としての自分を見直す機会である黙想会では、今年も講師の説教が一際胸を打った。また、この黙想会では多くの信徒の祈りが功を奏している。

ロザリオの月十月。教区司祭には実りの月とも言える。

聖母の取り次ぎを願いながらのロザリオから始めた教区司祭黙想会には、病気療養中の司祭を除く全ての司祭が出席した。

今回は、サレジオ会管区長溝辺脩（おさむ）神父を講師として迎えた。師は七回の説教で一貫して殉教者の生き方を話し、「現代に生きる司祭も先人を模範と仰ぎ、司牧と宣教のために自らを投じなければならないこと」と諭した。

「殉教は過去の出来事だ。それに政治にからんだものが多いと否定的にみる人もいるが、当人がどのような思いで死に臨んでいったかが問題である。彼らは、最終的には転ばず、死をもってイエス・キリストを宣言し、信仰を守り通したのである。彼らの死こそが彼らの生き方だったのである」とし、一六一四年の長崎の殉教者の信仰の証をはじめとして、小倉・熊本での殉教者（例えば、加賀山隼人と妻みやと八人の子ども、また細川忠興の親戚にあたる家老小笠原玄也など）、そしてすばらしき司祭像である中浦ジュリアンなどを取り上げ、現代の司祭にも求められるその心意気を熱っぽく語った。



師の、「殉教の研究」が今回の黙想の題材になったのであるが、内容は豊富でしかも子細にわたる話は聴き手を魅了し、時間延長を忘れさせるものであった。

多くの司祭は、「迫害当時の司祭、修道者、信徒がいかに信仰を守っていったか、或いはその弱さによって信仰を捨てていったかをよく理解することができた。現在の信仰者の姿と照らし合わせながら今後の歩みの糧にしたい」としながらも慎重かつ冷静に、しかも積極的な態度で臨んでいくこと」を語った。

教会共同体を育てるミサ
―福岡地区信徒協研修会―

九月十五日（敬老の日）、大名町カテドラルセンターで、福岡地区信徒使徒職協議会主催の研修会が開かれた。

講師は、高松教区長深堀敏司教。参加者は司祭、修道者、信徒、合わせて百六十一人。

開会式に引き続いて午前中の講話は、「ナイスが目指してきた教会刷新の目標は、ひとことで言えば、共同体づくりであり、共同体が刷新されれば、ミサは生き生きとしたものになり、ミサが生き生きしてくれば、共同体が刷新される。」

この相互作用の関係を軸として、ミサを行うのは、その教会につどって来た全員であること。その際、共同体のすべての人、一人ひとりが奉仕の役割を担いながら、みんなで作り上げていくもの。特に典礼を際立たせるために、「典礼アニメーター」が必要であること等が強調された。

また、典礼での「しるし」の意味を良く理解し、はっきりと言葉や行動で表現することがいかに大切か、具体的な事例を挙げてのお話を伺い、十グループに別れて分かち合いをした。

午後からは、典礼教育の必要性と、それを推し進めていく上での、基本的要件について、司教様の豊富なご経験を交えてのお話を伺い、二回目の分かち合いを行った。

終わりに、全員大聖堂に集まり、感謝のミサを捧げ、十六時に閉会した。

バチカンに二十万人
家庭は喜びと希望　家族年

十月六日から八日まで教皇庁「家庭評議会」主催の「家庭・愛の文明の心」国際会議がローマ・ラテラノ大学で開かれ、五大陸から七五〇人が参加、意義深い分かち合いが続出。続いて八・九日のバチカンでの「教皇と家族の世界集会」には、日本からの五六人を含めて二十万人が参集。


家族を祝福される教皇

参加者を前に教皇は「家庭生活には確かに苦しみと痛みがあります。しかし、家庭は喜びと希望です。」と呼びかけた。（関連12月号に掲載）

時の話題

矢部　由子

広島でアジア大会が開催された。中国のメダル数は、他国を引き離して多い。どうして中国人は強いのか、との質問に、ある中国人コーチは、漢方薬だと答えていた。日本人の漢方薬の使い方は、どこか体の具合が悪くなって飲み始めるケースがほとんどだ。ところが中国では子供の頃から食品と共に漢方薬を取り入れている。病気のための漢方薬というより、健康な体力づくりにと考えられている。この話を聞きながら信仰について考えた。日々の生活が神様中心ならば、子供は親のそれを素直に受け留め霊的栄養で健康な心が育つ。

「神様、ぼくをテレビにして下さい。そうすれば両親がぼくを視てくれると思うから」とある子供の祈り。子供は神様から授かった大切な宝物であるのに。また、世間並にさせることが親の愛情と思い込んで、偏差値を気にしての塾通いとか日曜もないハードな部活動などは、一番大切なものを見失う結果となり得る。そのような時期が過ぎて信仰を

社会の出来事から信仰を顧みる

で夕食を一緒にしないか。『わかったわ』。大声で答えて、二人ともバルト海に飛び込んだ。五時間もの間漂流して無事に生還したこの二人は約束通り、ストックフォルムのレストランで食事を共にした」とか。

まさに、事実は小説より奇なりだ。若さが漂流に耐えられたのかも知れないが、不意におとずれた災難にうろたえず、定めた目標に向かう姿勢は、信仰を持つもの、または信仰に基づいた成育史に裏付けられているに違いないと感じた。それにしても、このようなユーモアあふれる会話が飛び出す欧米人のふるまいは、かりに助からないとしても、永遠の生命を確信しているからのように思える。

自分の置かれた場所で、神様のお恵みを具体的に表現すれば、本物の信仰の人となれそうだ。

武蔵ヶ丘教会

マイケル・ヨゼフ・グリーン神父　帰天



十月十七日十三時三十分、熊本の聖心病院にて、聖コロンバン会司祭マイケル・ヨゼフ・グリーン神父が逝去した。

師は五年前に腎臓癌を患い、玉名から八代病院に通いながら治療を続けていた。病状の悪化は約一ケ月前から。熊本の聖心病院で闘病生活を送ったが全身を襲った癌により、今月十七日に天に召された。享年七十二歳。

師は、一九二二年九月十九日にアイルランドで生まれ、一九四六年十二月二十一日ナバンにて叙階。後、中国へ。一九四九年二月に来日。長崎、神奈川、熊本（八代）、福岡（美野島）、熊本（少年の町・大江・玉名）で宣教・司牧した。

通夜は、十月十七日午後七時手取教会で。葬儀ミサは十九日手取教会で松永久次郎司祭司式によりしめやかに執り行われた。

永遠の安息を祈ろう。

みちくさ

銀行で、母が子どもに今風の絵本を読んで、話をしてあげていた。絵本は広げると、立体のものが出て来たり音がでたりして、実体を把えやすくしている。子どもは熱心に聴き入っていた。実に微笑ましい光景だった▼親と子のつながりは、時と場所を越えて美しいものである。我々もそのようにして生かされて来たし、親がこの世を去っても、子の記憶には絶対に忘れられないものとして多くのものが残される。そして、自分がしてもらったことを同じようにして自分の子にしていくのである。だからいいものを伝えていきたい▼親の有り難さは自分が親になった時に分かると言われる。赤ちゃんの時に鼻が詰まると口で吸い出してくれた。ケガをしたり病気でもすると、計算外で自分のことよりも心配してくれる。そんな親のことを自分が親になるまで有り難く思わないのは正常な人間ではない。自分が親にできる孝行を後に延ばさず今しよう。親はいつまでも元気で生きていくわけではないから。親を大切に思い、大事にできる人は自分も子どもから大事にされる。たとえ自分が死んでも祈ってもらえる▼神はその掟の中で『父母を敬うべし』と諭われた。親は単に我々を養い育てるから有り難いのではない。親はこの世で「神の代理者として存在する」から有り難いのである。神は親を通して人としての生き方を教えられるし、親を通して人が御自分に来ることを教えられるのである▼親は自分の在り方を意識しているだろうか。親の親である神と自分の子に対して。責任と義務を果たしていくのは並大抵ではないが、神が必ず助けの手を伸ばしてくださることを信じていこう。【S】

「神」を返してください

かつて、神学生であった頃、「禊（みそぎ）教」という宗教の館長の講話を聞く機会があった。どんな話だったかほとんど記憶に残っていないが、「神を返してください」との言葉が、今でも強く頭に残っている。こんな表現ではなかったかもしれないが、そのような意味だったと思う。

また、ある韓国の学生と知り合いになった。日本に勉強に来ている学生で、日本語のわかる人であることは言うまでもない。彼は、キリスト教についてよく勉強もしていたし、聖書もよく読んでいたけれど、洗礼は受けていなかった。あるとき、彼から言われた。「自分ではうまく説明はできないけれど、私も人を超えた存在は認めている。でも、私の出会ったキリスト教の人たちは、それを認めてくれず、かえって、あなたは本当の神を信じていない（知らないだったかな）と言う。それが悔しい」と。

私たちは自分の考え、思いなどを表現するときに、どのようにしているだろうか。多くは「言葉」を使って表現している。もちろん、そのとき表情や、手振り、身振りも使ったりする。あるいはまた、音楽や美術といった方法だったりする。それは五感に訴えるものである。

今、私はこの文章を書いているが、いかに自分が言葉を知らないかを痛感させられている。もしたくさんの言葉や表現の方法を知っているならまた身につけているなら、もっとうまく表現できるだろうにと思うが、今の自分にはこれが精一杯である。それで思うのだが、自分の思いを表現し、伝えようとするとき、それも相手に理解してもらおうとするときは、伝えようとする相手をよく知らないときがより難しくなる。言葉そのものの意味を考えてみても、自分の理解と、相手の理解が違うこともたびたび経験する。先にあげた「神を返してください」との言葉がそうであった。とくにこのような「神」という言葉で何を表現しようとしているか、或いはこの言葉の意味するものが何であるかは、その言葉を表現する人とその言葉を受け取る人の理解や経験に大きく関わる。そのために誤解や錯覚が生じたり、問題になったりする。このような「言葉」の誤解や錯覚をさけるために、言葉の意味を問い直すことは、有意義なことと思う。そんなわけもあって、日本語をもっと知りたいと思う今日この頃である。

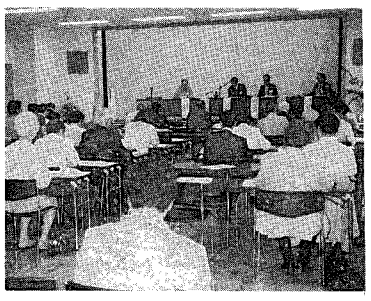
聖パウロ修道会　戸村修神父

日本カトリック神学会 第六回学術大会

―福岡サン・スルピス大神学院―

九月二十三・四の両日、日本カトリック神学会第六回学術大会が福岡サン・スルピス大神学院（院長・高見三明）で開かれた。

『日本カトリック神学会』は、「日本のカトリック教会において神学研究に従事する者相互の連絡と、研究の促進を目的」として、一九八九年九月二十三日に上智大学で開かれた設立総会と第一回学術大会をもって正式に発足した。白柳東京大司教が会長、上智大学、聖アントニオ神学院、南山大学、福岡サン・スルピス大神学院が賛助会員となっている。会員は、信徒、修道者、司祭と多彩で、現在二百余人を数える。学術大会は、東京（上智大学と聖アントニオ神学院）と地方の賛助会員の施設で交互に開かれる。そのため福岡サン・スルピス大神学院で開かれるのは、六回目の今回がはじめてであった（＝写真）。



今回は生命倫理をテーマにかかげ、上智大学生命科学研究所所長の青木清先生による「生命科学の進歩とバイオエシックス」と題する基調講演と、「生命倫理」をめぐるシンポジウムが行われた。さらに、十におよぶ研究発表が行われ、熱のこもった質疑応答がかわされた。参加者は五十人ほどであった。閑静で美しい環境と大会運営に協力した神学生の働きが大変感謝された。

なお、同窓会の事務局は、現在南山大学文学部神学科気付けとなっている。

地域と共に「てんてん祭」

～福岡黙想の家～

恒例の宗像てんてん祭は、十月九、十日の両日、宗像の黙想の家で開かれた。

九日の前夜祭は、午後七時より、中島淳一氏の一人芝居「アイシュビッツの聖者・コルベ神父」が、下のルルドの広場で催された。今年はコルベ神父生誕百年で記念すべき年であるので、それだけに感銘深いものがあった。会場には椅子が二百席用意されたがそれをこすほどの観客でいっぱいで、その熱演に限りない声援をおくってコルベ神父の生涯を偲んだ。

十日は、朝から小雨が降ったり止んだりの天気であったが、関係者の熱意は雨をふきとばす程であった。

ふれあいバザーは、近隣のボランティア活動を助ける意味もあり、その方々の売店が立ち並び、入り口にはふわふわゴリラがでんとそびえ、子供たちをひきつけた。

イベントとして手取教会の新圭子さんの「童謡と唱歌」の集いが聖堂で行われ、老いも若きも童心にかえって、大声で歌を歌った。続いて、大楠教会の下町豊重神父が「腹話術」と「聖書紙芝居」で聖堂一杯の人を魅了した。福音の光修道女会の「お茶席」も設けられ、安らぎの時を過ごした。てんてん祭は年ごとに盛り上がりをみせている。

実行委員会　鬼木保之



ふれあいバザーは大盛況

「聖歌と祈りの集い」に参加して

九月二十五日、黙想の家で「第十六回聖歌と祈りの集い」が催された。

今回は、北は門司港教会、南は鳥栖教会と広い範囲から多数の参加で聖堂は一杯になり主催者は嬉しい悲鳴をあげていた。もちろん、歌声も聖堂に美しく響き渡り、指導の深堀純氏もいつものように熱がこもっていた（＝写真）。



休憩を挟んでの山元眞神父のお話は「賛美について」。

具体的に自分の生活を見ないと神を賛美できない。主は私にどのように関わって下さったか。神の働きをみつめることによって賛美の歌と祈りが出来る。

今まで反省と許しだけを主に願ってきた者には大切なことは何かが気づかされた。

参加者は、今回の集いに参加したことにより、祈りも深められ、この日を与えて下さった神に感謝した。「低音部の指導もお願いしたい」との声もあった。

小倉教会　福吉　新

第10回 教会の活性化を

筑後地区スポーツ大会

スポーツを通して人々とのふれあいと教会の活性化を目的とした第十回筑後地区カトリック教会（二日市、小郡、久留米、大牟田、鳥栖、今村、本郷）スポーツ大会が、九月十一日大刀洗町運動公園で開催されました。（＝写真）。

この大会では、かねてからの念願であった松永久次郎司教様司式の御ミサが、スポーツ大会に先立って勤労者センターにて約七百人の参列者のなか荘厳に行われました。

会場を運動公園に移し、開会式の後、大人、子どものチームに分かれて教会対抗ソフトボールが開始されました。どの試合も熱戦が繰り広げられ、子どもの試合では時間内（四十分）でも勝負がつかずジャンケンで勝敗を決したチームもでました。

また大人の部では逆転ゲームが多く、スリリングな試合が続き、応援団もハッスルしていたようです。この大会では鳥栖教会の活躍がたいへん印象的でした。

試合の結果、大人の部優勝は本郷教会、また子どもの部優勝は女の子のパワーとジャンケンも強かった今村教会でした。優勝教会には、賞状とカップと司教様サイン入りボールが贈られました。

本郷教会　平田清志

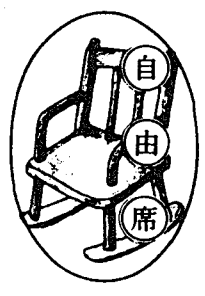


訂正とおわび

十月号の自由席の終わりから十一行目、「シスター笹川が二回も」を「…三回も」に、終わりから四行目の「誓願式」を「奉献式」に訂正し、おわび申し上げます。

書く

島　義三



手紙を書く、日記を書く、旅を書く。大げさに言うならば人間感性の発表のステージである。一方、書くことは指の体操でもある。私は歩くことと同様に書くことをだいたい日課としている。右手中指の第一関節のあたりからタコが消えたことがない。神様からいただいた手書き会員章かも知れないと秘かに満足している。

この世に、ワープロが出現してから急速に手書きが減って来たのではないかと思う。文字、文章まで機器が選んでくれるのであるから、こんな便利なことは無い。

然し、ここで考えたい。事務的な文書や原稿などは別として、家族、友人の間では、どんなに曲がりくねった字であっても、手書きにはぬくもりがあり、相手の温い心が伝わってくる。

聖書を読む時、一番心にひかれたところを手書きして見る。そうして見詰めていると思わぬ恵みをいただくことがある。

紙もない、一本の鉛筆も手に入らない発展途上国の子供が、土の上に棒きれで、絵や文字らしきものを書いているのを見る。私はこの子供たちにゲーム器や、ワープロを持ち込んで貰いたくない気持ちである。紙や鉛筆を送ることは彼等にとって恵みであるけれど、ゲーム器やワープロを持ち込んだ時は、彼等の不幸の第一歩と考えたい。

神様からいただいたこの指の恵みを大切に使いたいものである。今日も書く、明日も書く。

（浄水通教会）

ピリオドの集い
生活にピリオドを打って、新しい頁を開いてみませんか！
参加者募集
●12月2日㈮夜～4日㈰昼食後迄
●対象：男性　●参加費1万2千円
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

私たちの御意見番

―敬老の祝い―

新田原

新田原小教区では、九月十一日に七十歳以上の信徒を招き長寿のお祝いを行った。

ミサの中で祝福を頂き、ミサ後テレジア館で催された祝賀会（＝**写真**）では、主任司祭竹森勇神父様の祝辞に続き、教会委員長が「約七十年前にトラピスト修道院に集まった信徒が、聖書の『一粒の麦が地に落ちて死ねば多くの実を結ぶ』の言葉通り、現在では千八百余人になったのもひとえに皆様方の信仰の賜物で感謝に耐えません。これからも私たちの御意見番として健康に留意され、これからの人生を大切に生活してください。」と挨拶した。



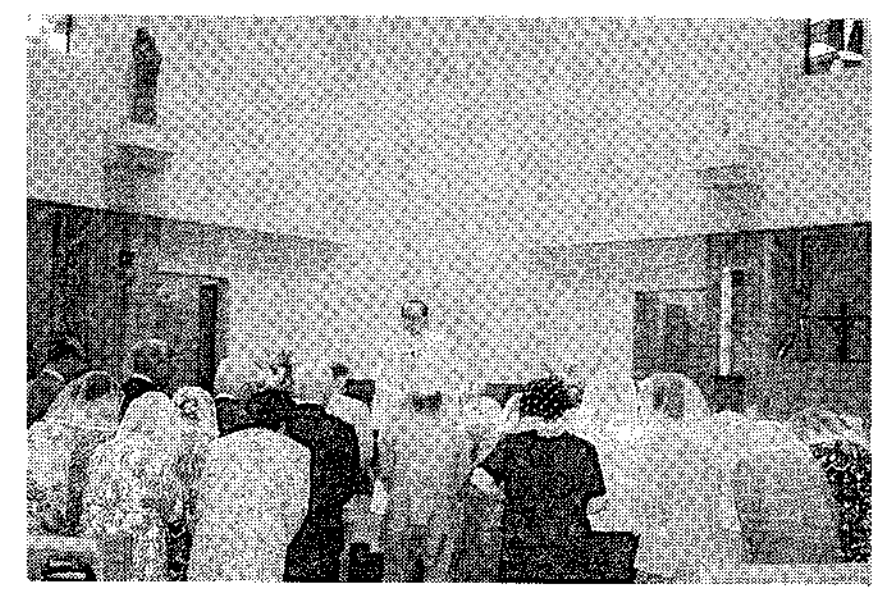
小教区で七十歳以上の人は約百五十人位だが、約半数の六十八人（男性二十二人・女性四十六人）が参加した。

会食が始まり、婦人会の余興として、ハデなメークでの『幼なじみの思いでは』と『炭坑節』の踊りで盛り上がり、高齢者によるカラオケや踊りで盛大に行われた。聖母訪問会第二修道院で静養中の伊東誠二神父様も参加され、挨拶と祝福を頂いた。楽しみの福引抽選会では、第十二地区の谷口清さんが一等賞を引き当て「賞を頂いたのは生まれて初めて」と感激していた。最後に、江村徳衛門さんが「本日は本当に有り難うございました。これを機に、これからの人生を天国を目指して生活します」と謝辞を述べてお開きになった。

小島　篤実

大名町

九月十一日、カトリック大名町教会で敬老の祝いが行われ、七十歳を越えられたおじいちゃん、おばあちゃんが約五十人もお見えになりました。おじいちゃん、おばあちゃんはただ居られるだけで、なんとなくその場の雰囲気が落ち着き仕事では現役を引退されても存在意義が大きいなと思いました（＝**写真**）。



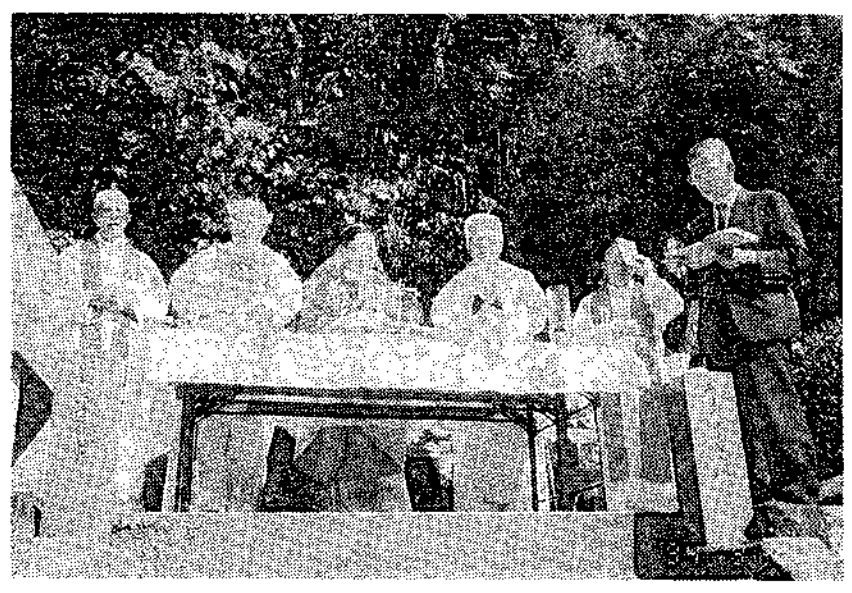
ミサの終わりに山川辰幸神父様から祝別とお祝いの言葉があり、教会学校の子どもたちからは温かいメッセージが書いてあるカードが贈られました。教会からは一人ひとりの紹介とささやかなプレゼントも贈られたりして、心安らぐミサになりました。

ミサ後、講堂にて、みなさんと共に会食をし、楽しい一時を過ごしました。日頃教会においては遠慮されがちなおじいちゃん、おばあちゃんの人生の長い経験から生まれるちょっとやそっとでは計れない知恵に、聞く耳をもったらいいなと思いました。

佐田一兵

不動山キリシタン殉教者慰霊祭

佐賀地区信徒協（桜井太郎会長）主催による、第五回不動山キリシタン殉教者慰霊祭が、九月二十五日午後二時から、藤津郡嬉野町不動山大舟の茶畑山腹にある記念碑の前で行われた（＝**写真**）。



参加したのは、県内各地からの信徒と、地元代表者など約百人で、地区長ガッザルディ神父様方四人と、松永久次郎司教様の司式による野外での共同ミサが捧げられた。

禁教令の厳しくなった慶長十九年（一六一四年）不動山一帯に隠れ住んでいたキリシタンたちは、その日突然役人や山伏たちに襲われ多くの血を流した。慰霊祭が行われた場所は、不動山地区七カ所の史跡の一つで石碑には「心月妙泉尼之墓」とある。言い伝えによれば、「谷間を逃げまどうキリシタンたちのうち、子どもを背負った下女が斬られた。役人が『汝不届き者め』と睨みつけたとき、女は『ナンマイダ』と言って息を引きとった。討ち手は『しまった、この女仏教徒だったのだ』と叫んだが後の祭り。人々があまりの不憫さに石碑を建てて手厚く葬ったと」。

松永司教様は説教の中で、「教えに殉じた人々の信仰を讃えるだけでなく、封建制度の中にあって止むなく迫害の側に立った人々の立場にも理解を持つことが大切です。そのつもりで今日のミサを捧げましょう」と呼びかけた。

この後、大舟公民館で地元の人々が接待する飲み物で、しばし懇談のあと解散した。

（佐賀教会　牧山満安）

ヤングママ黙想会に参加して

福岡地区婦人会

〃母としての熱い思い〃

「♪アレルヤ豊かな愛を」黙想会は、山元眞神父様の流れるようなギター伴奏で始まりました。

ちょっと予想外でしたが、歌っているうちに不思議と豊かな気持ちになり、「歌は神への賛美を二倍にする」という言葉が思い出されました。

私は、三歳児を持つ、いわゆる結婚信者で、自分の信仰はまだ一歩たりとも進んではいないのに、子どもには、よい信仰教育を与えたいと願っている図々しい親です。ミサや祈りの本質、家庭の中での信仰のあり方など、きちんと自分なりにわかりたいと模索している現在です。

そんな私に今回の「祈りとは」の神父様の講話、「元気のでる歌」テープの存在、仲間との分かち合い、フォークミサは、大きな実りと活力を与えてくれました。

子どもに伝えるような信仰を持っていない私、カトリックの家庭に育ったが、夫の理解がまだ遠いという方々、プロテスタントからカトリックへの改宗を考えている方、家族皆で教会に来れて幸せという方々、いろいろな仲間が集いました。

状況は違っても、信仰を伝え守っていきたいという母としての熱い思いを感じた黙想会でした。

神に感謝。

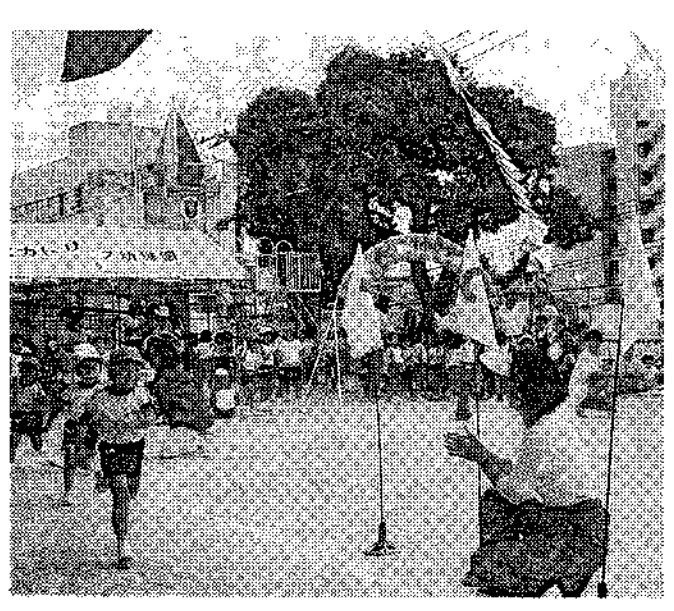
浄水通教会　荒川優子

走れ、走れ

教区内で幼児運動会

九月から十月にかけて、教区内の教区立及び修道会立の幼稚園、保育園で幼児の運動会が開催された。天気に恵まれ、子どもたちは元気に楽しい一日を過ごした。

各園の行事は祈りから始まり、祈りで終わる。神が良き方へ計らって下さることを願ってのことである。多くの行事の中でも、運動会は園を他者に紹介する大切なものである。そして参加者はここでカトリックの何かを知ることになる。つまり、運動会は「福音宣教の場」となる（＝**写真**）。



（幼稚園、保育園の使命は、第一に「福音宣教」を遂行することにある。運動会に限らず、他の行事に際しても園長はじめ職員はこのことを常に考えなければならない）

運動会は園児、保護者、教職員の協力一致が現れたものであった。

幼稚園のできごと

二日市カトリック幼稚園

猛暑と渇水の夏も過ぎて快適な紅葉の秋になりました。

この夏、園児たちが大いに楽しんだ組立て式のプールを片付け、それをいただいたことに感謝しながら夏休みを迎えた直後に、太宰府市は水不足のため給水制限を実施しました。

水不足の深刻な事態になって数日後、信者のAさんから新鮮な九重の山水をお中元にいただきました。お中元に水をいただいたのはこれがはじめてです。喉をグーッと鳴らしてこのおいしい水をひと飲みしたところ、玄関のベルが鳴りました。出てみると、実は園庭で遊んでいた当幼稚園の年中の女児でした。「園長先生、小学生のお兄ちゃんが三人で水遊びしているよ。水が少ないとき、こんなことをしていけないんでしょう」。この水不足のとき、井戸水でさえ水位が下がっているときに。注意しようと急いで出て行ったときはすでにやめていました。この子どもたちは低学年で喉が渇いていて水飲みしているうちに水遊びになったようです。一言いいきかせたところ皆納得したようです。帰りかけたときその園児は「水は神さまのお恵みでしょう」と私の言葉を繰り返すように、しかもごく自然に言ったのが印象に残っています。

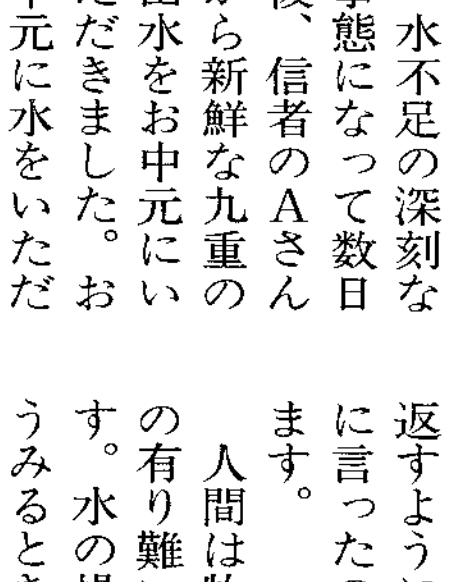
人間は物が豊かになるとその有り難い価値を忘れがちです。水の場合も同じです。こうみるとき当幼稚園でのささやかなこの出来事も大人の私たちに目を向けなおしてみるべき大切なことを問いかけているようです。「神さまのお恵みでしょう」と。これを忘れがちな私たちに問いかけと同時に反省をも呼びかけているようです。いっそう真剣に考えるときイエスさまが言われた「永遠に渇くことのない生きた水」（ヨハネ4・10－14）に到達していくと思います。

園長　堤　敏雄神父

BOOK 読みま専科

★あの日　トラピストは吹雪だった

今村　喜登著



「行くといったらどこまでも行くさ！嵐も吹雪も踏み越えて行くのがわたしの進む道止めてくれるな新田原よ…」

大正十五年二月十七日、猛吹雪の中を、北海道・トラピスト修道院に五十キロの荷物を担いで、熊本県人吉から入会した若者がいた。

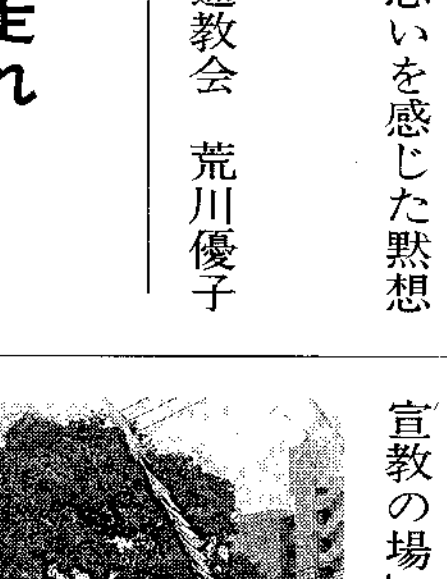
その人は、現在九十五歳で足腰も丈夫で、午前は修道院の受付係をしている今村修道士。彼の受洗からトラピスト入会までの信仰と愛と友情に満ちたいきいきとした回想。

女子パウロ会　五二〇円

◇　◇

★ロメロ〔ビデオ〕

―エルサルバドルの殉教者―



一九八〇年三月二十四日、ロメロ大司教はミサの最中に国家共和制同盟の右翼によって殺害された。

ロメロ大司教は教会のなかで保守的人物とみなされていた。しかし就任後、弱く貧しい人々の「声」となるべく、抑圧の壁と政治的暴力に対して「真実」を唯一の武器として、非暴力の戦いを決意した。

79年にはノーベル平和賞受賞候補者にも上り、現在、列福調査が開始されている。

女子パウロ会　三、八〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石・御影石・その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町２－21
TEL096－352－2417

会合と催し

11・12月の行事

※ゴチックは司教日程

11月

3日 召命の集い
4日 聖書講座⑯
6日 鳥栖教会堅信式
第11回出会いの集い
8日 教区顧問会
10日 教皇文書研究会（以後毎週木曜日）
11日 聖書講座⑰講師／松永久次郎司教
13日 小倉教会堅信式
17日 神学院祭
18日 聖書講座⑱講師／松永久次郎司教
20日 王であるキリスト（年間最後の主日）
聖書週間（～27日まで）
新田原教会バザー
21日 聖マリアの奉献
23日 北九州地区信徒使徒職協議会講演会
教区青年球技大会
25日 聖書講座⑲講師／柊暁生神父（マリア会）
聖書週間特別講演会
柊暁生神父（小倉教会）
カトリック愛と性を考える研修会（佐賀教会）
聖書週間特別講演会（カテドラル）

12月

2日 聖書講座⑳講師／松永久次郎司教（最終回）
8日 八代殉教祭
13日 臨時司教総会（～15日）

……福岡黙想の家……

▼3（木）～6（日）院長研修会
▼12（土）～13（日）北九州レジオマリエ黙想会
▼15（火）～18（金）第21回結婚・箴言・十戒講習会
▼20（日）～26（土）サレジオ会黙想

……聖書講座【ヨハネ福音書】……

■聖書講座【ヨハネ福音書】12月2日まで毎週金曜日19時～21時［場所］福岡大名町カテドラルセンター［日時・テーマ・聖書章節・講師］⑯4日・イエスの祈り［17］牧山勝美⑰11日・イエスの受難(1)［18］松永久次郎司教⑱18日・イエスの受難(2)［19］松永久次郎司教⑲25日・ヨハネ福音書におけるしるし柊暁生⑳12月2日・イエスの復活・松永久次郎司教［受講料］一回毎800円［問合先］教区本部事務局☎092-152-2251-139

■聖書週間特別講演会［テーマ］エデンの園～木の実と胎の実と大地の実～［講師］柊暁生神父（マリア会司祭・聖書学者）［受講料］1000円［小倉会場・小倉教会］11月26日（土）10時～12時［福岡会場・カテドラル］11月27日（日）14時～16時

■第11回出会いの集い 11月6日（日）10時30分～16時30分［テーマ］『みのりを願って』～楽しいひとときと野外フォークミサで！［場所］聖パウロ小神学校［講師］深堀純・邦枝夫妻［対象］20歳以上の独身男女［内容］講演、歌、ゲーム、野外フォークミサ他［会費］1000円（昼食代含む）＊当日参加も可能ですが、出来るだけ事前にお申し込み下さい［問合・申込先］峯幸子☎092-861-1043［主催］福岡教区カナの会

■松永司教様の教皇文書研究会 11日10時～11時教区年間テーマ「キリストを学びキリストに生きる」に基づき、教皇様の文書をいっしょに読みます［場所］カテドラルセンター1階講堂［講師］松永久次郎司教［参加費］500円［主催］福岡地区婦人会

■結婚準備セミナー［福岡］11月10日より毎木・土曜日（全8回）［場所］カテドラルセンター［問合先］カトリックファミリーセンター☎092-541-6207

■死者のために祈る日 11月20日（日）13時30分～15時30分［場所］カトリック黒崎教会［ミサ］司式・L・ベリオン神父（黒崎教会主任）［主催］援助修道会黒崎修道院［問合先］☎093-621-5670

■講演会 11月23日［テーマ］カトリックって何だろう［場所］明治学園（戸畑）［講師］松永久次郎司教本田正昭氏（産業医大）［主催］信徒使徒職協議会北九州地区

■教区青年球技大会 11月23日（木）9時30分～16時［テーマ］みんな集まれ この指とまれ!!～楽しいね みんなで遊ぶって～［場所］熊本マリスト学園［内容］ミサ、レクレーション、ドッジボール＊弁当、体育館シューズ、タオルなど持参［参加費］700円（当日に）［問合先］中村彰神父（小倉教会）☎093-921-0093

■第5回カトリック愛と性を考える研修会 11月27日（日）10時～16時［会場］佐賀カトリック幼稚園講堂［テーマ］家族のきずな・いのちと性―自己の実現としあわせのために［講師］松永久次郎司教［プログラム］基調講演、ビデオ、証し、分かち合い、ミサ聖祭＊筆記用具持参・弁当（500円）希望者は11月23日までに電話で0952-23-4754までご連絡ください。信者でない方も歓迎［会費］500円（学生300円）［共催］教区信仰教育・家庭委員会・佐賀地区信徒使徒職協議会［連絡先］カトリック・ファミリーセンター☎092-541-6207

ミニ情報



■バザーは新田原で！ 新田原教会では小教区記念祭行事として地域の人々とのふれあいをテーマにした大バザーを11月20日（日）午前十時より開催します。メインメニューは友愛品の販売で、信徒が持ち寄った数百点の中からこれは！と思う掘り出し物を発見してください。飲食コーナーでは、うどん、カレーライス、ぜんざい等、昼食はどれにするか迷うほど豊富に揃っています。新田原特産の野菜や果物、ヨゼフ会特製の焼き芋もおいしいよ！ 他に古本コーナーや園芸品、展示コーナーもあります。楽しいひとときを新田原で過ごしませんか。

■教区ハンドブック'95 信徒の心得・カレンダー・教会、修道院や事務所の住所等の情報を集めた小冊子の95年度版を準備中です。来年度の小教区行事など、掲載を希望される情報がありましたらお寄せください。12月末締切り。［問合先］教区本部事務局☎092-152-2251-139

■第4回パイプオルガン・チャリティーコンサート 12月3日（土）16時開演［会場］カテドラル大聖堂［主な曲目］テレマン・オーボエソナタ・イ短調／デュプレ・「来たれ友よ」による変奏曲他［主催］ぶどうの樹の会［問合先］高木☎092-851-1946-7・相良☎092-781-1546

カトリック大名町教会の若い母親を中心としたボランティアグループ「ぶどうの樹の会」も発足して、四年目を迎えました。この会の主な目的は、社会の一員として、広く国際社会を理解し、貧困や災害に苦しむ国内外の人々の救済・自立へ向けての支援のために、それぞれのタレントを持ち寄り、毎年チャリティーコンサートを実施することにあります。音楽を通しての私たちの活動が「世界で苦しむ人々」について、少しでも多くの方々に関心を寄せていただけるきっかけになればと思っています。

今回は、ゲストに大阪より森田はちろうさん（オーボエ）をお迎えします。カテドラル大聖堂の素晴らしいパイプオルガンとオーボエの見事な調和をお楽しみ下さい。

■第一回短期キリスト教講座 教区信仰教育委員会では来年一月から、キリスト教入門講座を計画しています。信徒、修道者、司祭からなる短期キリスト教講座福岡実行委員会の企画で以下のように実行の運びとなりました。福岡地区を中心にポスター・チラシが配布され、呼びかけがなされます。信徒の皆さんも参加できます。たくさんの友人、知人をお誘いください。

［日時］一月三十一日～三月七日（全6回・毎週火曜日・昼の部・10時～11時45分／夜の部・19時～20時45分）［場所］カテドラルセンター大名町教会1階講堂［受講料］3000円（1回800円）［テーマ］①カトリック教会へようこそ②病気・老い・死・苦しみ③子供の躾と教育④夫婦⑤生命の誕生⑥聖書とキリスト教［問合せ・申し込み先］教区本部☎092-152-2251-139

……日本カトリック研修センター・コース案内……

福音刷新コースIII［テーマ］小さくされた人々との共感～NICEI・IIを基本として、日本における社会の問題を福音の立場から考察する［日時］11月11日（金）16時～13日（日）13時30分［場所］日本カトリック研修センター［対象］信徒、修道者、司祭［費用］25000円（消費税600円は別）［問合先］〒466名古屋市昭和区広路町隼人30・日本カトリック研修センター研究企画部☎052-831-5037

……11月命日の司祭……

†スヴァノニ・ゼヴェリーノ神父（ミラノ外国宣教会）
一九六二年十一月二十七日
元唐津教会主任

†フレデリック・ボア神父（パリ外国宣教会）
一九七七年十一月三日
元援助修道会黒崎修道院付

編集室から

地震で北に南に激しく揺れる。天変地異が著しく感じられる。世紀末ではいろんなことが言われるが、いつも準備している人にとってはそう大したことではなくなる。常に備えよう。次回は十二月号だ。よりよいものに出来るかどうか、じしんの程は？

信仰の確信

確信（その二）

第二次世界大戦もいよいよ激しさを増し、日本本土への空襲も熾烈を極めていた頃、本土防衛のため特別攻撃機の整備に任じられて転戦していた或る日のことである。

確か一九四五年の二月頃だったと思うが―現在の東京都立川市に航空機の燃料保管所があり、そこが爆撃された丁度その時、隣の調布市の飛行場にいた。

警報が鳴り響いて間もなく攻撃が始まった。午後十時三十分、真昼を欺く程の照明弾に退避壕に避難していた二十人程の兵たちが、攻撃の標的が近くにあると考え、いっせいに思い思いの所へ逃げて行った。当然のことながら私も一目散に逃げに逃げた。正直言って命がけだった。気が付くと、以前の壕より比較にならぬ浅い蛸つぼの穴の中だった。

ドドドド、ヅシーンと腹にこたえるような地響きとともに砂や土の塊が身に降りかかって来る。間断なく続く爆撃に見栄も外聞もなく、バッタのように地面にはいつくばって精神の落ち着きを取り戻そうとした。この世の最後だ。神のみ前に出る時が来た！そう思うと一層恐怖心が湧いた。

そうだ、完全な痛悔の心を起こして許しの恵みを頂こう。痛悔の心をこめて唱えた積もりだった。

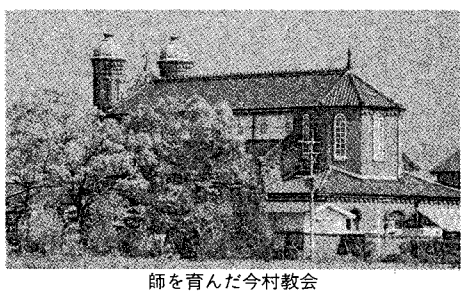
攻撃の合図に今の祈りは心のこもったものかと反省したが、うわずって祈りになっていなかったことに気付いた。もう一度やり直そうとしていると再び爆撃が始まった。心は恐怖に充ち、手も足も震えが止まらず、歯がカチカチとなっているのが判った。

繰り返して祈りを唱え、主の祈り、天使祝詞、栄唱、信仰宣言と加えていった。それでも心は上気して正気とは思われなかった。

ああ！無情（ミゼラーブル）！

以後、人生最後の完全な痛悔はあてにならないと確信した。もっとも、完全な痛悔の判定は神側にあると思うのだが！

浄水通教会　青木保神父


師を育んだ今村教会

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

家庭、あなたは私のあかし

―教皇と家族の世界集会から―
「マリアよ、家庭を見守って下さい」



十月六日から九日まで、ローマで開催された「家族・愛の文明の心」国際会議と「教皇と家族の世界集会」に深堀純・邦枝夫妻(大名町教会信徒)と松永久次郎司教が五十数人の巡礼者と共に参加した。

この集会は「家族年」を記念し、百三十カ国の代表による国際会議とヨハネ・パウロ二世教皇の呼びかけに応えた二十万人もの家族と巡礼者を聖ペトロ広場に迎えて行われたものである。

家庭は「喜び、そして希望」

十月八日から九日にかけてローマの聖ペトロ広場で、「教皇と家庭の世界集会」が催され、全世界から二十万人程の巡礼者が参加しました。そのとき、パパ様は、家庭に、お前は自分のことを何と言うか、と質問すれば、その答えは「喜び、そして希望」であるという意味のことを話されました。深い意味合いをもつお言葉だと思います。

確かに、家庭は現代社会の流れの中で、傷つけられ歪められている点がたくさんあります。けれども、男と女の人格的一致から成立する家庭は、人間創造の物語にも記されているように、神様が人間に与えてくださった最初の贈り物の一つであり、カナの奇跡が示すように、救い主イエス・キリストが福音宣教の初めに贈られた最初の祝福です。そこには今日もなお、神様の温かい配慮が働いております。

実際に、夫婦の間、親子の絆、兄弟姉妹の交わりには、すなわち家庭の集いには、まだまだ強く美しいものがあり、人間共同体の交わりの基礎となっていると言えます。普通の人間関係を越える愛の姿が認められます。

家庭のなかで新しい命が生まれて来ます。家庭のなかで幼い命が育てられます。家庭のなかで弱い命が支えられ、傷ついた命が癒されます。家庭は命の場、救いの場なのです。家庭はキリストの救いが働く「小さな教会＝家庭教会」なのです。

私たちは、この家庭を大切にし、正しく護り支えていかねばならないと思います。

ヨセフ　松永久次郎司教

教会でも社会でも 今は家庭のとき

十月八日、ヴァチカン聖ペトロ広場の午後四時。若者達の軽快なコーラスで「教皇と家族の世界集会」前夜祭の幕が切って落とされた。

広場に集まった群衆の数は二十万。五大陸、百三十カ国から参集した人人。「家庭・愛の文明の心」国際会議を終えて駆けつけた私たち代表者の席にもチリ、香港、マレーシア、イギリス、ペルーの夫婦、そしてガーナやブルンディ、ナイジェリアなど七百五十人。アフリカの夫婦は子供連れで民族衣装が美しい。

広場の一隅から大きな歓声と拍手が聞こえ、白と黄色のヴァチカン旗やハンカチがうち振られ、その中をジープに乗った白いスータン姿のパパ様が。巨大な聖ペトロ広場に人々の歓迎の波がたち、その波間に白いお姿が見え隠れする。松永司教率いる日本巡礼団五十数人もいるはずだ。

前夜祭のテーマは「家庭、あなたは私のあかし」。

戦火に見舞われているクロアチアからの夫婦は、命の危険と窮乏生活の中、希望の源は信仰を共にする仲間の励ましと支え合いと語る。ルワンダの青年の凄惨な体験は友人が代弁。兵士が家に入ってきたのは家族そろっての夕べの祈りの最中だった。最後の祈りをとの頼みもむなしく両親と六人の子供達は惨殺され、この青年だけが逃げのびた。その信仰と隣人愛でつとに有名であったこの家族はそろってこの日の集会に参加予定だったという。家族をバラバラにするのは戦争や飢餓ばかりではない。見せかけの平和や豊かさ、過剰なマスメディアは多くの家庭をむしばみ、価値観を歪めている。そんな中でオーストラリアからの夫婦は離婚や別居、子供の妊娠中絶に悩む家庭と共に歩んでいる。香港の若い夫婦は、繁栄する近代都市の生活の中で福音にふれ初めて生きる道を見い出し最近受洗したばかり。肌の色の違う数人の戦争孤児を養子にしているイタリア人家族と、お揃いの服を着た十五人の子供をつれたスペイン人家族は、命の賛歌そのものだった。あかしの間にイスラエルの女性歌手がグノーのアベ・マリアの旋律に合わせて歌う「マリアよ、助けてください」と、アフリカ・ウガンダの聖歌「マリアよ、家庭を見守ってください」は人々の祈りとなって天に昇って行くようだった。



聖ペトロ広場に響く若者の歌

あかしにじっと耳を傾けておられたパパ様は、ご自分の準備された講話の原稿から目を離し「教会でも社会でも、今は家庭の時です。祈りに努め、周囲の人に寛大で、温かく、神の愛のあかしとなってください。特に弱い人、障害のある人に。そういう家庭から若者が育って新しい家庭を創り、あるいは司祭、修道者への道を歩んで行くのです。

家庭こそ福音宣教の最初の舞台です。家庭には苦しみや困難があります。教会が社会の苦しみと喜びを共にするように、小さな教会である家庭も苦しみと喜びを分かち合い社会にあかしとなるのです。家庭、それは喜び、そして希望です」と力強く語られた。

いつの間にか日は暮れ、手にした二十万本のろうそくの火に広場はくっきりと浮かび上がっている。「みなさん一人ひとりと各家庭に灯るこの火が次の世紀に向かう教会の道、社会の道を明るく照らし出しますように」とパパ様の声が響いた。集会は、翌九日の朝、広場でのパパ様のミサと世界中が同じ心で捧げたミサに引き継がれた。

(深堀記)

教区人事

▽帯山教会主任（熊本信愛）
山頭原太郎

助祭叙階式　＝伊東成晃神学生＝

福岡聖スルピス大神学院を卒業し、司教館で司祭に向けて準備をしていた伊東成晃神学生の助祭叙階が決定。

十二月八日㈭の午後二時から出身の古賀教会で松永久次郎司教により助祭に叙階される。

今月のみことば

「わたしはあなたに言う。起きなさい。」
（ルカ5・24）
聖パウロ会　杉原　寛信神父

時の話題

苦しみ、そして死について思う

久野　薫

仕事を終えて帰宅したところへ電話がなった。近くの医院からである。

「お宅のご主人が気分が悪く、運転して帰れませんので迎えにきて下さい」との由。尿管結石の痛みの発作であった。

主人は、発作時の痛みを振りかえり、「地獄の火に焼かれる思いを考えると、まだあの痛みには余裕があった。神様は耐えられない苦しみはあたえられないのだから」と話した。

前の晩の教会での勉強会で「天国・地獄」についての話があり、その話が頭の中にあったそうである。主人は痛みの再発こそなかったものの、痛み止め注射による副作用、頭痛と吐き気に翌日まで悩まされていたため、私は別の考えにとらわれていた。

「前回の発作の痛み止めの時は、頭痛も吐き気もなく痛みだけがおさまったのに」。

そしてまた、一年前に膵臓癌と診断されてから四カ月で亡くなった姉の主人(六十歳)の死を思い出していた。

姉に、みこころのホスピスへの入所をすすめたが、本人が転院を望まなかった。大きな病院の高度な医療の中でも麻薬による痛みのコントロールが取れず、麻薬による中毒症状が出て苦しい最後であった。また、姉は本人に告知することを望まず、最後まで病名を知らずに亡くなった。

私の父も、一年半前に亡くなっている。胃癌から肺へと転移して、家族に知らされてから、やはり四カ月の命であった。亡くなる五、六時間前まで、苦しい呼吸の中で話をし、洗礼を受けた。父には、癌の痛みの苦しみと共に、この世に心にかかるものがあまりにも大きかったので、神様の話をし、洗礼へと導いたことは大きな恵みであった。

「癌と告知されたら残された日々を有効に使いたい」などと告知されることを前提に観念的に考えていた私だが、自分にもいつか、ふいに来るかも知れない苦しみや死に、自分はどう対処できるだろうか。

死と隣り合わせに生きている現実が理解できず、心からの改心もできず、半端である。主は言われる、「目を覚ましていなさい」と。

(健軍教会)

みちくさ

ロザリオ会で家庭を廻る。その日の家庭には子どもだけでも十人ほど集まった。そこの子（六歳）が、嬉しそうにあの人にこの人に話しかけている。見ると、手にはノートを持っている。私（神父）のところは最後らしい。「これにサインして」と言う。「何のサイン？」と聞くと、「僕の宝物のサインだよ」と答える。「じゃあ、書くよ」と子どもから鉛筆を拝借。書き終えると子どもが、「一番最後は誰か教えてやろうか」と言う。まだ誰か書く人がいるらしい。「教えて」と言う。その子はそっと耳元に来てささやいた。「それはね、イエス様だよ」と。それを聞いて、「うれしい」という思いと「よかった」という思いが交差した。イエス様への思いが一番らしい。「わかった、消えないように大事にしてね」と言った▼子どもの信仰は親から受け継がれるものである。それは、自然に出るものを遠慮なくいただくからである。「親は子の鏡」とは古来からの言葉。信仰の世界も同じ。親が立派に信仰を表し（祈る姿だけでなく）守るなら、子どももそれを尊重し、後生大事にしていく。親はそのことをいつも心にかけ、子どもに伝えていくのである▼決して裏表のある親でないように。子どもは敏感だから、親の思い、しぐさをすぐ見てとってしまう。そして、「自分もこれでいいんだ」と思うのである。「親はなくても子は育つ」と言うが、親がいなかったら子は成長しない。しかも立派な親でないとよい子は育たない。立派な親とは？▼リンゴはリンゴの木から、人は人から実をつける。神がご自分の子につけられた信仰の種を吹き消すことがないように。

【S】

救い主幼子を迎えて

今年も幼子の姿でこの世においでになった神の御子、救い主の御降誕をお祝いする。

今は探してもどこにおいたか見当たらないが、七年前、マニラのN神父から送ってきた一枚のクリスマス・カードのことを思い出す。それは、馬小屋の幼子キリストの姿、その後方に十字架が姿を現している印象深いカードであった。

幼子の姿は静かにすやすやと眠っていて十字架に全く気づかない生まれたばかりの可愛い姿である。それにしてもいたましい、いけにえのしるしである十字架はこの幼子にとってあまりにも過酷にみえる。しかし、この姿を静かにみつめていると深い意味がそこに秘められていて、あの一枚のカードが大変よい黙想の手だてになったと思う。

ところで、どうしてうまれたばかりの幼子と十字架が、あのカードに描かれているように、生まれたばかりであるのに引き離すことのできない関係にあるのだろうか。真剣にそのことを考えてみるとき旧約時代の預言者たちを通して幾度も預言されたこの救い主の究極目的は、十字架のいけにえとなって人類贖いをなしとげることであった。そのために人となって誕生したそのときから、十字架の道行が始まったといえる。あの天使が告げたように、「この子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」（マタイ1・25）。生まれる前から聖なる神の御子は十字架のいけにえとなって罪の世を償うためにこの世に遣わされることが知らされていたのである。

人間の誕生と言えば何より先ず喜びとめでたさである。普通の人間であれば誰でもどんなに貧困者であっても生まれる場所は与えられている。これに対して主は、馬小屋以外に場所がなく、ヘロデの迫害の中で幼い生命もおびやかされ危険にさらされている。

あの誕生したばかりの幼子の身体にはすでに十字架の重みがかかっていたといえるのである。それでありながら、「民全体に与えられる大きな喜びを告げる」（ルカ2・10－11）と天使は言った。十字架と喜びが共存できるのか。

たしかに世の人の誕生のように外面の喜びとめでたさこそないが、その内面の奥に、敬虔な信仰の目でみつめるとき、救い主幼子の降誕は十字架の犠牲と引き離すことのできない関係を通して真実の喜びを与えてくれるのである。

二日市教会　堤敏雄神父

生きがいをさがそう

―熊本短期キリスト教講座―



教会外の人たちを対象にした短期キリスト教講座「いきがい」が、今年も九月十六日から毎週一回（計八回）、手取教会で開かれた。

同講座は熊本市内の帯山、健軍、島崎、手取、武蔵ヶ丘の五教会で構成する熊本地区信徒協議会宣教部（高木光行部長＝島崎教会）が主催で行っているもので今年が七回目（＝写真）。

一回の講座は同じ講師、同じテーマで午前の部と夜の部の二回行われ、受講生はその都度都合のいい方を選べるのが特徴だ。講師も全国各地のカトリック信者に限らず、プロテスタントの教職員もそろえて顔触れも多彩。

十月七日の第四講座「人生のかぎ―聖書」には、E・アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団熊本聖書教会の長澤忠雄牧師が演壇に立ち、自分の聖書との出合いの体験や聖書の構造、聖書の読み方、聖書にまつわる一般的な誤解をユーモアを交えて解説、「周りは変わらずとも、自分が変わるきっかけになる聖書はあなたの人生を開く」と結んだ。

友人の信者に誘われて初めてカトリック教会に足を運んだという四十代の男性は「もっと堅苦しいと思っていたが楽しく聞けた」、また三年前から参加しているという二十代の女性は「聖書には関心がありました。自分勝手な解釈にならないよう、教会に行こうと思います」と話した。

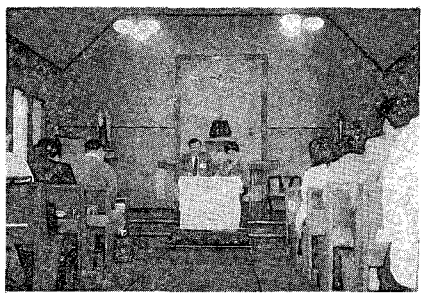
人を愛し、自分をも愛せる喜び、いのちの尊さ、温かい家庭づくりなどについて共に学び考えたよい時であった。

「みのりを願って」

結婚に向かって語り合い　―カナの会―

十一月六日、汗ばむような陽気の中、カナの会主催の結婚を目指す男女の集い「みのりを願って」が開かれた。出席者は約四十人。場所は福岡市小笹にある聖パウロ小神学校（戸村修神父校長）。

講師に深堀純・邦枝夫妻を招き、結婚について新たに考えさせられた。「結婚についての理想と価値観を大切にすること。結婚生活では理想が砕かれることもあるが、二人で協力して実現していくように。特に『対話』が大切」と話されたのに一同感銘を受けた（＝写真）。



昼食後、レクレーション、フォークミサが行われた。

どんな困難も一緒に乗り越えていけるような伴侶、家族に恵まれたいものである。

大名町教会　川口公美

神学院祭

―聖スルピス大神学院―

十一月十七日、福岡聖スルピス大神学院で神学院祭が行われた。

今年の神学院祭は、四十三年にわたって同神学院で司祭養成に尽くしてきたJ・Pラベル神父（聖スルピス会）が健康上の理由のためにカナダに帰国することになり、同神父の感謝送別会を兼ねていたために多くの卒業生司祭が集まり、盛会だった。

まず、同神学院聖堂で糸永真一鹿児島司教の主司式のもと、三人の司教、叙階二十五周年を迎えた二人の司祭、十年を迎えた四人の司祭を含む約百人の司祭の共同司式で聖母奉献のミサが捧げられた。説教には叙階二十五周年を迎えた橋本勲神父（長崎教区）が司牧生活の中で得た神学の理解についてユーモアを交えて語り、後輩の神学生に対しては神学校での勉学の重要性を諭した。

ミサの後、場所を食堂に移し、ラベル神父の感謝送別会、叙階十周年・二十五周年の司祭お祝いが行われた。ラベル神父に対しては松永久次郎福岡司教はじめ、大神学院院長、卒業生代表が挨拶に立ち、同神父の教会に対する忠実さ、自分の職務に対する誠実さを称え、これまでの働きに対しての感謝のことばを述べた。ラベル神父も感謝のことばを述べるとともに「私は福岡を去りますが、日本のため、皆様のために祈り続けます」と約束した。その後、会食となったが、途中、叙階二十五周年・十周年を迎えた司祭が紹介された。

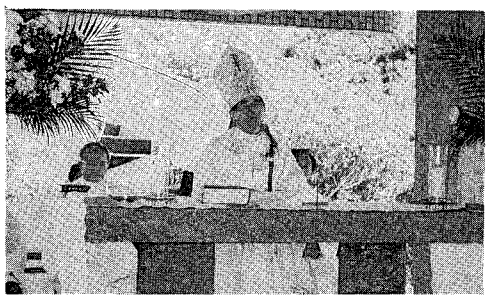


ご苦労様でした　お元気で　ラベル神父様

教区和田墓地で死者ミサ

聖母マリアに頼って祈る…

十月三十日、教区和田墓地（福岡市）で司教司式の死者ミサが行われた。参集したのは約五百人。近隣の司祭五人が共同司式をした（＝写真）。



松永久次郎司教は今回の説教の中で、聖母マリアの助けを願うことと死者のためにミサを捧げることを強調した。

「死者のことを思いだし、聖母マリアとともに祈りましょう。古来からのロザリオの祈りは信仰者の証の祈り。ロザリオは平凡な祈りではありますが真心を表す祈りです。それは死者に対しては『我らのために…臨終の時も祈り給え』という部分において有益です。また今生きている私たちのためにも益するのです。

聖母マリアに頼って祈ること。マリア様は私たちと同じように苦労されたので私たちの思いはよくご存じです。

それから、イエス様の養父ヨゼフ様にも祈りましょう。聖家族を守った方ヨゼフ様の取り次ぎも有益なのです。また、死者のために命日などを記念してミサを捧げてもらいましょう。ミサは生きる者にも、死者にとっても大きな恵みとなるものです」。また、国際家族年にも触れ、世界の平和と幸せのために祈るように語った。参加者は、この日死者と信仰によって交えたことを感謝し、彼らのために一層祈ることを念じた。

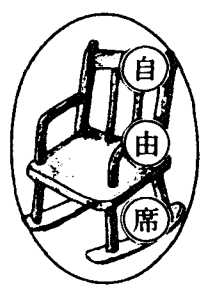
寄付の御礼

故グイド・パガニーニ神父様の香典返しとして聖パウロ修道会管区長夫津木昇神父様よりカトリック福岡教区報へ多額の寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。

一九九四年十一月

教区報編集長　下町豊重

ペトロ・岐部神父が教えてくれたこと



井上元之

十月三十日、大分県の国東半島、岐部の里で行われたペトロ・カスイ岐部神父の、第三十六回殉教記念祭に参加する幸を得た。

殉教者の遺徳を偲ぶ時、死を以てキリストを宣言した彼らの燃える信仰、神への愛の実践に対し、日々の生活の中での小さな犠牲すら果たし得ぬ自分の姿に慄然とする。

それ丈ではない。ペトロ・岐部が、幕府の厳しいキリシタン禁教令のもと、穴吊るしの責め苦に耐えて殉教した一六三九年から、三百余年もの間、「隠れていたもの」が近年、次々に「あらわに」されて来たことの不思議さを思うと、真に「神の計らい」と言う他はない。

しかし、幕府の理不尽な禁教によって、マカオに追放された彼は、三年の歳月を経て目的地ローマへ到達。司祭となったその二年後、あらゆる艱難の中を八年もかけてまで何故、帰国を果たそうとしたのだろうか。迫害の真っ只中への潜入は即、死を意味したにも関わらず。それは、迫害の中で或る者は殉教し、或る者は転び、共同体崩壊の危機にあって、同胞キリシタン共同体への奉仕と共同責任への思いが彼を奮い立たせたのではないだろうか。

近年、私たちは「共同体への奉仕」「共同責任」という言葉をよく口にする。しかしペトロ・岐部神父が身を以て証しした、「神への愛と隣人への愛は一つのもの」。それを忘れては空言に終わってしまう。

（古賀教会）

'95後援会会員のための黙想会
会員募集
【日時】1995年2月2日(木)～5日(日)
17：00受付～最終日昼食まで
【対象】後援会会員(新規申込者可)
【会費】全額後援会負担
※定員になりしだい締め切らせていただきます(30人限)
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

CROSSROAD No.14/1994
くろすろーど
わたしの情報は　みんなの情報
CATHOLIC INFORMATION FUKUOKA

情報提供を感謝いたします

教区本部の事務局にはいろんな情報が集まってきます。そんな情報を見ると、みなさん、それぞれの場で、福音宣教のために一所懸命頑張っておられると感じます。そして、このような「頑張り情報」を一人でも多くの人に知ってもらえたらいいと思います。本紙の名前、「くろすろーど」（CROSSROAD）は、英語で「交差道路」「横町」「十字路」を意味します。この情報欄を通して、主においてさまざまな出会いが実現し、キリスト者として共に成長できれば幸いに思います。今年も残すところ一月になりました。多くの方々にご協力をいただきました。感謝申し上げます。

（教区広報委員長　山元 眞）

12月

1日(木)結婚講座⑦[福岡]
2日(金)★聖書講座⑳(最終回)
3日(土)聖フランシスコ・ザビエル
　パイプオルガンコンサート[カテドラル]
　結婚講座⑧[福岡]
4日(日)宣教地司祭育成の日(指定献金日)
　八代殉教祭
　九州ダルク開設準備フォーラム
7日(水)聖アンブロジオ
8日(木)無原罪の聖マリア
　福岡カトリック神学院創立記念日
　★助祭叙階式[古賀 14:00～]
11日(日)★浄水通教会ステンドグラス祝別式
　★南粕屋教会献堂式(14:00～)
12日(月)市民クリスマス[福岡市民会館 18:00～]
13日(火)聖ルチアおとめ殉教者
　★臨時司教総会(～16日)
14日(水)十字架の聖ヨハネ
17日(土)†M.コニリー[島崎修道院]
18日(日)†J.マグラ[荒尾]
19日(月)†パウロ青木功[行橋]
20日(火)†M.ソーレ[久留米]
23日(金)†A.ベニエ[飯塚]
24日(土)★降誕祭前夜ミサ[カテドラル 20:30～]
25日(日)主の降誕《クリスマス》
26日(月)聖ステファノ殉教者
27日(火)聖ヨハネ使徒福音記者
28日(水)幼子殉教者
30日(金)聖家族

★　司教日程

1月

1日(日)神の母聖マリア・世界平和の日
　★元旦・新年ミサ[カテドラル 10:00～]
　†G.ロー[人吉]
2日(月)聖バジリオ・聖グレゴリオ
　†J.ドノフ[菊池]
　†ヨセフ牧山藤房[福岡司教館]
8日(日)主の公現
　★筑後ブロック成人式ミサ[今村 11:00~]
9日(月)主の洗礼
10日(火)司祭新年の集い
15日(日)成人の日
　†A.ハルブ[崎津]
17日(火)聖アントニオ
18日(水)キリスト教一致祈祷週間(～25日)
　†J.M.マルタン[大牟田]
19日(木)†L.ガルニエ[大江]
21日(土)聖アグネスおとめ
22日(日)★福岡ブロック成人式ミサ[カテドラル 13:00~]
25日(水)聖パウロの回心
26日(木)聖テモテ・聖テトス
28日(土)聖トマス・アクイナス
29日(日)児童福祉の日(指定献金日)
　教区信徒協第三回役員会[カテドラル]
31日(火)聖ヨハネ・ボスコ
　短期キリスト教講座①[カテドラル(毎火曜)]

†　司祭命日

ています。　（ルーテル・アワー・プレスサービスNo.222 より）

※福岡教区では、カリタスジャパンの要請に応じて、子供たちの衣類・毛布を11月に緊急援助しています。

◆感謝と喜びの祝別式

カリタス会修道院落成

1979年4月、当地へ児童養護施設を委託された本修道女会は、着任早々より老朽化していた修道院と施設の改築の必要に迫られていた。1989年、施設の天使育児園は国の補助金等で改築した。修道院は財政上の関係で延期されたが、この度改築の運びとなり10月22日その完成を見ることができた。

松永久次郎司教を迎え、「門よとびらを開け」の開祭の歌に始まり、神のみ言葉、司教の話に耳を傾けながら参列者一同静かにその進行を見守った。司教が建物の内外を祝福される間、外庭では神への感謝の賛美歌が歌い続けられた。この事業に当初携わってくれた方の挨拶の中で、「光町」という地名はこの場所から「光を発する」「光を広げる」という意味で命名されたと聞かされて、初めて知った私たちであった。「地の塩」「世の光」としてますます主のご保護を心よりお願いしながら、神への奉献生活を喜びと平和で深めつつ、児童の幸せ、地域の方々への相互の交わりに精力的に励もうとの決意を新たにした。当修道院のためにご指導を惜しまない方々のため心より感謝すると共にこの大きな恵みをより深く神に感謝した一日だった。

宮崎カリタス修道女会　門司修道院

24日主の降誕・夜半のミサ

教会	時間	教会	時間	教会	時間
福岡地区		吉塚	19:30	鹿島	18:00
糸島	20:00	老司	20:00	唐津	20:00
今村	21:00	北九州地区		佐賀	20:00
大楠	20:00	飯塚	19:30		24:00
大牟田	19:00	黒崎	19:00	多久	20:00
小郡	19:00		22:00	武雄	20:00
久留米	19:00	小倉	18:00	鳥栖	21:00
	22:00		20:30	馬渡島	20:00
古賀	19:00		23:00	呼子	19:00
笹丘	20:00	新田原	20:00	熊本地区	
浄水通	19:00	田川	18:30	荒尾	19:00
大名町	18:00	天神町	20:00	大江	20:00
	20:30	戸畑	20:00	帯山	19:30
	24:00	直方	19:00	菊池	20:00
高宮	18:00	八王寺	20:00	健軍	20:00
	20:00	水巻	20:00	崎津	20:00
茶山	20:00	門司	20:00	島崎	20:00
西新	19:00	門司港	19:30	玉名	19:00
箱崎	20:00	湯川	19:30	手取	19:00
光丘	20:00		23:00		23:00
二日市	20:00	行橋	19:30	人吉	20:00
美野島	20:00	若松	19:30	水俣	20:00
	スペイン語	佐賀地区		武蔵ヶ丘	19:30
本郷	18:00	伊万里	20:00	八代	19:30
	21:00				

参加しました

◆教区青年球技大会

11月23日勤労感謝の日に、教区青年球技大会が行われました。今回は熊本マリスト学園に約60名の青年が集いました。

まず、中村彰神父様(青年担当)の司式でミサが行われました。「『地の塩、世の光』、今日のそれぞれの役割をしっかり務め、この集いをよりよいものにしましょう。」この言葉を胸に親睦会へ進みました。親睦会では、テーマ毎に4つのグループに分かれ、ざっくばらんに話しました。世の中(教会)には、いろんな人がいるなあと感じる一時でした。

昼食後、球技大会に入りました。種目は『ドッジボール』でした。中村<彰、信>、川上、平田<三好>神父様率いる4チームに分かれて競いました。激しい!?試合展開でした。特に、川上神父様の気合の入りには呆然!!それから、体力あり余る?!青年たちは、約1時間ぶっ続けでバスケットボールに夢中になりました。

あっという間の一日でした。準備の熊本ブロックの皆さん、会場のマリスト学園の方、差し入れしてくださった幼きイエズス会のシスター方、ありがとうございました。体が痛くなって大変だったのでは？みなさんお疲れさまでした。　（ 教区青年委員会 ）



参加しませんか

◆第1回短期キリスト教講座

「生きるとは」

ｶﾄﾘｯｸを紹介する講座です。友人・知人の方をお誘いください。昼の部はﾍﾞﾋﾞｰｼｯﾀｰがつきます。
場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ大名町教会1Fﾎｰﾙ／日時:1995年1月31日～3月7日／毎火曜(全6回)昼の部10時～11時45分、夜の部19時～20時45分／主催：短期ｷﾘｽﾄ教講座福岡実行委員会／参加費：全6回3,000円(1回800円)／申込締切:1月23日(月)[受講料は当日受付にて]／問合・申込先：各教会、ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ大名町教会 Sr.西田[平日13時～18時 TEL 092(715)1061]、ｶﾄﾘｯｸ福岡司教館[平日10時～12時 TEL 092(522)5139],[FAX 092(523)2152 <FAXは24時間>]、〒810 福岡市中央区浄水通 39
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ:①1月31日「ｶﾄﾘｯｸ教会へ、ようこそ」(Fr.山元眞)②2月7日「病気、老い、死、苦しみ」(Dr.井田栄一)③2月14日「子供の躾と教育」《昼の部：0歳から9歳まで(Dr.土岐圭子)》、《夜の部：思春期・青年期(Sr.村木敏子、幼きｲｴｽ会)》④2月21日「夫婦」(Mrs.深堀邦枝)⑤2月28日「生命の誕生」(Pr.小山一)⑥3月7日「聖書とｷﾘｽﾄ教」(Fr.森山信三)

◆松永司教様の教皇文書研究会

日時：12月8日（木)10時～11時(12月は最終回)参加費：500円／場所：ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ大名町教会／主催：福岡地区婦人会／ﾃｷｽﾄ：「信徒の召命と使命」／問合先：山口紀子 TEL092(921)4532

◆典礼～「聖歌と祈りの集い」

日時：12月4日(日)14時～17時30分／場所:福岡黙想の家／ﾃｰﾏ：「待降節・降誕祭」／お話：Fr.鈴木忠一／聖歌指導：深堀純／参加費:1,000円
問合先：福岡黙想の家 0940(32)3222

◆ＳＥ・ＣＯ~奉仕と分かち合いのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ ｸﾞﾙｰﾌﾟ

①12月4日(日)「共に過ごそう会」／内容：ミサ・ピクニック／時間：現地集合10時30分～解散16時／場所：聖心のｳﾙｽﾗ宣教女修道会 篠栗「祈りの家」／お話:Fr.山元眞／弁当代：大人1,000円 子供 600円（弁当持参可）
②2月5日(日)ＳＥ・ＣＯ~春の集い／時間：10時30分~14時／場所：聖心のｳﾙｽﾗ宣教女修道会 福岡修道院ホール／お話：Fr.山元眞
☆問合・申込先:龍092(581)6838、桑畑 092(582)0685、吉田 092(561)7801、Sr.富山092(512)0033《連絡は午後7時以降に。》

◆ピリオドの集い

ゆったり！どっかり！凛然と！
生活にピリオドを打って
新しいページを開いてみませんか？

日時：12月2日(金)夕食後～4日(日)昼食後／場所：福岡黙想の家／会費：11,000円・現物納付・労働奉仕も可／対象：一般男性／定員：15名／世話人：Fr.鈴木忠一／問合先：福岡黙想の家 TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

◆待降節とクリスマス黙想会

御受難会主催の黙想会があります。あなたも参加してみませんか。
期間：12月の毎金曜日夕食後～日曜日15時30分頃まで(†但し、25日は昼食後解散)／場所：福岡黙想の家／主催：御受難会／会費：11,000円
問合・申込先：福岡黙想の家 TEL 0940(32)3222
内容:①12月2日(金)~4日(日)『幼きｲｴｽ』(Fr.ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ)②12月9日(金)~11日(日)『神様!! 待っています』(Fr.鈴木)③12月16日(金)~18日(日)『主の降誕・祝福された者』(Fr.畠)④12月23日(金)~25日(日)『ｸﾘｽﾏｽの喜び』(Fr.ﾏﾃｵ)

◆1994 福岡市民クリスマス

♪クリスマスの喜びを　うたにのせて♪

日時：12月12日(月)開演18時／場所：福岡市民会館大ﾎｰﾙ／入場無料／ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：岩田隆子「ｸﾘｽﾏｽをうたう」、福岡女学院短期大学ﾊﾝﾄﾞﾍﾞﾙ演奏、ｸﾘｽﾏｽﾒｯｾｰｼﾞ(東島勇気牧師:日本基督教団)ほか

◆教区成人式

福岡教区の青年は、大きく５つのﾌﾞﾛｯｸに分かれて活動しています。成人の日にあたり、各ﾌﾞﾛｯｸで成人のお祝いが行われます。多数のご参加をお待ちしています。

１月８日　北九州ﾌﾞﾛｯｸ 小倉(新年会 13:00~)
　　★筑後ﾌﾞﾛｯｸ　今村(ミサ 11:00)
１月15日　佐賀ﾌﾞﾛｯｸ（各教会で）
　　熊本ﾌﾞﾛｯｸ
１月22日★福岡ﾌﾞﾛｯｸ　大名町(ミサ 13:00~)
　　（★は司教ミサ）

問合せ：各小教区宛に配られるチラシをご覧ください。

◆結婚準備セミナー（熊本）

日時：1月23日より毎木・土曜日（全8回）
場所：手取教会／問合先：ｶﾄﾘｯｸﾌｧﾐﾘｰｾﾝﾀｰ
TEL 092(541)6207 FAX 092(522)5022

◆福岡「生と老い・死を見つめる会」

この会はだれでもが生と死について考え、学び行動することのできる場となることを目指しています。／定例会:毎月最後の日曜日14時~16時ｶﾄﾘｯｸ大名町教会４Ｆ会議室／年会費：3,000円 賛助会員 1口1万円（何口でも可）／定例会費：500円／事務局：大山美穂子TEL/FAX092(713)8523 市原照明092(781)5616

◆福岡地区祈りの集い

二人・三人集って祈ることを強く望んでおられる主に、心を燃やし、霊に満たされ、清められ、いやされ、強められるように一人でも多く祈る魂をお待ちしております。

１.定期の集い
日時：毎月第1・3月曜日①11時30分~13時30分②18時30分~20時30分／場所：①午前-ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ 大名町教会控室②午後－ｶﾃﾄﾞﾗﾙｾﾝﾀｰ 大名町教会小聖堂
２.不定期の集い
毎月１回マテオ神父様の日程に合わせて日曜日に集います。／時間：13時15分～16時15分／場所：司教館5Fﾎｰﾙ
主催:聖霊による刷新福岡地区奉仕会
☆問合先:Br.床島(教区本部 092(522)5139)

日本カトリック研修センター

◎福音刷新コースⅡ　九州会場

ﾃｰﾏ：小教区と家庭 ～NICE・Ⅱを受けて開かれた教会が地域社会へ福音的に関わるとは？
「家庭」に焦点を当て、社会から遊離しているといわれる教会と信仰のあり方を見直す。
日時：2月17日(金) 16時～2月19日(日) 13時30分(2泊3日)／ **場所：福岡黙想の家** ／対象：信徒、修道者、司祭／費用：20,000円(消費税600円は別)
定員：２５名
☆問合先：日本カトリック研修センター
TEL 052(831)5037 FAX 052(831)5317

◆九州ダルク開設準備フォーラム

～癒しの場『ダルク』
そこに愛と共感と回復があった～

現代社会において、薬物乱用・依存は世界的な大問題となっています。このフォーラムでは、薬物依存の仲間、家族、関係者そして広く関心ある人人と共に薬物依存と回復について考えます。一人でも多くの皆さんの参加を心より待っています。
☞DARC(ﾀﾞﾙｸ)とはDrug Addiction Rehabilitation Centerの略で薬物依存者の回復の手助けを目的とした民間ﾘﾊﾋﾞﾘ施設のことです。現在、東京ﾀﾞﾙｸ、女性ﾀﾞﾙｸ、横浜など7ｶ所あり、100名以上の仲間がﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを受けています。
日時：12月４日(日)10時30分～16時／場所：福岡ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ(殖産・安田ﾋﾞﾙ12F) 福岡市博多区博多駅前1-4-4／主催：九州ﾀﾞﾙｸ開設準備室／後援：九州ﾀﾞﾙｸ開設を支援する会／参加費：500円／連絡先：九州ﾀﾞﾙｸ開設準備室 大木文夫 TEL092(542)5274

福岡黙想の家
◎黙想の家スケジュール

12/ 2(金)~12/ 4(日)	ビリオドの集い(Fr.鈴木) 待降節黙想会 (Fr.ｶﾞﾌﾞﾘｴﾙ)
12/ 9(金)~12/11(日)	待降節黙想会 (Fr.鈴木)
12/16(金)~12/18(日)	待降節黙想会 (Fr.畠)
12/23(金)~12/25(日)	ｸﾘｽﾏｽ黙想会 (Fr.ﾏﾃｵ)
12/24(土)	ｸﾘｽﾏｽﾐｻ 23時30分～
12/25(日)	ｸﾘｽﾏｽﾐｻ 11時～
12/27(火)~ 1/ 5(木)	幼きイエス会黙想
12/31(土)	元旦ミサ 23時～
1/ 6(金)~ 1/13(金)	― 休　館 ―
2/ 2(木)~ 2/ 5(日)	後援会々員のための黙想会

問合先：福岡黙想の家（宗像市名残 1056）
TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミニ情報

◆青少年ボランティア「なかま」

行橋市に小・中・高校生たちの自主的なﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｸﾞﾙｰﾌﾟ「なかま」があります。この代表が大曽由香さんです。行橋市社会福祉協議会では、小・中・高生を対象に「青少年ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｽｸｰﾙ」を行っています。彼女は一昨年の春休みにこの体験学習に参加し、この反省会で、「これで終わりじゃ意味ない。これから、第二日曜日におばあちゃんちに行ったりしませんか」と切り出したのが、結成のきっかけだそうです。お年寄りや身体障害者との交流を中心に活動の輪を広げています。「なかま」は５０名に増えています(6月現在)。大曽由香さんは、行橋教会の信者です。海外青年協力隊に、看護婦として参加するのが夢の高校三年生です。応援してます。

ﾌﾟﾛﾌｨｰﾙ：
グループ名称「なかま」
子供たちが自主的に計画、運営している。
活動日は、原則として学校が休みの第２土曜日。
この名前は、「友だち、仲間づくり」の意味を込めて付けた。

（朝日新聞6月6日付）

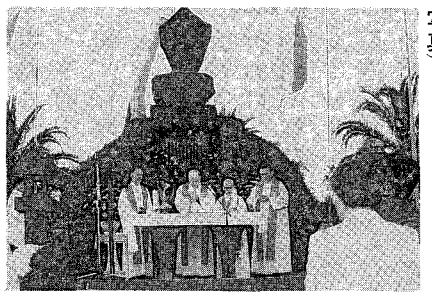
◆ルワンダ

ルワンダ内戦では、特にｶﾄﾘｯｸ教会にﾀﾞﾒｰｼﾞを与えました。何百人という教会関係者、そして司祭・司教の三分の一が殺されました。ｶﾄﾘｯｸ司祭の多くはﾂﾁ族出身で、内戦が始まった4月・5月には司祭の虐殺が相次ぎました。また、この内戦で避難した人々が近隣諸国の難民ｷｬﾝﾌﾟで難民生活を送っています。虐殺の恐怖にさらされてきた子供たちの心のキズは深刻で、何らかのｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑが必要といわれ

宗派をこえた大祭典

～天草殉教祭～

第三十九回天草殉教祭が十月二十三日に挙行された（＝**写真**）。



本渡市内を貫流する町山口の祇園橋で神式、午後殉教公園内の殉教戦千人塚の前で仏式、続いてカトリックのミサでキリシタン軍・幕府軍の別なく三百五十七年前の戦乱で亡くなった人の御魂を慰める。平和を願うという宗派をこえた大祭典である。

この日の目玉は何と言っても、ミサ後のキャンドル行列。夕映えの空のもと、千人塚を出発して本渡教会まで約三キロを行進するのである。十字架を先頭に聖心旗・天草・手取・八代・武蔵ケ丘教会から参加の信徒、それに毎年修学旅行で来て参加する横浜ヨゼフ学園高校の女生徒、地元の子供会、一般市民、総勢六百人が手にろうそくを掲げてロザリオの祈りを唱えながら行進する。炎が暗闇を流れて行くようで幻想的である。

天草島原の乱最大の激戦地であり犠牲者の屍で埋まり、血で真っ赤に染まった町山口川、祇園橋の上では、その悠久の流れに「あめのきさき」の歌が響き、花まき少女が花びらをまき、天草俳句会はじめ市民の手による万灯流しも行われた。

最後にルルド洞窟前でマリア様の御像に永遠の平和を祈って解散した。

いとささやかなること

青年黙想会

現代のカトリック青年が最も敬遠することの一つは「黙想会」ではなかろうか？また、黙想会を企画、担当する側にとっても、青年たちの集まり具合や、興味をひくテーマなどについて苦心し、開催するかしないかの決断に迫られることがしばしばである。

十月八日から十一日の四日間、塩谷恵策神父様（イエズス会泰星学園）のご指導の下、私共の由布院祈りの家で黙想会を開いた。参加者五人、そのうち二人は教区報による参加に感謝。テーマ「主よ、お話し下さい。あなたのしもべが聞いておりますから」は、すでに救いの生命を頂いた私への神からの絶え間のない呼びかけに対して、私の内奥からの誠実な応えを見いだし、生きて欲しいという願いからくる（＝**写真**）。



神父様の深い、そして温かいご指導で、彼等は自分の生命の誕生から今に至るまでの神の恩恵に触れた。こういった種の祈りに不可欠な「沈黙」は家を祈りの雰囲気で満たした。とはいえ、露天風呂は彼等の分かち合いの場になり、親密な仲間同志になった。若者の人生決定が神の声に忠実であるよう、これからもこのささやかなることを続けていきたい。

福音の光修道会　Sr.川岡俊子

心ふれあう バザー大盛況

新田原教会

『いらっしゃいませ！』透き通った秋晴れの空に響く売り子たちの呼び声に応えるように行きかう人、また人…十一月二十日に新田原小教区ではじめての大バザーが開催された（＝**写真**）。



『ふれあう心、感動の発見』がテーマ。新聞折り込みの効果もあってか、近所の未洗者も多数かけつけ、午前十時の開場を待ち切れずに、開会宣言時には二千人を越える人たちが会場を埋め尽くすまでにふくれ上がり、パニックを引き起こすほど活況に沸き返った。もちつきコーナーではつき終わるごとに飛ぶように売れ、古本や友愛品を選ぶ人でごった返す中、落とし物や迷子が後を絶たない。地元の劇団「風雷望」の出演による寸劇や漫才、山元眞神父様のリサイタル？等のイベントが進む中、カレーやぜんざい、焼きそばなど全ての食券がお昼を待たずに完売し、ヨゼフ会特製の石焼き芋が売り切れるなど、嬉しい悲鳴を上げるほど。晴天に恵まれたこの日、中央ふれあいコーナーで食事をしたり旧友を温める人、聖堂の中では書画や写真、パンフラワーの展示に心をなごませ、オークションやビンゴゲーム、福引き抽選会で心を踊らせるうちに午後三時頃、大成功のうちに幕を閉じた。神に感謝！

教会広報委員

日々を捧げて

―死者のために祈る会―

十一月二十日、黒崎教会で「死者のために祈る会」のミサがベリオン神父の司式で行われた。

遠くからは広島や小野田など、また九州各地から合わせて約百三十人が参加し、ともに祈った。

共同祈願では親しい死者、戦争の犠牲になった人々のための祈りが繰り返された（＝**写真**）。



煉獄援助修道会会員シスター岩崎和子は「ミサの中で分け与えられ、人々の中に生き続けられるキリストに倣い、今この地上で苦しみ、痛みの中に清めをうけている多くの兄弟たち、死者とともに自分自身の日々をキリストに引き渡し、主の訪れを告げること」を証言した。

その後、茶話会を催し、故人を忍び、また友好を暖めるひとときを過ごし散会した。

（煉獄援助修道会　黒崎修道院）

幼稚園のできごと

熊本聖母愛児幼稚園

当幼稚園は、マリアの宣教者フランシスコ修道会によって昭和二十五年、現在の聖母が丘に設立されました。「モンテッソーリ教育法」を取り入れ、整えられた環境と子供たちを理解し、見る目のある教師によって子供たちは、自由な活動の中にも、秩序と自律の歩みをしています。又、自然にも恵まれた広い園庭で遊びつきることのないと思えるほど活動を日々展開しています。

十二月はクリスマスに向けていろいろな活動が行われますが、その一つに年長児全員が聖劇をします。十一月中頃より先生からお話を聞いたり、昨年度の聖劇のビデオを見て、全体の流れや、どんな役があるかを知ります。役を決める四日位前からホールにそれぞれの役を書いた大きな紙を一枚づつ張り出して置きます。自分が何の役をしたいかを第一希望、第二希望、第三希望位までを決めておきます。ホールで年長児全員参加の中で役を決めていきます。親がしてほしい役と、子供がやってみたい役には時々大きなずれがあります。皆の前で自分の気持ちや希望を言葉に出して言うことの大切さと共に、他の友だちの気持ちや望みを知る機会として大切な体験の時と思います。多様性の気づく時でもあり、思い通りにならない時でもあります。

昨年は障害児が自分のやりたい役を決め、それを言うことができ、彼なりに精一杯していた姿が思い出されます。聖劇としてもらう面だけを重要視するのではなくて、その準備段階から子供自身の選択を参加が聖劇をより意欲的に取り組むことになっていると思われます。

今年もクリスマスのいろいろな準備をすることによって一人ひとりの子供たちの中にイエス様の愛が宿ることを願わずにはいられません。

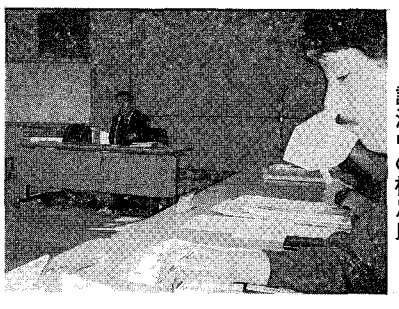
園長　Sr.玉置美智子

読みやすい 広報紙に

教区広報担当者全国会議

十月二十四日から二十六日まで、教区広報担当者全国会議が中央協議会日本カトリック会館で行われた。福岡教区からは、広報担当者の山元眞神父（司教館）と教区報編集長の下町豊重神父が参加した。各広報関係者の代表が集まる中で、二十四日は、中央協議会広報委員会委員長の森一弘司教（東京大司教区）が広報関係者への期待と励ましをこめて挨拶した。司教は「年ごとに情報の緻密化は増している。情報が人に与える影響は大きい。そのことによって人は動く。それ故、広報関係者は社会的、宗教的に共同責任を負っている。頑張って欲しい」と語った。

今回は講師として、横川和夫氏（共同通信社論説委員）と石野澪子氏（聖パウロ女子修道会）を迎えた。横川氏は新聞記者を三十四年も続けている。その体験から教区報についても、「もっと具体的に解りやすく、中学生が読めるような文章で作っていってもよいのでは」などと各教区報の新聞の在り方を指摘した。信者の関心を啓蒙し読める新聞を作るよう促した。



◀講演中の横川氏

石野修道女は、バチカンで日本語放送を二十年近くも勤めたこともあり、その体験から人々が求める情報の在り方や大切さを語った。

参加者は、実際に講師の考え方に耳を傾けながら、与えられた課題に取り組んだ。

教区の功労者帰天

シスター・レオニ山谷イト様（旧称サン・モール会）修道女。

十一月十三日帰天。

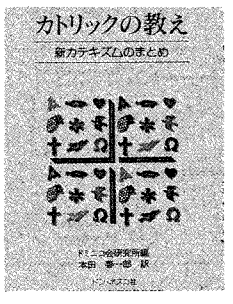
永遠の安息をお祈り下さい。

BOOK 読みは専科

★カトリックの教え

―新カテキズムのまとめ―

ドミニコ会研究所編　本田善一郎　訳



一九九二年十月にヨハネ・パウロ二世教皇によって、「カトリック教会のカテキズム」は公布されました。

「新カテキズム」はその教義の貴重な価値と、取りあつかわれる領域があまりにも多岐にわたっているため、まだ邦訳が発行されていません。

そこで、はじめてカトリックの信仰と道徳観を勉強する人や、「新カテキズム」の要点を手軽に知りたい人のために問答形式で編集し、出版されたのが本書です。

ドン・ボスコ社　八〇〇円

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

くろすぼーど

イエスさまの願い 召命未来人

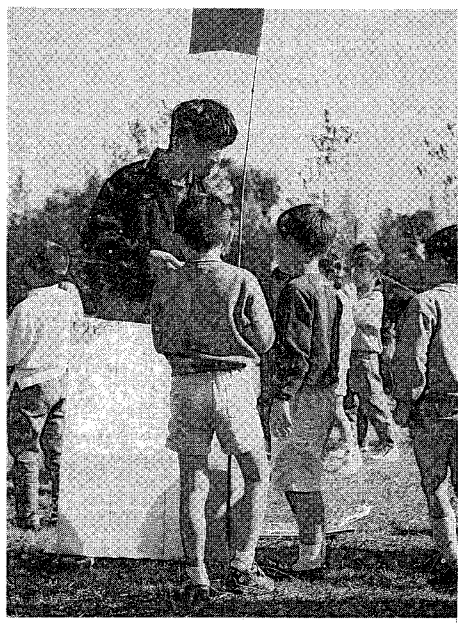
（召命の集い実行委員会）

十一月三日、「召命の集い」が福岡サン・スルピス大神学院で開かれた。幸いに好天に恵まれ、千三百人を超える参加者で活気にあふれた。「侍者の集い」に始まったこの集いも今年で三十一回を数えた。

司祭・修道者の召命を改めて考えるために設けられた今回のテーマは『イエスさまの願い～召命未来人』。企画の内容も神様の呼びかけに応えていく子供たちを対象に準備された。

午前中は野外での開会式の後、松永久次郎司教様司式による召命祈願ミサが参加者と共にささげられた。午後には大神学生が演じる野外げきが行われ、観客の中に涙する姿も見られた。観劇後、小学生はレクレーション、ビデオ鑑賞、院内活動の三つのコースにそれぞれ分かれ、この時間を過ごした。その時間には聖堂で聖体賛美式が行われ、多くの保護者の方々が「召命未来人のため」の祈りをささげた。

最後に集まり、住所交換をして、子供たちと神父さま、シスター、神学生と交流を深めた。そして神様への感謝のうちに散会した。大神学院の「召命の集い」が、神の国の建設に協力する司祭・修道者の召命について考えてもらうための一日となることを願ってやまない。子供たちの輝く笑顔、神父さま、シスターたちの、そして参加された方々の笑顔で満ちあふれたこの集いの中に、すでに神の国をみたような感じがした。この集いのために福岡教区の神父さま方、そして福岡修道女連盟の多大な協力に、改めて感謝申し上げたい。



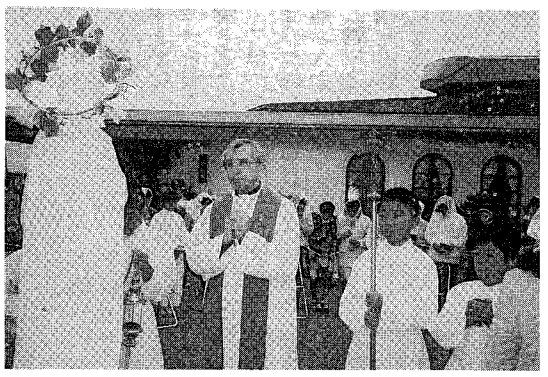
聖母大会

（老司教会広報室）

十月三十日聖母大会が開かれました。

朝のミサに続いて、聖歌をうたいながら、十字架-侍者-花まきの少女-司祭-信徒の順に、広場にある聖母像の前に進みました。手作りの大きなロザリオをにぎりしめて、大きな輪を作りました。聖母像に献香して、少女による花まきが行われました。ロザリオのにぎったひとは「栄えのげんぎ」を唱えました。

そのあと、前と同じ順序で、聖歌をうたいながら聖堂を一周して、信・望・愛の祈りを唱えました。そしてもう一度花まきをして、ピーノ神父様からロザリオの祈りの大切さについて話を聞いて、しゅく福を受けて、無事に聖母大会が終わりました。



リーダー研修会に参加して

（黒崎・向坊弘美）

十月三十一日、小倉教会で開かれた教会学校のリーダーのための研修会に参加しました。わたしは洗礼を受けて間がないのですが、友人にさそわれて参加させていただき感謝しております。

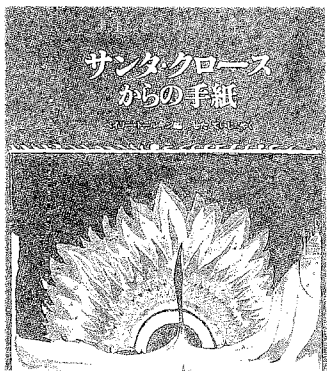
教会学校は子供たちにとって大切な所です。何よりまず親である私たち自身の自覚が必要だと思います。今という時代は、自分の子と同じように他の子供たちも良い方向にむけてゆこうという人が、あまりいないと思います。「自分の子供さえよかったら」という考えから、いったい、どんなことが生まれるでしょうか。

教会学校で見る子供たちって本当にかわいいですね。すねていても、わがままを言っていても、その態度には愛らしさがあります。

今日の研修会で、またあらためて聖書の確かさを勉強しました。信仰とは、どれほど大切なのか十分に知ることが大事だと思っています。決して軽い気持ちではできないものだと痛感します。

学生時代、『信じて天を仰ぐのも信仰です。また、イエス様を大切にして世の中に出てください。』と教えられ、感動したことを思い出します。

今回、お話し下さった神父様、牧師先生、ご指導いただいた皆さまに感謝します。これからも子供たちのことを考えられ、こういう機会を作っていただきたいと思います。できたら、また参加してみたいと思います。



《サンタ・クロースからの手紙》
J・R・Rトールキン 著
せた ていじ 訳
評論社 一四〇〇円

著者のトールキンが実際に四人の子供たちに宛て、十五年間にわたって書き送った手紙を集めた絵本。

色がとてもきれいなので印象に残る物語りばかり！

夢あるクリスマスに、また一つ温かくさせてくれる絵本です。

信三神父さまのお答えします

Q 神父さまは、普通どんな仕事をしているのですか。また、神父さまの一番大切な仕事は何ですか。

A まず、司祭は、あなたのお父さんのように会社で働いているわけではありません。ふつう一つの教会を任せられて教会を中心として働いています。もちろん、ミサをささげることが第一のつとめです。そのほかには、信者になりたい人にイエスさまのことを教えたり、子供たちの世話をしたり、あるいは、病気の人のお見舞いをしたりします。またあるときは、「お知らせ」を作ったり、教会のお金を数えたり・・・まだまだたくさんあります。

でも、もっとも大切な仕事は、よい羊飼いとして人々を神様のみもとまで導くことです。そして、イエスさまの愛を伝え、その愛を生きることです。いっしょにこの大切な仕事をしませんか。

カトリック神学院院長　森山信三

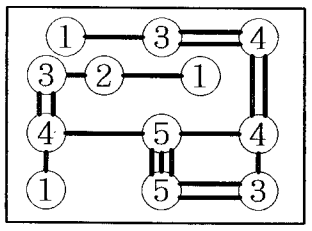
㊀ブロック分け㊀

ルール：
①A，B，Cの文字が1つずつ入るように分けてください。
②ただし、ふとワク内の点線にそってタテ・ヨコに分けてください。
③分けた各ブロックの面積がそれぞれ違っていてもかまいません。
④同じ文字は1回しか使えません！！
⑤塗ってある例を参考にしてください。

㊀今月の問題㊀

A		B	B		B	
A	A			A		C
		B	C	B		
		A		A	B	
C	C	B		C		C
			C		A	

㊀橋かけ解答㊀



今月は、『木かげ』はお休みです。次回の（2月号）は、小笹のヘラクレスの登場です。いったいだれなのか？お楽しみに！

編集後記

年の暮れ。主が降りて来られる月。信仰生活でも決算の年といえる。準備はいいか。悪い所は改めたか。新しい気持ちで主を迎えることが出来るか。教区報でも多くの人からご協力を頂いた。いい年だった。来年の年の暮れも感謝で迎えることができるように原稿をたくさんくれ（ください）。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博